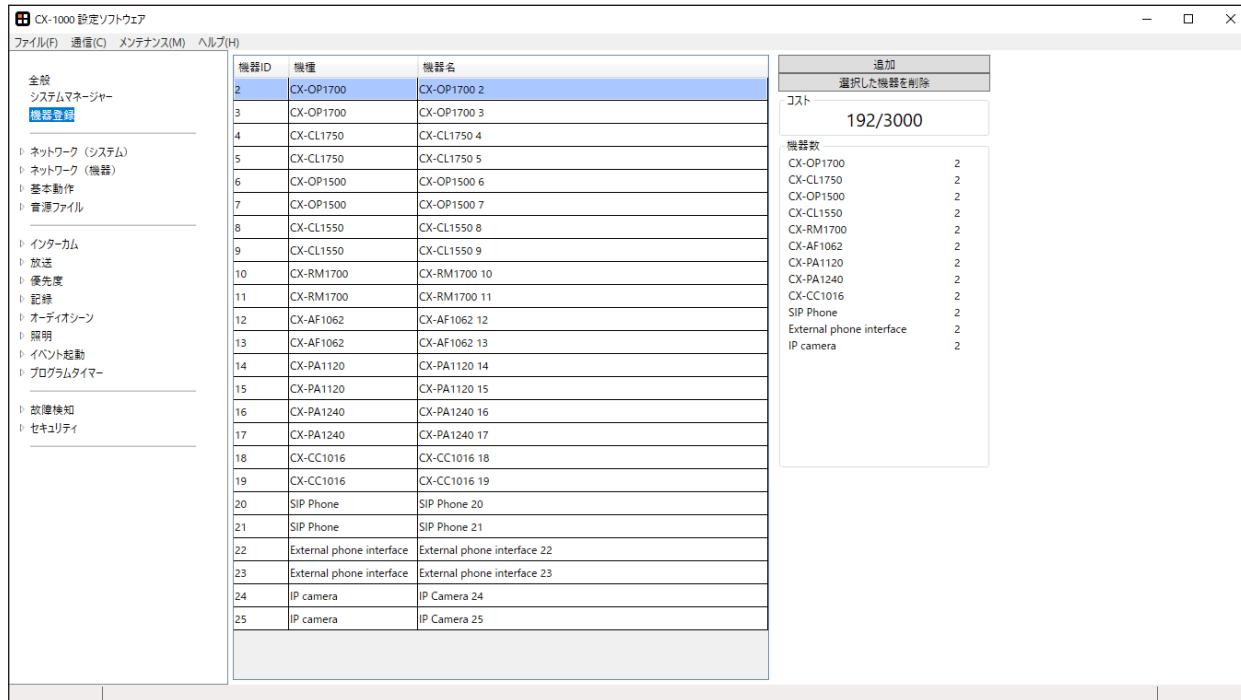




設定ソフトウェア 取扱説明書

IP コミュニケーションシステム CX-1000 シリーズ



このたびは、TOA IP コミュニケーションシステムをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しくご使用いただくために、必ずこの設定ソフトウェア取扱説明書をお読みになり、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

目 次

第1章 設定ソフトウェアの概要

ソフトウェアの概要	1-2
設定にあたって	1-2
システム要件	1-2
ご注意	1-2
ソフトウェアのインストール	1-3
ソフトウェアの準備	1-3
PostgreSQL 非同梱版のインストールのしかた	1-3
PostgreSQL 同梱版のインストールのしかた	1-5
CX-1000 設定ソフトウェアをアンインストールするとき	1-13
CX-1000 設定ソフトウェアを起動する	1-14
設定の新規作成	1-15
設定手順	1-16
設定ファイルを作成し設定ソフトウェアから アップロードするとき	1-16
設定ファイルを作成し SD カードからアップロードするとき	1-17
機器から設定を取得して設定を変更する場合	1-18
各機能の説明と必要な設定	1-19
業務放送	1-19
緊急放送	1-27
通話	1-33
着信方式	1-35
自動転送	1-38
ドアリモート	1-42
外部電話システム	1-44
拠点機能	1-48
プログラムタイマー機能	1-51
故障検知機能	1-55
ANC 機能	1-58
VOX 機能	1-64
学校向けの運用モード	1-66

第2章 設定のしかた

メニューバー	2-2
メニュー構造	2-3

全般の設定	2-6
機器登録	2-8
システムマネージャーの登録	2-8
システムマネージャー以外の機器の登録	2-9
システム全体のネットワークに関する設定	2-11
放送・通話の設定	2-11
マルチキャストグループの設定	2-13
IP-A1 シリーズ放送用のマルチキャストアドレスの設定	2-14
リモート制御の設定	2-16
DNS/NTP/ICMP の設定	2-17
機器ごとのネットワーク設定	2-19
拠点の設定（拠点機能が「有効」のときのみ）	2-26
拠点の名称の設定	2-26
所属拠点の設定	2-27
基本動作の設定	2-28
音声入力の設定	2-28
音声出力の設定	2-31
制御出力の設定	2-32
制御出力グループの設定	2-33
各機器の基本動作の設定	2-35
音源の設定	2-38
音源ファイル登録画面	2-38
別途作成した音源ファイルの登録	2-39
デフォルトの音源を設定する	2-43
コンテンツの作成	2-45
チャイム音の設定	2-48
システム全体の通知音の設定	2-49
端末ごとのトーン・チャイムの設定	2-50
通話の設定	2-51
通話全般の設定	2-51
外部電話システムの設定	2-53
発信・着信・通話動作の設定	2-55
ドアリモートの設定	2-58
転送動作の設定	2-59
端末グループの設定	2-61
時刻連動不在転送パターンの設定	2-63
発信局表示の設定	2-65
電話帳の設定（CX-OP1700 使用時のみ）	2-66
連絡先グループの設定（CX-OP1700 使用時のみ）	2-68
放送の設定	2-69
放送全体の設定	2-69

業務放送の設定	2-71
緊急放送の設定（緊急モードが「有効」のときのみ）	2-75
 優先度の設定	2-80
通話ごとの優先度の設定	2-80
音声入力ごとの優先度の設定	2-81
コンテンツごとの優先度の設定（CX-SM1000）	2-82
チャイムごとの優先度の設定	2-84
同一優先度の先優先・後優先の設定	2-85
 ファイルサーバー	2-86
録音	2-88
 オーディオシーンの設定	2-90
音声入力の音量・音質の設定	2-92
音声出力の音量・音質の設定	2-98
ノイズ低減の設定	2-104
 照明の設定	2-105
 イベント起動の設定	2-106
制御入力およびキーによるイベント起動の設定	2-106
VOX の設定	2-140
 プログラムタイマーの設定	2-142
デイリープログラムの作成	2-142
デイリープログラムの設定	2-148
 故障検知の設定（故障検知機能が「有効」のときのみ）	2-150
故障検知ポイントの設定	2-150
故障検知リーダー機の設定	2-152
故障検知出力パターンの設定	2-154
自己点検の設定	2-157
 セキュリティの設定	2-159
ID／パスワードの設定	2-159
 学校向けの設定（学校向け設定時のみ）	2-161
パターン時刻範囲設定	2-161
プリセットの設定	2-162
ユーザー設定	2-165
 設定ファイルを保存する	2-168
設定ファイルを開く	2-169
設定ファイルをアップロードする	2-170
オンラインで接続する前に	2-170

アップロードのしかた	2-171
設定ファイルをダウンロードする	2-173
ダウンロードをする前に	2-173
ダウンロードのしかた	2-173
機器検出とネットワーク設定	2-174
機器検出ソフトウェアを起動する	2-174
機器を検出する	2-175
機器検出画面の説明	2-176
CX-1000 シリーズの機器を再起動する	2-177
ネットワークに関連する機器の設定値を変更する	2-177
CX-1000 シリーズの機器のファームウェアを更新する	2-179

第 1 章

設定ソフトウェアの概要

ソフトウェアの概要

このソフトウェアは、CX-1000 システム専用のパソコン用設定ソフトウェアです。CX-1000 システムを動作させるのに必要な設定をします。

設定には大きく分けて、システム構成の設定、放送機能に関する設定、インターフェース機能に関する設定、故障検知機能に関する設定、イベント起動の設定などがあります。

CX-1000 システムは CX-1000 設定ソフトウェアで設定されたデータを取り込むことにより、その設定に従って動作します。

設定にあたって

■ システム要件

以下の条件を満たすパソコンを使用してください。

OS	Windows 10 Home 64 bit (21H1 以上)、Windows 10 Pro 64 bit (21H1 以上)、 Windows 11 Home 64 bit、Windows 11 Pro 64 bit
CPU	Intel Core i5-6200U 2.30 GHz 以上
メモリー	4 GB 以上
解像度	1920 × 1080 以上
Windows ユーザー名の要件	半角英数（記号・スペース使用不可）
PC ソフトウェアフレームワーク	.NET 6
データベース	PostgreSQL 13
ブラウザー	Google Chrome 最新版、Microsoft Edge 最新版

■ ご注意

● ディスプレイ

指定の解像度未満のサイズで表示したり、画面サイズを変更した場合、表示が隠れたり切れたりすることがあります。

● 表示画面

本書で使用している CX-1000 設定ソフトウェアの表示画面は、お使いのパソコンの設定環境によって異なることがあります。

ソフトウェアのインストール

■ ソフトウェアの準備

CX-1000 設定ソフトウェアは TOA 商品データダウンロードサイト (<https://www.toa-products.com/>) で公開しています。

パソコンでブラウザーを起動して上記 URL を入力し、表示された画面で品番を「CX-SM1000」と入力して検索してください。

ソフトウェア欄に以下の 2 種類のインストーラーが公開されていますので、目的に応じたインストーラーをダウンロードしてください。

インストーラーの種類	内容	参照先
PostgreSQL 非同梱版	CX-1000 設定ソフトウェアのインストーラーのみ。 PostgreSQL、.NET Desktop Runtime ともにインストール済みのユーザーは、こちらを使用してください。 例えば、CX-1000 設定ソフトウェアをバージョンアップする場合や、CX-1000 設定ソフトウェアのみ再インストールしたい場合などに使用します。	下記
PostgreSQL 同梱版	CX-1000 設定ソフトウェアのインストーラーに加えて、PostgreSQL、.NET Desktop Runtime のインストーラーを同梱したものです。 初めて CX-1000 設定ソフトウェアを使用するユーザーは、こちらを使用してください。	P. 1-5

■ PostgreSQL 非同梱版のインストールのしかた

ご注意

- インストールの前には、すべてのアプリケーションを終了させてください。
- ソフトウェアをインストールするには、管理者アカウントを使ってパソコンにログインしてください。

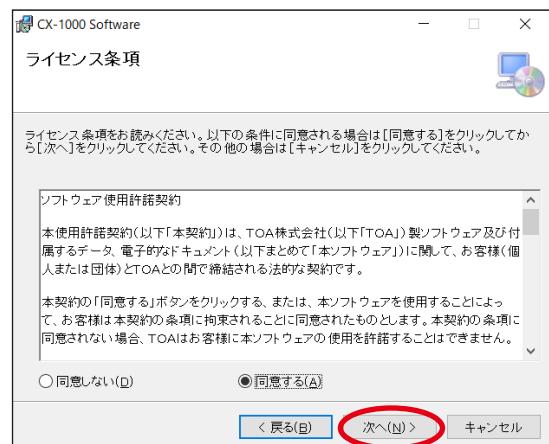
1 TOA 商品データダウンロードサイト (<https://www.toa-products.com/>) からダウンロードした zip ファイルを解凍し、setup.exe を起動する。

セットアップウィザード画面が表示されます。



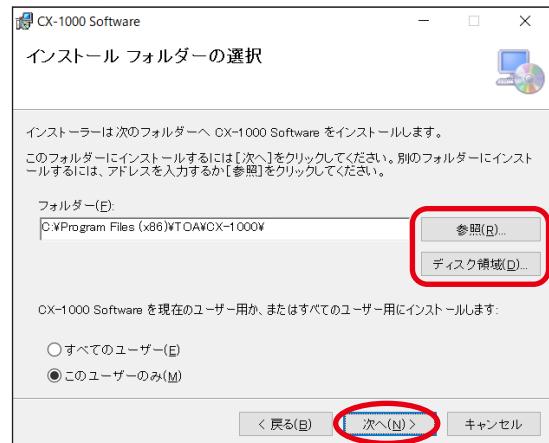
2 次へボタンをクリックする。

ライセンス条項画面が開きます。
 ライセンス条項を確認した上で「同意する」を選択してください。
 「同意する」を選択すると、次へボタンがクリックできます。



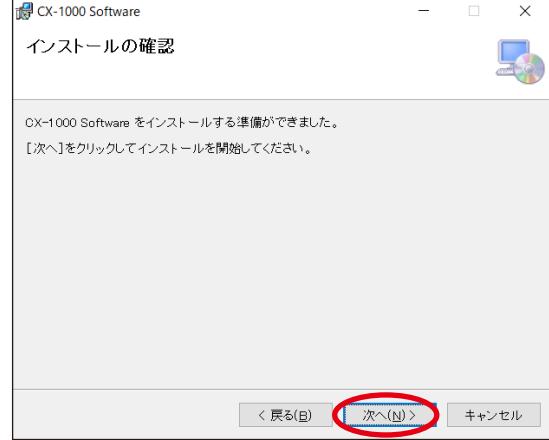
3 次へボタンをクリックする。

インストールフォルダー選択画面が表示されます。



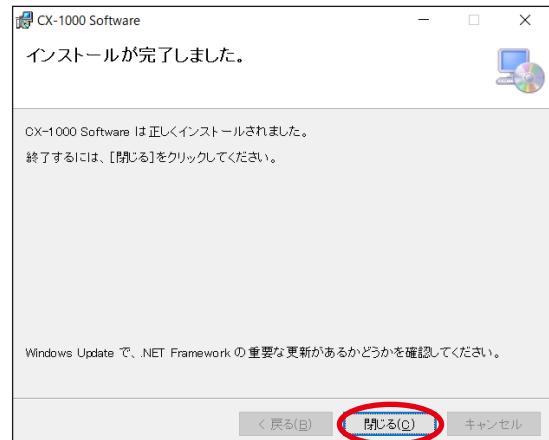
4 必要に応じてフォルダーを変更し、次へボタンをクリックする。

インストール確認ダイアログが表示されます。



5 次へボタンをクリックする。

ソフトウェアのインストールが開始されます。



6 インストール完了ダイアログが表示されれば、閉じるボタンをクリックする。

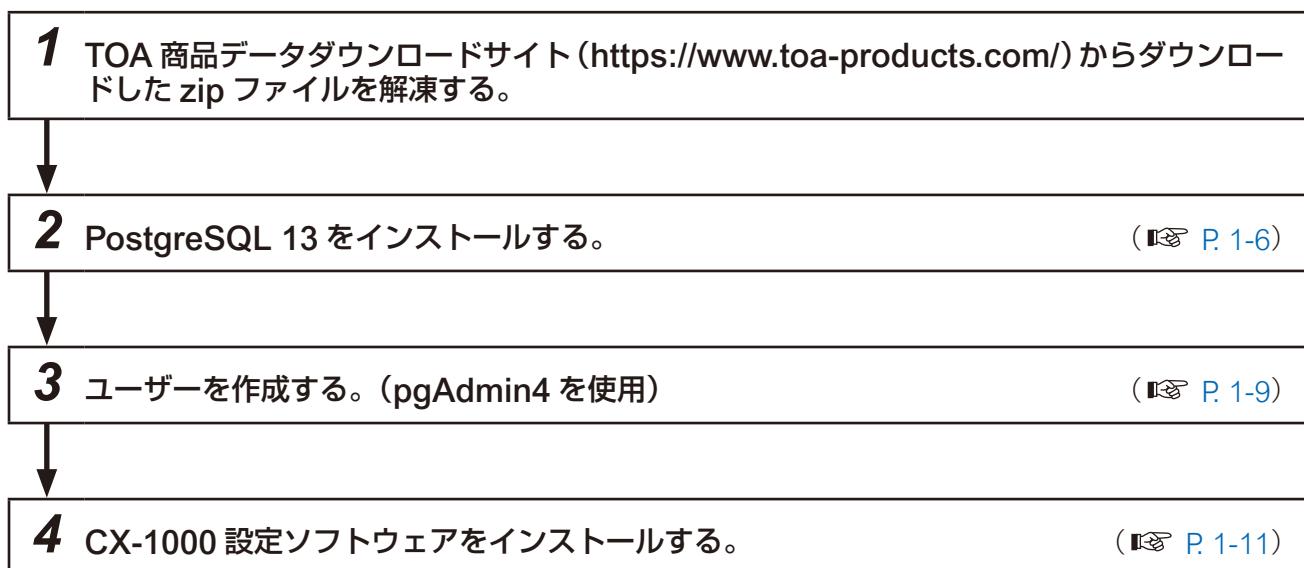
インストールが終了します。

■ PostgreSQL 同梱版のインストールのしかた

● インストール手順の概略

ご注意

- インストールの前には、すべてのアプリケーションを終了させてください。
- ソフトウェアをインストールするには、管理者アカウントを使ってパソコンにログインしてください。



● PostgreSQL 13 のインストールのしかた

CX-1000 設定ソフトウェアはデータベースが必要となります。
PostgreSQL をインストールし、データベースのセットアップを行います。

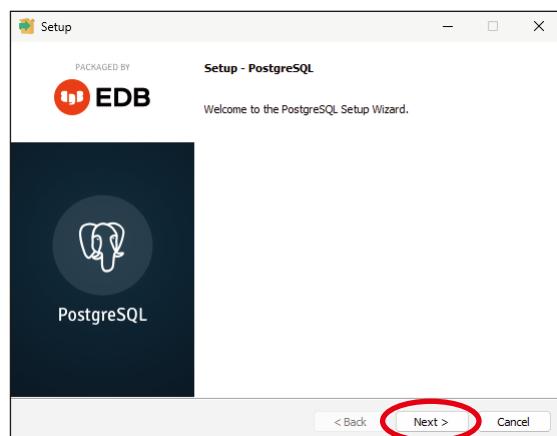
1 PostgreSQL のインストーラーを起動する。

Microsoft Defender SmartScreen のメッセージが表示される場合があります。

2 Microsoft Defender SmartScreen のメッセージが表示された場合は、実行ボタンをクリックする。

3 管理者権限を要求されたら、はいボタンをクリックする。

右の画面が表示されます。

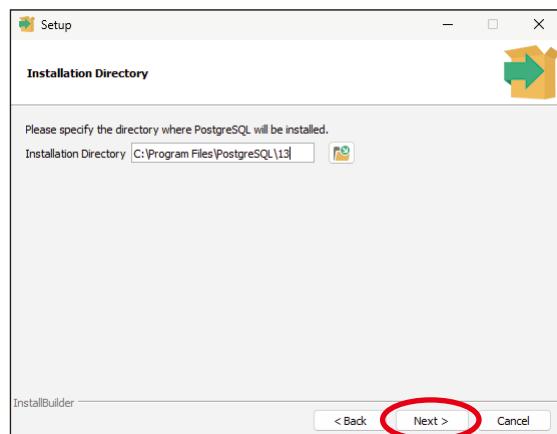


4 Next ボタンをクリックする。

右の画面が表示されます。

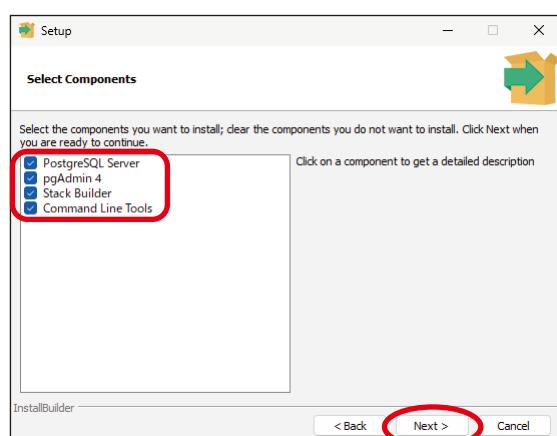
ご注意

- インストール先ディレクトリにネットワークドライブを指定しないでください。
- インストール先ディレクトリのパス名に使用できるのは「半角英数」のみです。



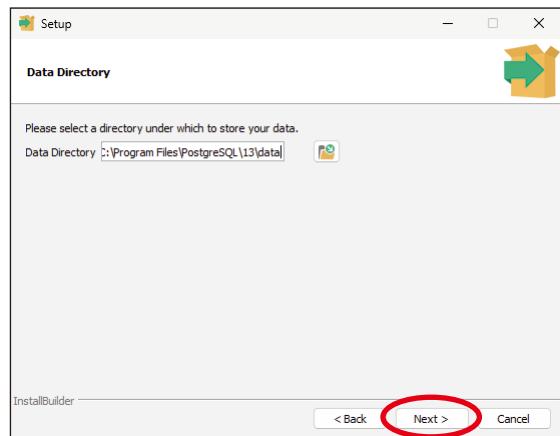
5 Next ボタンをクリックする。

右の画面が表示されます。



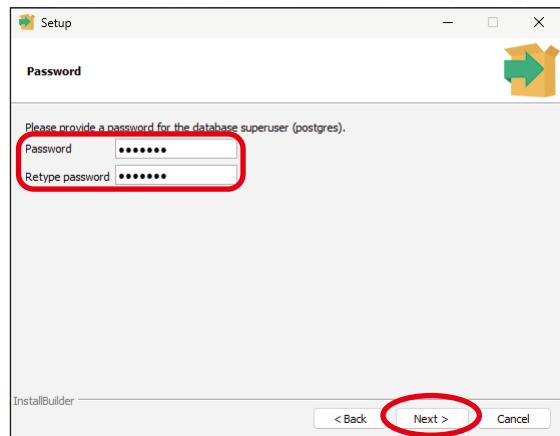
6 すべてのコンポーネントにチェックを入れ、Next ボタンをクリックする。

右の画面が表示されます。



7 Next ボタンをクリックする。

右の画面が表示されます。

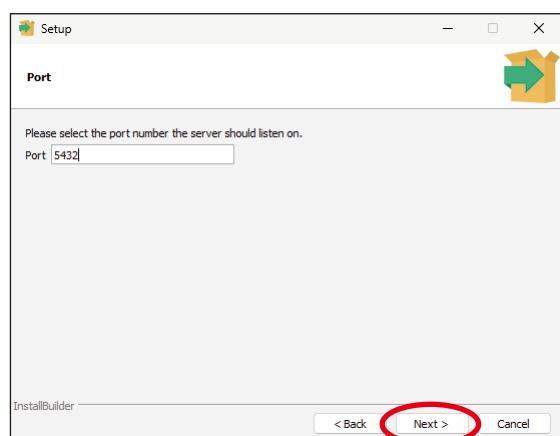


8 パスワードとして「cx_admin」を入力し、Next ボタンをクリックする。

ご注意

パスワードを間違えた場合は、PostgreSQL をアンインストールし、再度手順 1 からやり直してください。

右の画面が表示されます。

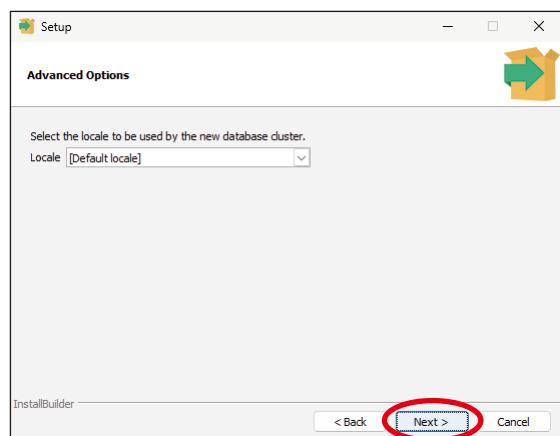


9 Next ボタンをクリックする。

メモ

Port はデフォルトのままにします。

右の画面が表示されます。

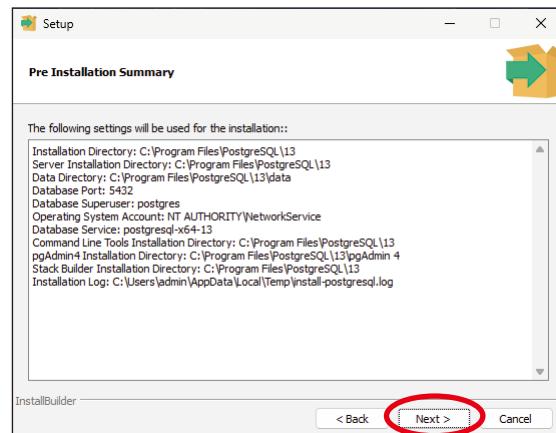


10 Next ボタンをクリックする。

メモ

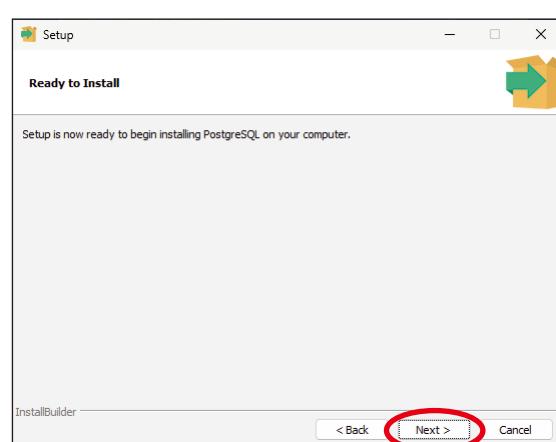
Locale はデフォルトのままにします。

右の画面が表示されます。



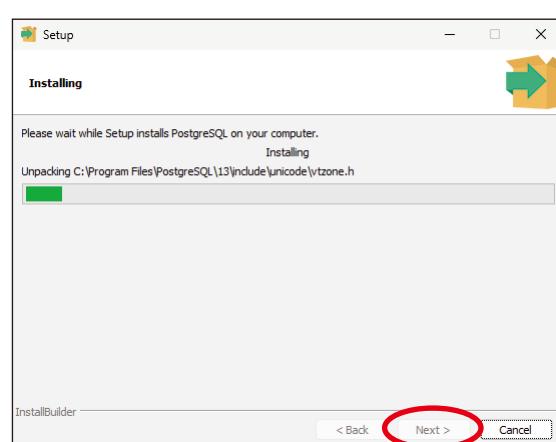
11 Next ボタンをクリックする。

右の画面が表示されます。



12 Next ボタンをクリックする。

インストールが始まります。

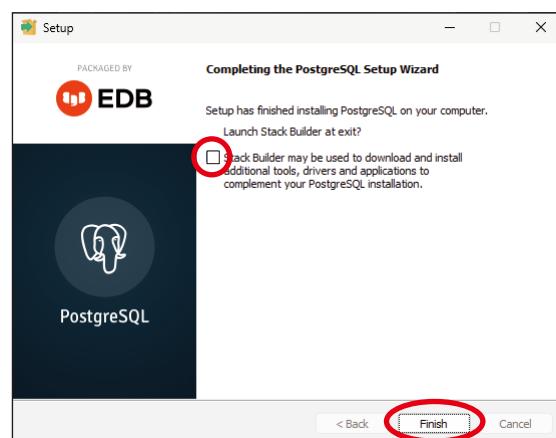


13 インストールが終了したら、Next ボタンをクリックする。

右の画面が表示されます。

14 チェックを外し、Finish ボタンをクリックする。

インストールが完了しました。

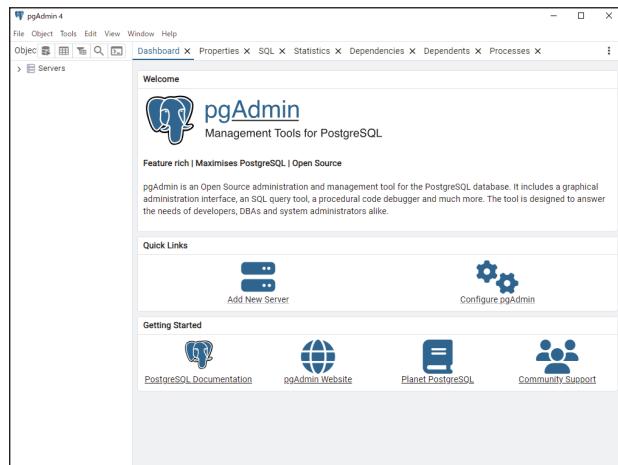


● ユーザーの作成 (pgAdmin4 を使用)

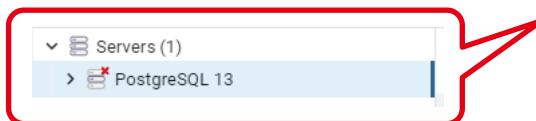
PostgreSQL 13 をインストールすることによりインストールされた pgAdmin4 を使用して、ユーザーを作成します。

1 pgAdmin4 を起動する。

右の画面が表示されます。

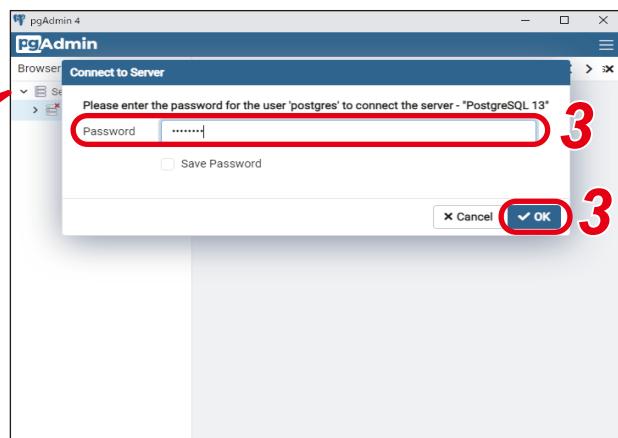


2 サイドメニューの Servers をクリックして展開し、PostgreSQL13 をクリックする。

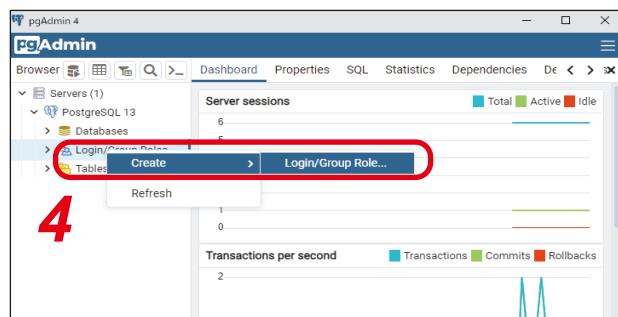


パスワード画面が表示されます。

3 パスワードとして「cx_admin」を入力し、OK ボタンをクリックする。

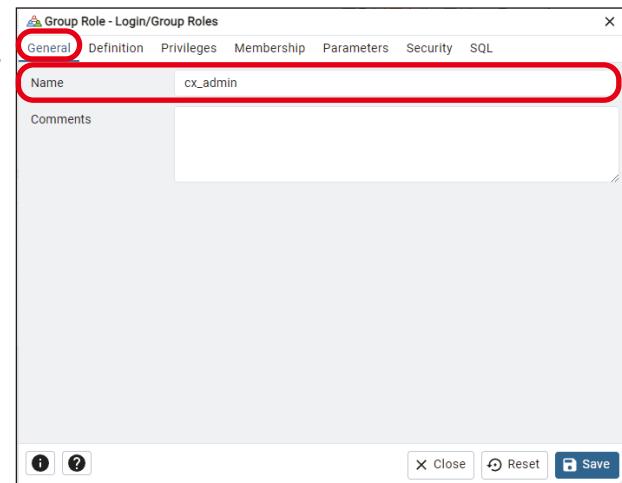


4 Servers が展開された中にある Login/Group Roles を右クリックし、Create > Login/Group Role…を選択する。

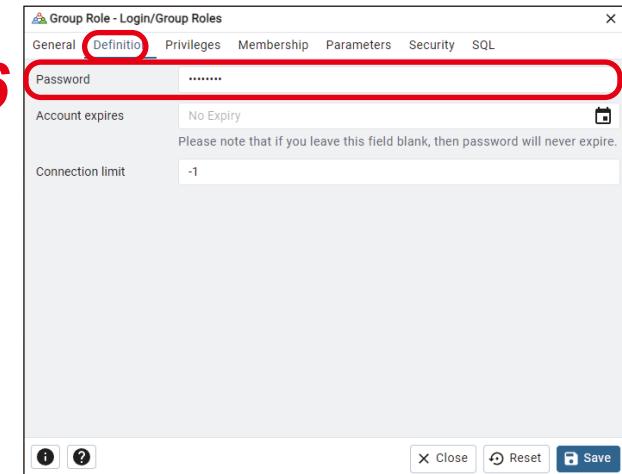


右の画面が表示されます。

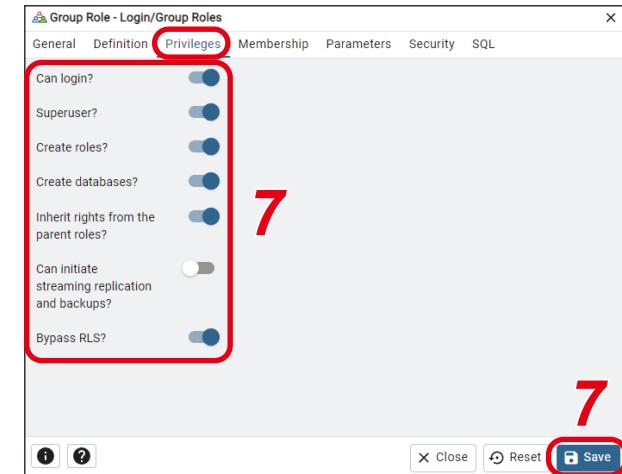
- 5** General タブをクリックして表示される画面で、Name に「cx_admin」を入力する。



- 6** Definition タブをクリックして表示される画面で、パスワードとして「cx_admin」を入力する。



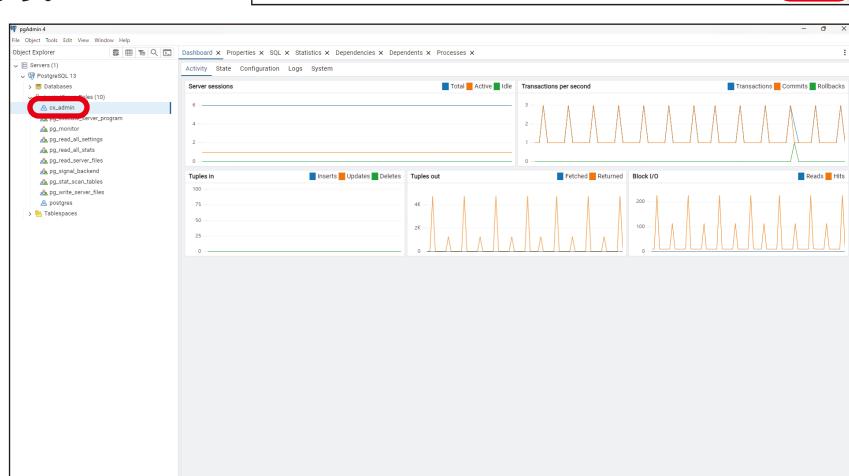
- 7** Privileges タブをクリックして表示される画面で、右図のように設定し、Save ボタンをクリックする。



cx_admin ユーザーが作成されます。

ご注意

PostgreSQL をアンインストールした際は、ユーザーデータの削除も必要です。アンインストール後、PostgreSQL のフォルダごと削除してください。ユーザーデータが残った状態で再度インストールすると、インストールが失敗します。



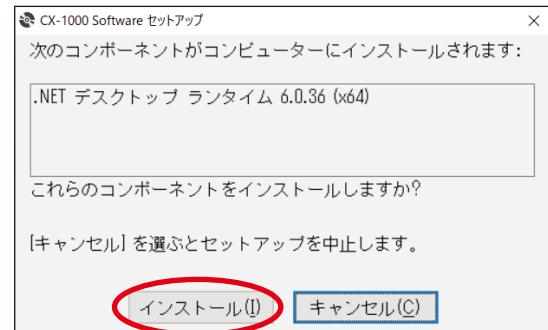
● 設定ソフトウェアのインストールのしかた

CX-1000 設定ソフトウェアをインストールします。

.NET Desktop Runtime がインストールされていない場合は、それもインストールします。

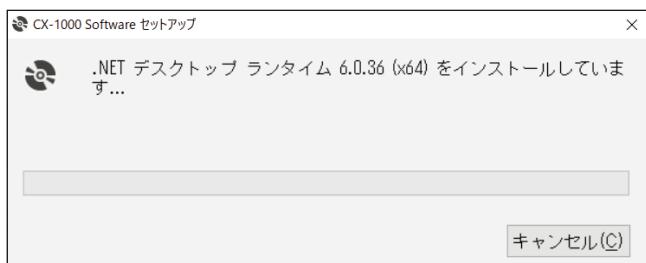
1 setup.exe を起動する。

右の画面が表示されます。



2 インストールボタンをクリックする。

.NET Desktop Runtime がインストールされます。



.NET Desktop Runtime のインストールが完了すると、CX-1000 設定ソフトウェアのセットアップ ウィザード画面が表示されます。

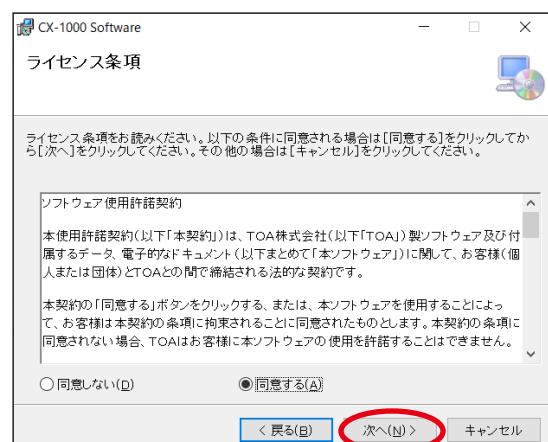


3 次へボタンをクリックする。

ライセンス条項画面が開きます。

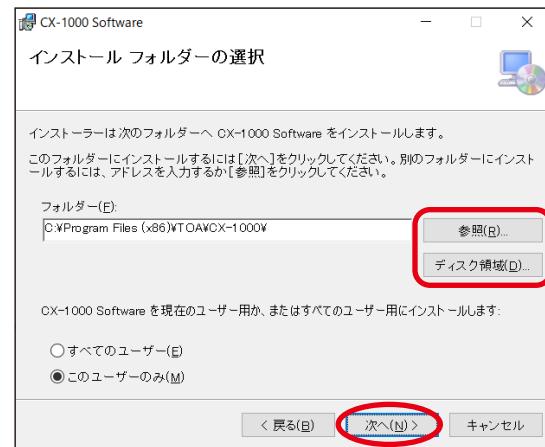
ライセンス条項を確認した上で「同意する」を選択してください。

「同意する」を選択すると、次へボタンがクリックできるようになります。



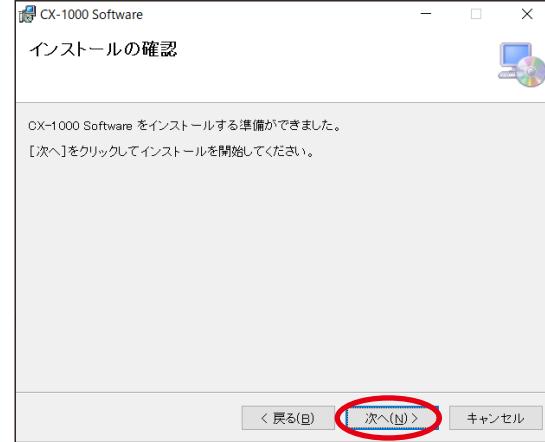
4 次へボタンをクリックする。

インストールフォルダー選択画面が表示されます。



- 5** 必要に応じてフォルダーを変更し、次へボタンをクリックする。

インストール確認ダイアログが表示されます。

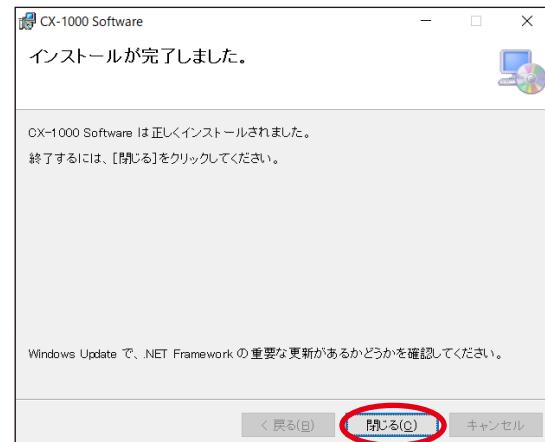


- 6** 次へボタンをクリックする。

ソフトウェアのインストールが開始されます。

- 7** インストール完了ダイアログが表示されれば、閉じるボタンをクリックする。

インストールが終了します。



■ CX-1000 設定ソフトウェアをアンインストールするとき

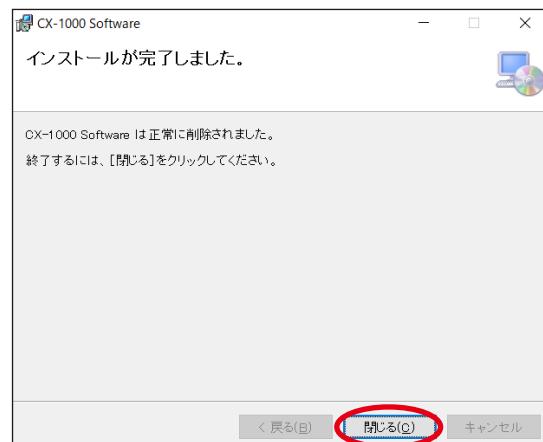
- 1 インストール時にダウンロードしたフォルダー内の CX-1000_setup.msi を起動する。

セットアップウィザード画面が表示されます。



- 2 「CX-1000 Software の削除」を選択し、完了ボタンをクリックする。

ソフトウェアのアンインストールが開始されます。



- 3 インストール完了ダイアログが表示されれば、閉じるボタンをクリックする。

アンインストールが終了します。

CX-1000 設定ソフトウェアを起動する

手順：デスクトップ上のCX-1000 Setting Softwareのショートカットアイコンをダブルクリックする。

デスクトップ上のショートカットアイコン



起動メニュー画面が表示されます。



設定の新規作成

- 1** 起動メニュー画面で「新規作成」を選択し、OKボタンをクリックする。



「Processing」と表示され、準備ができると、新規作成画面が表示されます。

データ保存のためのデータベースの作成が完了すると、画面下部に「Database OK」と表示されます。

- 2** 「ID」、「パスワード」、を入力し、登録ボタンをクリックする。

以下の条件に従って、入力してください。

ID : 半角英数記号 7 ~ 32 文字

パスワード : 半角英数記号 5 ~ 32 文字

ただし、使用可能な記号は「!」「@」「#」「\$」「%」

「&」「-」「_」の 8 種類のみ

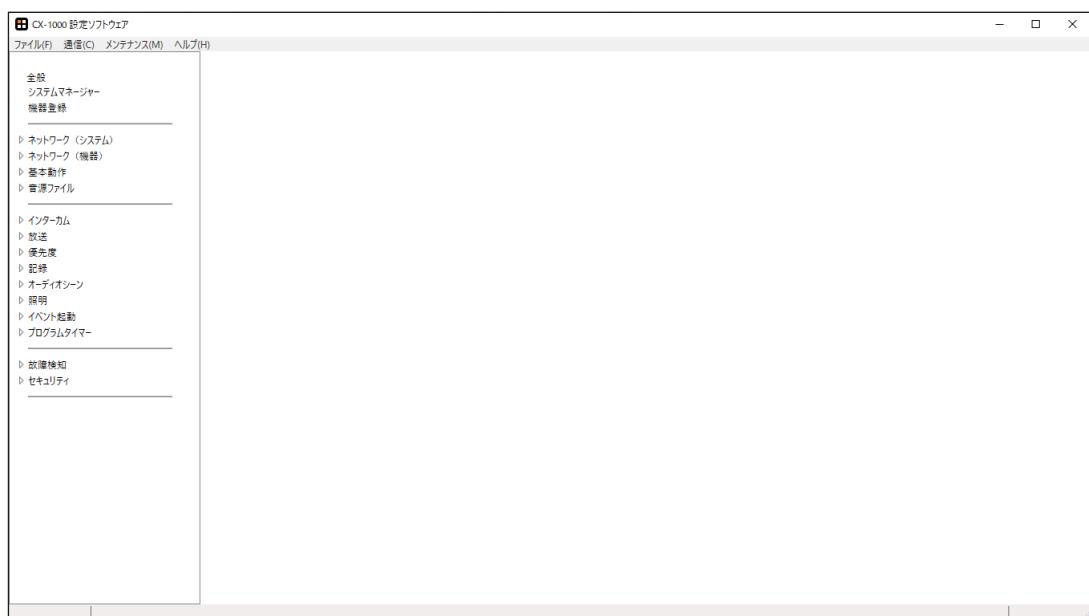
スペース使用不可

条件どおりに入力すると、設定画面が表示されます。

ご注意

CX-SM1000 は工場出荷時には、ID=cx-1000、パスワード= guest になっています。

CX-SM1000 と CX-1000 設定ソフトウェアをオンラインで接続するには、双方の ID およびパスワードを合わせておく必要があります。CX-SM1000 にブラウザーでアクセスして、ここで設定した ID およびパスワードと同じものに変更するか、同じものを追加しておいてください。



設定手順

■ 設定ファイルを作成し設定ソフトウェアからアップロードするとき

設定ファイルを作成しておき、設定をオンラインでアップロードする場合の概略手順は、次のとおりです。

1 設定ファイルを作成する。

 P. 1-15

- (1) 起動メニュー画面で「新規作成」を選択するか、メニューバーから [ファイル] → [新規作成] を選択し、設定を開始する。既存の設定ファイルを使用して作成する場合は、起動メニュー画面で「開く」を選択するか、メニューバーから [ファイル] → [開く] を選択し、設定を開始する。
- (2) 「全般」から「セキュリティ」まで、サイドメニューの上から下へ順番に設定する。

2 設定ファイルを保存する。

 P. 2-168

メニューバーから [ファイル] → [名前を付けて保存] を選択し、設定ファイルを保存する。

3 CX-SM1000 とオンライン接続をして、設定ソフトウェアから設定を送信する。

 P. 2-170

メニューバーから [通信] → [設定 & 音源アップロード] を選択し、設定ファイルを CX-SM1000 へ送信する。

メモ

設定アップロードの前に、以下の設定をしておいてください。

- CX-1000 シリーズの機器のネットワーク設定

CX-1000 設定ソフトウェアで、メニューバーから [メンテナンス] → [機器検出・ネットワーク変更] を選択して機器検出ソフトウェアを起動し、機器検出とネットワーク設定の変更をしてください。( P. 2-174)

- ID とパスワードの設定

CX-SM1000 の ID とパスワードを CX-1000 設定ソフトウェアの ID とパスワードに合わせておいてください。詳細は別冊のメンテナンス説明書を参照してください。

■ 設定ファイルを作成し SD カードからアップロードするとき

設定ファイルを作成しておき、SD カードに保存したデータを CX-SM1000 へアップロードする場合の概略手順は、次のとおりです。

1 設定ファイルを作成する。

- (1) 起動メニュー画面で「新規作成」を選択するか、メニューバーから [ファイル] → [新規作成] を選択し、設定を開始する。既存の設定ファイルを使用して作成する場合は、起動メニュー画面で「開く」を選択するか、メニューバーから [ファイル] → [開く] を選択し、設定を開始する。
(2) 「全般」から「セキュリティ」まで、サイドメニューの上から下へ順番に設定する。

2 設定ファイルを SD カードに保存する。

メニューバーから [ファイル] → [名前を付けて保存] を選択し、設定ファイルを SD カード内の cx1000 フォルダーに保存する。☞ [P.2-168](#)

3 SD カードから CX-SM1000 へ設定をアップロードする。

CX-SM1000 に SD カードを挿入し、設定スイッチを操作してアップロードする。詳細は別冊の操作説明書「SD カードから CX-SM1000 へアップロードするとき」を参照。

メモ

設定アップロードの前に、以下の設定をしておいてください。

● CX-1000 シリーズの機器のネットワーク設定

CX-1000 設定ソフトウェアで、メニューバーから [メンテナンス] → [機器検出・ネットワーク変更] を選択して機器検出ソフトウェアを起動し、機器検出とネットワーク設定の変更をしてください。

■ 機器から設定を取得して設定を変更する場合

設置・設定済みのシステムから、設定ファイルを取得して、設定を変更する場合の概略手順は次のとおりです。

1 CX-1000 設定ソフトウェアを、設定を変更する CX-SM1000 の ID とパスワードで起動し、CX-SM1000 の IP アドレスを設定する。  [P. 2-19](#)

- (1) 起動メニュー画面で「新規作成」を選択し、CX-SM1000 と同じ ID とパスワードを入力する。
- (2) サイドメニューの「ネットワーク（機器）」→「IP アドレス」で CX-SM1000 の IP アドレスを設定する。

2 CX-SM1000 とオンライン接続をして、設定ファイルを取得する。  [P. 2-173](#)

- (1) メニューバーから [通信] → [設定 & 音源ダウンロード] を選択し、設定ファイルを CX-SM1000 から取得する。
- (2) ダウンロード完了後、CX-1000 設定ソフトウェアが再起動するので、再度 ID、パスワードを入力する。

3 設定ファイルを変更する。

必要に応じて設定を変更する。

4 設定ファイルを保存する。  [P. 2-168](#)

メニューバーから [ファイル] → [名前を付けて保存] を選択し、設定ファイルを保存する。

5 CX-1000 設定ソフトウェアから CX-SM1000 へ設定を送信する。  [P. 2-171](#)

メニューバーから [通信] → [設定 & 音源アップロード] を選択し、設定ファイルを CX-SM1000 へ送信する。

【メモ】

設定ファイルの取得・送信は、パソコンと CX-SM1000 をオンラインで接続して行う代わりに、SD カードを使用して行うこともできます。

各機能の説明と必要な設定

■ 業務放送

業務放送は、端末、タッチパネルリモコンなどからの呼び出し放送、時報チャイム放送、スポット CM 放送などです。

「マイク放送」「業務／BGM 放送」「業務パターン放送」「ベースパターン放送」の4つがあります。

放送先パターンは、複数の放送先、制御出力グループなどの設定をひとまとまりにしたものであり、1つのパターンを起動することにより、複数の放送先に放送することができます。

放送先パターン	複数の音声出力、制御出力グループなど
---------	--------------------

制御出力グループは1つまたは複数の制御出力をグループ化したものであり、例えば緊急メッセージ放送に連動して複数の制御出力を起動することができます。緊急メッセージ放送に連動して起動できる制御出力グループは、緊急メッセージ放送パターン内に設定できるほか、拠点ごとに1つずつ*設定できます。

* 拠点機能を「無効」に設定している場合は、システムで1つ

制御出力グループ	1つまたは複数の制御出力
----------	--------------

ご注意

機種ごとの音声入力数（外部入力による音源）、内蔵音源数、最大同時出力数は下表のとおりです。

音声入力はマイクや音声入力端子に入力する音源、内蔵音源はコンテンツやチャイムの再生機器として設定された音源を指し、各音源に設定された優先度に従って出力されます。

例えば、CX-PA1120 が再生機器となっているコンテンツ A を BGM として放送中、同じ CX-PA1120 が再生機器となっているコンテンツ B の業務放送を起動すると、CX-PA1120 の最大同時出力数は1のため、コンテンツ A の BGM は停止し、コンテンツ B の業務放送が開始されます。

機種	音声入力数	内蔵音源数	最大同時出力数
CX-OP1700/OP1500	1	1	1
CX-RM1700	2	0	2
CX-AF1062	6	6	6
CX-PA1120/PA1240	2	1	1

※ CX-PA1120/PA1240 の音声入力 1 はローカル放送専用です。

ローカル放送とは、送信元の機器が自機に対して送信する放送のことです。

ローカル放送をできるのは CX-AF1062/PA1120/PA1240 のみです。

最大同時出力数にローカル放送は含みません。

① マイク放送

CX-OP1700/OP1500/RM1700 のマイクからの放送です。

マイク放送をするには、CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。



② 業務／BGM 放送

業務／BGM 放送をするには、業務／BGM 音源を設定し、下記の制御入力またはキーで起動させます。

- 制御入力：CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240
- キー：CX-OP1700、CX-OP1500、CX-RM1700、CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240
CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 制御出力グループを設定する。(制御出力を使用する場合のみ) P. 2-32、P. 2-33

制御出力を使用する場合は「基本動作」の「制御出力」で仕様を設定し、「制御出力グループ」で放送に連動させる制御出力をグループに設定する。

2 音声入力を設定する。 P. 2-28

必要に応じて、「基本動作」の以下の項目を設定する。

- (1) 音源を各機器の音声入力にする場合は、「音声入力」で用途を「業務」または「BGM」に設定し、仕様を設定する。
- (2) CX-RM1700 から放送する場合は、「機器」で放送後の放送先選択の設定をする。  P. 2-35

3 内蔵音源を登録する。 P. 2-38

「音源ファイル」の以下の項目を設定する。

- (1) 「音源ファイル登録」で音源ファイルを登録する。
- (2) コンテンツを使用する場合は、「コンテンツ」で音源ファイルを組み合わせてコンテンツを設定する。
このとき、用途を「業務」または「BGM」に設定する。
- (3) チャイムを使用する場合は、「チャイム」でチャイム音源として使用する音源ファイルを登録する。

4 放送先パターンを設定する。(放送先パターンを使用する場合のみ) P. 2-69

複数の放送先に放送したい場合は、「放送」の「放送先パターン」で複数の放送先、放送に連動して出力する制御出力グループなどを設定する。

5 放送の優先度を設定する。 P. 2-82

「優先度」の以下の項目を設定する。

- (1) 「優先度」の「音声入力」で、業務放送の優先度を設定する。
- (2) 「同一優先度制御」で、同一優先度の放送が同時に起動された場合に、どちらを放送するかを設定する。

6 イベント起動の機能を各機器の制御入力またはキーに割り当てる。 P. 2-106

「イベント機能」の以下の項目を設定する。

- (1) 「制御入力」または「キー」で「業務／BGM 放送」を割り当てる。
- (2) 「制御入力」または「キー」で「放送先選択」の機能を割り当てる。「放送先選択（個別）」を設定する場合は、ここで制御出力グループを選択する。

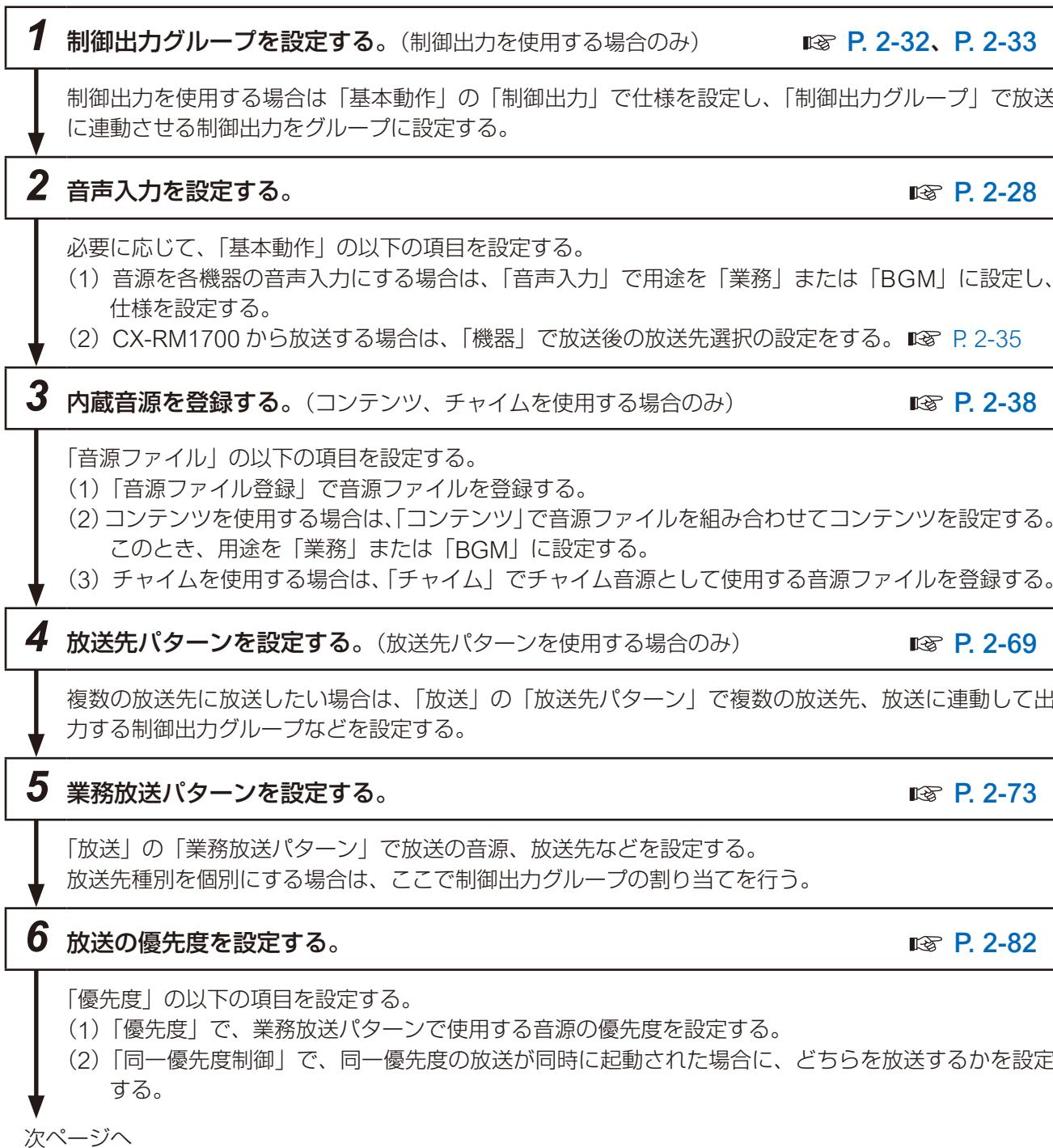
③ 業務パターン放送

業務パターン放送をするには、入力音源、放送先などの組み合わせから成る業務放送パターンを設定し、このパターンを下記の制御入力またはキーで起動させます。

- 制御入力 : CX-OP1700、CX-CL1750、CX-OP1500、CX-CL1550、CX-RM1700、CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240、CX-CC1016
- キー : CX-OP1700、CX-CL1750、CX-OP1500、CX-CL1550、CX-RM1700、CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240

● 業務パターン放送をするのに必要な設定

業務パターン放送をするには、CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。



次ページへ

前ページから

7

イベント起動の機能を各機器の制御入力またはキーに割り当てる。

☞ P. 2-106

「イベント起動」の「制御入力」、「キー」で「業務放送パターン起動／停止（レベル）」または「業務放送パターン起動／停止（パルス）」の機能を割り当てる。

● 業務放送パターン設定例

下表は、業務放送音源と放送先パターンを設定した例です。

放送先パターンは、複数の放送先をグループ化したものであり、1つのパターンを起動することにより、複数の放送先に放送することができます。

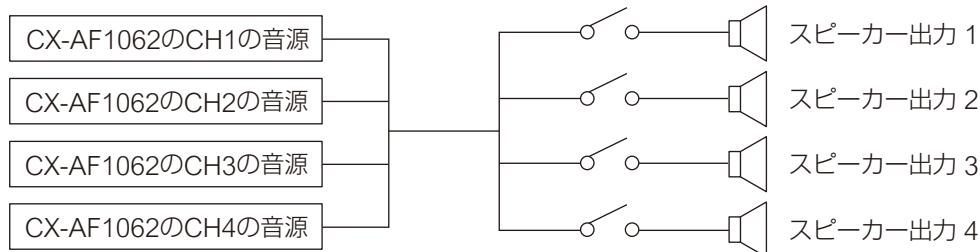
[放送先パターン設定]

		放送先			
		CX-PA1120 (ID : 20) スピーカー出力 1	CX-PA1120 (ID : 20) スピーカー出力 2	CX-PA1120 (ID : 20) スピーカー出力 3	CX-PA1120 (ID : 20) スピーカー出力 4
放送先パターン (番号)	1	○	○	○	○
	2	○			
	3		○		
	4			○	

CX-AF1062 の入力チャンネルを業務放送音源または BGM の音源として指定し、CX-PA1120 の出力チャンネル（個別）または放送先パターンを放送先として指定します。

[業務放送パターン設定]

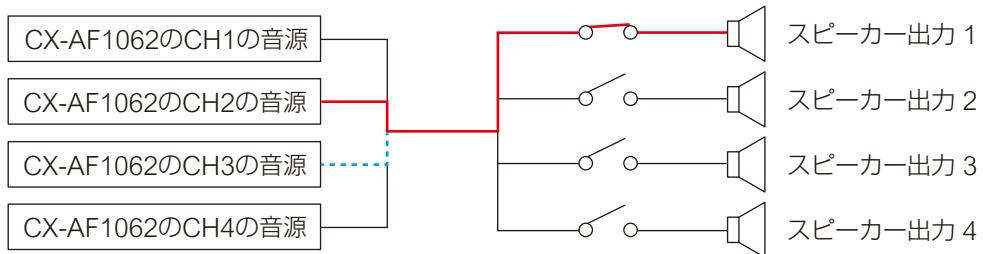
業務放送パターン (番号)	1	2	3	4	放送先パターン (番号)			
					1	2	3	4
業務放送パターン (番号)	1	1 (優先度 : 120)		○				
	2	2 (優先度 : 125)			○			
	3	3 (優先度 : 130)				○		
	4	4 (優先度 : 130)						○



業務放送パターン2を起動すると、CH2の音源が、以下の赤い線で示すとおり、放送されます。

複数の業務放送パターンが重なって起動されたとき、優先度の高い音源の放送のみ行われます。

例えば業務放送パターン2の起動中に業務放送パターン3を起動した場合、業務放送パターン2と3の放送先は異なりますが、音声経路が取れないので、CH3の音源は、青い点線で示すとおり、放送されません。



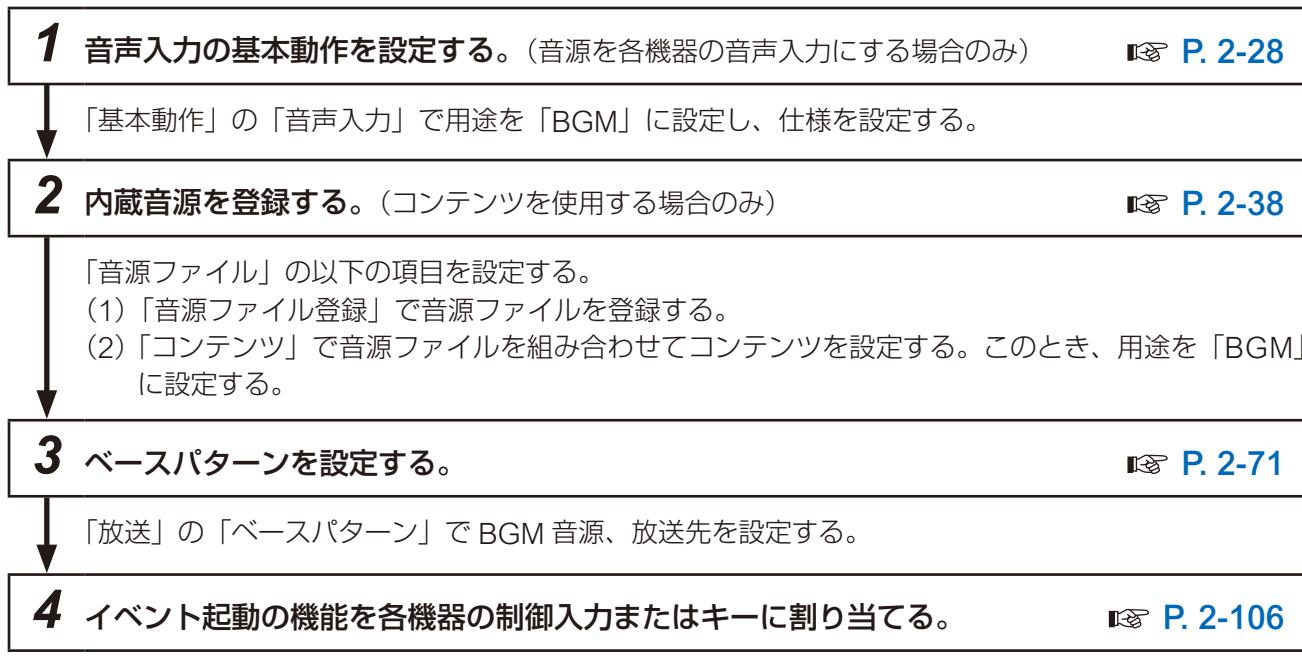
④ ベースパターン放送

BGM放送機器の音声信号のみをCX-1000システムに入力して行う放送で、通常時に小さい音量で流し続けるBGM放送などに適します。ベースパターン放送は、BGM音源、放送先の組み合わせから成るベースパターンを設定し、このパターンを下記の制御入力またはキーで起動させます。

- 制御入力：CX-OP1700、CX-CL1750、CX-OP1500、CX-CL1550、CX-RM1700、CX-AF1062、
CX-PA1120、CX-PA1240、CX-CC1016
- キー：CX-OP1700、CX-OP1500、CX-RM1700、CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240

● ベースパターン放送をするのに必要な設定

ベースパターン放送をするには、CX-1000設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。



● ベースパターン設定例

下表は、BGM 音源と放送する放送先のパターンを設定した例です。

CX-AF1062 の入力チャンネルは、BGM の入力音源として指定し、CX-PA1120 の出力チャンネルは放送先として指定します。

	放送先 1	放送先 2	放送先 3	放送先 4
	CX-PA1120 (ID:20) スピーカー出力 1	CX-PA1120 (ID:21) スピーカー出力 1	CX-PA1120 (ID:22) スピーカー出力 1	CX-PA1120 (ID:23) スピーカー出力 1
入力音源 CX-AF1062 (ID: 18) の音声入力 チャンネル (CH)	1	○		
	2		○	○
	3			○

上記のベースパターンを使用したとき、放送は以下のように行われます。



■ 緊急放送

緊急放送は、緊急モード時に行う放送です。

「緊急マイク放送」、「緊急メッセージ放送」、「緊急メッセージパターン放送」の3つがあります。

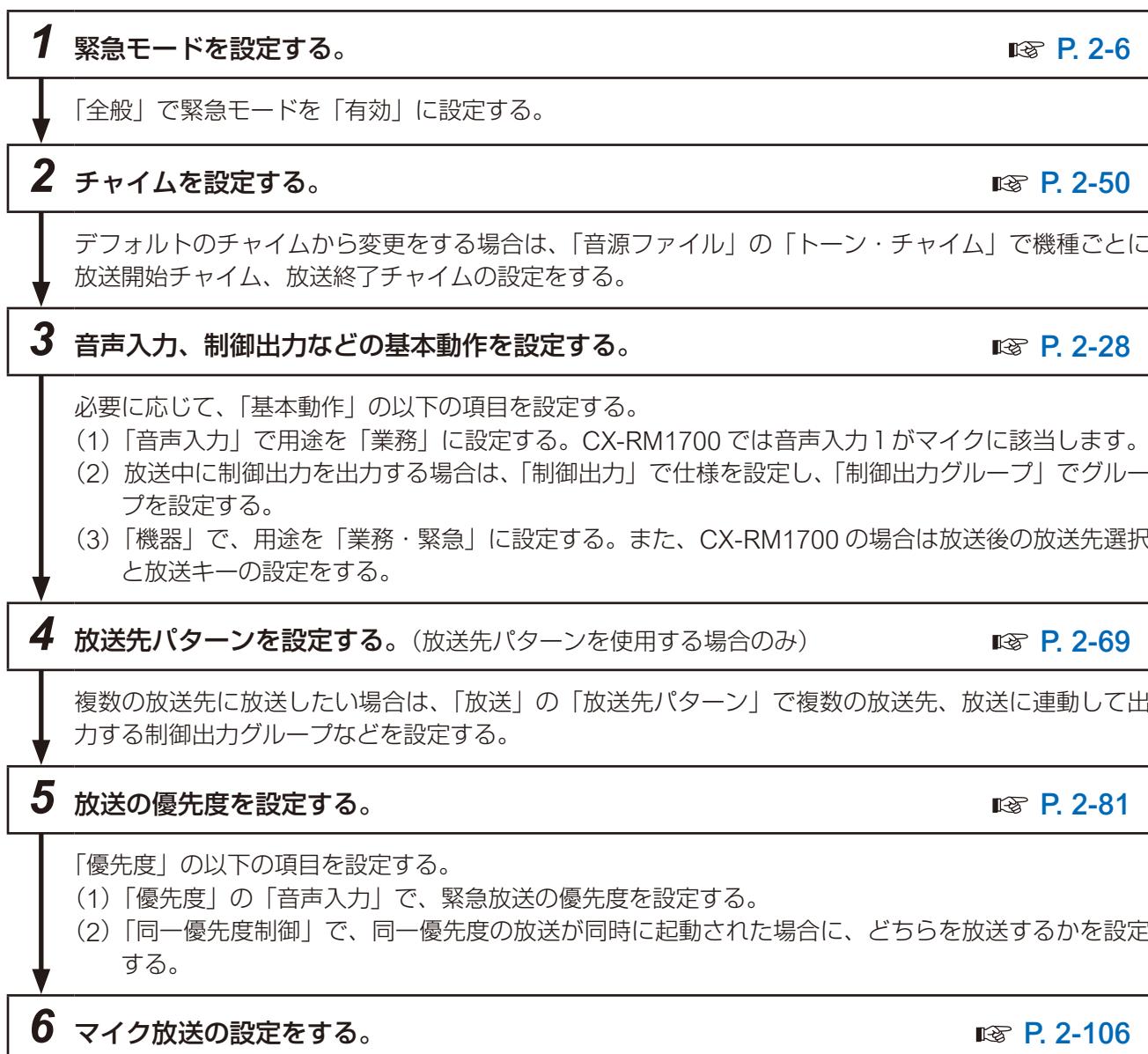
ご注意

用途が「業務」に設定されている機器のキーから緊急メッセージ放送を起動することはできません。

① 緊急マイク放送

緊急モード中に CX-RM1700/OP1700/OP1500 のマイクから行う放送です。

緊急マイク放送をするには、CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

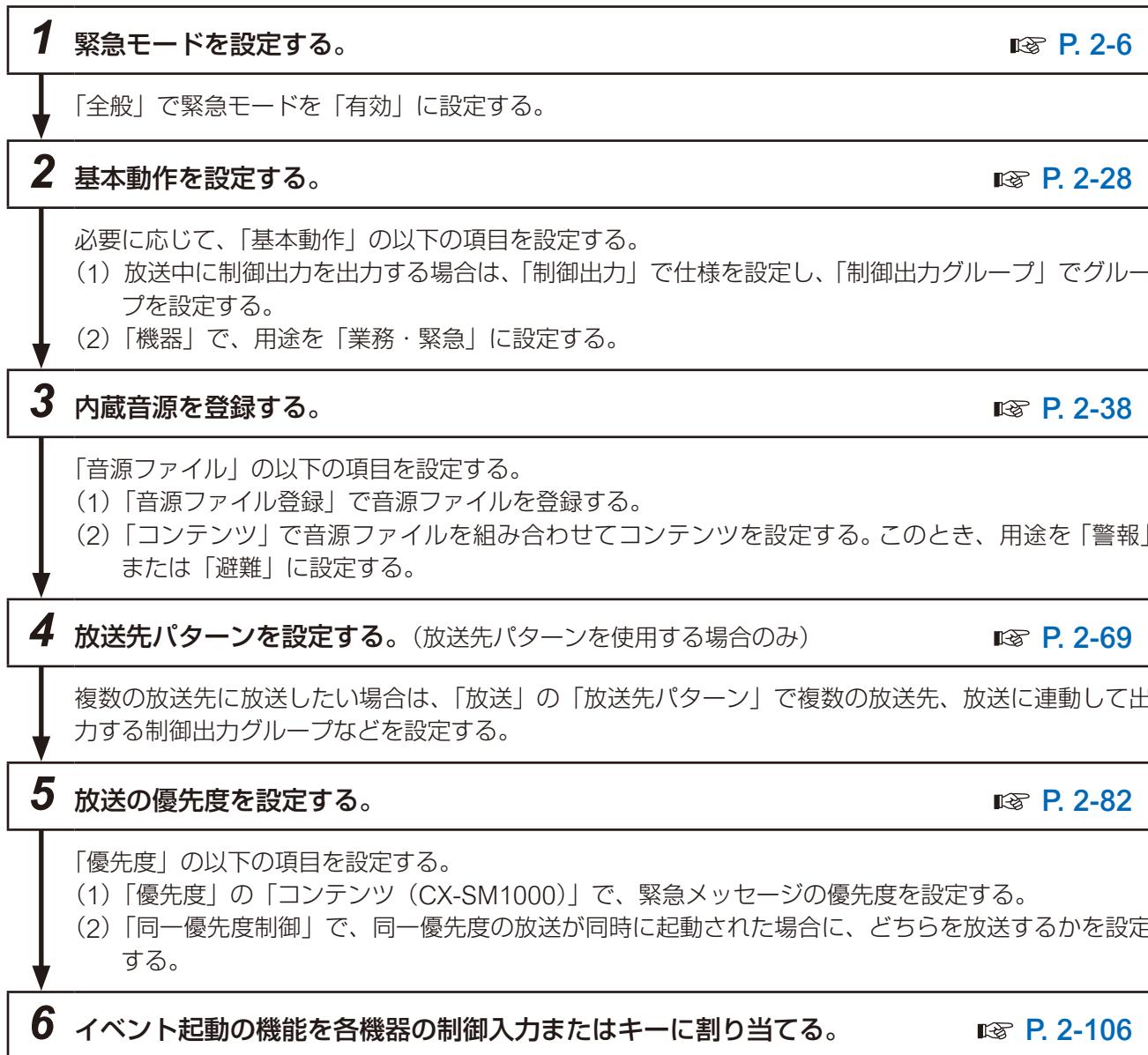


②緊急メッセージ放送

緊急メッセージの放送です。緊急モード中にキー操作により起動します。緊急シーケンスは行いません。

緊急メッセージ放送をするには、緊急メッセージ用の音源を登録し、下記のキーで起動させます。

- キー：CX-OP1700、CX-OP1500、CX-RM1700



③緊急メッセージパターン放送

緊急メッセージパターン放送は、緊急シーケンス、放送先（個別の音声出力または放送先パターン）、制御出力グループを組み合わせた緊急メッセージ放送パターン起動による放送です。

下記の制御入力、キー操作により起動し、起動すると緊急モードに移行します。

- 制御入力：CX-OP1700、CX-CL1750、CX-OP1500、CX-CL1550、CX-RM1700、CX-AF1062、
CX-PA1120、CX-PA1240、CX-CC1016

- キー：CX-OP1700、CX-OP1500、CX-RM1700

放送先の CX-PA1120 または CX-PA1240 のアッテネーター／制御出力端子にアッテネーターが接続されているとき、緊急放送はアッテネーターをバイパスして行われます。

最大 1000 個の緊急メッセージ放送パターンを設定できます。

緊急メッセージ放送パターンの構成は以下のとおりです。

緊急メッセージ放送パターン	緊急シーケンス
	放送先
	制御出力グループ

緊急シーケンスは、メッセージ（音源）とその放送時間（継続時間）との組み合わせを 1 つのフェーズとして設定し、最大 3 段階のフェーズで構成します。最大 100 個の緊急シーケンスを設定できます。

緊急シーケンス	第1フェーズ	第2フェーズ	第3フェーズ
	メッセージ+継続時間	メッセージ+継続時間	メッセージ

ご注意

メッセージは音声ファイルとして準備します。

別途作成したメッセージを CX-1000 設定ソフトウェア上で登録し、各メッセージを 3 つの用途（緊急、避難、復旧）のいずれかに設定したコンテンツを作成します。

緊急メッセージと避難メッセージは、緊急放送状態で使用され、復旧メッセージは、緊急放送状態が終了したことを伝えるために用いられます。

最大 200 種類のメッセージを登録できます。

●緊急メッセージパターン放送をするのに必要な設定

緊急メッセージパターン放送をするには、CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 緊急モードを設定する。

 P. 2-6

「全般」で緊急モードを「有効」に設定する。

2 制御出力、端末などの基本動作を設定する。

 P. 2-28

必要に応じて、「基本動作」の以下の項目を設定する。

- (1) 放送中に制御出力を出力する場合は、「制御出力」で仕様を設定し、「制御出力グループ」でグループを設定する。
- (2) 「機器」で緊急メッセージを起動する機器の「用途」を「業務・緊急」に設定する。

3 内蔵音源を登録する。

 P. 2-38

「音源ファイル」の以下の項目を設定する。

- (1) 「音源ファイル登録」で音源ファイルを登録する。
- (2) 「コンテンツ」で音源ファイルを組み合わせてコンテンツを設定する。このとき用途を「警報」、「避難」、または「復旧」に設定する。

4 放送先パターンを設定する。(放送先パターンを使用する場合のみ)

 P. 2-69

複数の放送先に放送したい場合は、「放送」の「放送先パターン」で複数の放送先、放送に連動して出力する制御出力グループなどを設定する。

5 緊急シーケンスを設定する。

 P. 2-75

「放送」の「緊急シーケンス」で各フェーズの内容を設定する。

6 緊急メッセージ放送パターンを設定する。

 P. 2-77

「放送」の「緊急メッセージ放送パターン」で緊急シーケンス、放送先、緊急モードに連動して起動する制御出力グループなどを設定する。

7 緊急モード状態に連動して起動する制御出力グループを設定する。(必要な場合のみ)

 P. 2-79

「放送」の「緊急モード連動制御出力」で緊急モード状態に連動して起動する制御出力グループを設定する。

8 放送の優先度を設定する。

 P. 2-82

「優先度」の「優先度」にある「コンテンツ (CX-SM1000)」タブで、警報メッセージ、避難メッセージ、および復旧メッセージの優先度を設定する。

9 イベント起動の機能を各機器の制御入力またはキーに割り当てる。

 P. 2-106

「イベント起動」の「制御入力」、「キー」で以下の機能を割り当てる。

- 緊急メッセージ放送パターン起動：緊急メッセージパターン放送を開始する
- 緊急メッセージ放送パターン停止：緊急メッセージパターン放送を停止する（必要な場合のみ）
- 緊急シーケンス停止：緊急シーケンスを停止する（必要な場合のみ）
- 緊急シーケンスフェーズ移行：緊急シーケンスを次のフェーズに移行する（必要な場合のみ）
- 緊急復旧：復旧放送を行う

● 緊急メッセージ放送パターンの設定例

[制御出力グループの設定]

制御出力グループ（番号）	1	CX-CC1016 (ID: 24) の制御出力 1
	2	CX-CC1016 (ID: 24) の制御出力 2

[緊急シーケンスの設定]

緊急シーケンス 1	第1フェーズ	第2フェーズ	第3フェーズ
	メッセージ 1、継続時間 5 分	メッセージ 2、時間制限なし	—

※ この例では第3フェーズは設定しません。

[コンテンツの設定]

コンテンツ名	音源ファイル	用途
メッセージ 1	sign001.wav	警報
メッセージ 2	sign002.wav	避難

[放送先パターンの設定]

放送先パターン (番号)	放送先 1	放送先 2	放送先 3	放送先 4
	CX-PA1120 (ID:20) スピーカー出力 1	CX-PA1120 (ID:20) スピーカー出力 2	CX-PA1120 (ID:20) スピーカー出力 3	CX-PA1120 (ID:20) スピーカー出力 4
1	○			
2		○	○	○

[緊急メッセージ放送パターンの設定]

緊急メッセージ 放送パターン 1	緊急シーケンス	緊急シーケンス 1		
		第1フェーズ	第2フェーズ	第3フェーズ
		メッセージ 1、 継続時間 5 分	メッセージ 2、 時間制限なし	—
		放送先	放送先パターン 1	放送先パターン 2
		制御出力グループ	制御出力グループ 1	制御出力グループ 2

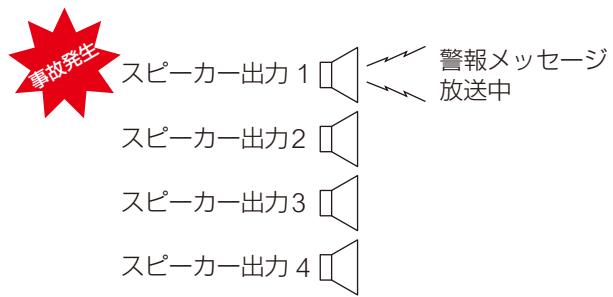
● 動作例

前ページの設定例をもとに、動作を説明します。
この動作例では、スピーカー出力 1 の放送先で事故が発生したと仮定します。

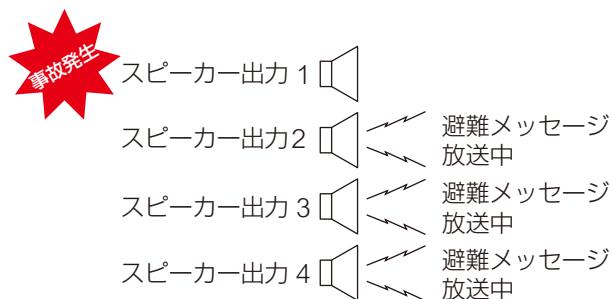
- (1) スピーカー出力 1 の放送先の緊急ボタンが押され、CX-1000 システムの制御入力に制御信号が送信されます。

次に、緊急メッセージ放送パターン 1 が起動し、警報メッセージがスピーカー出力 1 から放送されます。

このとき、制御出力グループ 1 がオンになります。(フェーズ 1)



- (2) 5 分経過後、フェーズ 1 からフェーズ 2 に切り換わり、避難メッセージがスピーカー出力 1 以外の全放送先に放送されます。
このとき、制御出力グループ 1 がオフになり、制御出力グループ 2 がオンになります。



■ 通話

通話相手を呼び出すには、相手先端末番号をダイヤルするか、あらかじめ相手先端末番号を設定したダイレクトキーを操作する、などがあります。また、端末番号の代わりにグループ呼び出し番号を設定することで、複数の端末を同時に呼び出すことができます。

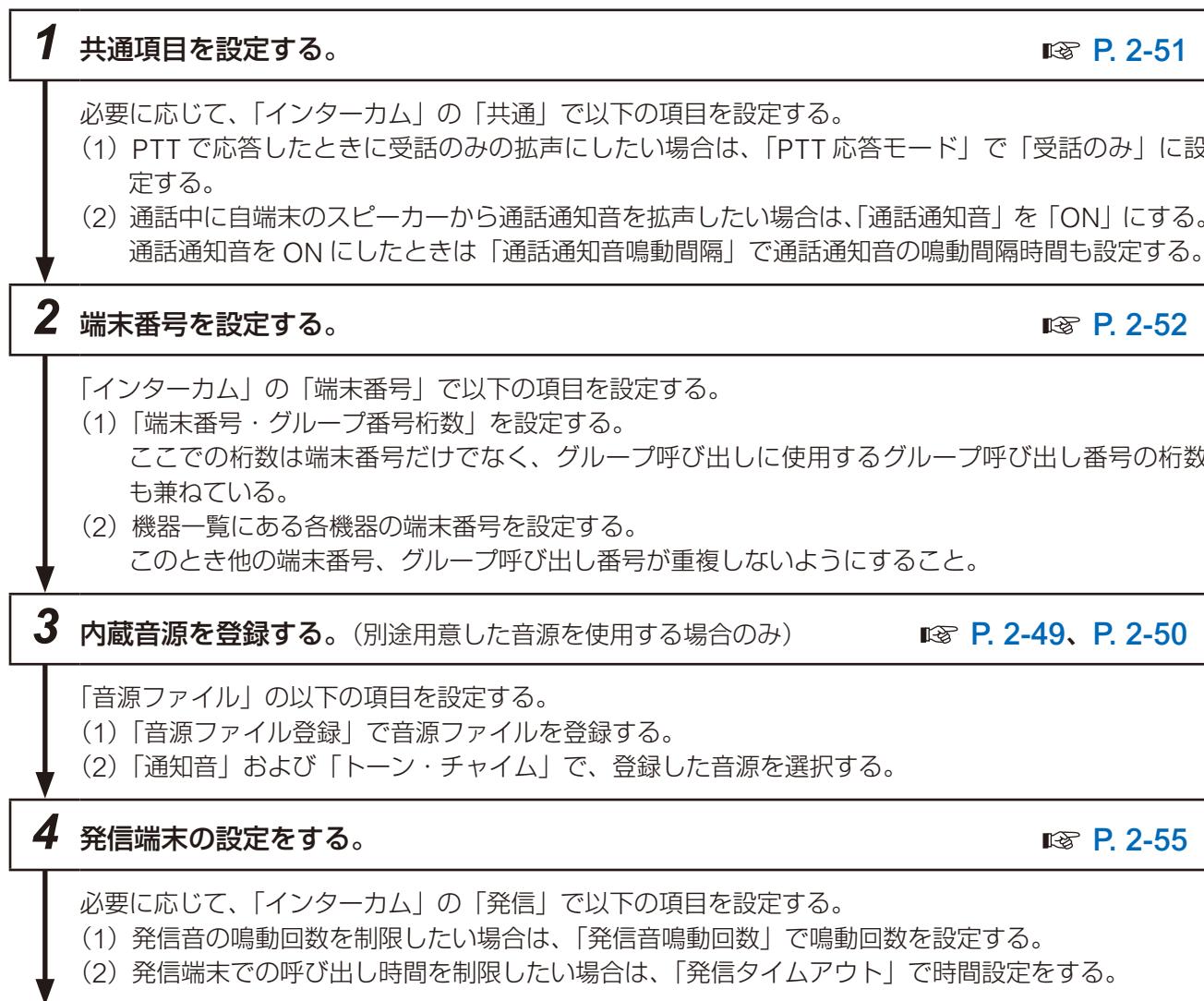
発信端末での優先度を高く設定することで他の端末より優先的に着信表示をすることができます。着信側では優先度順に発信元を表示しますが、着信端末での操作によって低優先の呼び出しにも応答し通話することもできます。

- ダイヤル操作 : CX-OP1700、CX-OP1500
 - ダイレクトキー操作 : CX-OP1700、CX-CL1750、CX-OP1500、CX-CL1550
- カメラ付きの機種では音声通話だけでなく、設定によってビデオ通話もすることができます。

	CX-OP1700	CX-OP1500	CX-CL1750	CX-CL1550
音声通話	○	○	○	○
ビデオ通話	○	—	○	—

● 通話をするのに必要な設定

通話をするには、CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。



次ページへ

前ページから

5 着信端末の設定をする。(CX-OP1700、CX-OP1500の場合のみ)  **P. 2-56**

「インターラム」の「着信」で「応答方法」に関する設定をする。

6 通話形態を設定する。(CX-OP1700、CX-CL1750の場合のみ)  **P. 2-57**

「インターラム」の「通話」にある「通話モード」でモードを選択する。

7 グループ呼び出しの設定をする。(グループ呼び出しを使用する場合のみ)  **P. 2-61**

「インターラム」の「端末グループ」で以下の項目を設定する。

- (1) 端末グループに名称を付けたい場合は、「端末グループ名」で名称を記入する。
- (2) グループ呼び出し番号を設定する。
このとき端末番号、他のグループ呼び出し番号が重複しないようにすること。
- (3) 「端末番号」でグループに登録したい端末を選択する。登録できる端末は CX-OP1700、CX-OP1500のみ。

8 通話の優先度を設定する。  **P. 2-80**

「優先度」の以下の項目を設定する。

- (1) 「優先度」で、通話で使用する優先度を設定する。
- (2) 「同一優先度制御」で、同一優先度の着信を受信したときに、どちらを優先するかを設定する。

● ダイレクトキーを使用して発信操作をするのに必要な設定

発信端末のダイレクトキーを使用するには、CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 イベント起動の機能を各機器のキーに割り当てる。  **P. 2-106**

「イベント起動」の「キー」で対象の機器を選択し、各キーの「イベント機能」にワンタッチダイヤルを設定する。

2 ワンタッチダイヤルのダイヤルコードを登録する。  **P. 2-123**

「ワンタッチダイヤル」のテキストボックスにダイヤルするダイヤルコードを入力する。

● リモートダイヤルを使用して発信操作をするのに必要な設定

制御入力操作によるリモートダイヤルを使用するには、CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 イベント起動の機能を各機器の制御入力に割り当てる。

 P. 2-106

「イベント起動」の「制御入力」で対象の機器を選択し、各制御入力の「イベント機能」にリモートダイヤルを設定する。

2 リモートダイヤルのダイヤルコードを登録する。

 P. 2-123

制御したい通話端末を選択し、ダイヤルするダイヤルコードを入力する。

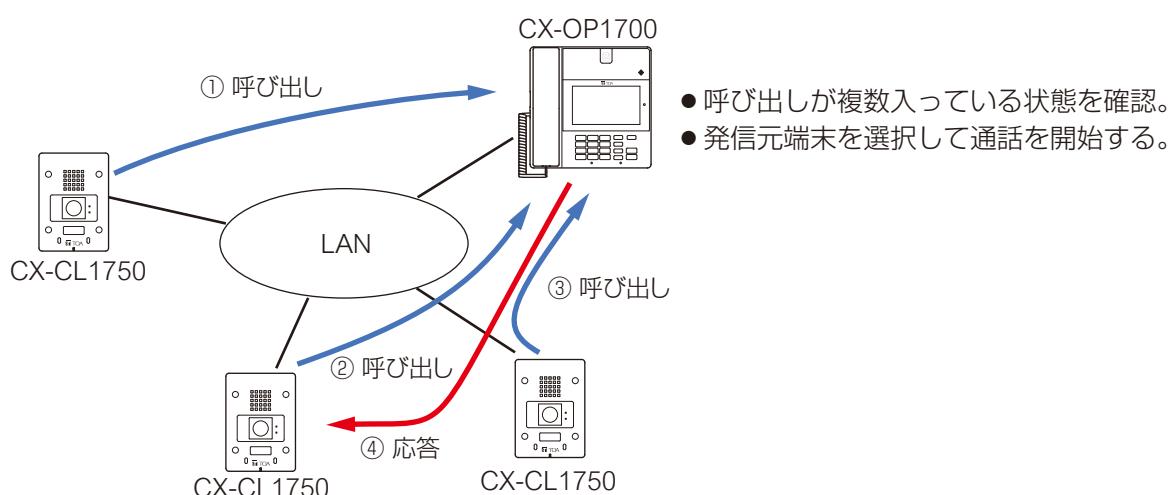
■ 着信方式

CX-1000 システムは、着信先の端末が発信元端末を選択することによって、着信した順番に関係なく発信元端末に応答することができます。

この方式は、特定のビデオ多機能端末または標準端末を呼び出すシステムで活用できます。

また、発信元端末の優先度によって、発信元端末の情報を優先度の高い順に表示されるよう設定できるため、あらかじめ決められた場所からの重要な呼び出しにすばやく気づくことができます。

液晶画面、キー操作で選択する手段がない端末での応答、または自動応答では、そのとき一番優先度の高い発信元端末との通話になります。



● 設定例

機種	端末番号	ワンタッチダイヤル	優先度	同一優先度制御
CX-OP1700	600	—	110	先優先
CX-CL1750	300	600	120	先優先
CX-CL1750	310	600	120	先優先
CX-CL1750	200	600	100	先優先

上記のように設定した場合に、複数の端末から着信したときの動作は次ページの例のようになります。

● 動作例 1

1 CX-CL1750（端末番号 300）のダイレクトキーを押す。

CX-OP1700（端末番号 600）を呼び出します。

CX-OP1700（端末番号 600）の液晶画面では右のように表示されます。

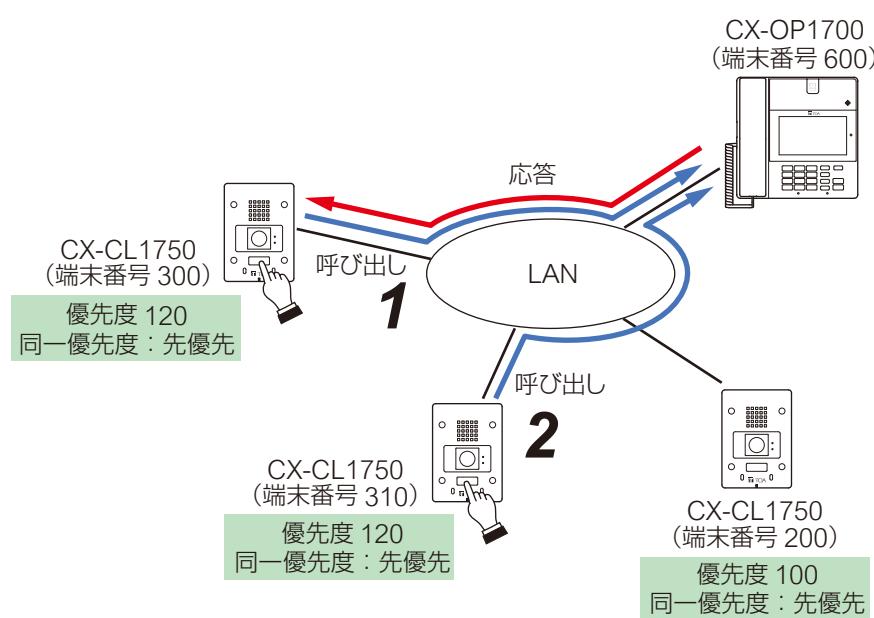


2 CX-CL1750（端末番号 310）のダイレクトキーを押す。

CX-OP1700（端末番号 600）を呼び出します。

CX-CL1750（端末番号 300）と CX-CL1750（端末番号 310）は同一優先度なので、先に呼び出し操作をした CX-CL1750（端末番号 300）の方が優先され、CX-OP1700（端末番号 600）の液晶画面には「端末番号 300」が表示され続けます。

この状態で CX-OP1700（端末番号 600）が応答すると、CX-CL1750（端末番号 300）と通話状態になります。



● 動作例 2

1 CX-CL1750（端末番号 300）のダイレクトキーを押す。

CX-OP1700（端末番号 600）を呼び出します。

CX-OP1700（端末番号 600）の液晶画面では右のように表示されます。

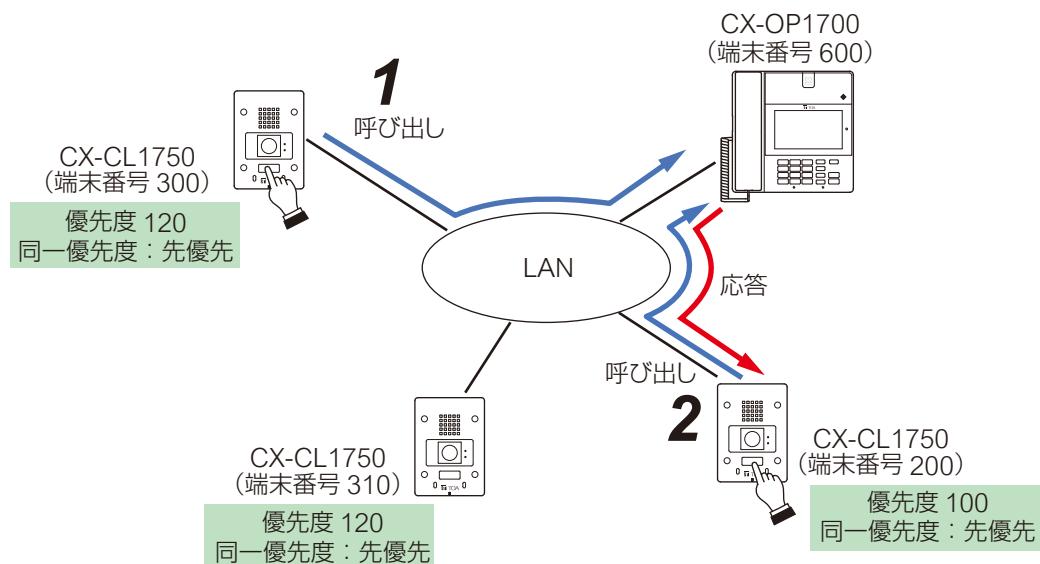


2 CX-CL1750（端末番号 200）のダイレクトキーを押す。

CX-OP1700（端末番号 600）を呼び出します。

CX-CL1750（端末番号 200）は CX-CL1750（端末番号 300）より優先度が高いので、CX-OP1700（端末番号 600）の液晶画面は右のように切り換わります。

この状態で CX-OP1700（端末番号 600）が応答すると、CX-CL1750（端末番号 200）と通話状態になります。



■ 自動転送

自動転送には不在転送、時刻連動不在転送、話中転送、不応答転送、未接続転送があります。各自動転送を有効にするには、CX-1000 設定ソフトウェアから事前に設定を行うか、あるいは端末操作によって有効／無効を切り換えることができます。

自動転送先としては CX-1000 システム内の個別端末だけでなく、グループ呼び出し番号も登録できます。その他、外部電話システムへの自動転送もできます。

グループ呼び出し番号は、自動転送の共通の転送先グループ呼び出し番号が設定でき、グループ呼び出し間の転送ができます。グループ呼び出しを行ったとき、各自動転送の条件になった時点で、設定したグループ呼び出し番号へ転送されます。

[個別端末ごとの転送設定]

	不在転送	時刻連動不在転送	話中転送	不応答転送	未接続転送
CX-1000 設定ソフトウェアからの事前設定	○	○	○	○	○
端末操作による設定	○	—	○	○	○

ご注意

- CX-CL1750、CX-CL1550 に自動転送の設定はできません。
- 未接続転送を端末操作により設定する場合は、端末が CX-SM1000 と通信できる状態のときに操作してください。すでに未接続で CX-SM1000 と通信していない状態になってから操作しても、何も変化しません。
- 時刻連動不在転送を使用する場合は、「ネットワーク（全体）」の「DNS/NTP/ICMP」(P. 2-17) で NTP サーバーを設定することで、CX-SM1000 に正しい時刻を設定してください。

[グループごとの転送設定]

	不在転送	時刻連動不在転送	話中転送	不応答転送	未接続転送
CX-1000 設定ソフトウェアからの事前設定	○	○	○	○	○
端末操作による設定	—	—	—	—	—

ご注意

転送先に個別端末、外部電話システムの電話番号を設定することはできません。

● 個別端末で不在転送、話中転送、不応答転送、未接続転送をするのに必要な設定

CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 外部電話システムを設定する。(転送先に外部電話システムを使用する場合のみ) P. 2-53

「インターラム」の「外部電話システム」で、外部電話システムを識別する発信特番を設定する。外部電話システムのインターフェースである VoIP アダプターまたは IP-PBX で必要となる設定を行う。設定方法は機器メーカーの取扱説明書をお読みください。

2 不応答時間を設定する。(不応答転送を設定する場合のみ) P. 2-56

「インターラム」の「着信」にある「不応答タイムアウト」で、転送するまでの時間を選択する。

3 転送先番号を設定する. P. 2-59

「インターラム」の「転送」で転送先となる端末番号を設定する。

転送先に個別の端末を指定するときは端末番号を設定する。

転送先にグループ呼び出し番号を指定するときはグループ呼び出し番号を設定する。

転送先に外部電話システムの電話番号を指定するときは、外部電話システムの電話番号の前に発信特番を付加する。

例) 発信特番が「0」、外部電話システムの電話番号が「012-345-6789」だった場合。

00123456789

● 個別端末で時刻連動不在転送をするのに必要な設定

CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 外部電話システムを設定する。(転送先に外部電話システムを使用する場合のみ) P. 2-53

「インターラム」の「外部電話システム」で、外部電話システムを識別する発信特番を設定する。外部電話システムのインターフェースである VoIP アダプターまたは IP-PBX で必要となる設定を行う。設定方法は機器メーカーの取扱説明書をお読みください。

2 グループ呼び出し番号を設定する。(転送先にグループ呼び出し番号を使用する場合のみ) P. 2-61

「インターラム」の「端末グループ」で以下の項目を設定する。
 (1) 端末グループに名称を付けたい場合は、「端末グループ名」で名称を記入する。
 (2) グループ呼び出し番号を設定する。
 (3) 「端末番号」でグループに登録したい端末を選択する。登録できる端末は CX-OP1700、CX-OP1500 のみ。

3 時刻連動不在転送パターンを設定する. P. 2-63

「時刻連動不在転送パターン」で対象となる時刻連動不在転送パターン番号を選択する。
 「機器一覧」を選択し時刻連動不在転送をする端末を選択する。

4 転送先番号を設定する. P. 2-59

「インターラム」の「転送」で転送先となる端末番号を設定する。
 転送先に個別の端末を指定するときは端末番号を設定する。
 転送先にグループ番号を指定するときはグループ番号を設定する。
 転送先に外部電話システムの電話番号を指定するときは、外部電話システムの電話番号の前に発信特番を付加する。
 例) 発信特番が「0」、外部電話システムの電話番号が「012-345-6789」だった場合。
 00123456789

5 プログラムタイマーを設定する. P. 2-142

「プログラムタイマー」の「デイリープログラム」で以下の項目を設定する。
 (1) 「デイリープログラム番号」を選択する。
 (2) デイリープログラムに名称を付けたい場合は、「デイリープログラム名」で名称を記入する。
 (3) イベントに名称を付けたい場合は、「イベント名」で名称を記入する。
 (4) 「イベント機能」で「時刻連動不在転送（レベル）」を選択する。
 (5) 「開始時刻」で時刻連動不在転送を有効にする時刻を設定する。
 (6) 「終了時刻」で時刻連動不在転送を無効にする時刻を設定する。
 (7) 「時刻連動不在転送パターン番号」でパターン番号を選択する。

● グループ呼び出しで不在転送、話中転送、不応答転送、未接続転送をするのに必要な設定

CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

手順：グループ呼び出しの設定をする。

 **P. 2-61**

「インターラム」の「端末グループ」で以下の項目を設定する。

- (1) 端末グループに名称を付けたい場合は、「端末グループ名」で名称を記入する。
- (2) グループ呼び出し番号を設定する。
- (3) 「端末番号」でグループに登録したい端末を選択する。登録できる端末は CX-OP1700、CX-OP1500 のみ。
- (4) 「不応答タイムアウト」で転送するまでの時間を選択する。(不応答転送を設定する場合のみ)
- (5) 「転送先」で転送先となるグループ呼び出し先を選択する。

● グループ呼び出しで時刻連動不在転送をするのに必要な設定

CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 グループ呼び出しの設定をする。

 **P. 2-61**

「インターラム」の「端末グループ」で以下の項目を設定する。

- (1) 端末グループに名称を付けたい場合は、「端末グループ名」で名称を記入する。
- (2) グループ呼び出し番号を設定する。
- (3) 「端末番号」でグループに登録したい端末を選択する。登録できる端末は CX-OP1700、CX-OP1500 のみ。
- (4) 「転送先」で転送先となるグループ呼び出し先を選択する。

2 時刻連動不在転送パターンを設定する。

 **P. 2-63**

「時刻連動不在転送パターン」で対象となる時刻連動不在転送パターン番号を選択する。

「端末グループ」を選択し、時刻連動不在転送をするグループ番号を選択する。

3 プログラムタイマーを設定する。

 **P. 2-142**

「プログラムタイマー」の「デイリープログラム」で以下の項目を設定する。

- (1) 「デイリープログラム番号」を選択する。
- (2) デイリープログラムに名称を付けたい場合は、「デイリープログラム名」で名称を記入する。
- (3) イベントに名称を付けたい場合は、「イベント名」で名称を記入する。
- (4) 「イベント機能」で「時刻連動不在転送（レベル）」を選択する。
- (5) 「開始時刻」で時刻連動不在転送を有効にする時刻を設定する。
- (6) 「終了時刻」で時刻連動不在転送を無効にする時刻を設定する。
- (7) 「時刻連動不在転送パターン（No.）」でパターン番号を選択する。

■ ドアリモート

ドアリモートは、制御出力グループの作成、各端末に作成した制御出力グループの割り当てを CX-1000 設定ソフトウェアから行います。

通話中のダイヤル操作で、設定した制御出力グループを起動することができます。
制御出力グループは各端末に最大 5 グループ登録できます。

● ドアリモートをするのに必要な設定

CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 制御出力グループの設定をする。

P. 2-33

「基本動作」の「制御出力グループ」で制御出力グループに出力先となる制御出力を設定する。

2 制御出力グループを割り当てる。

P. 2-58

「インターラム」の「ドアリモート」で制御出力先ごとに制御出力グループを割り当てる。

● 鍵解錠の設定例

鍵を制御する電子錠と連動して、CX-OP1700 にある解錠アイコンまたは CX-CL1750/CL1550 にある解錠表示灯を制御、鍵の解錠と連動して解錠音源を鳴動するには、ドアリモートおよび制御入力の設定が必要です。電子錠には下記の機能が必要です。詳しくは電子錠の取扱説明書をお読みください。

[電子錠に必要な機能]

- ・ 制御入力信号を受けて鍵を解錠する
- ・ 鍵解錠状態に連動して制御出力信号を出力する

[設定の手順]

CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 内蔵音源を登録する。(別途用意した音源を使用する場合のみ)

P. 2-38

「音源ファイル」の以下の項目を設定する。

- (1) 「音源ファイル登録」で音源ファイルを登録する。
- (2) 「通知音」の「ドア解錠音」で、登録した音源を選択する。

2 制御入力の設定をする。

P. 2-106

「イベント起動」の「制御入力」で対象の機器を選択し、制御入力の「イベント機能」を「ドア開放検知（レベル）」に設定する。

この制御入力端子と電子錠の鍵解錠状態に連動する制御信号出力端子を接続する。

3 制御出力グループの設定をする。

P. 2-33

「基本動作」の「制御出力グループ」で制御出力グループに出力先となる制御出力を設定する。

次ページへ

前ページから

↓

4 制御出力グループを割り当てる。

 P. 2-58

「インターラム」の「ドアリモート」で制御出力先ごとに制御出力グループを割り当てる。

この制御出力端子と電子錠の鍵を解錠する制御信号入力端子を接続する。

■ 外部電話システム

外部電話システムを CX-1000 システムに登録することによって、他の IP 電話システムへ接続することができます。

ご注意

CX-1000 システムを外線に接続された IP-PBX には接続しないでください。

CX-1000 システムは電気通信事業法における技術適合認定品ではありません。公衆交換電話網などを介した外線通話には使用できません。

システムの登録、発信特番、外部電話システムからの着信先登録は CX-1000 設定ソフトウェアから行います。発信特番は異なる回線であっても同じ発信特番を設定できます。複数回線に同じ発信特番を設定したときは、外部電話システムへの発信時に空いている回線を捕捉します。

外部電話システム側での設定は各メーカーの取扱説明書をお読みください。

ダイレクトインダイヤルとダイレクトインラインは個々、あるいは併用して使用できます。両方を有効にした場合は、ダイレクトインダイヤルで着信し、外部電話システム側からのダイヤル操作がなければダイレクトインラインにスライドします。

	外部電話システム側からの着信時の動作	外部電話システム側からのダイヤル操作がなかったときの動作
ダイレクトインダイヤルのみ有効	ダイヤル操作を受け付けます。	終話します。
ダイレクトインラインのみ有効	設定した端末グループ番号に登録した端末を呼び出します。	—
ダイレクトインダイヤルとダイレクトインラインを両方有効	ダイヤル操作を受け付けます。	ダイレクトインラインにスライドします。
ダイレクトインダイヤルとダイレクトインラインの両方設定なし	着信しません。	—

ダイレクトインダイヤルで着信したときのセカンドダイヤルトーンに、別途用意した音源を再生することができます。ただし、下記条件に合う音源を設定してください。

- ファイル形式 : WAV
- サンプリング周波数 : 8 kHz
- コーデック : PCM
- 量子化ビット数 : 16 bit
- チャンネル数 : モノラル
- 最大再生時間 : 30 秒

ご注意

繰り返し再生はできません。同じメッセージを繰り返したい場合は、最大再生時間の範囲内であらかじめ繰り返しのある音源を作成してください。

外部電話システムは① VoIP アダプター、② IP-PBX を使う 2 つの方法があります。それぞれ、使用する回線の種類が異なります。なお、1 つのシステム内に両方を混在することはできません。

① VoIP アダプター

[概略仕様]

- SIP 電話とアナログ電話のインターフェースユニットです。
- 1 つのインターフェースユニットで複数のアナログ回線を収容する機器もあります。その場合は、回線ごとに SIP ID 登録、発信特番登録が必要です。

② IP-PBX

[概略仕様]

- デジタル化された PBX です。
- 回線は LAN で接続し、SIP で通話の制御を行います。

ご注意

IP-PBX 側の端末がビデオ通話ができる機種でも、CX-1000 シリーズの端末とのビデオ通話はできません。

CX-1000 システムのシステムマネージャーおよび各端末と通信するにあたって、外部電話システム側に下記の機能が必要です。すべての要件を満たす機器を選択してください。

[外部電話システムに必要な機能]

DTMF 信号	外部電話システム側へ	CX-1000 シリーズは DTMF 送信に SIP INFO のみ使用します。インバンド、RFC2833 には対応していません。
	外部電話システム側から	CX-1000 シリーズは DTMF 受信に SIP INFO のみ使用します。インバンド、RFC2833 には対応していません。
ネットワーク	ポート	CX-SM1000 とはすべて UDP で通信を行います。「ネットワーク(全体)」の「放送・通話」で、設定するポート番号を使用してください。
	ストリーム	CX-1000 シリーズの端末とは P2P でストリームの送受信を行います。ダイレクトメディアに対応している必要があります。ダイレクトメディアとは CX-SM1000 を経由せず、端末間でストリームを送受信する機能です。
ビジートーン検出		外部電話システム側でのビジートーンを検出して、CX-1000 シリーズへ終話信号 (BYE) を送信してください。
回線ごとの SIP ID 登録		回線を識別するために各回線ごとに異なる SIP ID を設定してください。重複はできません。

CX-1000 システムのシステムマネージャーおよび各端末と通信するにあたって、SIP 電話側に必要な機能と CX-1000 システムの非対応事項は下表のとおりです。

必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 音声コーデック G.722、G.711 に対応していること。 ● ダイレクトメディアに対応していること。 ● DTMF を SIP INFO で送信可能であること。
CX-1000 システムの非対応事項	<ul style="list-style-type: none"> ● CX-1000 システムは Early Media 非対応のため、対応している SIP 電話は機能を無効化してください。 ● CX-1000 システムの各端末と SIP 電話とのビデオ通話はできません。音声通話のみ可能です。

● 外部電話システムを使用するのに必要な設定（共通）

CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 SIP ID、パスワードを設定する。（初期値から変更する場合のみ） P. 2-21

「ネットワーク（機器）」の「SIP」で以下の項目を設定する。

- (1) 「SIP 設定をカスタマイズする」にチェックを入れる。
- (2) SIP ID、パスワードを設定する。

2 着信時の応答メッセージを変更する。（ダイレクトインダイヤルで別途用意した音源を使用する場合のみ） P. 2-49

「音源ファイル」の「音源ファイル登録」で新規音源を登録する。

「音源ファイル」の「通知音」にある「セカンドダイヤルトーン」で登録した音源を選択する。

3 グループ呼び出しの設定をする。（ダイレクトオンラインを使用する場合のみ） P. 2-61

「インターラム」の「端末グループ」で以下の項目を設定する。

- (1) 端末グループに名称を付けたい場合は、「端末グループ名」で名称を記入する。
- (2) グループ呼び出し番号を設定する。
- (3) 「端末番号」でグループに登録したい端末を選択する。登録できる端末は CX-OP1700、CX-OP1500 のみ。

4 外部電話システムの設定をする。 P. 2-53

「インターラム」の「外部電話システム」で、回線数、最大接続時間、発信特番などを設定する。

● VoIP アダプターを登録する設定

CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 機種を登録する。 P. 2-53

「インターラム」の「外部電話システム」にある「インターフェース」で「VoIP アダプター」を選択する。

2 回線数を設定する。 P. 2-53

「インターラム」の「外部電話システム」で機器ごとの回線数を選択する。

● IP-PBX を登録する設定

CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 機種を登録する。

 P. 2-53

「インターラム」の「外部電話システム」にある「インターフェース」で「IP-PBX」を選択する。

2 回線数を設定する。

 P. 2-53

「インターラム」の「外部電話システム」で機器ごとの回線数を選択する。

● 外部電話システムでの設定

CX-1000 設定ソフトウェアで作った設定を外部電話システムへ設定します。

設定の方法は各メーカーの取扱説明書をお読みください。

■ 拠点機能

● 拠点機能の概要

拠点機能を有効にすると、システム内の機器をいずれかの拠点に所属させて、拠点ごとに管理することができます。

拠点機能により、以下の点が異なります。

	拠点機能が有効のとき	拠点機能が無効のとき
拠点の設定	<ul style="list-style-type: none"> ● 最大 100 の拠点を設定 ● 各機器はいずれかの拠点に所属 ● 各拠点には最大 1000 台が所属可能 	拠点設定は非表示
システム台数制限	最大 3000 台	最大 1000 台
機器の動作状態の閲覧	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理者権限、メンテナンス権限では全拠点の機器を閲覧可能 ● ユーザー権限では許可された拠点の機器のみ閲覧可能 	管理者権限、メンテナンス権限、ユーザー権限とも全機器を閲覧可能
緊急モード時の動作 (緊急モード：有効時のみ)	<ul style="list-style-type: none"> ● 緊急メッセージ放送パターンに登録された音声出力機器の所属する拠点が緊急モードになる。 ● 同じ出力先で緊急メッセージ放送パターンが重複した場合は、緊急メッセージ放送パターン内の緊急メッセージの優先度が高い方が優先される。 	全機器が緊急モードになる。
復旧時の動作	緊急復旧は復旧操作をする機器が属する拠点のみが対象となる。	全機器が復旧する。
故障検知動作（故障検知機能：有効時のみ）	拠点ごとおよび所属機器数 31 台ごとに、その中から故障検知リーダーとなる機器を 1 台設定する。	登録機器数 31 台ごとに、その中から故障検知リーダーとなる機器を 1 台設定する。

メモ

1000 台以下のシステムでも、拠点機能を有効にすることはできます。

● 拠点機能使用時に追加される設定

拠点機能を使用するときは、拠点機能を有効にした上で、以下の設定が追加で必要です。

1 拠点機能を「有効」にする。

 P. 2-6

「全般」で「拠点機能」を「有効」に設定する。

2 「拠点」項目を設定する。

 P. 2-26

「拠点」項目が追加されるので、その中の以下の項目を設定する。

- (1) 「拠点」で拠点の名称を設定する。
- (2) 「所属拠点」で各機器の所属拠点を設定する。

3 拠点ごとに故障検知リーダーを設定する。(故障検知機能が「有効」かつ CX-SM1000 を除く登録機器の台数が 31 台以上で、必要な場合のみ)

 P. 2-152

必要に応じて、「故障検知」の以下の項目を拠点ごとに設定する。

- (1) 「故障検知リーダー」で故障検知リーダーを拠点ごとに設定する。
- (2) 「自己点検」で定期自己点検について拠点ごとに設定する。

4 ユーザー権限での閲覧拠点を設定する。

 P. 2-159

「セキュリティ」の「ID／パスワード」でユーザー権限での閲覧拠点を設定する。

ご注意

「拠点機能」を「有効」に設定していても、「機器登録」で一度に 1000 台を超える機器を登録しようとすると、初期設定ではすべての機器の所属拠点が No. 1 なので、1 拠点あたり 1000 台までという制限に引っかかり、エラーとなります。

1000 台を超える機器を登録したいときは、以下の手順で機器登録を何回かに分けて行い、1 拠点あたり 1000 台までという制限に引っ掛かからないように設定してください。

1. 「拠点機能」を「有効」に設定する。
2. 1000 台以下で機器を登録する。
3. 登録した機器の所属拠点を No.1 以外に設定する。
4. 1001 台目以降の機器を登録する。

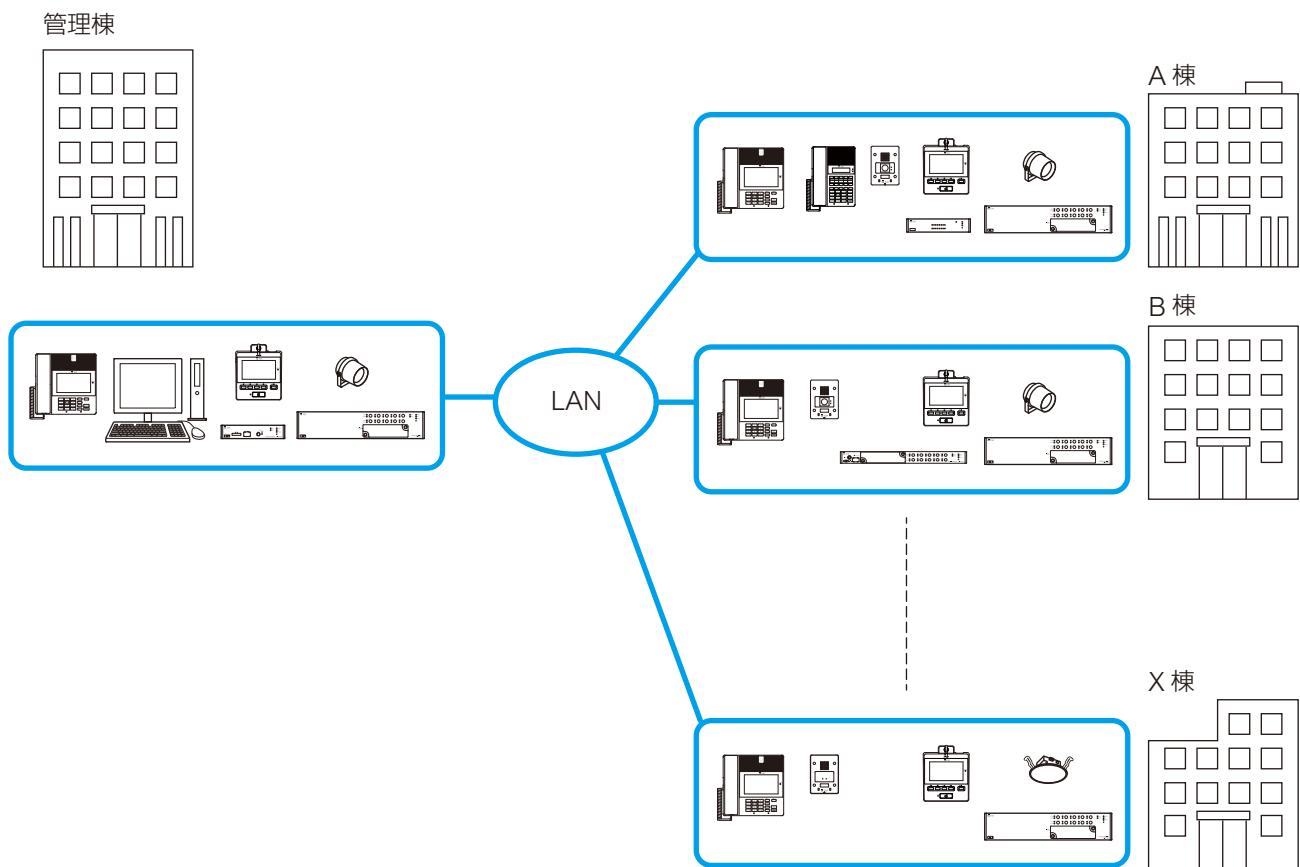
● 拠点機能の使用例

たとえば多棟から構成されている工場や店舗などに拠点を設定して、システムを構成します。

管理棟では全体のシステムを管理するため、管理者権限を持つ人が管理棟を含むすべての棟の管理を担当します。

各棟では、ユーザー権限を持つ人が各拠点内のシステムの管理をします。

各棟のユーザー権限を持つ人が運用メンテナンス画面などを利用し、各棟で使用している機器のみの監視を行いますが、管理者権限を持つ人は全棟の機器状態の確認や設定の変更を行うなどの運用が可能となります。また、緊急モードは拠点ごとで運用ができます。



■ プログラムタイマー機能

● 機能の概要

放送の開始・終了、音量の変更、制御出力などを、指定した時刻に起動することができます。

タイマー制御による1つの動作をイベントとして設定し、それらを組み合わせて、デイリープログラムを設定します。デイリープログラムをさらに週間プログラム、カレンダー設定に割り当てます。最大2年分の設定を登録して運用できます。(☞ P. 1-52 [設定イメージ])

これらの制御は、CX-SM1000の内部時計の時刻に従います。

なお、CX-SM1000の内部時計の時刻は、NTPサーバーまたは時刻補正機能を割り当てられた制御入力により、補正できます。Web画面にログインして、パソコンの時刻を取得する、または任意の時刻を手動で設定することもできます。

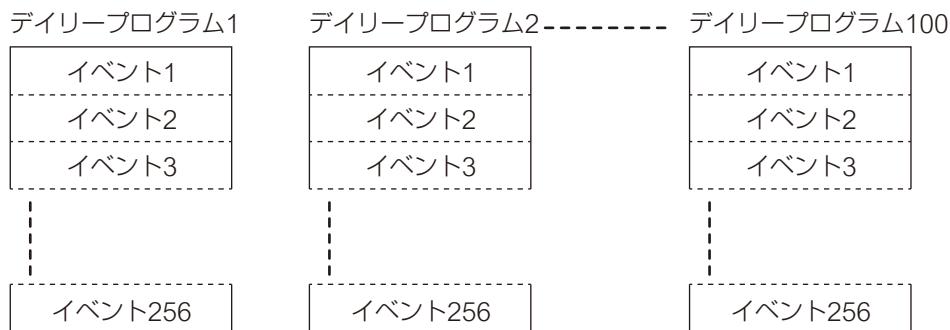
- 指定時刻に、あらかじめ設定されたイベントが起動されます。
- デイリープログラムを最大で100個設定できます。1つのデイリープログラムにつき、256個のイベントを登録できます。
- 各曜日にデイリープログラムを割り当てる週間プログラムを設定します。通常は週間プログラムで動作しますが、カレンダー設定で日を指定して個別にデイリープログラムを設定することもできます。
- 当月を含めた先行き24ヶ月間のパターンをあらかじめ登録して運用できます。
- システムの日付が切り換わる時刻(日付切換時刻)を設定することで、パターンが切り換わるタイミングを設定できます。
- 1つのイベントは日付切換時刻をまたぐことはできず、最大24時間先まで連続して動作することができます。

[用語の説明]

用語	説明
イベント	タイマー制御によって動作する1つの単位。(例:朝のラジオ体操の放送)
デイリープログラム	1日に運用する複数のイベントをまとめた1つの単位。登録できるイベントは256個。
週間プログラム	1週間分のパターン。システム内に1つ設定します。先頭曜日のデフォルトは日曜日。1日につき最大10のデイリープログラムを割り当てることができます。
カレンダー設定	2年間分のパターン。通常は週間プログラムで動作しますが、日を指定して、任意のデイリープログラムを割り当てるすることができます。割り当てた日に週間プログラムが設定されている場合は、カレンダー設定が優先されます。
日付切換時刻	1日のデイリープログラムが切り換わる時刻。デフォルトはAM0:00。

【設定イメージ】

・デイリープログラムとイベント



・週間プログラム

No.	日	月	火	水	木	金	土
1	デイリー プログラム 20	デイリー プログラム 1	デイリー プログラム 12	デイリー プログラム 1	デイリー プログラム 1	デイリー プログラム 5	デイリー プログラム 20
2	なし	デイリー プログラム 2	デイリー プログラム 13	デイリー プログラム 2	デイリー プログラム 2	デイリー プログラム 6	なし
3	なし	デイリー プログラム 3	デイリー プログラム 14	デイリー プログラム 3	デイリー プログラム 3	デイリー プログラム 7	なし
4	なし	デイリー プログラム 4	デイリー プログラム 15	デイリー プログラム 4	デイリー プログラム 4	デイリー プログラム 8	なし
5	なし	デイリー プログラム 5	デイリー プログラム 16	デイリー プログラム 5	デイリー プログラム 5	デイリー プログラム 9	なし
6	なし	デイリー プログラム 6	デイリー プログラム 17	デイリー プログラム 8	デイリー プログラム 6	デイリー プログラム 10	なし
7	なし	デイリー プログラム 7	デイリー プログラム 18	デイリー プログラム 9	デイリー プログラム 7	デイリー プログラム 11	なし
8	なし	デイリー プログラム 8	デイリー プログラム 19	なし	デイリー プログラム 8	デイリー プログラム 12	なし
9	なし	デイリー プログラム 9	デイリー プログラム 20	なし	デイリー プログラム 10	デイリー プログラム 13	なし
10	なし	デイリー プログラム 10	デイリー プログラム 21	なし	なし	デイリー プログラム 14	なし

・カレンダー設定

当月

…24カ月

1週目				水	木	金	土	
				週設定 どおり	週設定 どおり	デイリー プログラム 20	週設定 どおり	
2週目	日	月	火	水	木	金	土	
	週設定 どおり	デイリー プログラム 20	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	
3週目	日	月	火	水	木	金	土	
	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	デイリー プログラム 1~10	
4週目	日	月	火	水	木	金	土	
	週設定 どおり	デイリー プログラム 20	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	
5週目	日	月	火	水	木	金		
	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり	週設定 どおり		

● プログラムタイマー機能を使用するのに必要な設定



- (1) 「デイリープログラム」でイベント機能、開始時刻、終了時刻などを設定する。
- (2) 「週間プログラム」で「デイリープログラム」を各曜日に割り当てる。
- (3) 「カレンダー」で「デイリープログラム」を特定の日に割り当てる。

■ 故障検知機能

故障検知機能とは、システム内の各機器の動作、機器間のケーブル接続または通信、電源など、入力から出力に至るまでの主要ポイントを常に継続的に監視する機能です。

故障検知機能により機器の故障、ケーブルの断線などが発生すると、システムの管理者やユーザーに故障情報を通知することができます。外部機器の故障状態を取り込んで、知らせることもできます。

故障発生時には、CX-SM1000 や以下のキーまたは制御入力端子を使って、故障受理からシステムを通常状態に復帰させる故障リセットまでの一連の操作をします。Web 画面にログインして、故障状態の閲覧や故障リセットをすることもできます。

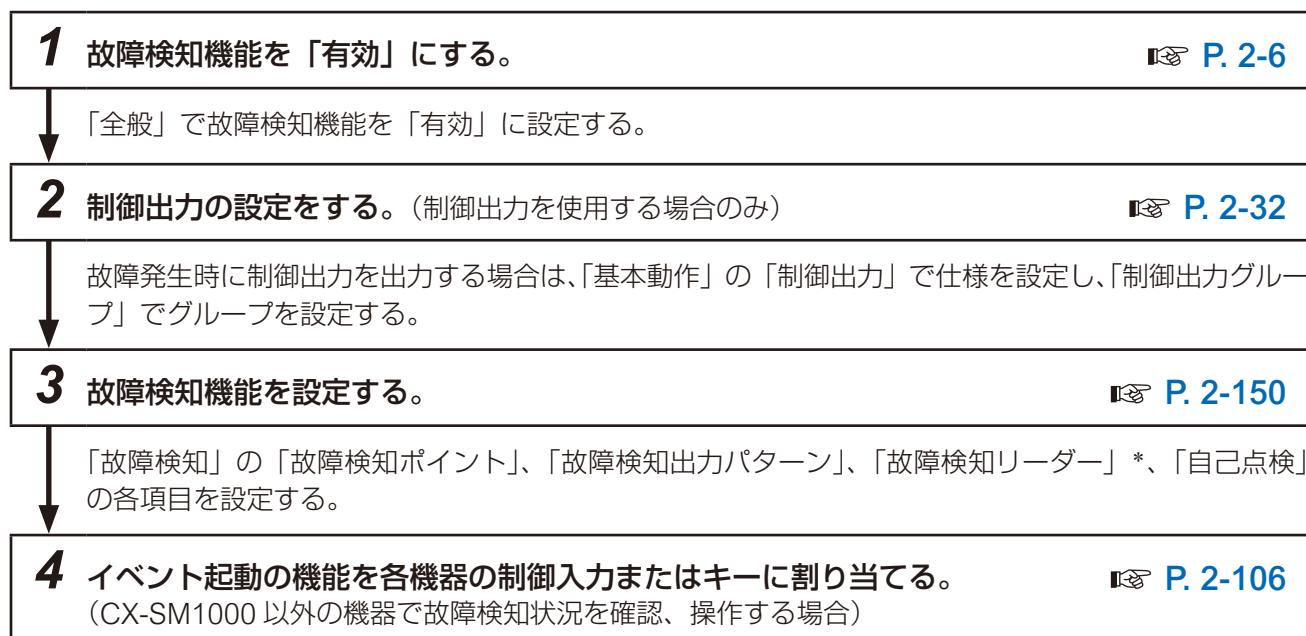
- 制御入力 : CX-OP1700、CX-CL1750、CX-OP1500、CX-CL1550、CX-RM1700、CX-AF1062、
CX-PA1120、CX-PA1240、CX-CC1016

- キー : CX-OP1700、CX-OP1500、CX-RM1700、CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240

故障検知ポイント、故障発生時の動作、定期点検などを設定します。

● 故障検知機能を使用するのに必要な設定

故障検知機能を使用するには、CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。



「イベント起動」の「制御入力」、「キー」で「故障受理」と「故障リセット」の機能を割り当てる。

* 故障検知リーダーについて、詳しくは [P. 1-57 「故障検知リーダー」](#) をお読みください。

メモ

故障検知機能が「無効」の場合も接続異常など一部の故障情報はシステムマネージャーに通知され、Web 画面で確認することができます。

● 故障検知出力パターンの構成

故障検知出力 パターン	故障検知対象 (CX-1000 システム内)	各機器、各故障検知ポイント (CX-1000 システムの各機器の故障検知ポイントは「故障検知ポイント」で個別に設定)
	故障検知対象 (制御入力)	外部故障入力の機能に設定された制御入力端子
	制御出力グループ	制御出力グループ (1つまたは複数の制御出力)

● 端末に故障検知機能を割り当てる例

[故障検知ポイント]

	故障検知ポイント					
	LAN A	LAN B	機器構成	...	キー	...
CX-OP1700 (ID : 2)	○	○	○	...	—	...
CX-CL1750 (ID : 4)	○	○	○	...	○	...

[制御出力グループ]

制御出力グループ (番号)	3	CX-CC1016 (ID : 24) の制御出力 3
	4	CX-CC1016 (ID : 24) の制御出力 4

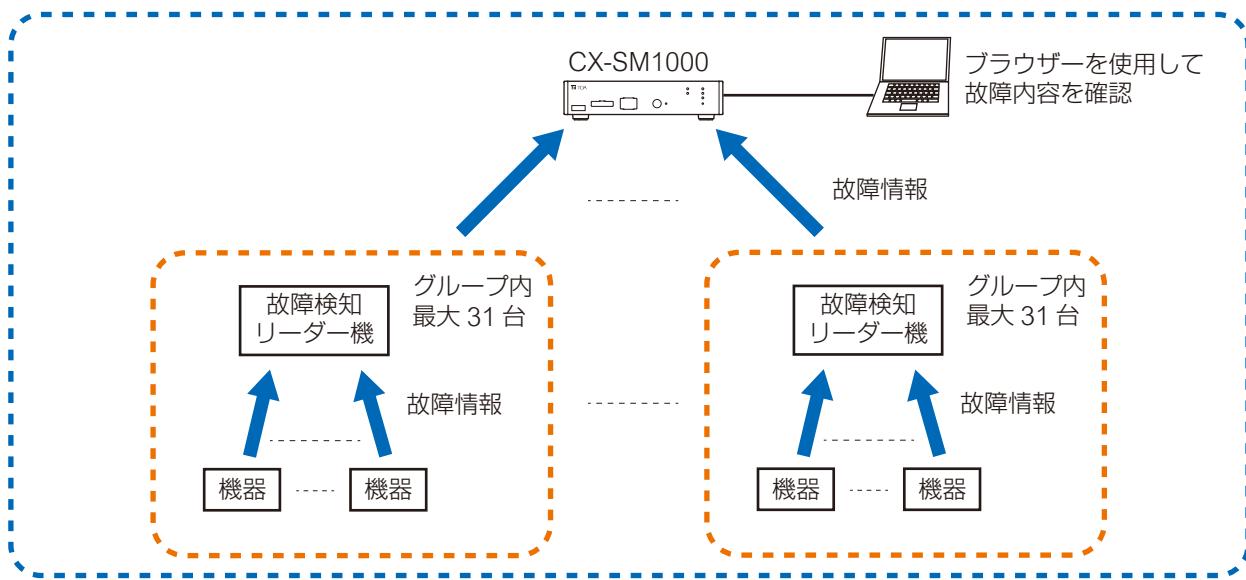
[ユニットのキーの設定]

キー	機能	内容		
CX-PA1120 (ID : 20) の ダイレクトキー 1	故障受理	故障検知出力 パターン 1	故障検知対象 (CX-1000 シス テム内)	CX-OP1700 : LAN A、LAN B CX-CL1750 : LAN A、キー
			故障検知対象 (外部機器)	なし
			制御出力グループ	制御出力グループ 3
CX-PA1120 (ID : 20) の ダイレクトキー 2	故障受理	故障検知出力 パターン 2	故障検知対象 (CX-1000 シス テム内)	CX-OP1700 : LAN B CX-CL1750 : 機器構成、キー
			故障検知対象 (外部機器)	なし
			制御出力グループ	制御出力グループ 4
CX-PA1120 (ID : 20) の ダイレクトキー 3	故障リセット		—	

● 故障検知リーダー

故障検知機能を使用するには、システムに接続されている機器のうち、CX-SM1000 以外の機器で、故障検知を統括する機器（以下、故障検知リーダー）を設定することが必要です。CX-SM1000 以外の各機器は 31 台以下のグループに自動で均等に分けられ、そのグループ内で 1 台、故障検知リーダーが設定されます。各機器の故障情報や障害情報は、故障検知リーダーに通知され、故障検知リーダーから CX-SM1000 に通知されます。

故障情報は、ブラウザーを使用して CX-SM1000 のメンテナンス画面にアクセスすることで閲覧することができます。



ご注意

故障検知リーダーが故障して CX-SM1000 との通信が途絶えた場合、その故障検知リーダー配下の機器も CX-SM1000 と通信ができなくなり、機能しなくなります。

メモ

- システム内の機器が 31 台以下の場合は、各機が CX-SM1000 に対して故障情報を通知します。
- 拠点機能を有効にしている場合、拠点ごとに 1 グループあたり 31 台以下のグルーピングが行われます。拠点をまたいだグルーピングはできません。

■ ANC 機能

● CX-PA1120 および CX-PA1240 の場合

ANC (Ambient Noise Control) 機能とは、放送先に設置されたセンサーマイクを通して、周囲騒音の大きさを測定し、騒音に応じた適切な音量でのアナウンスまたはBGMとなるように、放送音量を制御する機能です。

この機能では、CX-1000 システムが放送している最中でも、放送先のセンサーマイクから騒音だけを正確に測定することができます。

アナウンスまたはBGM放送中でも、周囲騒音の変化に応じて音量をリアルタイムで制御することができます。

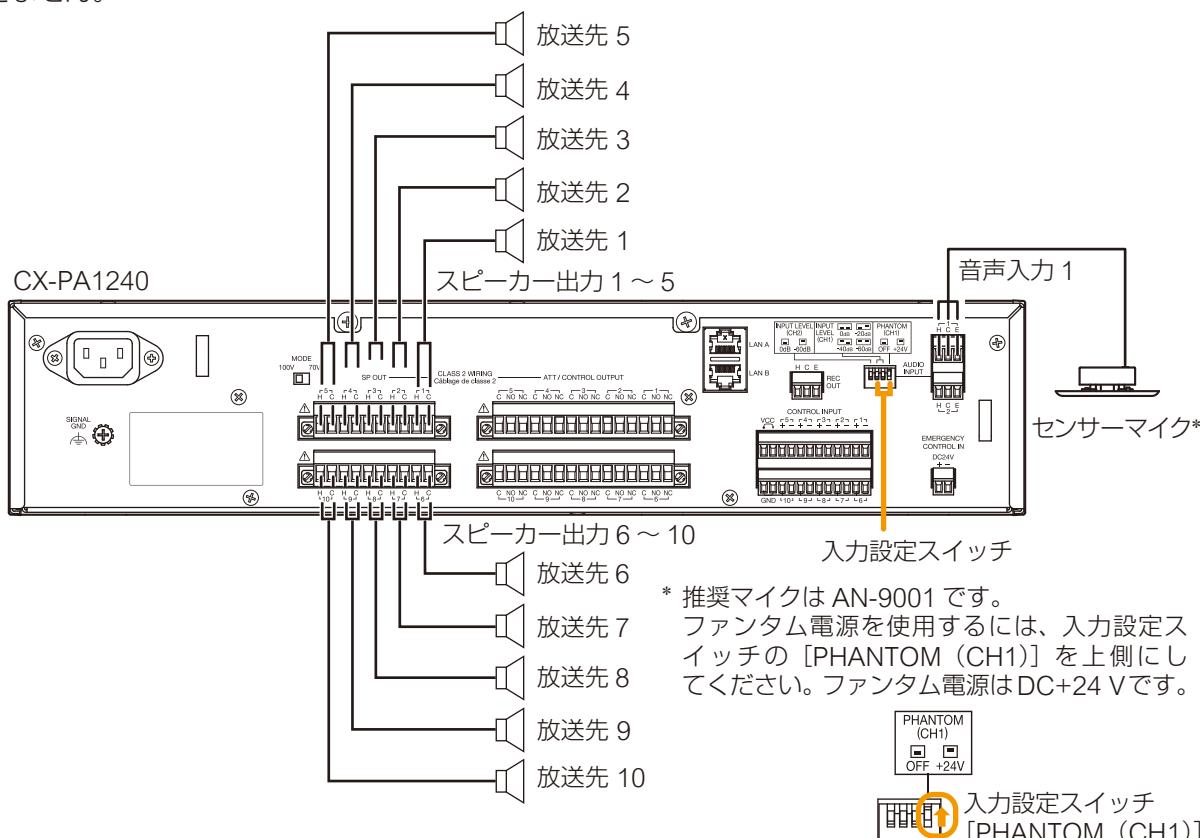
ANC 機能を使用するためには、CX-PA1120 または CX-PA1240 の音声入力端子 1*に周囲騒音測定用のマイクを接続し、システムの設置時に周囲騒音レベルを測定して、基準ノイズレベルを設定します。

運用時に周囲騒音レベルが設置時の測定値と異なる場合は、基準ノイズレベルを補正する設定を行います。

* CX-1000 設定ソフトウェアの「基本動作」→「音声入力」で音声入力端子1の用途を「ANCマイク」に設定しておきます。

ご注意

- ANC に設定したチャンネルは音源として使用できません。
 - ANC のセンサーマイクは、機器内のすべてのスピーカー出力チャンネル番号に対して適用されます。ANC のセンサーマイクは、他の機器の音声出力チャンネルに対しては設定できません。
 - CX-PA1120 または CX-PA1240 の音声入力端子 1 以外の音声入力にセンサーマイクを接続することはできません。



● CX-CL1750 および CX-CL1550 の場合

CX-CL1750 および CX-CL1550 では、通話時および放送時に ANC による出力音量制御が行われます。ハンズフリー時に使用するマイクがセンサーマイクとなり、待ち受け時に騒音検出を行います。通話時にはそのマイクはセンサーマイクとしては使えませんが、待ち受け時に測定した騒音レベルによって、ANC 機能が働きります。

CX-1000 設定ソフトウェアの「基本動作」→「音声入力」での設定はありません。

● 設置時に行う設定

ANC機能を使用するには、下記の手順に従って各設定を行ってください。

[CX-PA1120 および CX-PA1240 の場合]

- 1 センサーマイクを接続する CX-PA1120 または CX-PA1240 の音声入力 1 の用途を「ANC マイク」に設定する。**  **P. 2-28**

「基本動作」の「音声入力」で機器を選択し、用途を「ANC マイク」に設定する。
入力レベルとファンタム電源の設定は機器後面の入力設定スイッチで行う。（☞別冊の設置工事説明書「アンプ 120W/240W 10 回線 CX-PA1120/PA1240」）
- 2 手順 1 で設定した ANC センサーに対して、ON/OFF、Sample Time、Max Level、Min Level、Gain Ratio を設定する。**  **P. 2-98**

「オーディオシーン」の「音声出力音質」で ANC 設定を適用する音声出力の ANC を「ON」に設定し、音質を設定する。
- 3 ANC センサーを接続した CX-PA1120 または CX-PA1240 とパソコンをオンライン状態にして、基準ノイズレベルを測定し、最大出力レベルと最小出力レベルを適用したときの各出力音量を確認する。**

ブラウザー*のオーディオシーン画面で ANC を選択して、測定および確認をする。
- 4 手順 3 で確認した音量が適切でなければ、最大レベルまたは最小レベルの両方あるいはいずれか一方を再設定する。**  **P. 2-98**

「オーディオシーン」の「音声出力音質」で設定する。
ブラウザー*のオーディオシーン画面でオーディオシーンを選択しても、同じ設定ができる。ただし、Advanced freq 1 ~ 3 は CX-1000 設定ソフトウェアでしか設定できない。
- 5 最大レベルと最小レベルが適切な音量になるまで、手順 3 と 4 を繰り返す。**

* ブラウザーでの設定について、詳しくは別冊のメンテナンス説明書をお読みください。

[CX-CL1750 および CX-CL1550 の場合]

- 1 ANC 機能を使用する端末に対して、ON/OFF、Sample Time、Max Level、Min Level、Gain Ratio を設定する。**  **P. 2-98**

「オーディオシーン」の「音声出力音質」で ANC 設定を適用する音声出力の ANC を「ON」に設定し、音質を設定する。

- 2 ANC 機能を使用する端末とパソコンをオンライン状態にして、基準ノイズレベルを測定し、最大出力レベルと最小出力レベルを適用したときの各出力音量を確認する。**

ブラウザー*のオーディオシーン画面で ANC を選択して、測定および確認をする。

- 3 手順 2 で確認した音量が適切でなければ、最大レベルまたは最小レベルの両方あるいはいずれか一方を再設定する。**  **P. 2-98**

「オーディオシーン」の「音声出力音質」で設定する。

ブラウザー*のオーディオシーン画面でオーディオシーンを選択しても、同じ設定ができる。ただし、Advanced freq 1 ~ 3 は CX-1000 設定ソフトウェアでしか設定できない。

- 4 最大レベルと最小レベルが適切な音量になるまで、手順 2 と 3 を繰り返す。**

* ブラウザーでの設定について、詳しくは別冊のメンテナンス説明書をお読みください。

● 設置後に必要に応じて行う設定

基準値^{*1}が実際の最小周囲騒音レベルと異なる場合は、騒音に対して出力音が大きくなり過ぎたり、逆に小さくなり過ぎたりします。

このようなときは、CX-1000 設定ソフトウェアまたはブラウザー^{*2}で基準ノイズレベルを補正してください。

^{*1} P. 1-59 の手順3 および P. 1-60 の手順2 で測定された最小騒音レベルを基準値「0 レベル」と定義します。

1 ANC 機能を使用する機器とパソコンをオンライン状態にして、センサーレベルの取得および基準ノイズレベルの測定をする。

↓ ブラウザー^{*2}のオーディオシーン画面で ANC を選択して行う。

2 センサーレベルの基準値が実際の最低周囲騒音レベルと異なっている音声入力チャンネルの0 レベル調整 (Adjust Zero) ^{*3} をやり直す。  P. 2-98

「オーディオシーン」の「音声出力音質」で設定する。

^{*2} ブラウザーでの設定について、詳しくは別冊のメンテナンス説明書をお読みください。

^{*3} 0 レベル調整の設定にあたっては、P. 1-62 「測定時の最低周囲騒音レベルと使用時の最低周囲騒音レベルについての例」を参考にしてください。

ご注意

- ANC 機能を ON にすることで、ごくまれにチャイム音など特定の音源が正常に出力されなくなることがあります。このような症状は、ANC 機能の測定周波数と正常に出力されない音源の周波数が一致しているために発生している可能性があります。この問題を解決するには、ANC 機能の測定周波数 (Advanced Freq1 ~ 3) を変更してください。

ただし、周波数を変更すると、P. 1-59 の手順3 と 4 または P. 1-60 の手順2 と 3、および上記の手順1 と 2 をやり直さなければなりません。

以下の手順で周波数を変更してください。

(1) 正常に出力されない音源の周波数と一致していると思われる周波数を 1 つ変更する。

ただし、周波数を変更するときは、以下の条件を必ず守ってください。

• Freq. 1 < Freq. 2 < Freq. 3 • Freq. 2 – Freq. 1 \geq 30 Hz • Freq. 3 – Freq. 2 \geq 30 Hz

(2) P. 1-59 の手順3 と 4 または P. 1-60 の手順2 と 3、および上記の手順1 と 2 を実行する。

(3) 症状が改善しない場合は、周波数を初期値に戻してから、1 つずつ変更し、その都度 P. 1-59 の手順3 と 4 または P. 1-60 の手順2 と 3、および上記の手順1 と 2 を実行する。

- 測定後は、CX-PA1120/PA1240 前面の音声入力 1 の音量調節器、後面の音声入力 1 の入力設定スイッチは変更しないでください。

測定時の最低周囲騒音レベルと使用時の最低周囲騒音レベルについての例

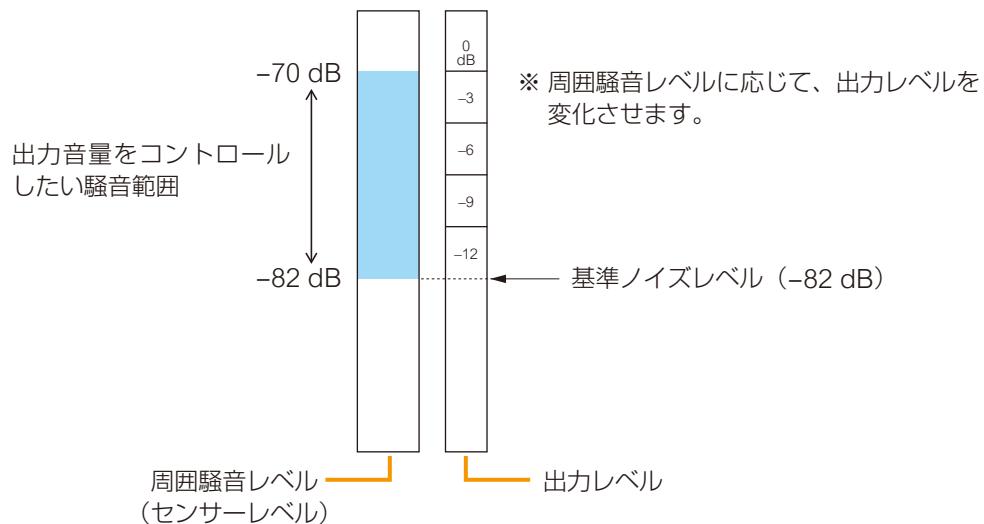
以下の説明は、最大出力レベル（Max Level）、最小出力レベル（Min Level）、および利得比（Gain Ratio）が次のように設定されていると仮定しています。

Max Level = 0 dB、Min Level = -12 dB、Gain Ratio = 3 : 3

【測定時の最低周囲騒音レベルが使用時の最低周囲騒音レベルと一致しているとき】

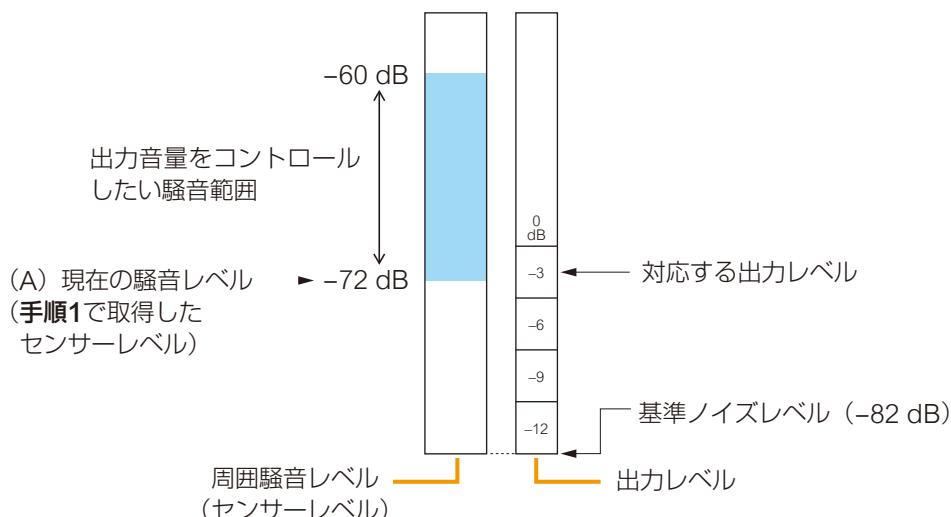
このときは、補正の必要はありません。

周囲騒音レベル、センサーレベル、および出力レベルの関係は下図のようになります。



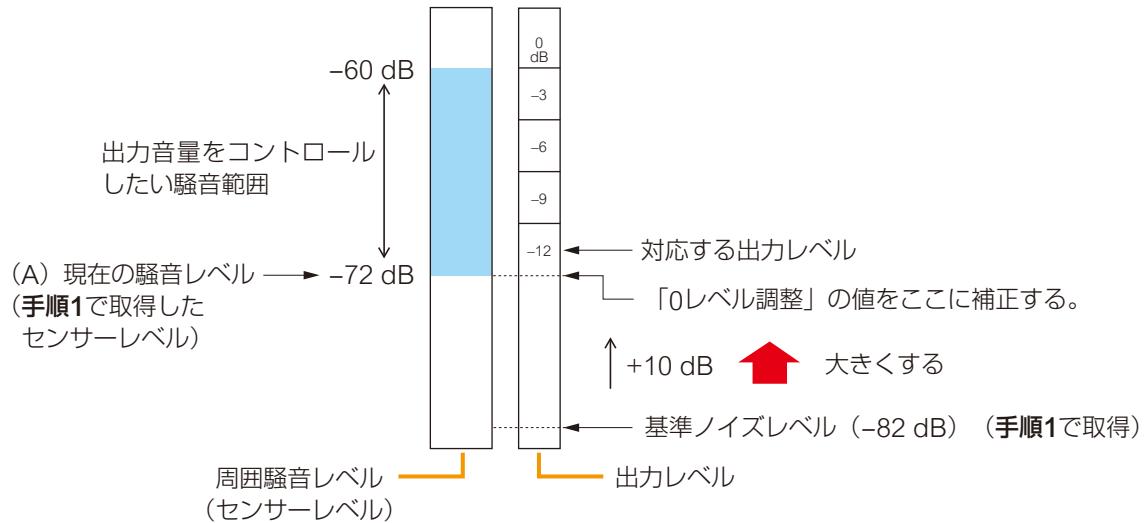
【測定時の最低周囲騒音レベルが使用時の最低周囲騒音レベルより低すぎるとき】

このときは、本機通常使用時の静かな周囲騒音の状態（A）でも、周囲騒音が大きいと認識するので、大きな音量（この例では -3 dB）で出力します。



P. 1-63 の条件に合わせて、「0 レベル調整」の値を適当な位置まで大きくするよう補正してください。

現在の周囲騒音レベル（A）が使用時の最低周囲騒音レベルであるとき、センサーレベルと基準ノイズレベルの差が「0」になるように「0 レベル調整」の値を大きくしてください。



【測定時の最低周囲騒音レベルが使用時の最低周囲騒音レベルより大き過ぎるとき】

「0 レベル調整」の値を適当な位置まで小さくするように補正してください。

■ VOX機能

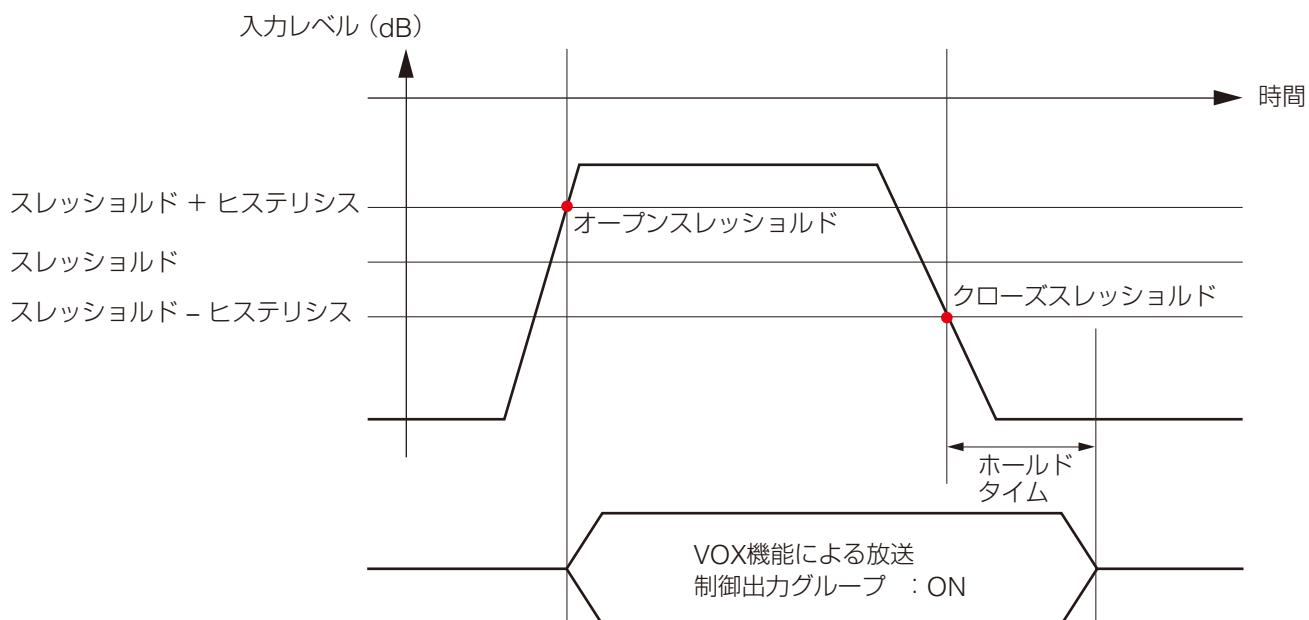
VOX (Voice Operated eXchange) 機能とは、音声をトリガーに放送の開始、終了を制御することができる機能です。

音声入力信号レベルに応じて、音声入力信号を指定した出力先に出力開始または停止します。

VOX ゲートがオープン状態で出力を開始し、クローズ状態で出力を停止します。

音声入力信号レベルがスレッショルドレベルにヒステリシスの設定値を足したレベルを超えると VOX ゲートがオープン状態になります。一度オープンになると、音声入力信号レベルがスレッショルドレベルからヒステリシスの設定値を引いたレベルよりも下がり、設定されたホールドタイムが経過した後に、ゲートはクローズ状態になります。

入力信号レベルに応じて、下図のように出力制御が行われます。



「イベント起動」の「VOX」(P. 2-140) で VOX 機能の ON/OFF、Threshold、Hysteresis、Hold Time を設定します。

音声入力に連動して制御出力グループを起動することもできます。

放送先は、個別の出力先または放送先パターンに設定できます。

VOX機能を使用するには、CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の手順で各設定を行ってください。

1 優先度を設定する。 P. 2-80

「優先度」の「優先度」と「同一優先度制御」で設定する。

2 放送先パターンを設定する。(放送先パターンを使用する場合のみ) P. 2-69

複数の放送先に放送したい場合は、「放送」の「放送先パターン」で複数の放送先、放送に連動して出力する制御出力グループなどを設定する。

3 制御出力の設定をする。(制御出力を使用する場合のみ) P. 2-32

放送時に制御出力を出力する場合は、「基本動作」の「制御出力」で仕様を設定し、「制御出力グループ」でグループを設定する。

4 各機器の音声入力ごとに VOX 機能を割り当てる。 P. 2-140

「イベント起動」の「VOX」で機能の詳細を設定し、VOX機能を「ON」に設定する。

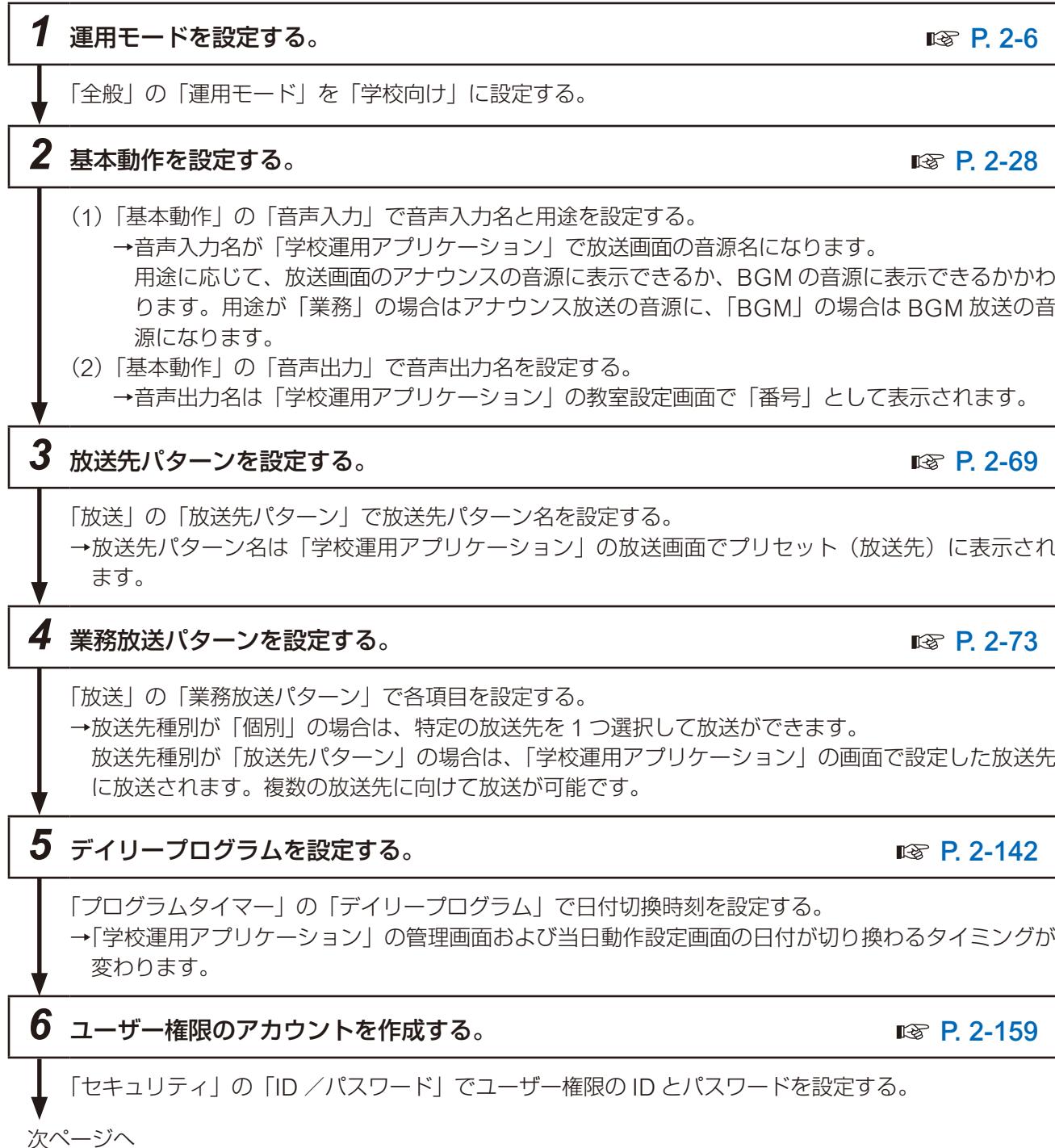
ご注意

VOX機能を「ON」にするには、機能の詳細で放送先音声出力または放送先パターンを先に設定する必要があります。

■ 学校向けの運用モード

CX-1000 システムでは、学校の運用に特化した「学校運用アプリケーション」を装備しています。運用モードを「学校向け」に設定すると、このアプリケーションを使用するための設定ができます。基本的な設定は、運用モードを「一般向け」にしたときと同じです。

CX-1000 システムを学校向けとして使用するにあたり、CX-1000 設定ソフトウェアを使って、以下の設定を行うと、「学校運用アプリケーション」に反映されます。



次ページへ

前ページから

↓

7 学校向けの設定をする。

 P. 2-161

「学校向け」で各項目を設定する。

- (1) 「パターン時刻範囲設定」で、「学校運用アプリケーション」のチャイム・定時放送設定画面で設定できる時刻の範囲と間隔を設定する。
- (2) 「プリセット」で手順3で設定した放送先パターンをアナウンス放送グループとチャイム放送グループに振り分ける。
→アナウンス放送グループは、アナウンス・BGM放送で使用、チャイム放送グループはチャイム・定時放送で使用します。
- (3) 「ユーザー設定」で、管理者権限およびユーザー権限で「学校運用アプリケーション」にログインしたときの初期表示画面を設定する。また、ユーザー権限の場合は「学校運用アプリケーション」の放送画面に表示したい音源と放送先カテゴリーも設定する。

 メモ

学校向けのプリセットに登録された放送先グループは、設定ソフトウェア上で放送先の選択ができないなり、学校運用アプリケーション上で放送先を選択する仕様です。

第2章

設定のしかた

メニューバー

メニューバーから以下の項目を選択できます。

メニュー項目	説明
ファイル	
新規作成	データを新規作成します。
開く	既存のデータを開きます。
保存	データを上書き保存します。未保存の場合は、ファイルの保存先のフォルダーを選択するダイアログが表示されます。
名前を付けて保存	データを新規保存します。
終了	プログラムを終了します。
通信	
設定&音源アップロード	接続されている CX-SM1000 に設定データと音源ファイルをアップロードします。
設定&音源ダウンロード	接続されている CX-SM1000 から設定データと音源ファイルをダウンロードします。
メンテナンス	
機器検出・ネットワーク変更	LAN に接続されたすべての機器を検出し、ネットワーク設定を行います。
ヘルプ	
バージョン	プログラムのバージョン情報およびオープンソースソフトウェアの情報が表示されます。

メニュー構造

設定画面のサイドメニューをクリックすると、各設定画面が表示できます。
設定メニューの上から順番に必要な項目を設定してください。

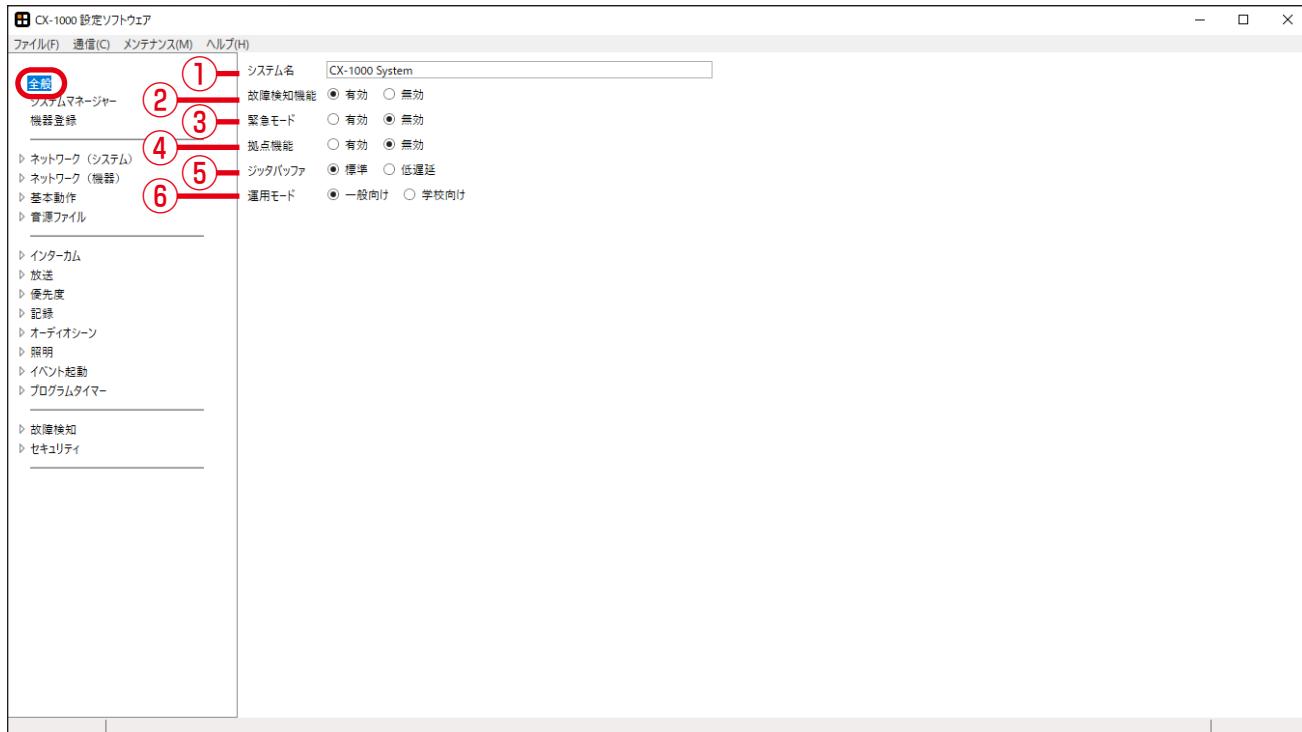
設定メニュー	設定内容	備考
全般	システム全般に関する設定を行います。	
システムマネージャー	CX-SM1000 の ID と名称を設定します。	
機器登録	システム内で使用する機器を登録します。	
ネットワーク（システム）		
放送・通話	放送用のマルチキャストアドレスや、放送・通信のためのポート番号を設定します。	
マルチキャストグループ	各機器に対しマルチキャストによる放送の放送グループを設定します。	
IP-A1 マルチキャストアドレス	IP-A1 シリーズに放送を行うためのパラメーターを設定します。	
リモート制御	リモート制御のための ID とパスワードを設定します。	
DNS/NTP/ICMP	ネットワークサービスの基本パラメーターの設定を行います。	
ネットワーク（機器）		
IP アドレス	登録されている機器の IP アドレスを設定します。	
SIP	SIP インターフェースの設定を行います。	
放送音声コーデック	放送時の音声圧縮方式を設定します。	
IP カメラ	CX-1000 システムへ接続されている IP カメラのネットワークパラメーターを設定します。	
ビデオ	カメラを搭載した機器の映像配信に関するパラメーターを設定します。	
拠点		拠点機能有効時のみ
拠点	拠点の名称を設定します。拠点は最大 100 箇所まで設定できます。	
所属拠点	各機器がどの拠点に所属するのかを設定します。	
基本動作		
音声入力	システム内の機器に対し、各機器の持つ音声入力の動作について設定します。	
音声出力	システム内の機器に対し、各機器の持つ音声出力の動作について設定します。	
制御出力	制御出力の出力方式を設定します。	
制御出力グループ	制御出力グループを設定します。制御出力をグループングすることで、他の設定作業を軽減できます。	
機器	機器固有の設定を行います。機器の種別によって設定できる内容は異なります。	
音源ファイル		
音源ファイル登録	システムで使用する音源ファイルを登録します。	
コンテンツ	登録した音源ファイルを組み合わせて音声メッセージを設定します。	
チャイム	チャイムとして使用する音源ファイルを設定します。	
通知音	システム全体に関わるイベント発生時に再生する通知音を設定します。	
トーン・チャイム	機器ごとに、機器でのイベント発生時に再生する効果音の設定ができます。	

設定メニュー	設定内容	備考
インターラム		
共通	システム内の通話端末に共通する動作内容を設定します。	
端末番号	システム内の各通話端末の端末番号を設定します。	
外部電話システム	外部電話へのインターフェース機器を使用する場合、インターフェースのパラメーターを設定します。	
発信	システム内の各通話端末の発信時の動作設定を行います。	
着信	システム内の各通話端末の着信時の動作設定を行います。	
通話	システム内の各通話端末の通話モードや音量などの動作設定を行います。	
ドアリモート	システム内の各通話端末のドアリモート時の制御出力の設定を行います。	
転送	システム内の各通話端末の転送先の設定を行います。	
端末グループ	グループ呼び出しの設定を行います。	
時刻連動不在転送パターン	端末ごと、または端末グループごとに、時刻連動不在転送パターンに登録する機器を設定します。	
発信局表示	発信局表示でのイベント出力先を設定します。	
電話帳	CX-OP1700 に登録する電話帳を作成します。	
連絡先グループ	電話帳の連絡先グループに登録する機器を設定します。	
放送		
放送先パターン	放送先パターンの出力先を設定します。	
ベースパターン	ベースパターンのBGM音源、出力先を設定します。	
業務放送パターン	業務放送パターンの音源、出力先を設定します。	
緊急シーケンス	緊急メッセージ放送で使用する緊急シーケンスフェーズのメッセージ、放送時間などを設定します。	緊急モード有効時のみ
緊急メッセージ放送パターン	緊急メッセージ放送の出力先を設定します。	
優先度		
優先度	機器ごとに、通話、音声入力、メッセージ、チャイムの優先度を設定します。	
同一優先度制御	同じ優先度のイベントが同時発生したときの制御方法を設定します。	
記録		
ファイルサーバー	ログ、および録音先のサーバー情報を設定します。	
録音	機器ごとに録音対象のイベントを設定します。	
オーディオシーン		
オーディオシーン	オーディオシーンの設定を行います。	
照明		
照明	CX-CL1750、CX-CL1550 の照明設定を行います。	
イベント起動		
制御入力	機器ごとの制御入力に割り当てるイベントを設定します。	
キー	機器ごとのダイレクトキー、放送キーなどに割り当てるイベントを設定します。	
VOX	機器ごとのVOX検出条件、および検出後のイベントを設定します。	

設定メニュー	設定内容	備考
プログラムタイマー		
デイリープログラム	1日単位のプログラムタイマーイベントについて設定を行います。	
週間プログラム	1週間単位で各曜日に割り当てるデイリープログラムを選択します。	
カレンダー	特定の日に対して割り当てるデイリープログラムを選択します。	
故障検知		故障検知機能有効時の み 「故障検知リーダー」メ ニューは32台以上の機 器が登録されている場 合のみ
故障検知ポイント	機器単位で故障検知をするポイントを設定します。	
故障検知リーダー	故障検知を統括する機器を拠点ごとに設定します。	
故障検知出力パターン	故障検知時の出力先を設定します。	
自己点検	定期点検の開始時刻を設定します。	
セキュリティ		
ID/ パスワード	Web ブラウザーで CX-SM1000 にログインするときの ID、パスワードを登録します。	
学校向け		運用モードが「学校向 け」のときのみ
パターン時刻範囲設定	チャイム・定時放送で設定できる最早時刻、最遅時刻、設定間隔を設定できます。	
プリセット	プリセット名の設定とプリセット種別、放送先パターンがどのプリセットに所属するかを設定できます。	
ユーザー設定	登録してあるユーザーでログインした場合の初期画面を設定できます。 ユーザー権限のアカウントの場合は放送画面で表示する音源と、放送先カテゴリーを設定できます。	

全般の設定

「全般」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
システム全般に関わる機能を設定します。



ご注意

システム名以外の項目は、設定を変更すると関連する設定が初期化されます。再度切り換えると元には戻りません。詳細な設定を開始する前に各項目を確定させることを推奨します。

① システム名

システム名を入力します。

設定範囲	英数記号 32 文字 (初期設定 : CX-1000 System)
------	------------------------------------

② 故障検知機能

故障検知機能を使用するかどうかを設定します。

設定範囲	有効 (初期設定)、無効
------	--------------

③ 緊急モード

緊急放送機能を使用するかどうかを設定します。

設定範囲	有効、無効 (初期設定)
------	--------------

④ 抱点機能

抱点機能を使用するかどうかを設定します。

システムの構成機器*が1000台を超える場合は、必ず「有効」に設定してください。

システムの構成機器*が1000台以下の場合には、使用状況に応じて、「有効」または「無効」に設定してください。多棟型のシステムで棟ごとに機器をグルーピングしたいときなどは、抱点機能を使用すると便利です。

設定範囲	有効、無効（初期設定）
------	-------------

ご注意

システムの構成機器*が1000台を超える場合、抱点機能の設定を「有効」から「無効」に変更することはできません。

* CX-SM1000 およびカメラを除く全機器

⑤ ジッタバッファ

「低遅延」に設定すると、音声の遅延が少なくなるため、音声の応答性が高まります。ただし、SIP電話機と通話できなくなることがあります。また、ネットワーク環境によっては、ノイズが発生しやすくなります。さらに、CX-PA1120/PA1240からの放送送信が制限されます。

設定範囲	標準（初期設定）、低遅延
------	--------------

ご注意

システム内で使用する機器にCX-OP1500が含まれる場合は、「低遅延」には設定できません。

⑥ 運用モード

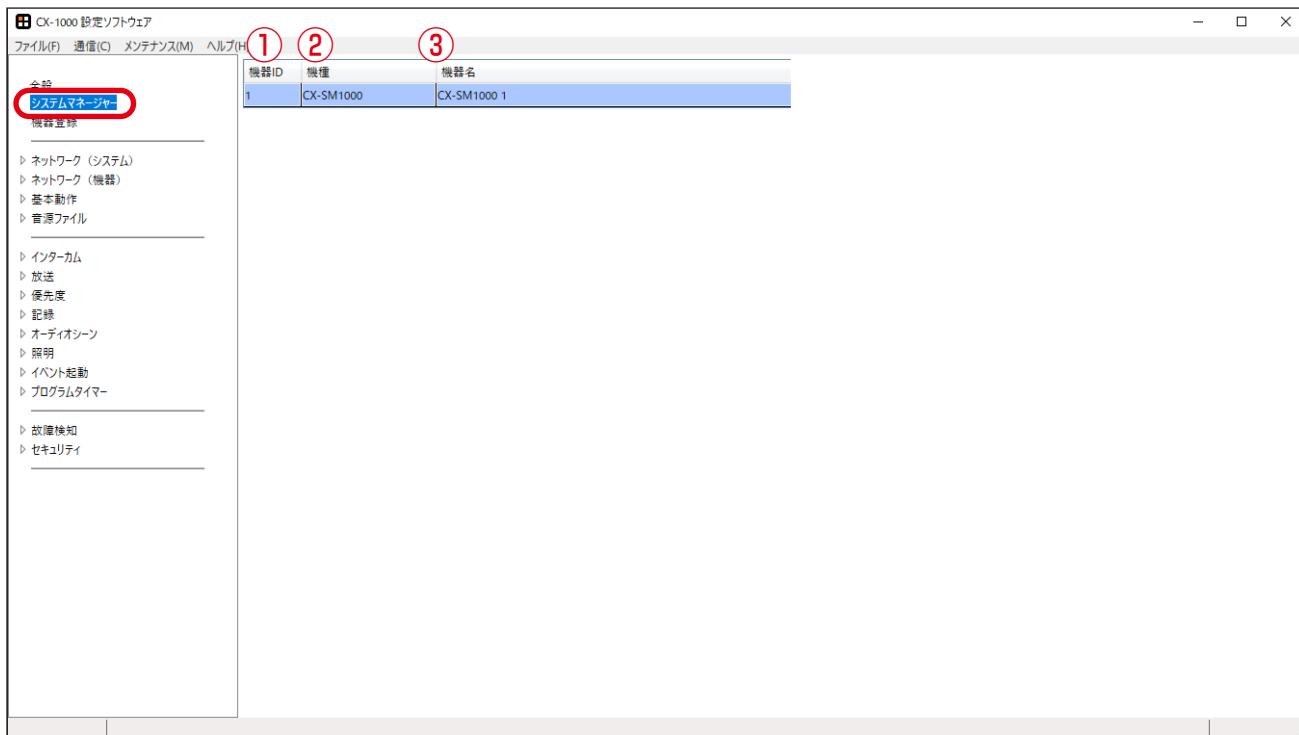
CX-1000システムでは、学校の運用に特化した「学校運用アプリケーション」を装備しています。運用モードを「学校向け」に設定すると、サイドメニューに「学校向け」が追加され、「学校運用アプリケーション」を使用するための設定ができます。

設定範囲	一般向け（初期設定）、学校向け
------	-----------------

機器登録

■ システムマネージャーの登録

「システムマネージャー」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 機器 ID

機器の ID を入力します。機器 ID は、システムマネージャー、CX-1000 シリーズ各機器、CX-1000 シリーズ以外の機器で共通です。変更する場合は、他の機器と重複しないように設定します。

設定範囲 1 ~ 4000 (初期設定 : 1)

② 機種

「CX-SM1000」に固定されています。変更できません。

③ 機器名

機器の名称を入力します。

設定範囲 半角英数カナ記号および半角スペース 32 文字以内
ただし、使用可能な記号は「!」「@」「#」「\$」「%」「&」「-」「_」の 8 種類のみ
(初期設定 : CX-SM1000 + 機器 ID、例「CX-SM1000 1」)

■ システムマネージャー以外の機器の登録

「機器登録」をクリックし、システムマネージャー以外の機器を登録します。
以下の画面は機器追加後の画面例です。



① 機器 ID

機器の ID を入力します。システムマネージャー、CX-1000 シリーズ各機器、CX-1000 シリーズ以外の機器で共通です。

手動で編集することができます。通常は編集する必要はありません。変更する場合は、他の機器と重複しないように設定します。

設定範囲	1 ~ 4000 (初期設定 : 設定されていない最も小さい数字)
------	-----------------------------------

② 機種

機種名が表示されます。機器ごとに以下のように固定されています。変更できません。

機器	機種
CX-1000 シリーズ各機器	CX-OP1700、CX-CL1750、CX-OP1500、CX-CL1550、CX-RM1700、CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240、CX-CC1016
SIP 電話機	SIP Phone
外部電話インターフェース	External phone interface
IP カメラ	IP camera

メモ

IP-A1 シリーズ機器を SIP 電話機として機器登録し、その機器へ発信することで機器単体に個別のマイク放送をすることも可能です。

③ 機器名

機器の名称を入力します。

設定範囲	半角英数カナ記号および半角スペース 32 文字以内 ただし、使用可能な記号は「!」「@」「#」「\$」「%」「&」「-」「_」の 8 種類のみ (初期設定：機種 + 機器 ID、例「CX-OP1700 24」)
------	---

ご注意

CX-OP1500 の液晶画面に発信元の機器名を表示したい場合は、8 文字以内かつ半角英数カナのみで設定してください。

④ 追加ボタン

このボタンをクリックすると、機器追加画面が表示されます。

システム内の機器の台数を入力し、OK ボタンをクリックすると、機器リストに機器が追加されます。

ご注意

- 「拠点機能」を「有効」に設定していても、一度に 1000 台を超える機器を登録しようとすると、初期設定ではすべての機器の所属拠点が No. 1 なので、1 拠点あたり 1000 台までという制限に引っ掛かり、エラーとなります。
1000 台を超える機器を登録したいときは、いったん 1000 台以下の機器を登録し、所属拠点を変更して、1 拠点あたり 1000 台までという制限に引っ掛けからないように設定してください。(☞ P. 1-49)
- 登録台数が多くなるほど、CX-1000 設定ソフトウェアの画面の切り換えなどの動作が遅くなる可能性があります。
- 設定できる機器の数には以下の制限があります。(☞ 別冊の設置説明書「システム例」)

機種	台数
CX-OP1700	0
CX-CL1750	0
CX-OP1500	0
CX-CL1550	0
CX-RM1700	0
CX-AF1062	0
CX-PA1120	0
CX-PA1240	0
CX-CC1016	0
SIP Phone	0
External phone interface	0
IP Camera	0

OK キャンセル

- 上記の制限に加えて、コスト⑥による制限があります。
コスト最大値：3000

⑤ [選択した機器を削除] ボタン

機器リスト内の機器を選択して、このボタンをクリックすると、機器リストから削除できます。

⑥ コスト

ネットワークに対する負荷を表す数値です。以下の計算式で求められます。

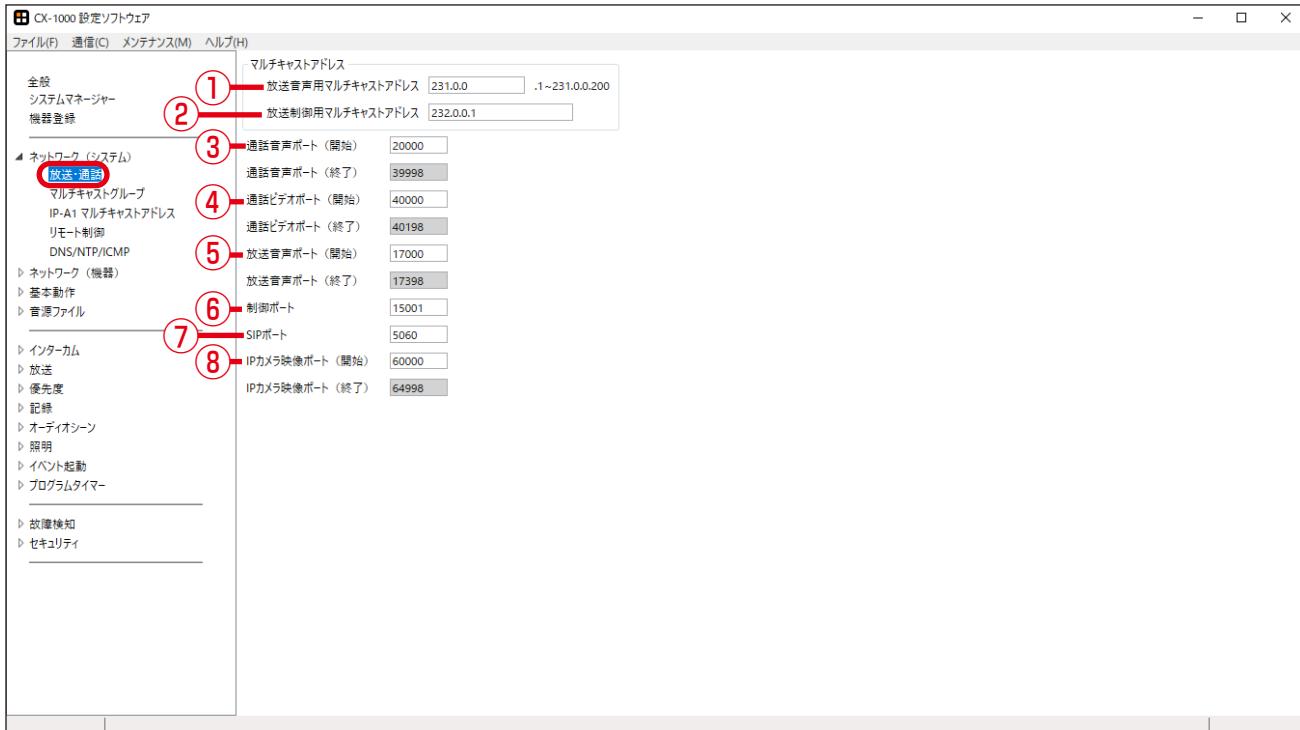
$$(CX-OP1700/RM1700 の総台数) \times 30 + (CX-AF1062/PA1120/PA1240 の総台数) \times 10 + (CX-CL1750/OP1500/CL1550/CC1016/ 外部電話/SIP 電話の総数) \times 1$$

システム全体のネットワークに関する設定

システム全体のネットワークに関するパラメーターを設定します。

■ 放送・通話の設定

「ネットワーク（システム）」→「放送・通話」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



ご注意

ネットワーク上の機器が CX-1000 シリーズの機器だけで構成されている場合は、この画面での設定を初期設定から変更する必要はありません。

ネットワーク上に他のシステムや、別の機器が接続されている場合は、マルチキャストアドレス、ポート番号などが他のシステムと重複しないように設定変更が必要です。ネットワーク管理者と相談の上、CX-1000 シリーズが他のシステムと重複しないように設定してください。

①放送音声用マルチキャストアドレス

音声通信で使用するマルチキャストアドレスの開始アドレスを設定します。

上位 3 オクテットを入力することにより、「(入力した 3 オクテット) .1 ~ (入力した 3 オクテット) .200」までの IP アドレスが音声通信のためのマルチキャストアドレスとして使用されるようになります。

設定範囲	224.0.0 ~ 239.255.255 (初期設定: 231.0.0)
	入力は第 3 オクテットまでで、第 4 オクテットは 1 ~ 200 が自動割り当てされます。

②放送制御用マルチキャストアドレス

制御用の通信で使用するマルチキャストアドレスを設定します。

設定範囲	224.0.0.0 ~ 239.255.255.255 (初期設定: 232.0.0.1)
------	---

③通話音声ポート（開始）

通話時の音声ポートの最小ポート番号を設定します。

この値を入力すると、「(入力した数値) + 19998」が自動的に「通話音声ポート（終了）」になります。

ご注意

初期設定から変更するときは、10000 以降の値に設定することを推奨します。

設定範囲	2 ~ 25534 (初期設定 : 20000)
------	--------------------------

④通話ビデオポート（開始）

通話時のビデオポートの最小ポート番号を設定します。

この値を入力すると、「(入力した数値) + 198」が自動的に「通話ビデオポート（終了）」になります。

ご注意

初期設定から変更するときは、10000 以降の値に設定することを推奨します。

10000 未満の値に設定すると、正常に動作しない場合があります。

設定範囲	2 ~ 45534 (初期設定 : 40000)
------	--------------------------

⑤放送音声ポート（開始）

放送時の音声ポートの最小ポート番号を設定します。

この値を入力すると、「(入力した数値) + 398」が自動的に「放送音声ポート（終了）」になります。

設定範囲	2 ~ 65134 (初期設定 : 17000)
------	--------------------------

⑥制御ポート

システム全体の制御通信で使用するポート番号を設定します。

ご注意

- 制御ポートを変更する場合は、設定アップロードをする前に、全機器の制御ポートを機器検出・ネットワーク変更ツールで同じポート番号に変更してください。

- 初期設定から変更するときは、10000 以降の値に設定することを推奨します。

10000 未満の値に設定すると、正常に動作しない場合があります。

設定範囲	1 ~ 65535 (初期設定 : 15001)
------	--------------------------

⑦SIP ポート

通話で使用する SIP (Session Initiation Protocol) のポート番号を設定します。

設定範囲	1025 ~ 65535 (初期設定 : 5060)
------	----------------------------

⑧IP カメラ映像ポート（開始）

IP カメラの映像ポートの最小ポート番号を設定します。

この値を入力すると、「(入力した数値) + 4998」が自動的に「IP カメラ映像ポート（終了）」になります。

ご注意

初期設定から変更するときは、10000 以降の値に設定することを推奨します。

10000 未満の値に設定すると、正常に動作しない場合があります。

設定範囲	2 ~ 65334 (初期設定 : 60000)
------	--------------------------

■ マルチキャストグループの設定

「ネットワーク（システム）」→「マルチキャストグループ」をクリックすると、以下の画面が表示されます。各機器に対し、マルチキャスト放送のためのグルーピングを行います。



① グループ番号

各機器にマルチキャストグループを割り当てます。プルダウンメニューから選択できます。

マルチキャストグループ内の通常放送はマルチキャスト、マルチキャストグループをまたいだ通常放送はユニキャストになります。

ご注意

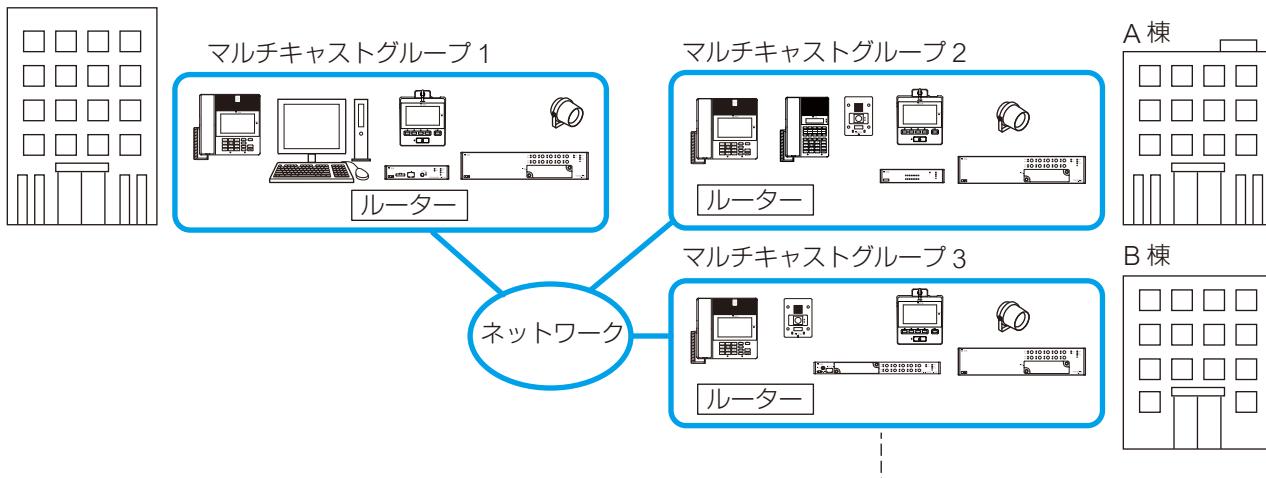
広域放送は常にマルチキャストになります。

設定範囲	1 ~ 100 (初期設定:すべて 1)
------	----------------------

【設定例】

多棟型などの設置環境でルーターを介した通信を行う場合、マルチキャストが使用できない場合があります。この時、各棟別でマルチキャストグループを設定することで、ルーターを跨いだ棟間の通常放送はユニキャストとなります。

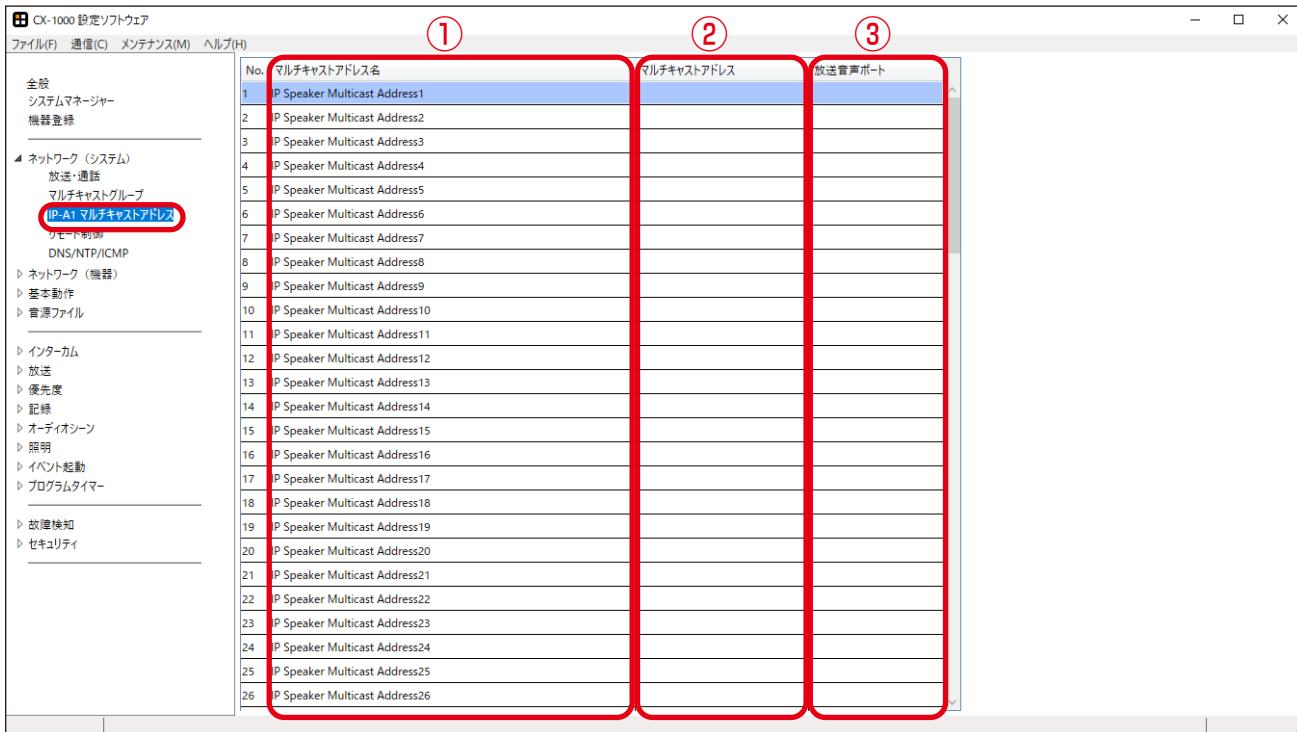
管理棟



■ IP-A1 シリーズ放送用のマルチキャストアドレスの設定

「ネットワーク（システム）」→「IP-A1 マルチキャストアドレス」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

IP-A1 シリーズに放送を行うためのパラメーターを設定します。



IP-A1 シリーズへの放送をするにあたっては、この設定ソフトウェア上で機器登録で IP-A1 機器を登録する必要はありません。

IP-A1 シリーズへのマルチキャストアドレスと放送用の音声ポートを設定すれば、そのマルチキャストアドレス、ポート番号に音声を送信することによって IP-A1 シリーズに対して放送を行うことができます。

IP-A1 シリーズ機器を SIP 電話機として機器登録し、その機器へ発信することで機器単体に個別のマイク放送することも可能です。

ご注意

この画面で設定したマルチキャストアドレスおよび音声ポート番号を IP-A1 シリーズ側で受信できるように、IP-A1 シリーズでも設定が必要です。また、音声コーデックも合わせてください。

IP-A1 シリーズでの設定については、IP-A1 シリーズの説明書をお読みください。

① マルチキャストアドレス名

マルチキャスト放送アドレスの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内（初期設定：IP Speaker Multicast Address + No.、例「IP Speaker Multicast Address 0」）
------	--

② マルチキャストアドレス

IP-A1 シリーズで受信可能なマルチキャストアドレスを設定します。

設定範囲	空欄（初期設定）、224.0.0.0 ~ 239.255.255.255
------	--------------------------------------

③放送音声ポート

IP-A1シリーズで受信可能な放送音声用のポート番号を設定します。

ご注意

初期設定から変更するときは、10000 以降の値に設定することを推奨します。

10000 未満の値に設定すると、正常に動作しない場合があります。

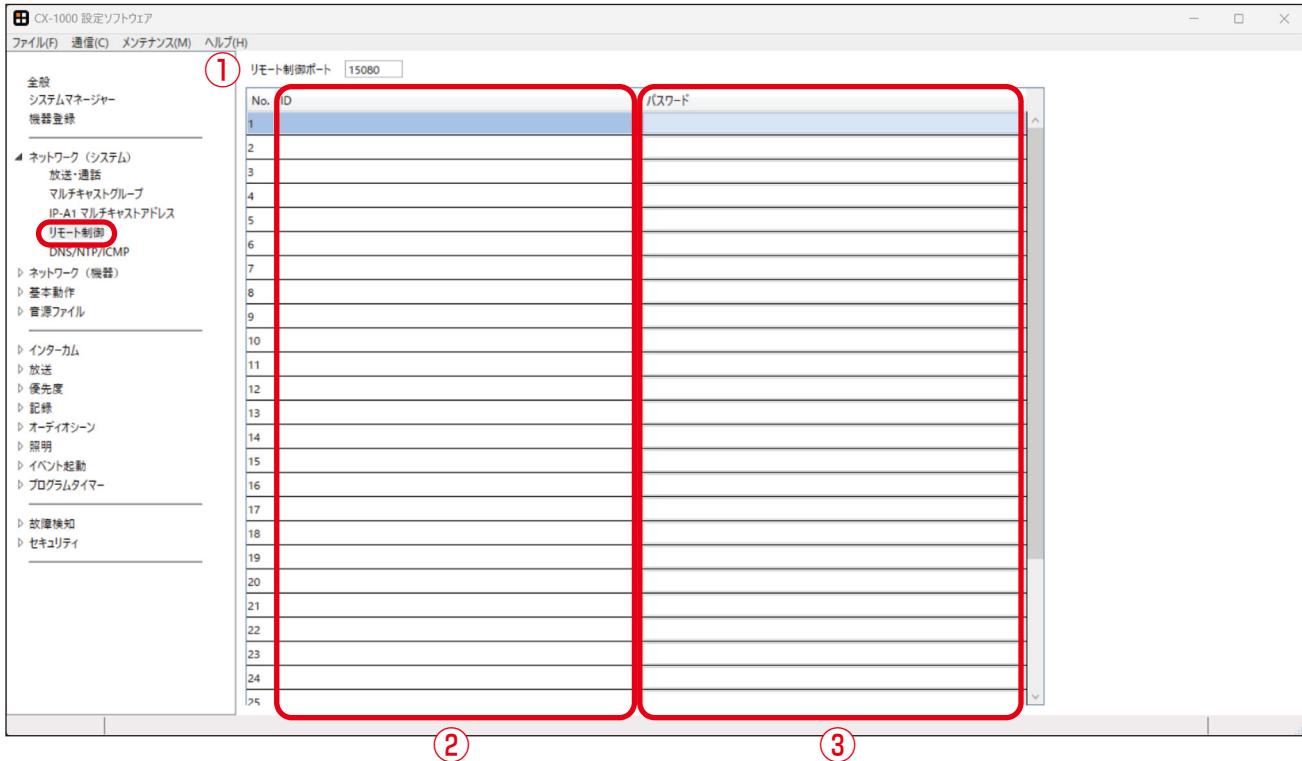
設定範囲	空欄（初期設定）、1026～65532
------	---------------------

■ リモート制御の設定

「ネットワーク（システム）」→「リモート制御」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

リモート制御をする場合のみ設定します。

外部システムとの連携のために使用します。



① リモート制御ポート

リモート制御ポートを入力します。

他で使用するポート番号と重複しないように設定します。

ご注意

初期設定から変更するときは、10000 以降の値に設定することを推奨します。

10000 未満の値に設定すると、正常に動作しない場合があります。

設定範囲	1 ~ 65535 (初期設定 : 15080)
------	--------------------------

② ID

リモート制御の ID を入力します。

設定範囲	半角 7 ~ 32 文字 (初期設定 : 空欄) ただし、使用可能な記号は「!」「@」「#」「\$」「%」「&」「-」「_」の 8 種類のみ スペース使用不可
------	---

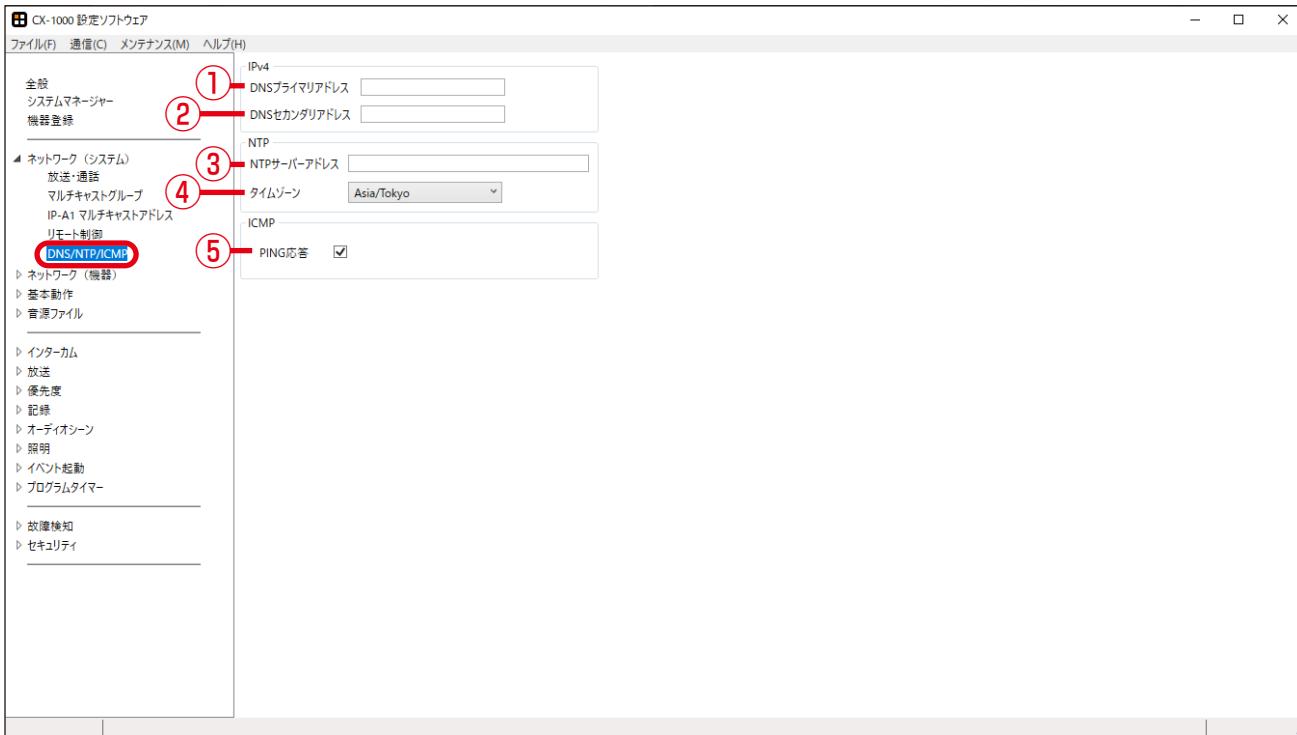
③ パスワード

リモート制御のパスワードを入力します。

設定範囲	半角 5 ~ 32 文字 (初期設定 : 空欄) ただし、使用可能な記号は「!」「@」「#」「\$」「%」「&」「-」「_」の 8 種類のみ スペース使用不可
------	---

■ DNS/NTP/ICMP の設定

「ネットワーク（システム）」→「DNS/NTP/ICMP」をクリックすると、以下の画面が表示されます。ネットワークサービスの基本パラメーターの設定を行います。



① DNS プライマリアドレス

ドメインの所有するプライマリ DNS の IP アドレスを設定します。
空欄の場合は DNS を使用しません。

設定範囲	空欄（初期設定）、0.0.0.0 ~ 223.255.255.255
------	------------------------------------

② DNS セカンダリアドレス

セカンダリ DNS の IP アドレスを設定します。
空欄の場合は DNS を使用しません。

設定範囲	空欄（初期設定）、0.0.0.0 ~ 223.255.255.255
------	------------------------------------

③ NTP サーバーアドレス

NTP サーバーのアドレスを設定します。
DNS サーバーが設定されている場合は、URL で設定することもできます。
空欄の場合は NTP による補正を行いません。

設定範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・空欄（初期設定） ・半角英数字およびハイフン、ピリオド ・スペース使用不可 ・0 ~ 253 文字
------	---

④ タイムゾーン

システムの持つタイムゾーンをプルダウンメニューから選択します。
タイムゾーンはシステム内の機器で同一となります。

設定範囲	各都市のタイムゾーンから選択（初期設定：Asia/Tokyo）
------	---------------------------------

⑤PING 応答

システム全体で、PINGに対する応答をするかどうかを設定できます。応答をする場合はチェックを入れます。(初期設定：チェックあり)

■ 機器ごとのネットワーク設定

● ネットワーク設定

「ネットワーク（機器）」→「IP アドレス」をクリックすると、機器ごとのネットワーク設定の画面が表示されます。

自動割り当て					
		機器名	IPアドレス	サブネットマスク	デフォルトゲートウェイ
1	CX-SM1000	CX-SM1000 1	192.168.1.2	255.255.255.0	0.0.0.0
2	CX-OP1700	CX-OP1700 2	192.168.1.3	255.255.255.0	0.0.0.0
3	CX-OP1700	CX-OP1700 3	192.168.1.4	255.255.255.0	0.0.0.0
4	CX-CL1750	CX-CL1750 4	192.168.1.5	255.255.255.0	0.0.0.0
5	CX-CL1750	CX-CL1750 5	192.168.1.6	255.255.255.0	0.0.0.0
6	CX-OP1500	CX-OP1500 6	192.168.1.7	255.255.255.0	0.0.0.0
7	CX-OP1500	CX-OP1500 7	192.168.1.8	255.255.255.0	0.0.0.0
8	CX-CL1550	CX-CL1550 8	192.168.1.9	255.255.255.0	0.0.0.0
9	CX-CL1550	CX-CL1550 9	192.168.1.10	255.255.255.0	0.0.0.0
10	CX-RM1700	CX-RM1700 10	192.168.1.11	255.255.255.0	0.0.0.0
11	CX-RM1700	CX-RM1700 11	192.168.1.12	255.255.255.0	0.0.0.0
12	CX-AF1062	CX-AF1062 12	192.168.1.13	255.255.255.0	0.0.0.0
13	CX-AF1062	CX-AF1062 13	192.168.1.14	255.255.255.0	0.0.0.0
14	CX-PA1120	CX-PA1120 14	192.168.1.15	255.255.255.0	0.0.0.0
15	CX-PA1120	CX-PA1120 15	192.168.1.16	255.255.255.0	0.0.0.0
16	CX-PA1240	CX-PA1240 16	192.168.1.17	255.255.255.0	0.0.0.0
17	CX-PA1240	CX-PA1240 17	192.168.1.18	255.255.255.0	0.0.0.0
18	CX-CC1016	CX-CC1016 18	192.168.1.19	255.255.255.0	0.0.0.0
19	CX-CC1016	CX-CC1016 19	192.168.1.20	255.255.255.0	0.0.0.0
20	SIP Phone	SIP Phone 20	192.168.1.21	255.255.255.0	0.0.0.0
21	SIP Phone	SIP Phone 21	192.168.1.22	255.255.255.0	0.0.0.0
22	External phone interface	External phone interface 22	192.168.1.23	255.255.255.0	0.0.0.0
23	External phone interface	External phone interface 23	192.168.1.24	255.255.255.0	0.0.0.0
24	IP camera	IP Camera 24	192.168.1.25	255.255.255.0	0.0.0.0
25	IP camera	IP Camera 25	192.168.1.26	255.255.255.0	0.0.0.0

① 自動割り当てボタン

機器 ID：2 以降の全機器の IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイを自動で割り当てるることができます。

②～④を入力し、このボタンをクリックしてください。

② 開始 IP アドレス

IP アドレスを自動で割り当てるときの開始 IP アドレスを入力します。開始 IP アドレスから連番で設定されます。CX-SM1000 の IP アドレスと重複しないように設定します。

設定範囲	0.0.0.0 ~ 223.255.255.255 (初期設定：空白)
------	-------------------------------------

③ サブネットマスク

自動で割り当てるときのサブネットマスクを入力します。すべての対象機器のサブネットマスクが同じ値に設定されます。

設定範囲	サブネットマスク型 IP アドレス (初期設定：255.255.255.0)
------	--

④ デフォルトゲートウェイ

自動で割り当てるときのデフォルトゲートウェイを入力します。すべての対象機器のデフォルトゲートウェイが同じ値に設定されます。

設定範囲	0.0.0.0 ~ 223.255.255.255 (初期設定：0.0.0.0)
------	--

⑤IP アドレス

他機器の IP アドレスと重複しないように設定します。

設定範囲	0.0.0.0 ~ 223.255.255.255 (初期設定 : 192.168.x.y) *
------	--

* x と y は機器の ID に応じて次のように決まります。

$$x = \text{ID}/100 \text{ の商} + 1$$

$$y = \text{ID}/100 \text{ の余り} + 1$$

例 : ID0 の場合は 192.168.1.1

⑥サブネットマスク

対象機種のサブネットマスクを入力します。

設定範囲	サブネットマスク型 IP アドレス (初期設定 : 255.255.255.0)
------	--

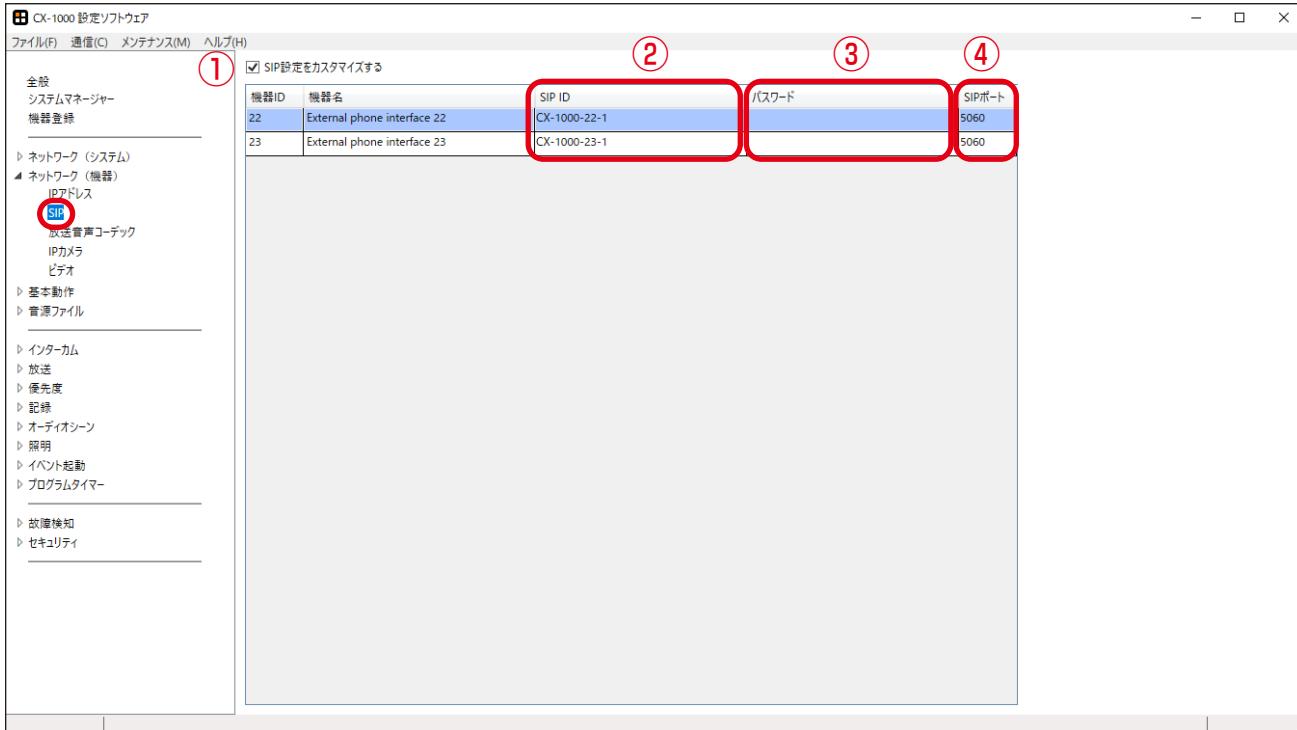
⑦デフォルトゲートウェイ

対象機種のデフォルトゲートウェイを入力します。

設定範囲	0.0.0.0 ~ 223.255.255.255 (初期設定 : 0.0.0.0)
------	--

● 通話の設定

「ネットワーク（機器）」→「SIP」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



①「SIP 設定をカスタマイズする」チェックボックス

SIP 設定は②～④の初期設定になっています。通常は変更しません。

設定を変更したいとき、チェックを入れます。(初期設定：チェックなし)

チェックを入れると、②～④の設定項目が表示されます。

外部電話インターフェースの場合は回線ごとに設定します。

② SIP ID

他機器と重複しないように設定します。

設定範囲	半角英数字、ハイフン、アンダースコア、ピリオドが使用可能 スペース使用不可 (初期設定：CX-1000-[機器 ID]-[回線 No.])
------	---

③ パスワード

SIP サーバーにアクセスするためのパスワードを設定します。

設定範囲	半角英数字、ハイフン、アンダースコア、ピリオドが使用可能 スペース使用不可 0～32 文字 (初期設定：空欄)
------	---

④ SIP ポート

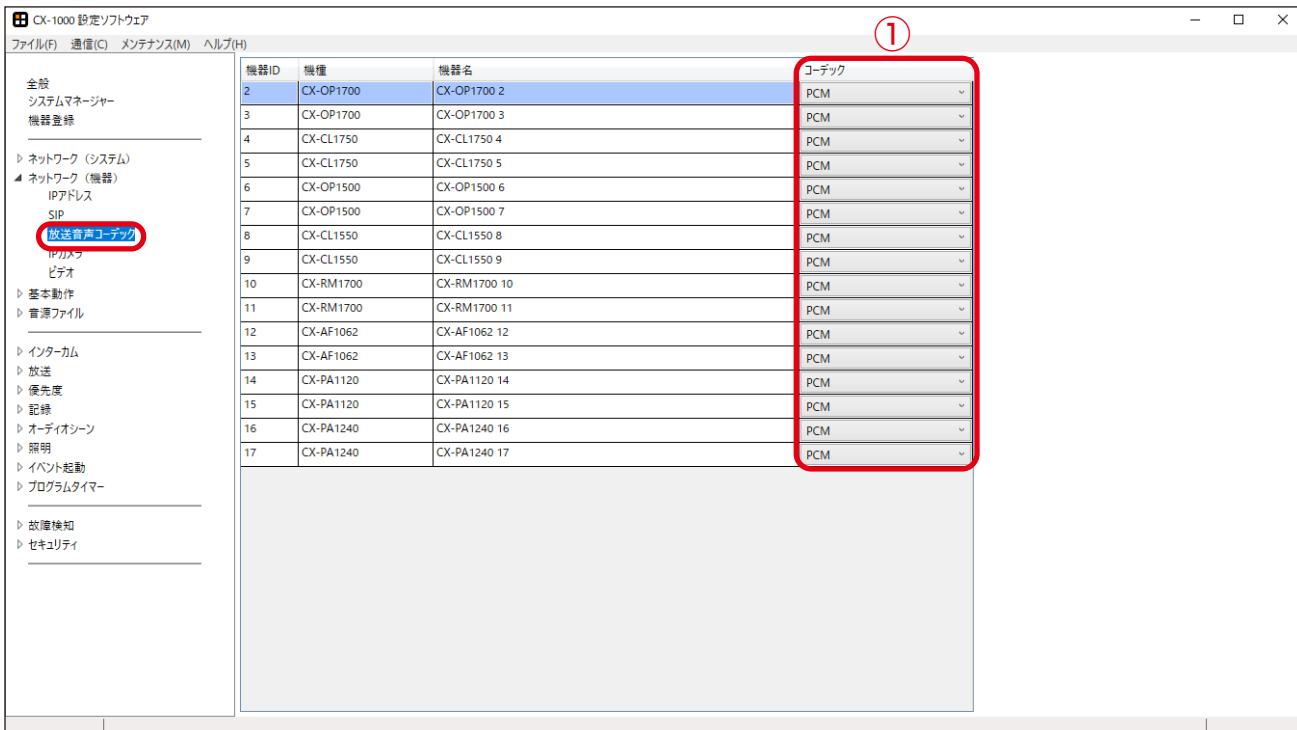
SIP で使用するポート番号を設定します。

この値を変更する場合は、ネットワーク管理者にご相談ください。

設定範囲	0～65535 (初期設定：5060)
------	---------------------

● 放送音声配信の設定

「ネットワーク（機器）」→「放送音声コーデック」をクリックすると、以下の画面が表示されます。表中には、音声配信を送受できる機器のみが表示されます。



① コーデック

放送音声配信時の圧縮方式を選択します。

PCM を選択した場合は非圧縮となります。

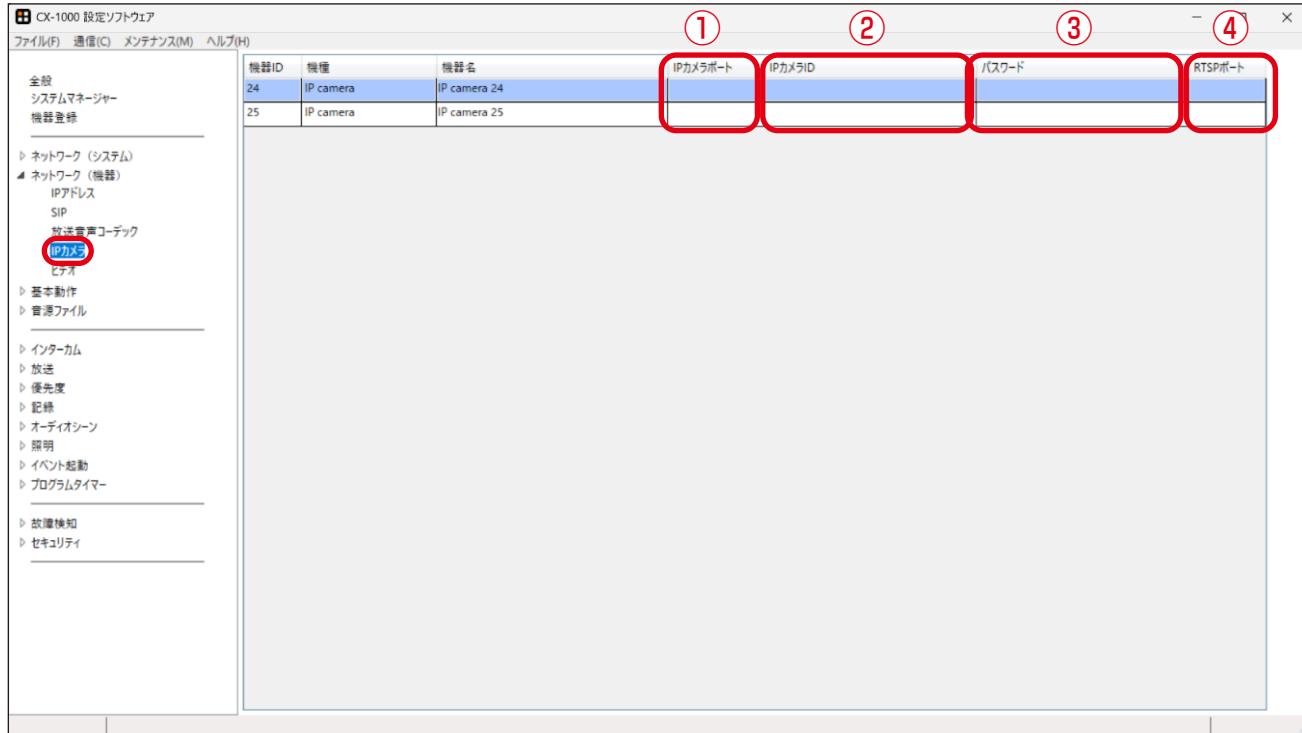
G.722 は ITU-T（国際電気通信連合電気通信標準化部門）で規格化されている音声圧縮方式です。

PCM の方が高音質ですが、データ量は大きくなり、ネットワーク上の帯域を多く消費します。

設定範囲	PCM（初期設定）、G.722
------	-----------------

● カメラの設定

「ネットワーク（機器）」→「IP カメラ」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
カメラを装備した機器のネットワークパラメーターを設定します。
表中には、カメラを装備した機器のみが表示されます。



① IP カメラポート

使用しません。

② IP カメラ ID

各機器の IP カメラで使用する ID を設定します。

設定範囲	半角英数記号 0 ~ 32 文字（初期設定：空欄） スペース使用不可
------	---------------------------------------

③ パスワード

各機器の IP カメラ機能にアクセスするためのパスワードを設定します。

設定範囲	半角英数、半角スペース 0 ~ 32 文字（初期設定：空欄）
------	--------------------------------

④ RTSP ポート

使用しません。

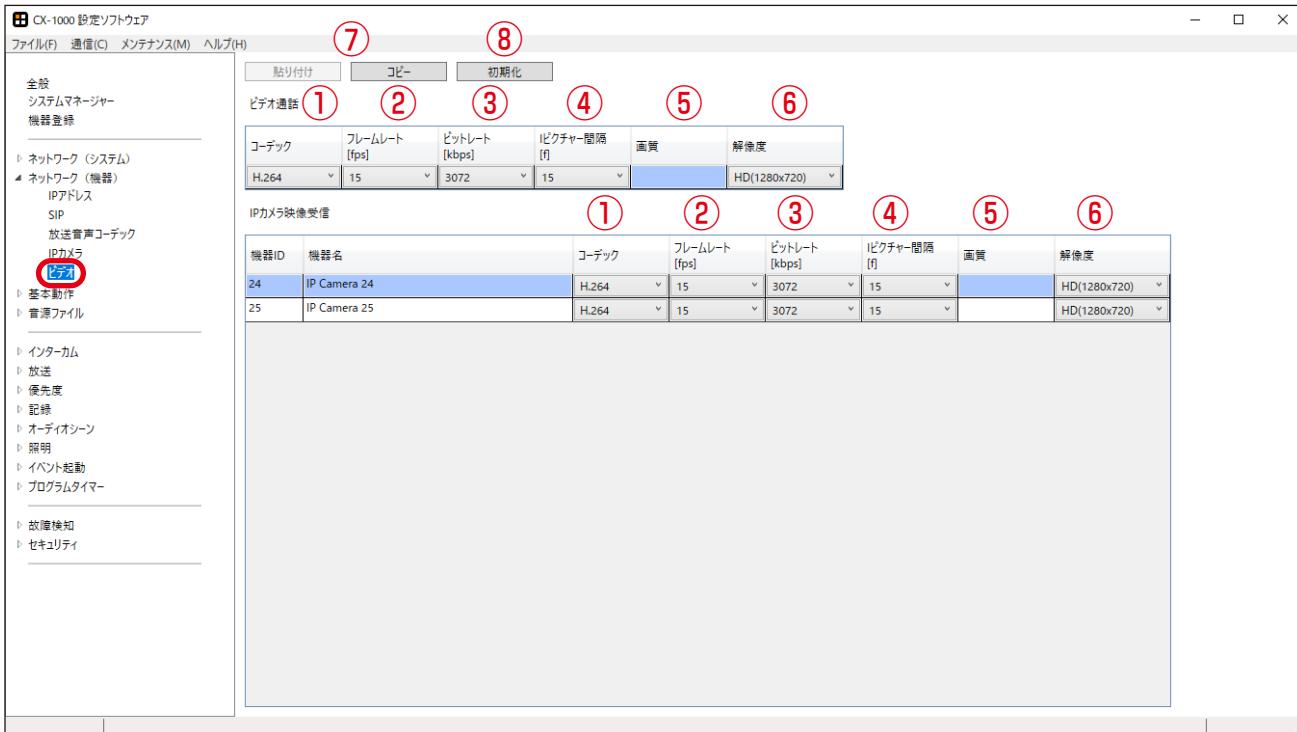
● 映像配信の設定

「ネットワーク（機器）」→「ビデオ」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

ビデオ通話およびIPカメラ映像に関するパラメーターを設定します。

表中には対象となる機器のみが表示されます。

「ビデオ通話」はシステムで一律、「IPカメラ映像受信」は対象となる機器ごとにパラメーターを設定することができます。



① コーデック

映像配信時の圧縮方式を設定できます。

設定範囲	H.264 (初期設定)、JPEG
------	-------------------

② フレームレート [fps]

映像配信時のフレームレートを選択します。

設定範囲	「コーデック」が「H.264」のとき：1、2、3、5、7.5、10、15 (初期設定)、20 「コーデック」が「JPEG」のとき：1、2、3、5、7.5、10 (初期設定)
------	---

③ ビットレート [kbps]（「コーデック」が「H.264」の場合のみ）

映像配信時のビットレートを選択します。CBR（固定ビットレート）で動作します。

設定範囲	32、64、128、256、384、512、768、1024、2048、3072 (初期設定)
------	---

④ ④ |ピクチャー間隔 [f]（「コーデック」が「H.264」の場合のみ）

H.264配信時の|ピクチャー（イントラフレーム）の挿入間隔を設定します。

設定範囲	1～100 (1刻み) (初期設定：15)
------	-----------------------

⑤ ⑤ 画質（「コーデック」が「JPEG」の場合のみ）

映像配信時の画質を設定できます。数字が大きい方が高画質です。

設定範囲	30、50、85 (初期設定)
------	-----------------

⑥解像度

映像配信時の解像度を設定できます。

設定範囲	QVGA(320x240)、VGA(640x480)、ワンセグ(320x180)、nHD(640x360)、 HD(1280x720)（初期設定）
------	--

⑦コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、選択中の行の全設定をコピーします。

他の行を選択し、貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を選択中の行の設定欄に貼り付けます。

⑧初期化ボタン

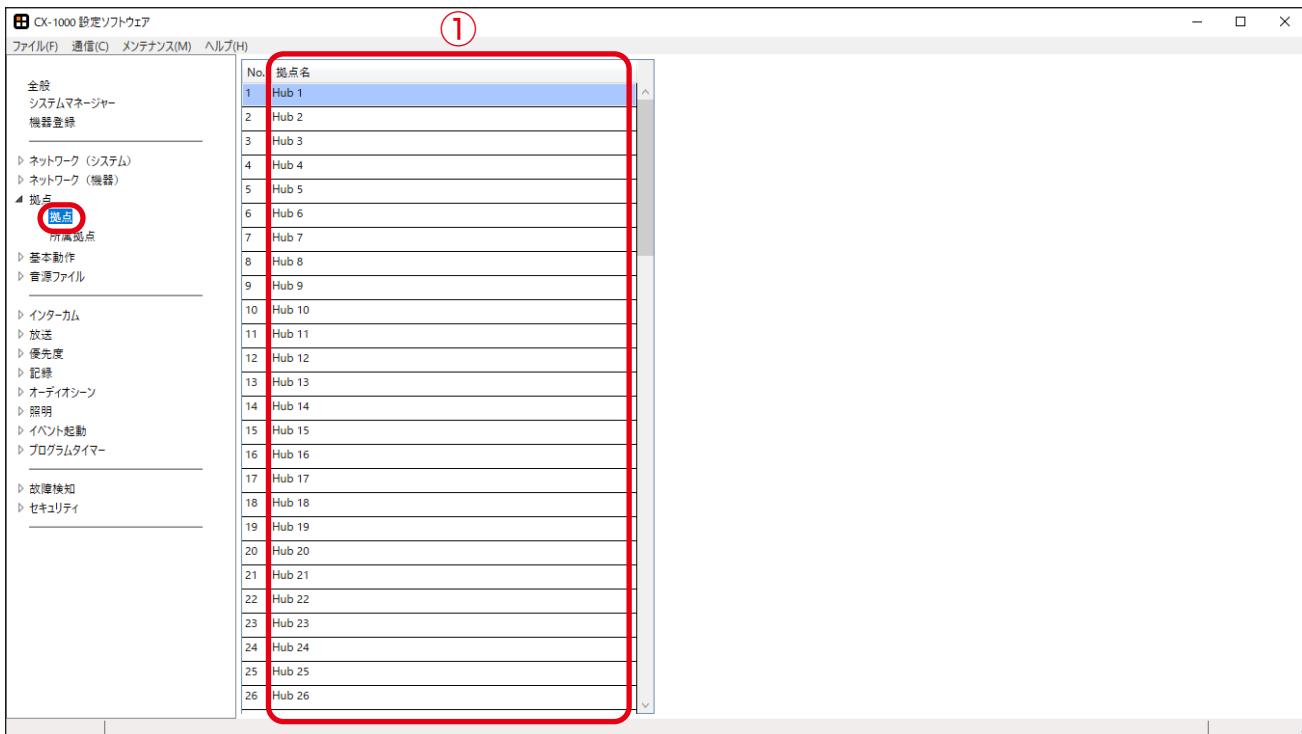
選択中の行の設定を初期設定に戻します。編集したデータはすべて削除されます。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OKボタンをクリックしてください。

拠点の設定 (拠点機能が「有効」のときのみ)

■ 拠点の名称の設定

「拠点」→「拠点」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
拠点の名称を設定します。拠点は最大 100 力所まで設定できます。



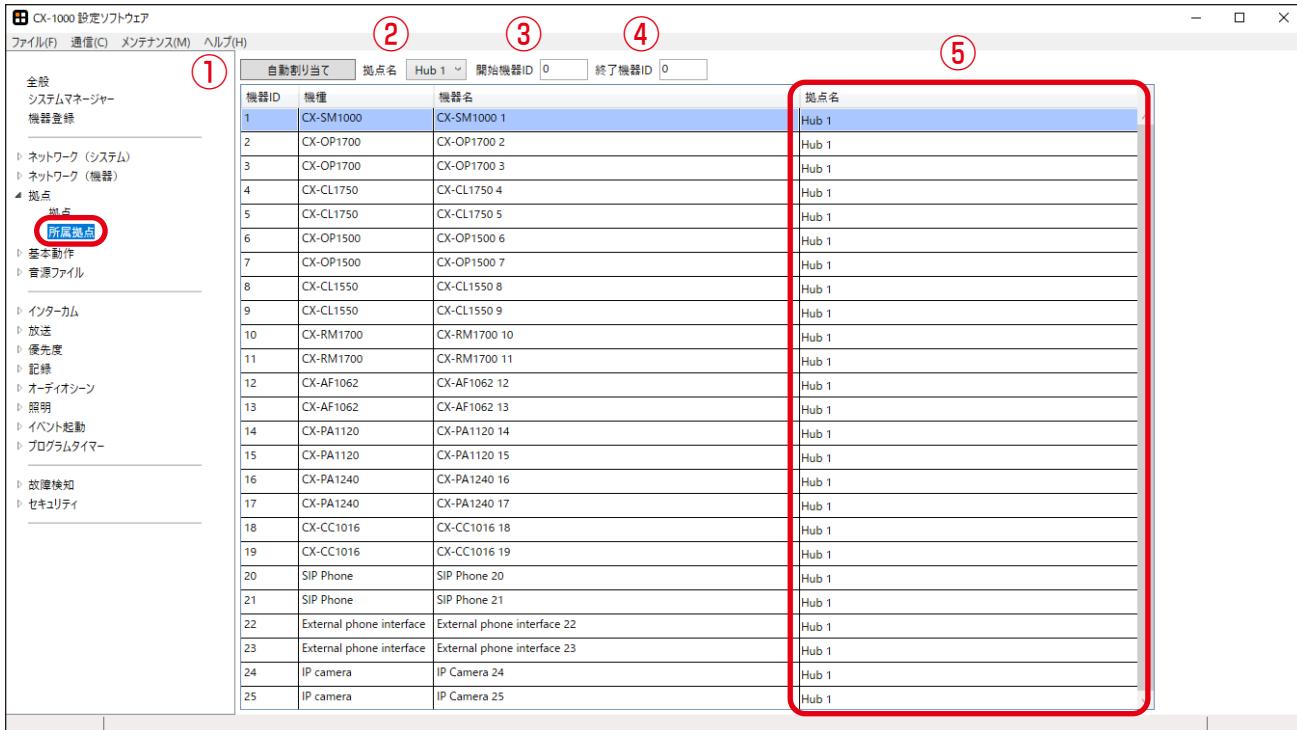
① 拠点名

拠点の名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内 (初期設定 : Hub + No.)
------	--

■ 所属拠点の設定

「拠点」→「所属拠点」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
各機器がどの拠点に所属するのかを設定します。



①自動割り当てボタン

拠点ごとに、所属する機器を自動で割り当てることができます。

②～④を設定し、このボタンをクリックしてください。

② 拠点名

自動で割り当てる拠点を選択します。

設定範囲	設定された拠点名（初期設定：Hub 1）
------	----------------------

③開始機器 ID

所属する機器を自動で割り当てるときに、一番小さい数字の機器 ID を入力します。

設定範囲	登録された機器 ID（初期設定：空白）
------	---------------------

④終了機器 ID

所属する機器を自動で割り当てるときに、一番大きい数字の機器 ID を入力します。

設定範囲	登録された機器 ID（初期設定：空白）
------	---------------------

⑤ 拠点名

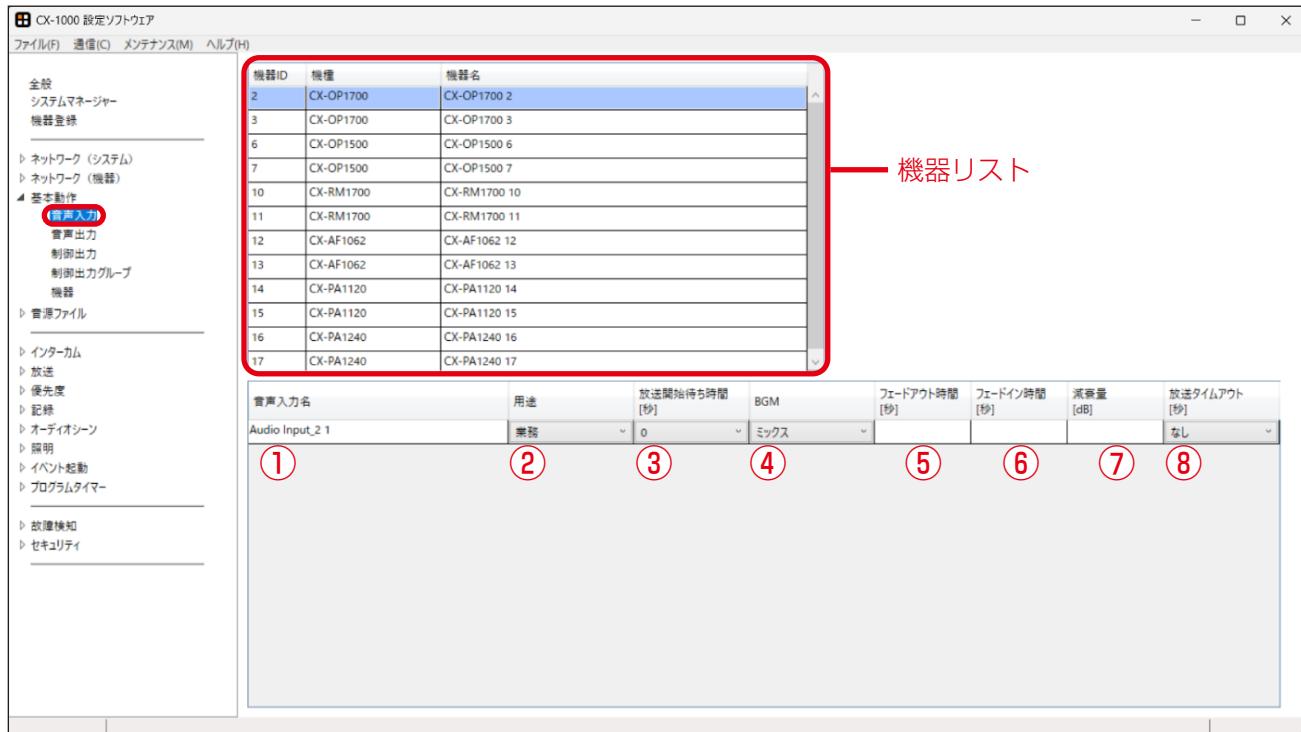
所属する拠点を選択します。

設定範囲	設定された拠点名（初期設定：Hub 1）
------	----------------------

基本動作の設定

■ 音声入力の設定

「基本動作」→「音声入力」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
システム内の機器に対し、各機器の持つ音声入力の動作について設定します。



機器リストには音声入力を装備した機器のみ（CX-CL1750/CL1550 を除く）が表示されます。
機器リストで設定したい機器を選択すると、次の項目が表示されますので、必要に応じて設定します。

① 音声入力名

音声入力の名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内（初期設定：Audio Input + _ + 機器 ID + 音声入力番号*）
------	---

* 音声入力番号は各機器の音声入力チャンネルを表します。CX-OP1700/OP1500 の場合、ハンドセット、ハンズフリー、およびヘッドセットはすべて同一入力と見なします。CX-RM1700 の場合、音声入力 1 がマイク、音声入力 2 が AUX 入力となります。

②用途

機器の用途を設定します。

放送優先度は業務の方がBGMより高くなります。詳細な優先度はP.2-80「優先度の設定」の項目で設定します。

設定範囲	<p>[CX-OP1700/OP1500 および CX-RM1700（マイク）の場合] 業務（初期設定、固定）</p> <p>[CX-RM1700（AUX）および CX-AF1062 の場合] 業務（初期設定）、BGM</p> <p>[CX-PA1120/PA1240（音声入力1）の場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ジッタバッファの設定（P.2-7）が「標準」のとき 業務（初期設定）、BGM、ANCマイク、使用しない ● ジッタバッファの設定（P.2-7）が「低遅延」のとき 使用しない（初期設定）、ANCマイク <p>[CX-PA1120/PA1240（音声入力2）の場合]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ジッタバッファの設定（P.2-7）が「標準」のとき 業務（初期設定）、BGM ● ジッタバッファの設定（P.2-7）が「低遅延」のとき 使用しない（固定）
------	---

③放送開始待ち時間 [秒]

この音声入力を起動後、実際に音声入力から放送が流れ始めるまでの時間を設定します。

設定範囲	0（初期設定）、0.5、1、1.5、2、3、4
------	-------------------------

ご注意

用途がANCマイクの場合は設定できません。

④BGM

この音声入力から放送を行うとき、先に放送されているBGMがあった場合のBGMの挙動を設定します。

設定範囲	ミックス ^{*1} （初期設定）、カット ^{*2}
------	---

^{*1} 業務放送とBGM放送をミキシングします。

^{*2} BGM側の設定にかかわらず、すべての業務放送先でのBGM放送を停止します。

ご注意

●「用途」②を「BGM」に設定したときは「ミックス」に固定されます。

●CX-AF1062/PA1120/PA1240は、「用途」②を「業務」に設定したときのみ、この設定が変更できます。

⑤フェードアウト時間 [秒]（「用途」を「BGM」に設定したときのみ）

「BGM」④で設定したBGM挙動のフェードアウト時間を設定します。

設定範囲	0、0.1、0.2、0.5、1（初期設定）、2、3、4、5、6、7、8、9、10
------	--

⑥フェードイン時間 [秒]（「用途」を「BGM」に設定したときのみ）

「BGM」④で設定したBGM挙動のフェードイン時間を設定します。

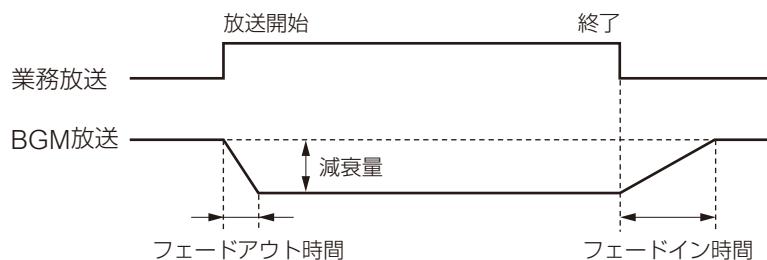
設定範囲	0、0.1、0.2、0.5、1、2、3、4（初期設定）、5、6、7、8、9、10
------	--

⑦減衰量 [dB]（「用途」を「BGM」に設定したときのみ）

設定範囲	0 ~ -69、-∞（初期設定：-40）
------	----------------------

[BGMミキシング設定による動作の違い]

- ・「ミックス」に設定したとき



- ・「BGMカット」に設定したとき



⑧放送タイムアウト [秒]

放送時間に上限を設けるかどうかを設定します。

制限を設ける場合、制限時間を入力してください。制限時間を過ぎると、放送は自動的に終了します。

「なし」に設定した場合は、終了操作を行うまで放送は継続します。

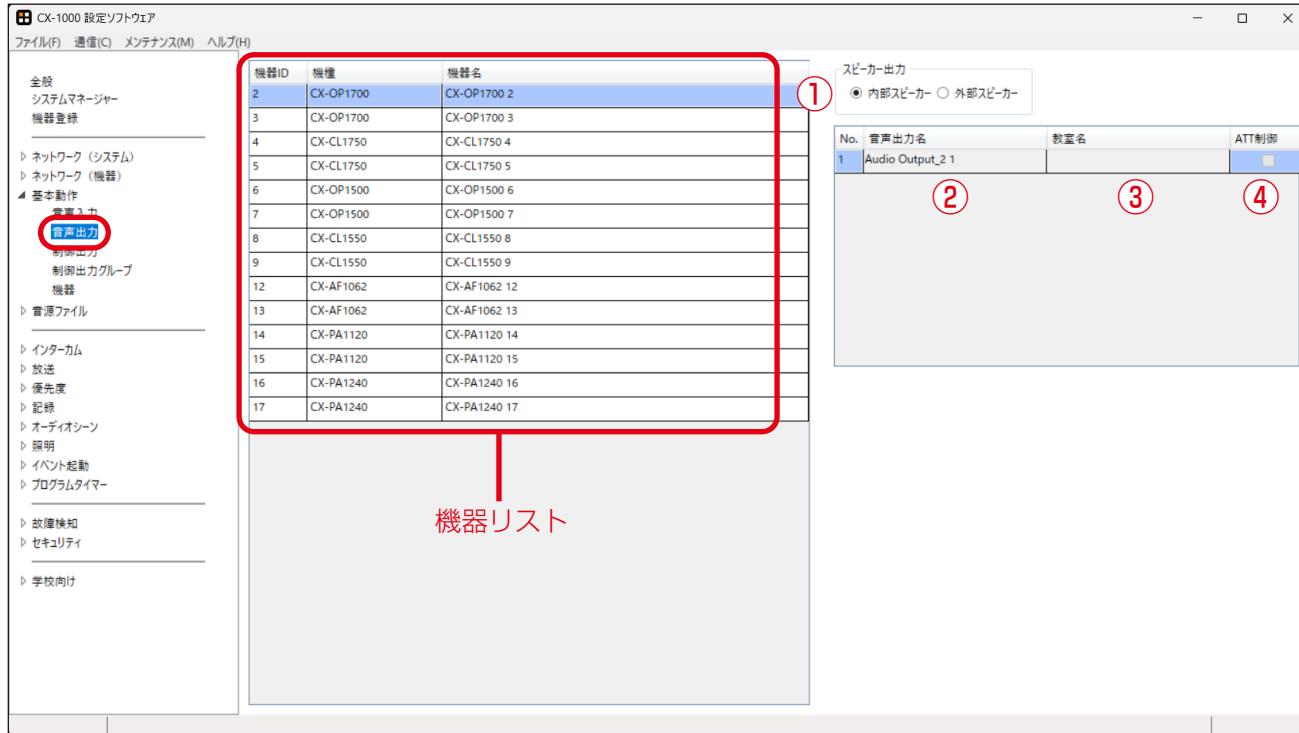
設定範囲	なし（初期設定）、10 ~ 990（10単位）
------	-------------------------

ご注意

用途が BGM、ANC マイクの場合は設定できません。

■ 音声出力の設定

「基本動作」→「音声出力」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



機器リストには音声出力を装備した機器のみが表示されます。

機器リストで設定したい機器を選択すると、次の項目が表示されますので、必要に応じて設定します。

①スピーカー出力 (CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 のみ)

通話および放送のスピーカー出力をどのスピーカーから出力するか設定します。

設定範囲	内部スピーカー（初期設定）、外部スピーカー
------	-----------------------

②音声出力名

音声出力の名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内（初期設定：Audio Output + _ + 機器 ID + 音声出力番号*）
------	--

* 音声出力番号は各機器の音声出力チャンネルを表します。

③教室名（運用モードを「学校向け」に設定したときのみ）

教室の名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内（初期設定：空欄）
------	------------------------------

④ATT 制御 (CX-PA1120/1240 のみ)

アッテネーター／制御出力端子に外部アッテネーターを接続する場合、緊急モードでの放送時にアッテネーターをバイパスすることができます。

チェックボックスにチェックを入れると、各音声出力に対応するアッテネーター／制御出力を使用し、緊急モード時に外部アッテネーターを制御します。音声出力名称の末尾の番号と制御出力名称の末尾の番号が同じものが対応する制御出力となります。（初期設定：チェックなし）

ご注意

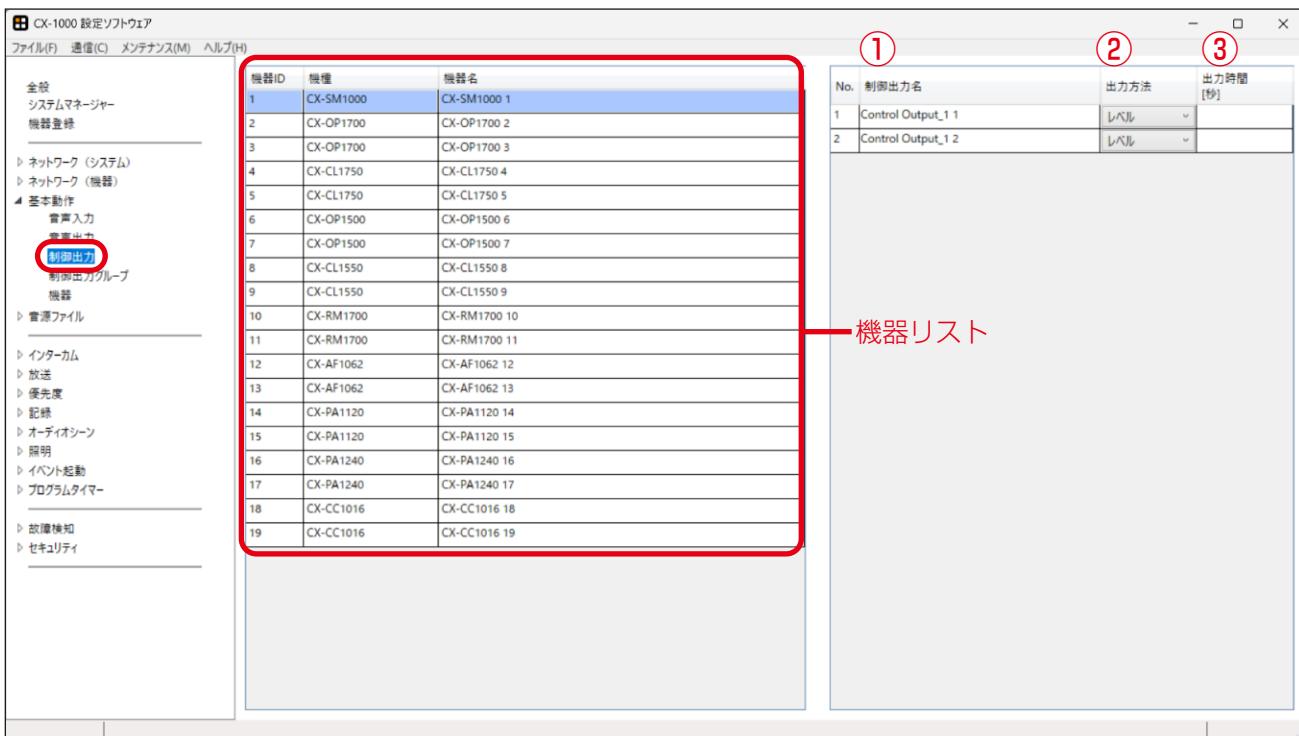
ATT 制御を行うと、選択中機器の音声出力番号と同じ番号の制御出力の設定は削除されます。

■ 制御出力の設定

● 名称と用途の設定

「基本動作」→「制御出力」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

制御出力の出力方式を設定します。



機器リストには制御出力を装備した機器のみが表示されます。

機器リストで設定したい機器を選択すると、次の項目が表示されますので、必要に応じて設定します。

① 制御出力名

制御出力の名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内（初期設定：Control Output + _ + 機器 ID + 制御出力番号*)
------	--

* 制御出力番号は各機器の制御出力チャンネルを表します。

② 出力方法

制御信号の出力方式を設定します。

レベルに設定すると、イベントが有効となっている間、制御出力がオンになります。イベントが終了するとオフになります。

パルスに設定すると、イベント開始時に次項目で設定する時間だけオンになり、その後オフになります。

設定範囲	レベル（初期設定）、パルス
------	---------------

ご注意

CX-PA1120/PA1240 の場合は、同じ ID 番号の音声出力の設定（P. 2-31）で ATT 制御設定が OFF のときのみ、この設定が有効になります。

ATT 制御設定が OFF の場合でも、CPU OFF スイッチによる一斉放送を行う場合は、操作を行った CX-PA1120/PA1240 のアッテネーター／制御出力の全チャンネルは ON になります。外部機器の制御として使用する場合はご注意ください。（☞別冊の操作説明書「CPU OFF 切換スイッチを使用した一斉放送」）

③出力時間 [秒]（出力方法②が「パルス」の場合のみ）

制御信号の出力時間を設定します。

設定範囲	1 ~ 30（初期設定：1）
------	----------------

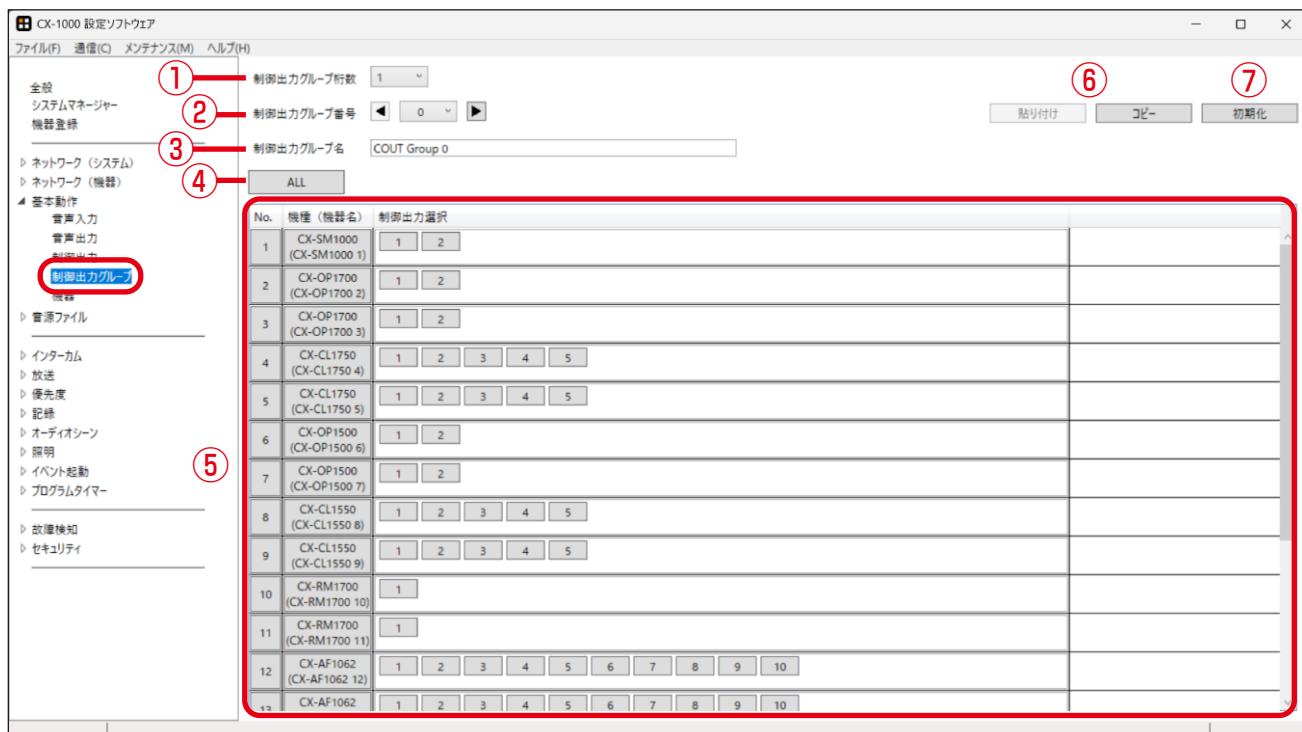
ご注意

CX-PA1120/PA1240 の場合は、同じ ID 番号の音声出力の設定（P. 2-31）で ATT 制御設定が OFF のときのみ、この設定が有効になります。

■ 制御出力グループの設定

「基本動作」→「制御出力グループ」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

制御出力のグループを設定します。



①制御出力グループ行数

制御出力のグループ行数を指定することで、制御出力グループの数を設定できます。

1 : No. 0 ~ 9 までの 10 個の制御出力グループが設定可能になります。

2 : No. 00 ~ 99 までの 100 個の制御出力グループが設定可能になります。

3 : No. 000 ~ 999 までの 1000 個の制御出力グループが設定可能になります。

ご注意

行数を現在の設定値より小さい値に変更した場合は、小さくなかった行数以上のデータが削除されます。

例えば、「3」から「2」に変更した場合、100 ~ 999 のデータは削除されます。

設定範囲	1（初期設定）、2、3
------	-------------

②制御出力グループ番号

制御出力グループ行数①の設定に応じた総数のグループ番号が表示できます。

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、制御出力グループ番号を選択します。

設定範囲	行数の設定が 1 のとき : 0 ~ 9 行数の設定が 2 のとき : 00 ~ 99 行数の設定が 3 のとき : 000 ~ 999
------	--

③制御出力グループ名

制御出力グループの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内（初期設定：COUT Group + No.）
------	--

④全選択ボタン [ALL]

クリックすると、制御出力ボタン選択欄⑤に表示されているすべての制御出力先ボタンが選択されます。すべての制御出力先ボタンが選択された状態でクリックすると、すべての制御出力先ボタンの選択が解除されます。

すべての制御出力先ボタンが選択された状態で個別の制御出力先ボタンをクリックすると、クリックしたボタンの選択が解除されます。

⑤制御出力ボタン選択欄

欄の左側に表示されている各機器に割り当てられている制御出力先ボタンがすべて表示されます。制御出力先ボタンをクリックするとクリックしたボタンが選択されます。

ご注意

音声出力（P. 2-31）の「ATT 制御」にチェックを入れている場合は、選択できません。

メモ

- 全選択ボタン④をクリックすると、すべての制御出力先ボタンが選択されます。
- 「No.」または「機種（機器名）」列のボタンをクリックすると、その機器に割り当てられているすべての制御出力先ボタンの選択／選択解除ができます。

⑥コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、表示されている制御出力グループ番号の「制御出力グループ名」③以外の全設定をコピーします。

他の制御出力グループ番号を選択して、貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容をそのグループ番号の設定画面に貼り付けます。

⑦初期化ボタン

表示されている制御出力グループ番号の「制御出力グループ名」③以外の設定を初期設定に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

■ 各機器の基本動作の設定

「基本動作」→「機器」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



機器により設定項目が異なります。機器リストで設定したい機器を選択して、各機器の設定を行います。

[CX-OP1700/OP1500 の場合]

① 用途	<input checked="" type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 業務・緊急
② 制御出力グループ（発信中）	なし
③ 制御出力グループ（通話中）	なし
④ 制御出力グループ（通話中・発信中）	なし
⑤ 固定フィルター	車上

[CX-CL1750/CL1550 の場合]

① 用途	<input checked="" type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 業務・緊急
② 制御出力グループ（発信中）	なし
③ 制御出力グループ（通話中）	なし
④ 制御出力グループ（通話中・発信中）	なし
⑤ 固定フィルター	露出

[CX-RM1700 の場合]

① 用途	<input checked="" type="radio"/> 業務 <input type="radio"/> 業務・緊急
⑥ 放送後の放送先選択	<input checked="" type="radio"/> 選択維持 <input type="radio"/> 選択解除
⑦ 放送キー	<input type="radio"/> PTT <input checked="" type="radio"/> Lock

[CX-PA1120/PA1240 の場合]

⑧ 非常断24V	<input type="radio"/> 有効 <input checked="" type="radio"/> 無効
----------	--

① 用途 (CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550/RM1700 のみ)

機器の用途を選択します。

設定範囲	業務 (初期設定)、業務・緊急
------	-----------------

メモ

- 緊急モードが「有効」のときのみ「業務・緊急」が表示されます。緊急モードが「無効」のときは業務固定です。
- 緊急モードを起動するイベントを設定したい場合は、「業務・緊急」を選択してください。

② 制御出力グループ (発信中) (CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 のみ)

発信中の連動制御出力先を選択します。

設定範囲	なし (初期設定)、制御出力グループ一覧
------	----------------------

③制御出力グループ（通話中）（CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550のみ）

通話中の連動制御出力先を選択します。

設定範囲	なし（初期設定）、制御出力グループ一覧
------	---------------------

④制御出力グループ（発信中・通話中）（CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550のみ）

発信中または通話中の連動制御出力先を選択します。

設定範囲	なし（初期設定）、制御出力グループ一覧
------	---------------------

⑤固定フィルター（CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550のみ）

通話または放送時に、機器内蔵スピーカーに適用されるEQフィルターを選択します。

設置環境に応じて、適切なEQフィルターを選択してください。

- | | |
|-----------|---|
| 卓上 | : スタンドを使用しない状態で利用する場合に最適なフィルター設定です。 |
| スタンド 45 | : スタンドを使って操作面を 45° 上向きにした状態で利用する場合に最適なフィルター設定です。 |
| スタンド 60 | : スタンドを使って操作面を 60° 上向きにした状態で利用する場合に最適なフィルター設定です。 |
| スタンド | : スタンドを使用した状態で利用する場合に最適なフィルター設定です。 |
| 壁掛け | : 壁掛け金具を使って壁掛け設置した状態で利用する場合に最適なフィルター設定です。 |
| 卓上(フラット) | : 卓上に平置き設置した状態で利用する場合に、音域をよりフラットにするフィルター設定です。 |
| 壁掛け(フラット) | : 壁掛け金具を使って壁掛け設置した状態で利用する場合に、音域をよりフラットにするフィルター設定です。 |
| 露出 | : 露出ボックスを使って壁に設置した状態で利用する場合に最適なフィルター設定です。 |
| 埋込 | : 埋込ボックスを使って壁に設置した状態で利用する場合に最適なフィルター設定です。 |
| フラット | : 音域をよりフラットにするフィルター設定です。 |
| なし | : フィルターを適用しません。 |

設定範囲	[CX-OP1700の場合] 卓上（初期設定）、スタンド 45、スタンド 60、壁掛け、卓上（フラット）、壁掛け（フラット）、なし [CX-CL1750、CX-CL1550の場合] 露出（初期設定）、埋込、フラット、なし [CX-OP1500の場合] 卓上（初期設定）、スタンド、壁掛け、なし
------	---

⑥放送後の放送先選択（CX-RM1700のみ）

放送が終了した後に、放送先の選択を維持するか、解除するかを選択します。

設定範囲	選択維持（初期設定）、選択解除
------	-----------------

⑦放送キー（CX-RM1700のみ）

放送キーの動作を設定します。

PTT : 放送キーを押している間、放送できます。放送キーを離すと放送を終了します。

Lock : 放送キーを押すと放送を開始します。もう一度押すと放送を終了します。

設定範囲	PTT、Lock（初期設定）
------	----------------

⑧非常断 24V (CX-PA1120/PA1240 のみ)

非常断 24V 機能を使用するかどうかを設定します。

有効 : FS-2500 など外部の非常放送システムから供給される非常断 24V 信号が遮断されたとき、

CX-PA1120/PA1240 のスピーカー出力および録音出力がミュートされます。

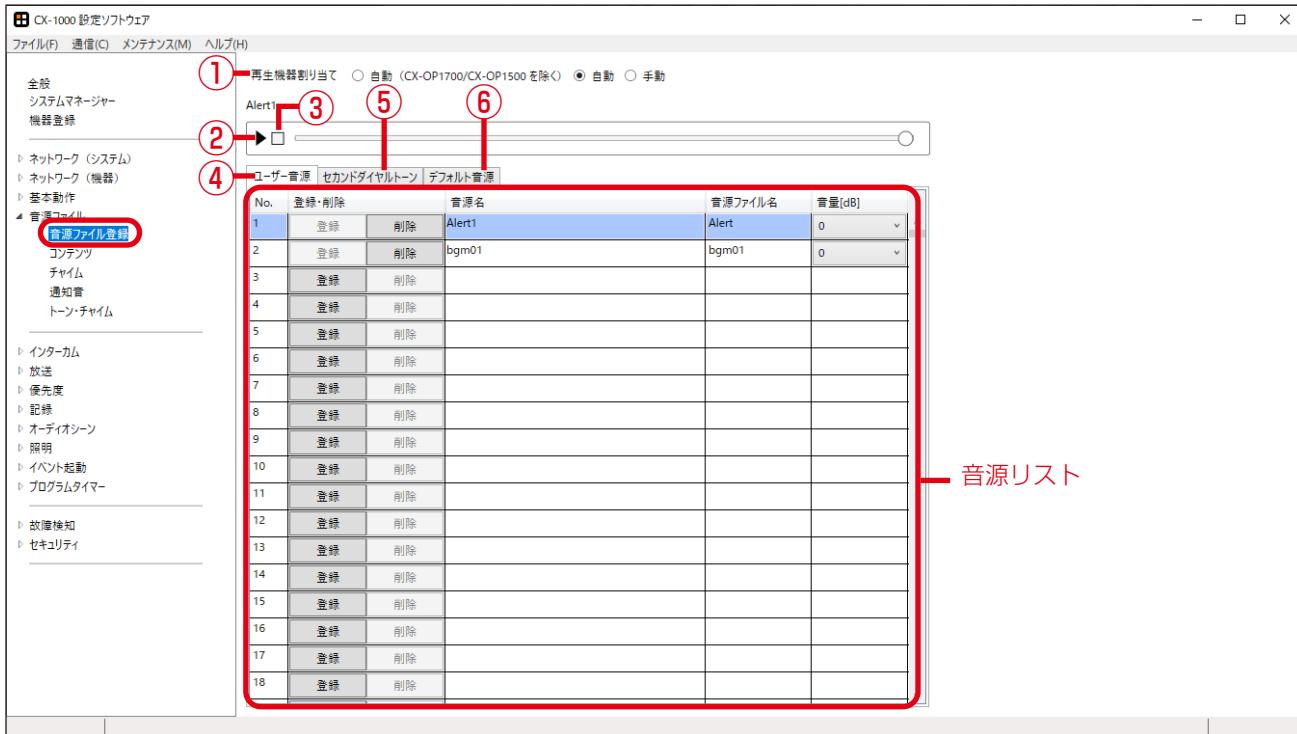
無効 : 非常断 24V 信号の供給状態は、CX-PA1120/PA1240 のスピーカー出力および録音出力に影響しません。

設定範囲	有効、無効（初期設定）
------	-------------

音源の設定

■ 音源ファイル登録画面

「音源ファイル」→「音源ファイル登録」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 再生機器割り当て

コンテンツおよびチャイムを再生する機器の割り当たを設定します。

設定範囲	自動 (CX-OP1700/CX-OP1500 を除く) (初期設定)、自動、手動
------	---

ご注意

- 放送中の再生機器は発信、着信、放送受信をすることができません。
- 「ジッタバッファ」(P. 2-7) が「低遅延」に設定されているときは、CX-PA1120、CX-PA1240 を再生機器に割り当てるすることはできません。

メモ

- 「自動 (CX-OP1700/CX-OP1500 を除く)」に設定すると、登録済みの CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240 に対し自動に割り当てられます。
- 「自動」に設定すると、登録済みの CX-OP1700、CX-OP1500、CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240 に対し均等に割り当てられます。また、CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240 が優先的に割り当てられます。
- どの機器に割り当てられたかはコンテンツ、チャイムそれぞれの設定画面で確認できます。

② 再生ボタン

音源リストで音源ファイルを選択してこのボタンをクリックすると、パソコンから再生して試聴できます。選択中の音源ファイル名が再生ボタンの上に表示されます。

③ 停止ボタン

音源ファイル再生中にクリックすると、試聴している音源ファイルの再生を中止します。

④「ユーザー音源」タブ

音源ファイルを CX-SM1000 内に登録することができます。

システムに最大 999 個の音源ファイルが登録できます。

以下の要件に合った音源ファイルを別途作成してください。

[使用できる音源ファイルの要件]

ファイル形式	WAV
ファイル名	半角英数カナ記号 5 ~ 15 文字（拡張子 .wav を含む） ただし、使用可能な記号は「!」「@」「#」「\$」「%」「&」「-」「_」の 8 種類のみ スペース使用不可
エンコード	PCM
サンプリング周波数	8 kHz (CX-SM1000 のセカンドダイヤルトーンのみ)、16 kHz、32 kHz、48 kHz
サンプリングビット数	16 ビット
ステレオ／モノラル	モノラル
ファイルサイズ	250MB 以下

ご注意

- 登録できる音源ファイルのサイズは、合計 500 MB までです。
- チャイムに設定する音源ファイルは、長さが 60 秒以内のものにしてください。
- 音源ファイルを放送開始チャイムおよびコンテンツ再生の先頭で使用する場合、放送時に頭切れを起こす可能性があります。使用環境に合わせて、音源ファイルの先頭に無音を挿入してください。

⑤「セカンドダイヤルトーン」タブ

セカンドダイヤルトーンに使用する音源を 1 つ登録することができます。

音源ファイルの要件は上記「ユーザー音源」タブ④に記載のとおりです。

⑥「デフォルト音源」タブ

デフォルトでシステム内に登録されている効果音について設定します。

■ 別途作成した音源ファイルの登録

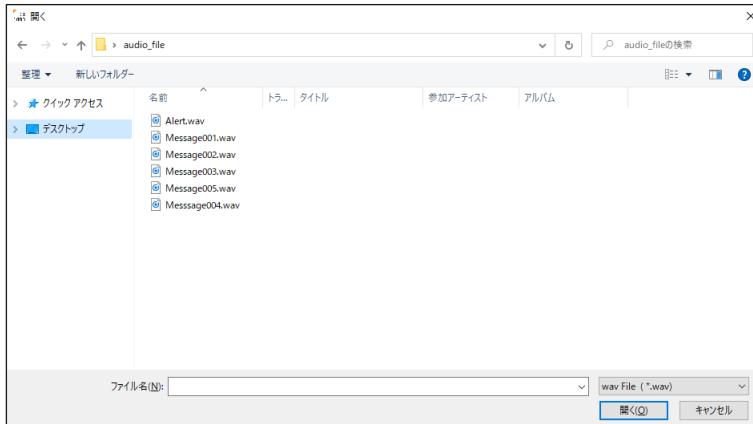
● 音源を登録する

別途音源ファイルを作成し、「ユーザー音源」タブまたは「セカンドダイヤルトーン」タブをクリックして表示される画面で、以下の手順で登録します。

- 1 登録ボタンをクリックして、使用する音源ファイルを選択する。

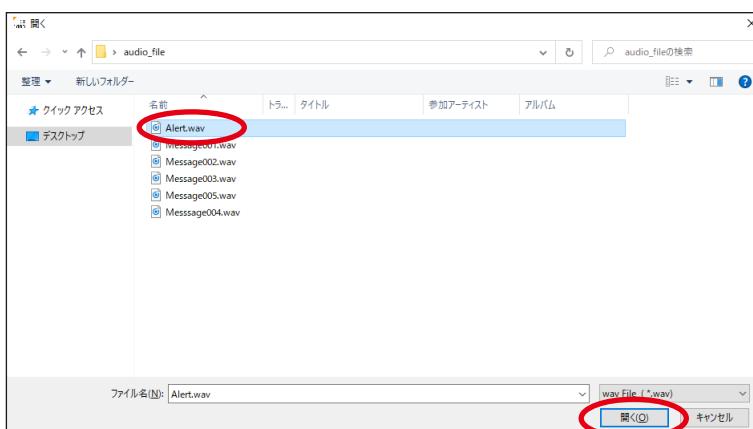


【開く】ダイアログが表示されます。



2 音源ファイルが保存されたフォルダーを指定する。

任意の音源ファイルを指定し、【開く】ボタンをクリックします。



音源ファイルの読み込みが始まります。

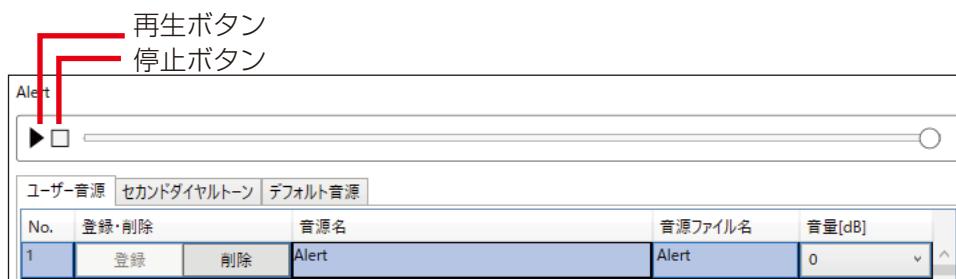
登録が完了すると、音源リストに、以下のように表示されます。

ユーザー音源 セカンドダイヤルトーン デフォルト音源					
No.	登録・削除	音源名	音源ファイル名	音量[dB]	
1	登録 削除	Alert	Alert	0	
2	登録 削除				
3	登録 削除				

● 音源を試聴する

1 音源リストで、試聴したい音源ファイルを選択する。

再生ボタンが有効になります。



2 再生ボタンをクリックする。

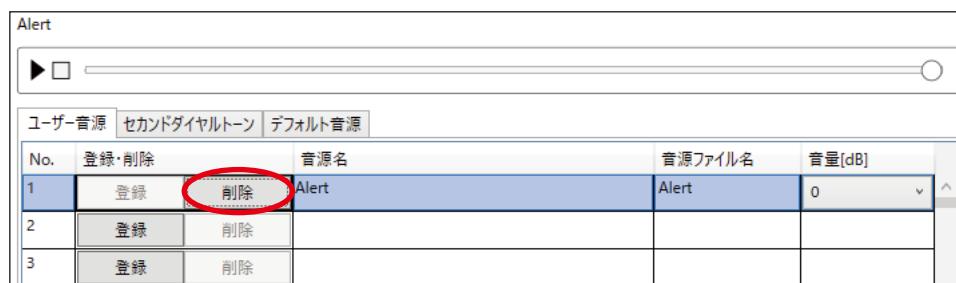
選択した音源ファイルの音声がパソコンから再生されます。
停止ボタンが有効になります。

3 再生を途中で停止するときは、停止ボタンをクリックする。

再生が停止します。

● 音源ファイルを削除する

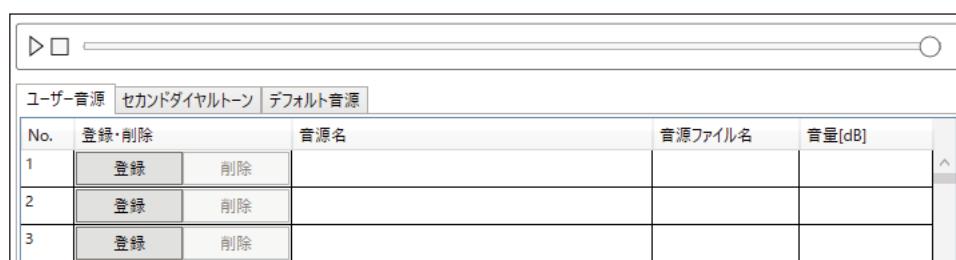
1 登録された音源ファイルの削除ボタンをクリックする。



確認ダイアログが表示されます。

2 OK ボタンをクリックする。

音源ファイルが削除されます。



● 音源名を書き換える

登録された音源ファイルの音源名を書き換えます。

初期設定は登録された音源ファイルのファイル名になります。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内（初期設定：登録された音源ファイルのファイル名）
------	---

この例では、名称が「警報メッセージ 1」に書き換えられました。



ご注意

音源名を空欄には設定しないでください。

音源名が空欄の音源は、コンテンツ、チャイムなどの設定で、選択肢に表示されません。

● 音源の音量を設定する

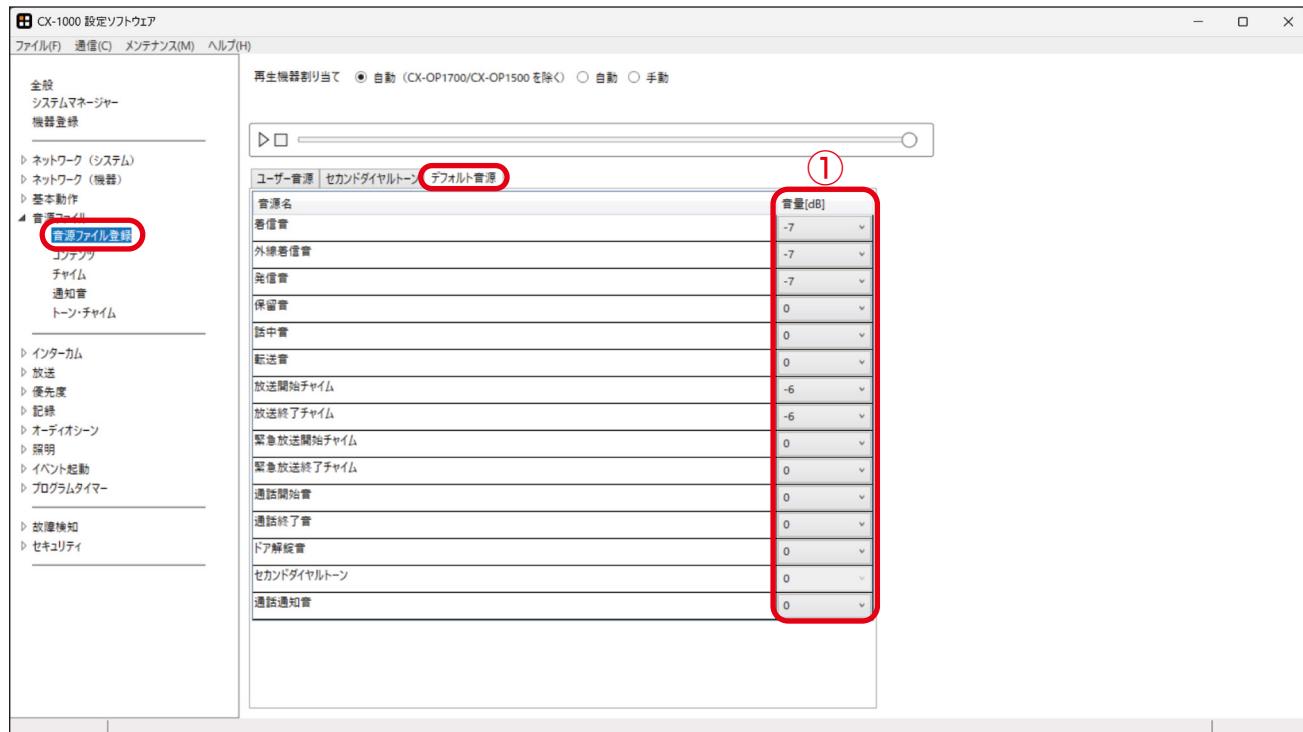
音源の音量を選択します。

設定範囲	10 ~ -69 (1 dB ステップ)、-∞ (初期設定：0)
------	----------------------------------



■ デフォルトの音源を設定する

「音源ファイル」→「音源ファイル登録」で「デフォルト音源」タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。



あらかじめシステムに登録されているデフォルトの音源を設定します。

別途作成した音源ファイルと同様に、再生ボタンを使って試聴することができます。(☞ P.2-41)

音源	説明
着信音	内線（CX-1000 の端末、SIP 電話機）から着信したとき流れる音
外線着信音	外部電話システムから着信したとき流れる音
発信音	発信するとき流れる音
保留音	通話を保留するとき流れる音
話中音	通話中の端末に発信したとき流れる音
転送音	手動転送操作したとき流れる音
放送開始チャイム	マイク放送を開始するときに流れる音
放送終了チャイム	マイク放送を終了するときに流れる音
緊急放送開始チャイム	緊急放送を開始するときに流れる音
緊急放送終了チャイム	緊急放送を終了するときに流れる音
通話開始音	通話が開始されたときに流れる音
通話終了音	通話が終了したときに流れる音
ドア解錠音	ドアリモートによるドア解錠をしたとき、ドア解錠を行った端末から流れる音
セカンドダイヤルトーン	外部電話システムからの接続時に流れる音
通話通知音	通話中の音声にミキシングする音

①音量 [dB]

音源の音量を選択します。

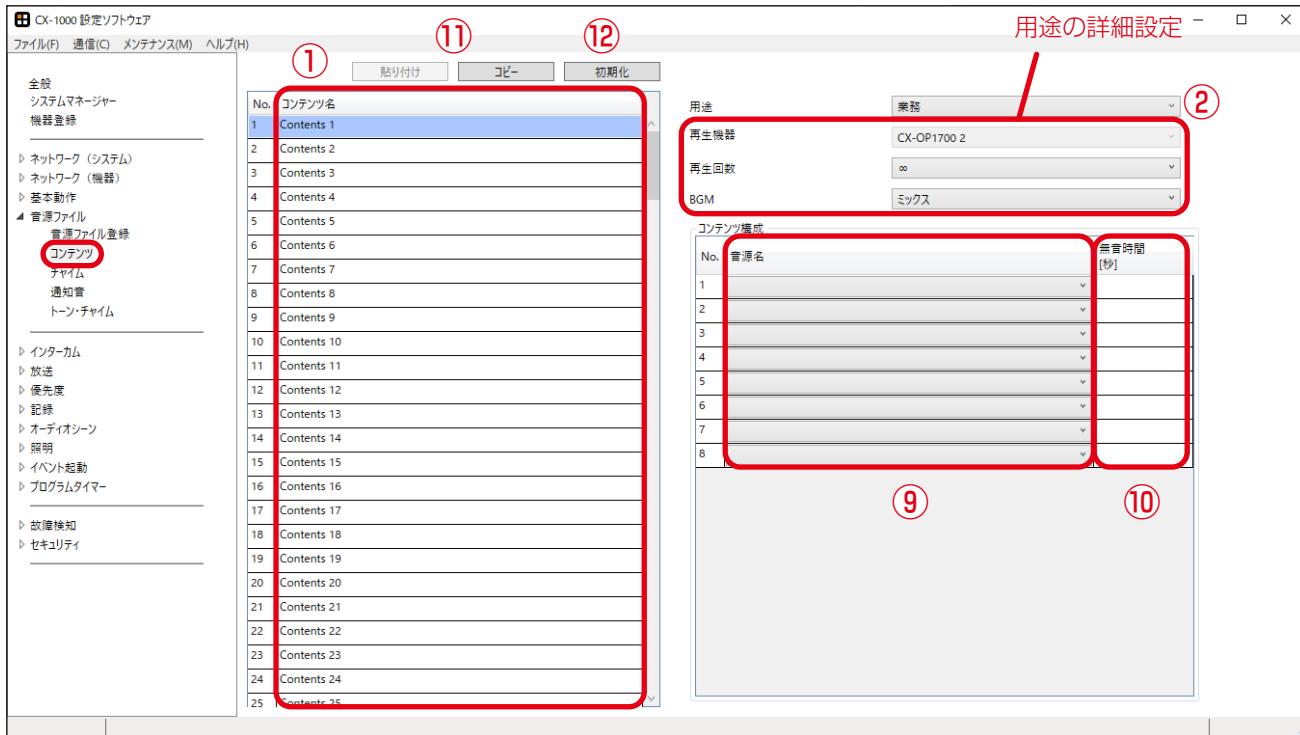
設定範囲	10 ~ -69 (1 dB ステップ)、-∞
	※ 初期設定は音源により異なります。
	着信音、外線着信音、発信音 : -7
	放送開始チャイム、放送終了チャイム : -6
	上記以外 : 0

ご注意

セカンドダイヤルトーンは音量を設定できません。

■ コンテンツの作成

「音源ファイル」→「コンテンツ」をクリックすると、以下の画面が表示されます。コンテンツは最大200個登録できます。



用途の詳細設定は用途の選択により、設定項目が異なります。

[用途を「警報」「避難」「復旧」に設定したとき]

②用途	警報
③再生機器	CX-OP1700 2
④再生回数	∞

[用途を「業務」に設定したとき]

②用途	業務
③再生機器	CX-OP1700 2
④再生回数	∞
⑤BGM	ミックス

① コンテンツ名

コンテンツの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず32文字以内（初期設定：Content + No.）
------	---------------------------------------

[用途を「BGM」に設定したとき]

②用途	BGM
③再生機器	CX-OP1700 2
④再生回数	∞
⑥フェードアウト[秒]	1
⑦フェードイン[秒]	4
⑧減衰量[dB]	-40

② 用途

①で設定するコンテンツを選択し、用途を設定します。用途ごとに設定項目が異なります。

ご注意

用途の設定を変更すると、そのコンテンツを参照している設定が削除または初期化されます。

設定範囲	なし（初期設定）、警報*、避難*、復旧*、業務、BGM * 緊急モードが有効のときのみ表示
------	--

③再生機器（再生機器割り当てが「手動」のときのみ）

①で選択したコンテンツを再生する機器を設定します。音源ファイル登録画面（P. 2-38）で、再生機器割り当ての設定が「自動」の場合は、この項目は変更できません。

設定範囲	システム内の CX-OP1700、CX-OP1500、CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240 (初期設定 : CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240 の中で ID の数字が最も小さい機器)
------	---

④再生回数

コンテンツを繰り返す回数を設定します。

設定範囲	用途が警報、避難、業務、BGM のとき : 1 ~ 3、∞ (初期設定 : ∞) 用途が復旧のとき : 1 ~ 3 (初期設定 : 1)
------	---

⑤BGM

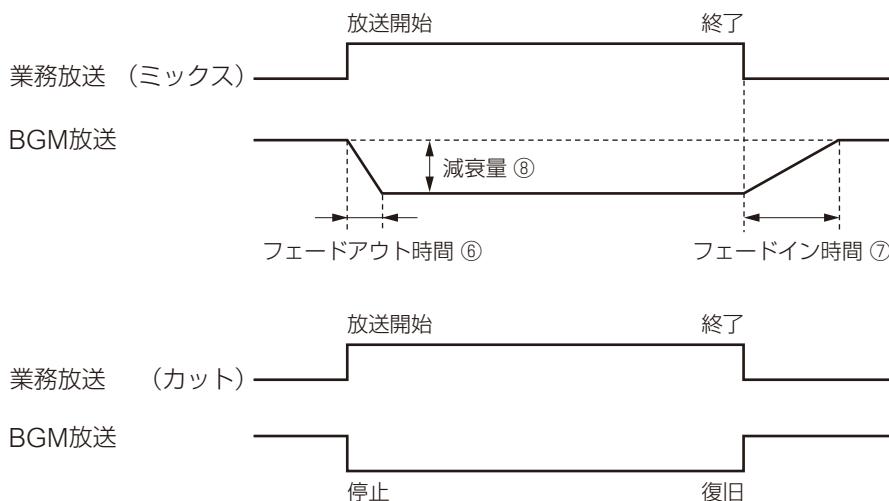
業務放送中の BGM 放送の動作を設定します。

設定範囲	ミックス ^{*1} 、カット ^{*2} (初期設定 : ミックス)
------	---

*¹ 業務放送と BGM 放送をミキシングします。

*² BGM 側の設定（⑥、⑦、⑧）にかかわらず、すべての業務放送の放送先で BGM を停止します。

[業務放送と BGM 放送が重なったときの動作]



⑥フェードアウト [秒]

BGM 放送中に業務放送が入ったときの BGM 放送のフェードアウト時間を設定します。

BGM ⑤が「ミックス」に設定されている業務放送と重なったときのみ有効です。

設定範囲	0、0.1、0.2、0.5、1 (初期設定)、2、3、4、5、6、7、8、9、10
------	---

⑦フェードイン [秒]

BGM 放送中に業務放送が入って終了したときの BGM 放送のフェードイン時間を設定します。

BGM ⑤が「ミックス」に設定されている業務放送と重なったときのみ有効です。

設定範囲	0、0.1、0.2、0.5、1、2、3、4 (初期設定)、5、6、7、8、9、10
------	---

⑧減衰量 [dB]

BGM 放送中に業務放送が入ったときの BGM 放送の減衰量を設定します。

BGM ⑤が「ミックス」に設定されている業務放送と重なったときのみ有効です。

設定範囲	0 ~ -69、-∞ (初期設定 : -40)
------	-------------------------

⑨音源名

音源は最大8つの音源ファイルを組み合わせて構成することができます。「音源ファイル」→「音源ファイル登録」(P. 2-38)で登録した音源名または「無音」を設定します。「無音」に設定した場合は、無音時間も設定します。登録された音源ファイル1～8を番号順に連続で放送します。

⑩無音時間【秒】(「音源名」を「無音」に設定したときのみ)

無音で放送する時間を設定します。

設定範囲	0.1～1 (0.1秒ステップ)、2～25 (1秒ステップ) (初期設定: 1)
------	--

⑪コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると画面上の「コンテンツ名」①以外の全設定をコピーします。

貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を他のコンテンツの同じ画面に貼り付けます。

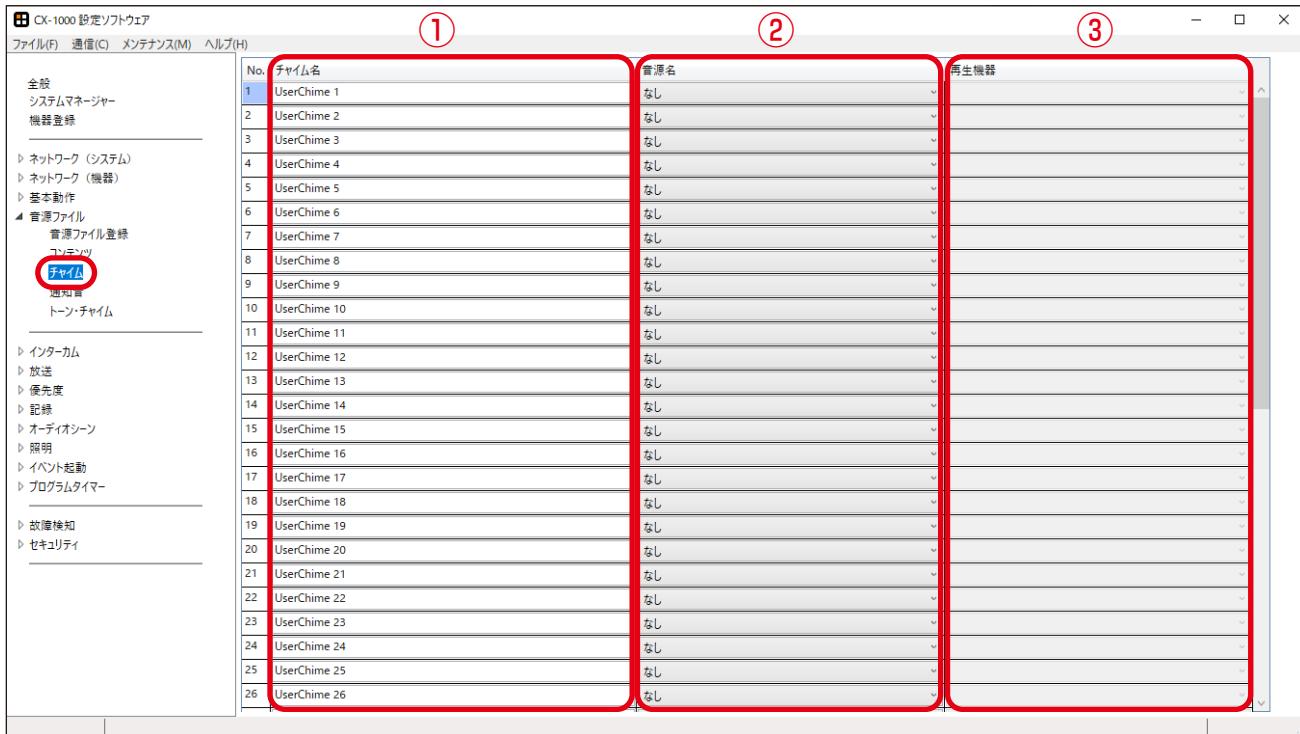
⑫初期化ボタン

選択しているコンテンツの名称以外を初期値に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OKボタンをクリックしてください。

■ チャイム音の設定

「音源ファイル」→「チャイム」をクリックすると、以下の画面が表示されます。チャイムは最大 50 個登録できます。



① チャイム名

チャイム名を設定します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内 (初期設定 : UserChime + No.)
------	--

② 音源名

「音源ファイル」→「音源ファイル登録」(P. 2-38) で登録された音源を選択します。

設定範囲	なし (初期設定)、登録された音源名一覧
------	----------------------

ご注意

チャイムに設定する音源ファイルは、長さが 60 秒以内のものにしてください。

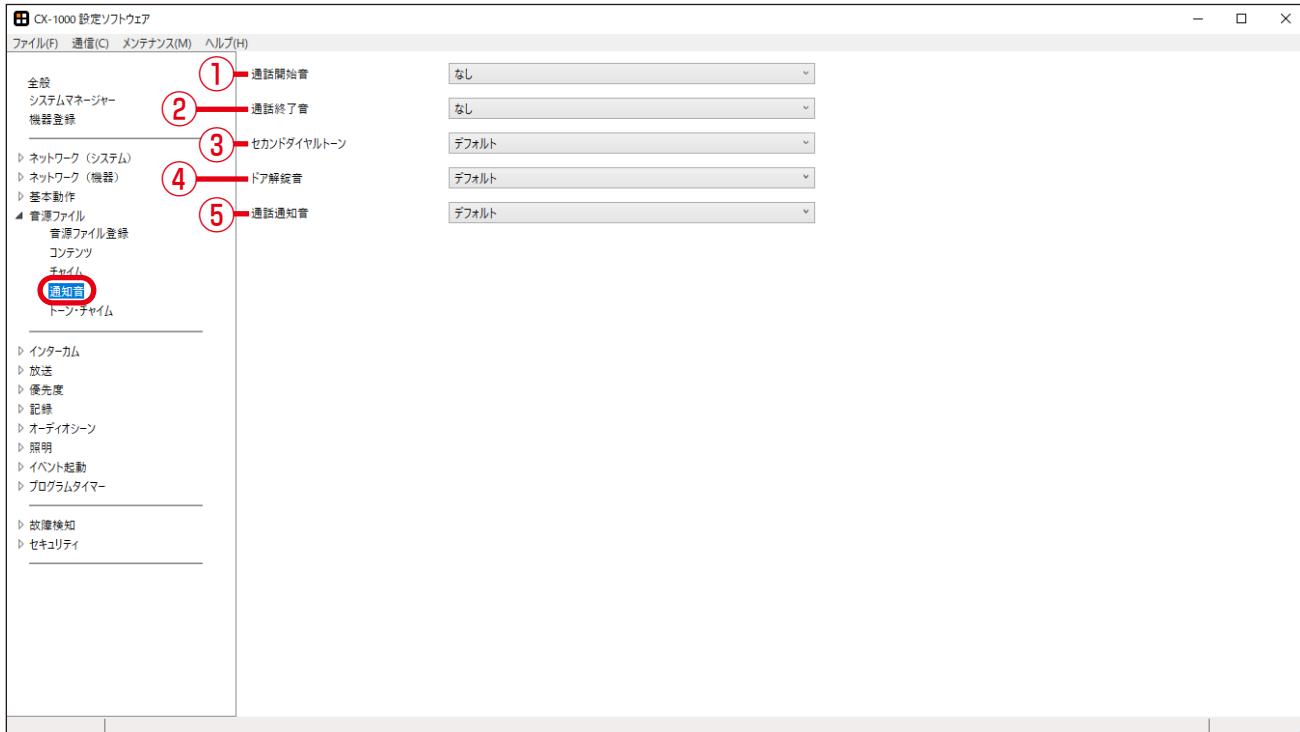
③ 再生機器（「再生機器割り当て」が「手動」の場合のみ）

どの機器の音源を使用するのかを選択します。

設定範囲	システム内の CX-OP1700、CX-OP1500、CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240 (初期設定 : CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240 のいずれか)
------	---

■ システム全体の通知音の設定

「音源ファイル」→「通知音」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 通話開始音

通話が開始されたときに流れる音を設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、デフォルト
------	----------------

② 通話終了音

通話が終了したときに流れる音を設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、デフォルト
------	----------------

③ セカンドダイヤルトーン

外部電話システムからの接続時に流れる音を設定します。

設定範囲	なし、デフォルト（初期設定）、セカンドダイヤルトーンに登録された音源名
------	-------------------------------------

④ ドア解錠音

ドアリモートによるドア解錠をしたとき、ドア解錠を行った端末から流れる音を設定します。

設定範囲	なし、デフォルト（初期設定）
------	----------------

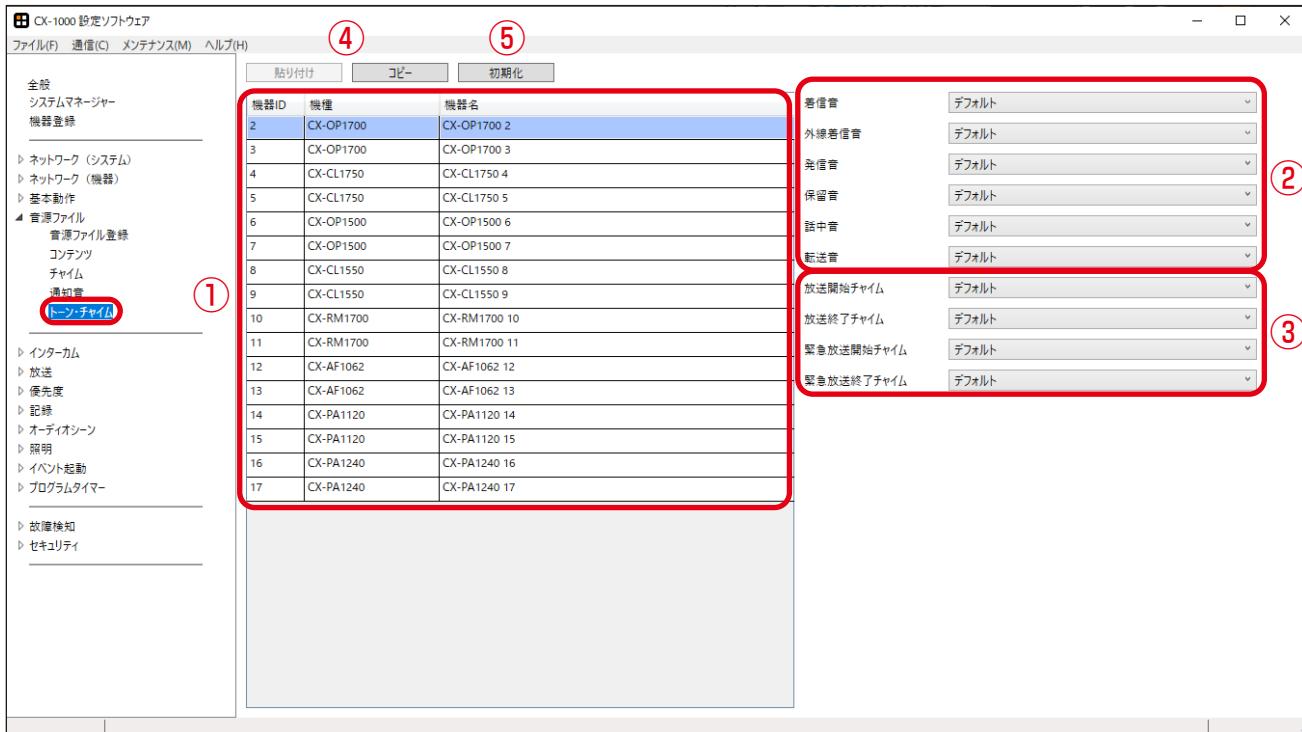
⑤ 通話通知音

通話中の音声にミキシングする音を設定します。

設定範囲	なし、デフォルト（初期設定）
------	----------------

■ 端末ごとのトーン・チャイムの設定

「音源ファイル」→「トーン・チャイム」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550/RM1700 のトーン・チャイムを設定します。



① 機器一覧

音源を設定する機器を選択します。

② 音源設定（トーン）（CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 のみ）

トーン (P. 2-43) ごとに音源を設定します。

設定範囲	なし、デフォルト（初期設定）、音源ファイル登録した音源名一覧
------	--------------------------------

ご注意

- 発信音、保留音、話中音、転送音を「なし」には設定できません。
- 発信音と話中音を同一音源には設定できません。

③ 音源設定（チャイム音）

チャイム (P. 2-43) ごとに、音源を設定します。

設定範囲	なし、デフォルト（初期設定）、チャイム設定したチャイム名一覧
------	--------------------------------

④ コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると画面上の全設定をコピーします。

貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を他の機器の同じ画面に貼り付けます。

⑤ 初期化ボタン

表示されている選択中機器の音源設定を初期値に戻します。

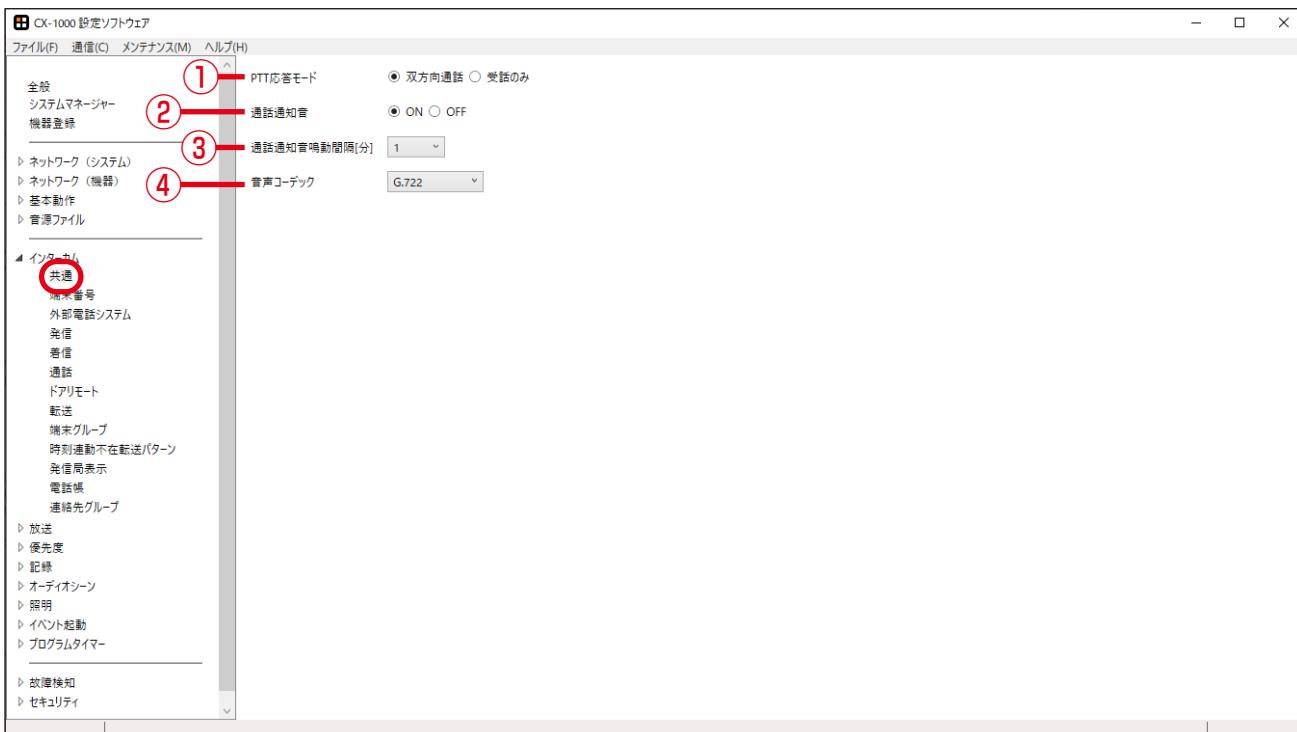
クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

通話の設定

■ 通話全般の設定

● 共通の設定

「インターフェース」→「共通」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
通話に関する共通機能の設定を行います。



① PTT 応答モード

着信時、PTT ボタンを押して応答した直後の応答モードを設定できます。

設定範囲	双方向通話（初期設定）、受話のみ
------	------------------

② 通話通知音

通話中、一定時間ごとに通知音を鳴らすかどうかの設定ができます。

設定範囲	ON、OFF（初期設定）
------	--------------

③ 通話通知音鳴動間隔 [分]（「通話通知音」が「ON」の場合のみ）

通話通知音を鳴らす間隔を選択します。

設定範囲	1（初期設定）、2、3、4、5
------	-----------------

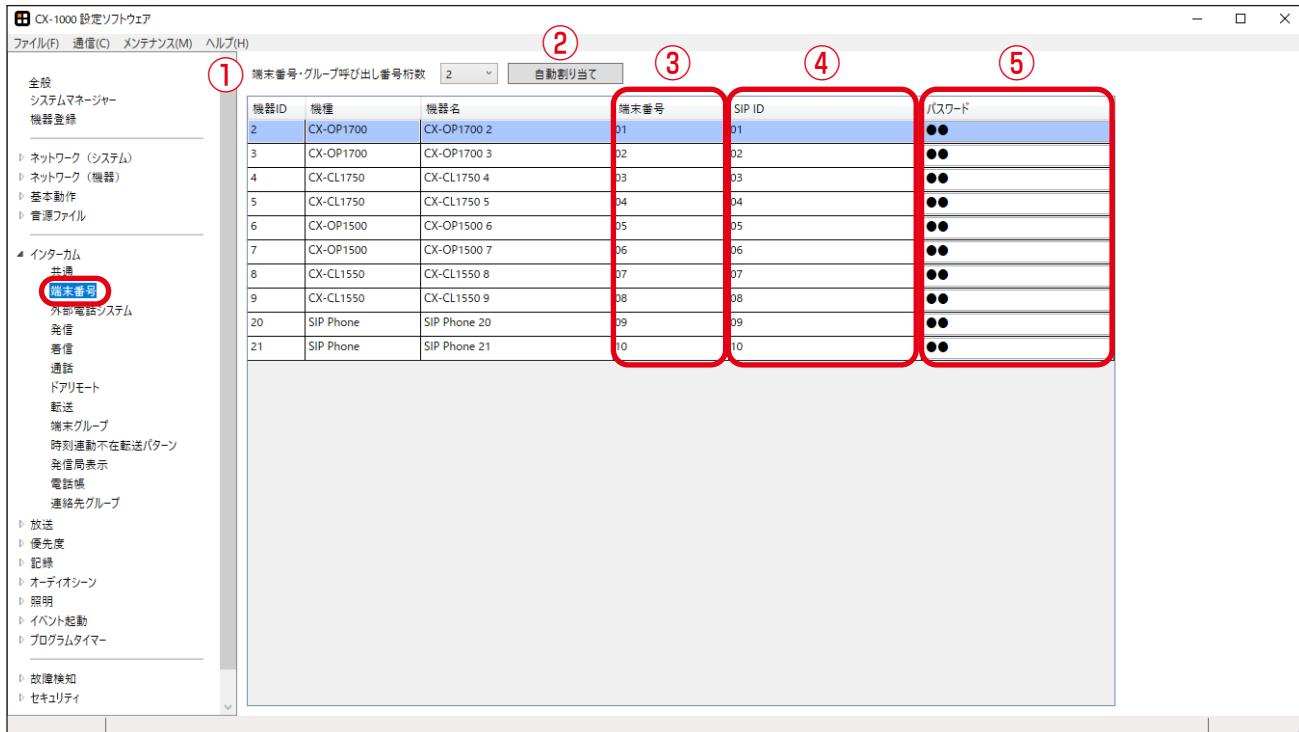
④ 音声コーデック

通話音声の圧縮方式を選択します。

設定範囲	G.711 μ-law、G.711 a-law、G.722（初期設定）
------	-------------------------------------

● 端末番号の設定

「インターラム」→「端末番号」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 端末番号・グループ呼び出し番号桁数

設定範囲	2 ~ 8 (初期設定: 2)
------	-----------------

② 自動割り当てボタン

このボタンをクリックすると、すべての機器の端末番号、SIP ID、パスワードが自動で割り当てられます。設定される値は1から連番で、端末番号、SIP ID、パスワードがすべて同じ値になります。設定した桁数に応じて、入力された番号は自動的に先頭に「0」を追加して補完されます。

ご注意

このボタンをクリックすると、既存の設定がすべて書き換えられます。

③ 端末番号

端末番号・グループ呼び出し番号桁数①で設定した桁数の数字を入力します。
端末番号を入力すると、その機器のSIP IDとパスワードが、設定した端末番号と同じ値になります。
他の端末と重複しないように設定してください。
また、外部電話システムを使用する場合は発信特番と前方一致しないように設定してください。

設定範囲	空欄 (初期設定)、上記①で設定した桁数の数字
------	-------------------------

④ SIP ID（「SIP 設定をカスタマイズする」(P. 2-21) にチェックがある場合のみ)

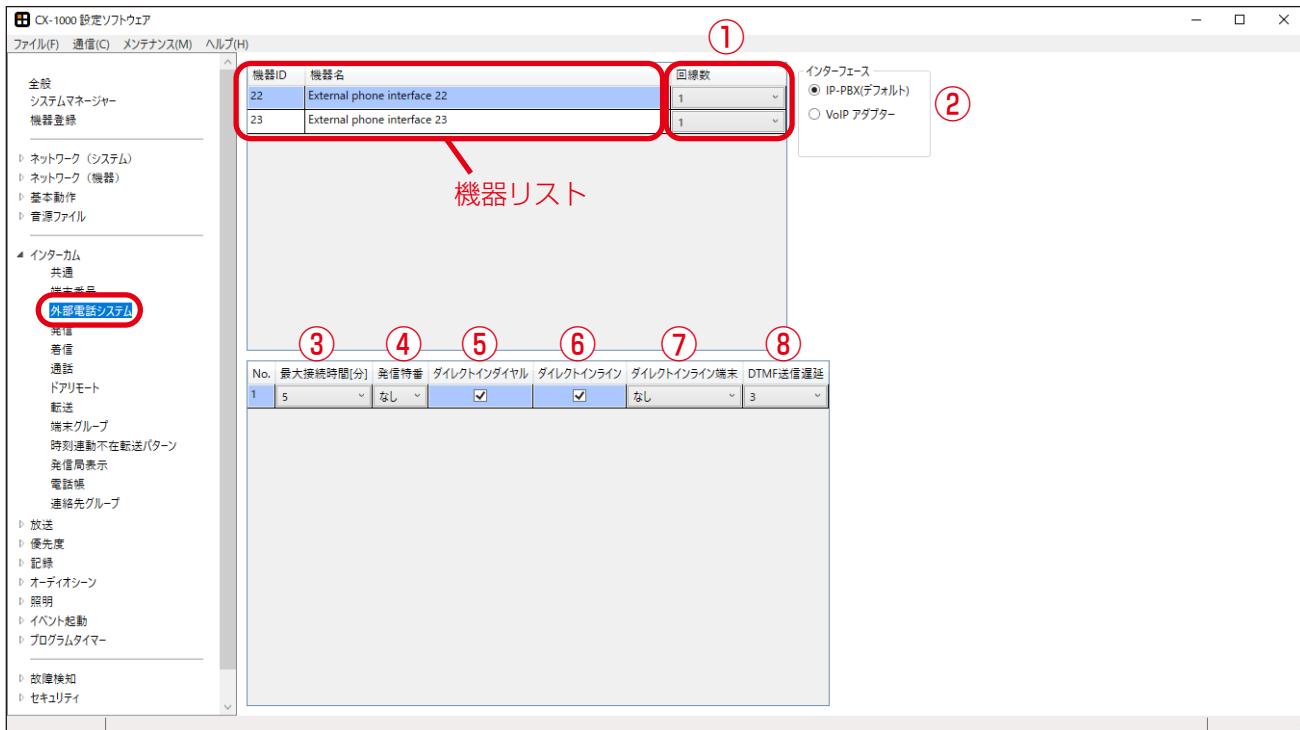
CX-1000シリーズの機器とSIP電話の場合は、端末番号と同一となり、変更できません。
外部電話システムの場合は、個別に変更することができます。

⑤ パスワード（「SIP 設定をカスタマイズする」(P. 2-21) にチェックがある場合のみ）

個別に変更することができます。

■ 外部電話システムの設定

「インターラム」→「外部電話システム」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



③～⑧の設定項目は、機器リストで外部インターフェースを選択し、各機器の回線ごとに設定します。

① 回線数

外部電話インターフェースの回線数を設定します。

設定した回線数に応じて③～⑧の設定項目が表示されます。

設定範囲	1～8（初期設定：1）
------	-------------

② インターフェース

外部電話システムのインターフェース方式を選択します。このパラメーターはシステム内で一意となります。

IP-PBX（デフォルト）：IP-PBX 交換機

VoIP アダプター：VoIP アダプター

設定範囲	IP-PBX（デフォルト）（初期設定）、VoIP アダプター
------	--------------------------------

③ 最大接続時間 [分]

回線ごとの最大接続時間を設定できます。

設定範囲	1～99（初期設定：5）
------	--------------

④ 発信特番

CX-1000 シリーズからこの回線へ発信するときにダイヤルする特番を設定します。

他の端末番号、グループ呼び出し番号と重複しないように設定してください。

また、端末番号、グループ呼び出し番号と前方一致しないように設定してください。

設定範囲	なし（初期設定）、0～9、00～99
------	--------------------

⑤ダイレクトインダイヤル

チェックを入れるとダイレクトインダイヤルの操作が可能になります。(初期設定：チェックあり)

⑥ダイレクトインライン

チェックを入れるとダイレクトインラインの操作が可能になります。(初期設定：チェックあり)

⑦ダイレクトインライン端末

ダイレクトインラインの操作で呼び出す端末を選択します。

設定範囲	なし (初期設定) または端末番号およびグループ呼び出し番号を一覧から選択
------	---------------------------------------

⑧DTMF送信遅延

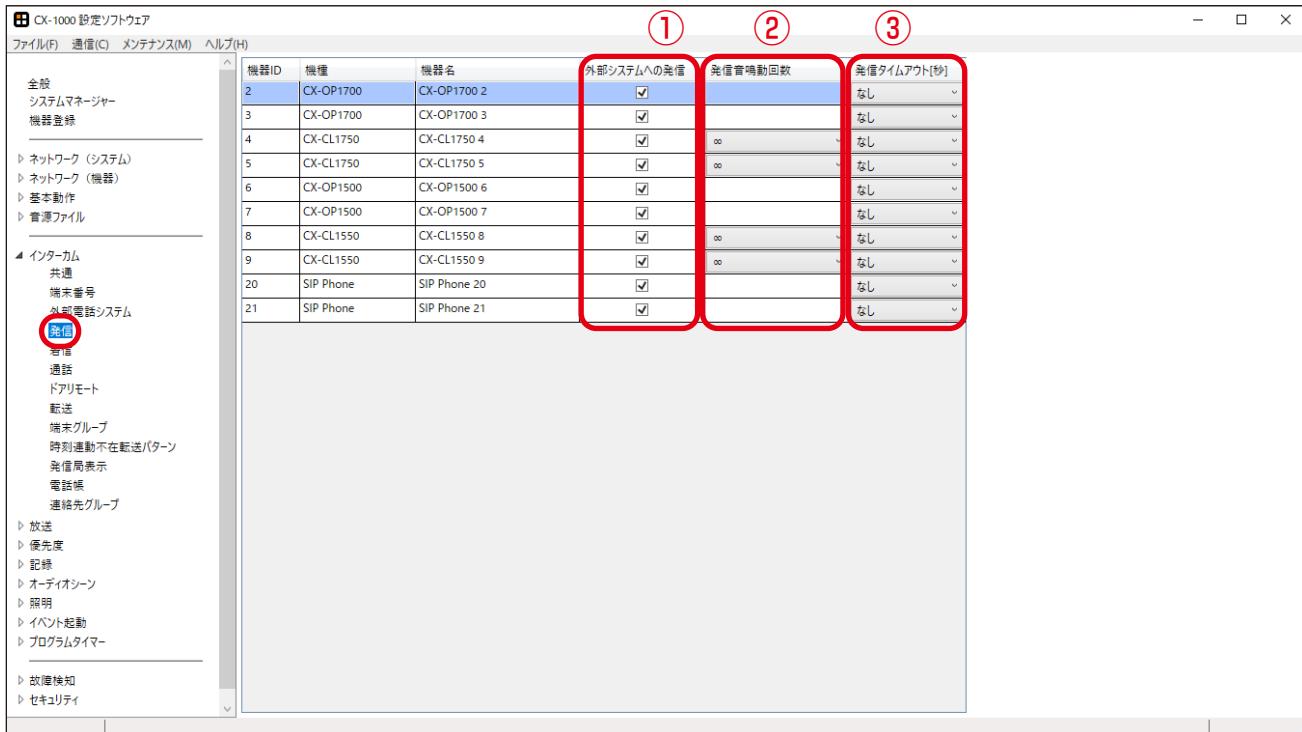
外部電話システム側へ送信する DTMF を遅延させることができます。

設定範囲	0 ~ 9 (1秒単位) (初期設定：3)
------	-----------------------

■ 発信・着信・通話動作の設定

● 発信の設定

「インターラム」→「発信」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 外部システムへの発信

チェックを入れると、外部電話インターフェースへの発信ができます。(初期設定：チェックあり)

② 発信音鳴動回数 (CX-CL1750、CX-CL1550 のみ)

発信音の鳴動回数を設定できます。

設定範囲	1、∞ (初期設定)
------	------------

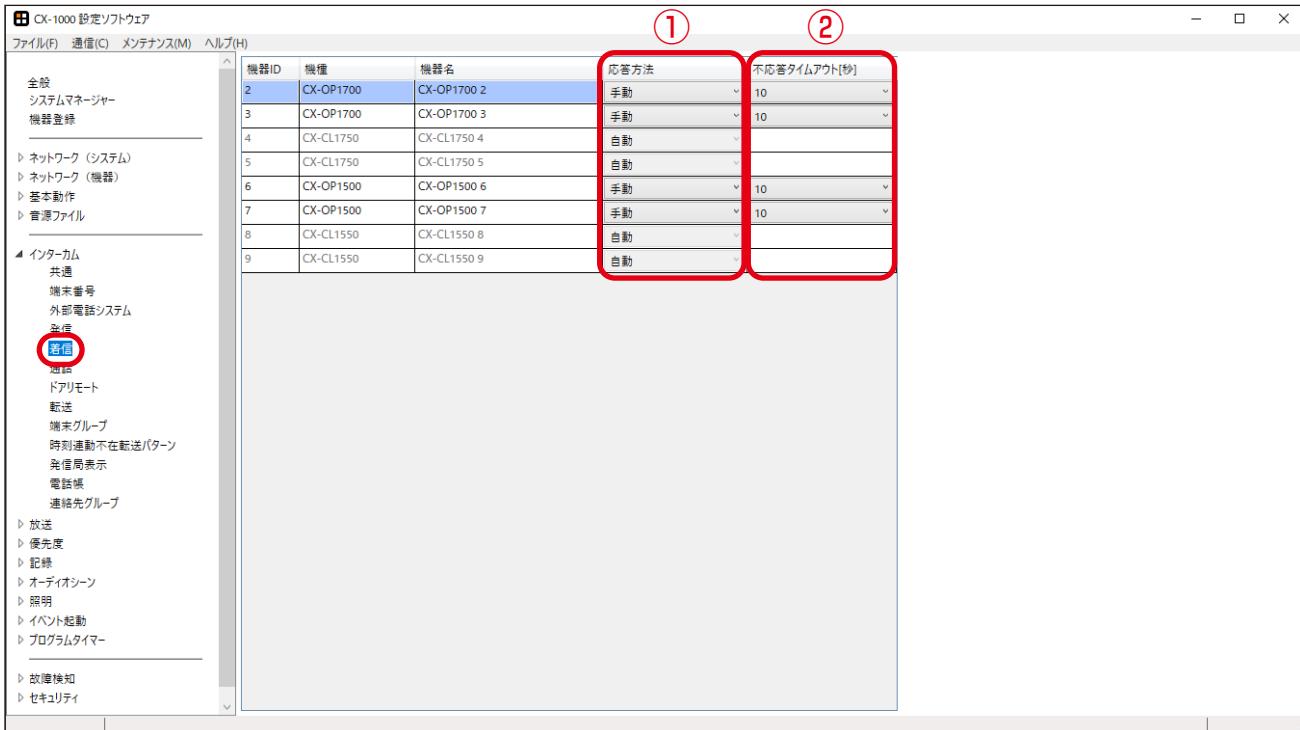
③ 発信タイムアウト [秒]

発信時の制限時間を設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、10 ~ 990 (10 刻み)
------	----------------------------

● 着信の設定

「インターフォン」→「着信」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 応答方法

着信時の端末の応答動作を選択します。

設定範囲	自動、手動（初期設定）
------	-------------

自動：着信があれば短い着信音の後（約1秒間）または無音で即時、自動的に通話状態になります。

手動：手動で応答するまで呼び出し続けます。

ご注意

CX-CL1750、CX-CL1550は「自動」に固定され、変更できません。

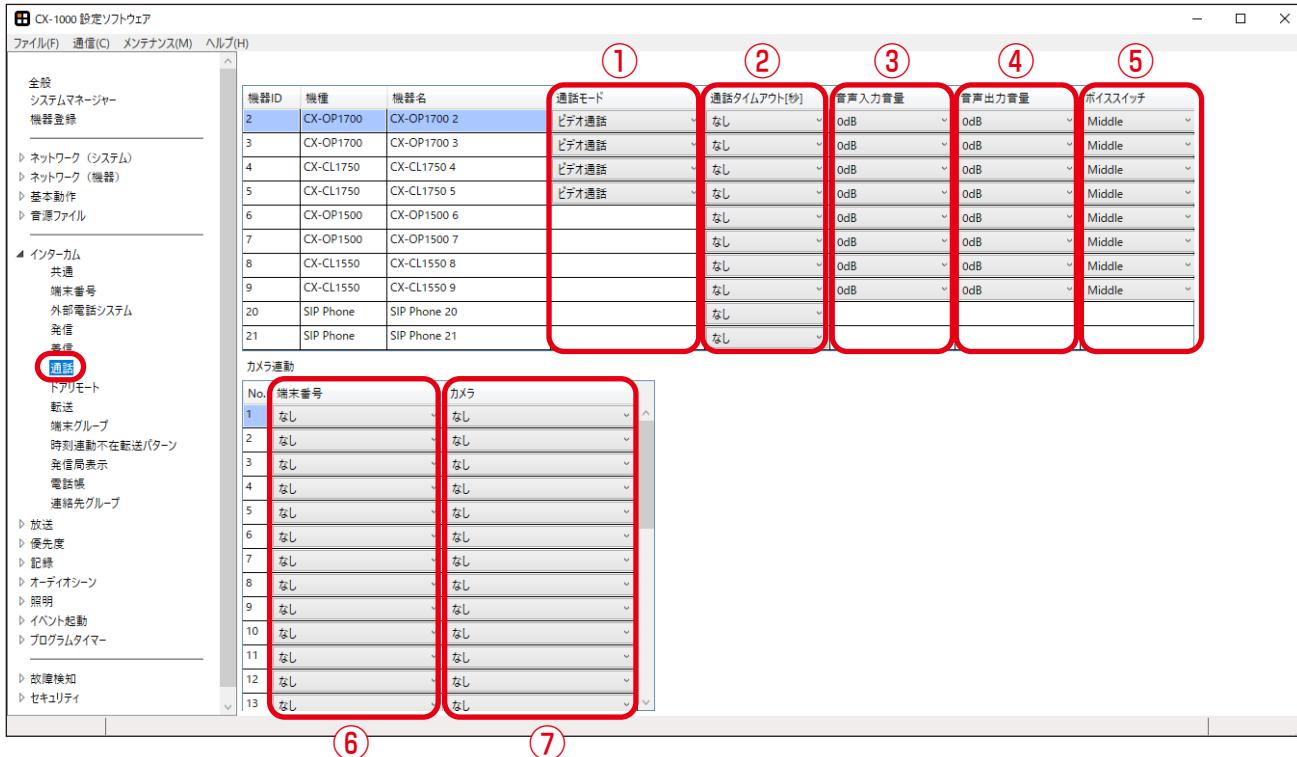
② 不応答タイムアウト [秒] (CX-OP1700/OP1500のみ)

通常着信時に不応答と判定する時間を設定します。

設定範囲	10～180（10刻み）（初期設定：10）
------	-----------------------

● 通話の設定

「インターラム」→「通話」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 通話モード (CX-OP1700/CL1750 のみ)

応答時にビデオ通話をするか、音声のみの通話をするかを設定します。

設定範囲	ビデオ通話 (初期設定)、音声通話
------	-------------------

② 通話タイムアウト [秒]

通話が有効な時間を設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、10 ~ 990 (10 刻み)
------	----------------------------

③ 音声入力音量 (SIP 電話機を除く)

通話時の音声入力の入力ゲインを設定します。

設定範囲	0 dB (初期設定)、-3 dB、-6 dB、-9 dB、-12 dB
------	--------------------------------------

④ 音声出力音量 (SIP 電話機を除く)

通話時の音声出力の出力ゲインを設定します。

設定範囲	0 dB (初期設定)、-3 dB、-6 dB、-9 dB、-12 dB、-15 dB、-18 dB、-21 dB、-24 dB、-27 dB
------	---

⑤ ボイススイッチ (SIP 電話機を除く)

ボイススイッチの感度を設定します。Hard の方が減衰量が大きく、Soft の方が減衰量が小さくなります。

Hard : -10 dB、Middle : -7 dB、Soft : -5 dB

Quick に設定すると、スイッチの切り換えがすばやく行われます。騒音環境下で通話しづらい場合は Quick を使用してください。

設定範囲	Hard、Middle (初期設定)、Soft、Hard (Quick)、Middle (Quick)、Soft (Quick)、OFF
------	--

⑥端末番号 (CX-OP1700 のみ)

選択中の CX-OP1700 との通話中にカメラと連動させる端末を設定します。連動させるカメラは「カメラ」⑦で設定します。カメラ連動を設定した端末との通話中に、CX-OP1700 の液晶画面でカメラ映像を表示することができます。

端末は端末番号で表示されます。端末番号は「インターラム」→「端末番号」(P. 2-52) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、設定された端末の番号
------	----------------------

⑦カメラ (CX-OP1700 のみ)

「端末番号」⑥で設定した端末と連動して動作するカメラを設定します。

カメラは機器名で表示されます。カメラの機器名は「機器登録」(P. 2-9) で登録するときに設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、設定されたカメラ
------	--------------------

■ ドアリモートの設定

「インターラム」→「ドアリモート」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

機器ID	機種	機器名	制御出力先1	制御出力先2	制御出力先3	制御出力先4	制御出力先5
2	CX-OP1700	CX-OP1700 2	なし	なし	なし	なし	なし
3	CX-OP1700	CX-OP1700 3	なし	なし	なし	なし	なし
4	CX-CL1750	CX-CL1750 4	なし	なし	なし	なし	なし
5	CX-CL1750	CX-CL1750 5	なし	なし	なし	なし	なし
6	CX-OP1500	CX-OP1500 6	なし	なし	なし	なし	なし
7	CX-OP1500	CX-OP1500 7	なし	なし	なし	なし	なし
8	CX-CL1550	CX-CL1550 8	なし	なし	なし	なし	なし
9	CX-CL1550	CX-CL1550 9	なし	なし	なし	なし	なし
20	SIP Phone	SIP Phone 20	なし	なし	なし	なし	なし
21	SIP Phone	SIP Phone 21	なし	なし	なし	なし	なし

①制御出力先 1 ~ 5

ドアリモートで制御する制御出力先を制御出力グループから選択します。最大 5 つ設定できます。

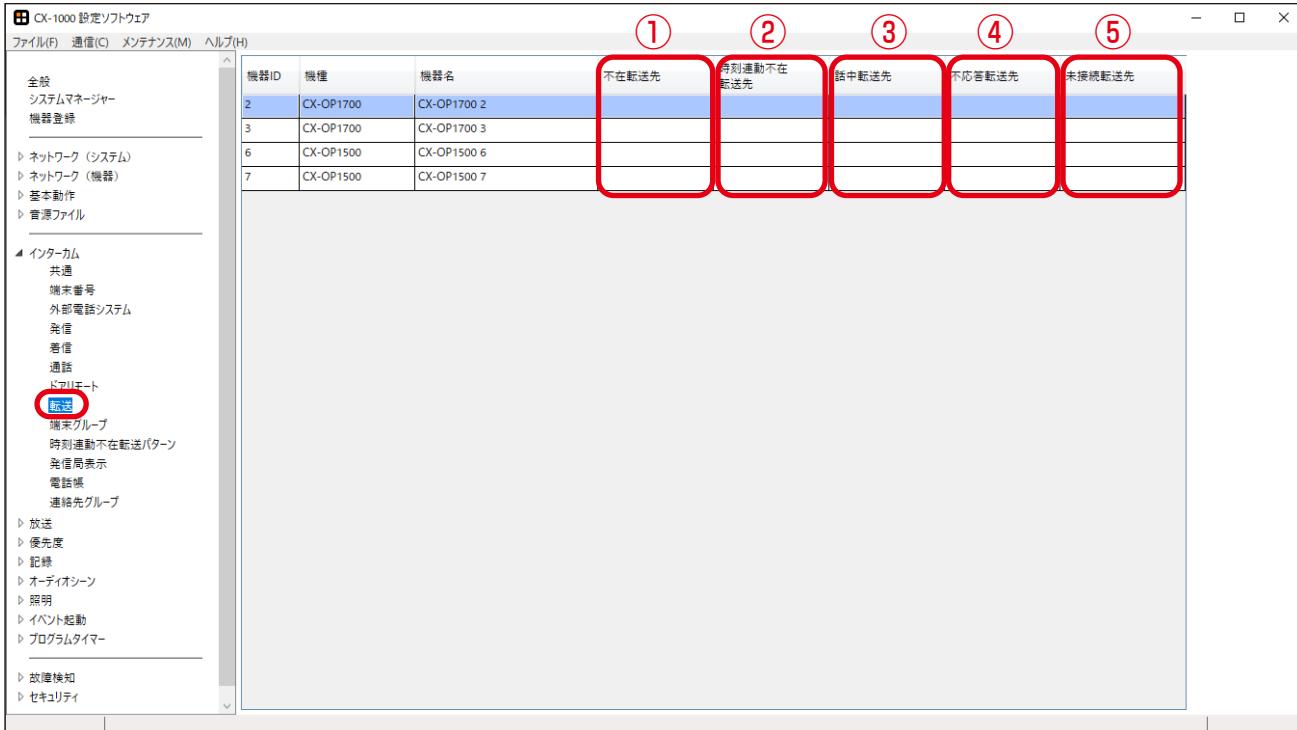
制御出力グループは制御出力グループ名で表示されます。

制御出力グループ名は、「基本動作」→「制御出力グループ」(P. 2-33) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、制御出力グループ一覧
------	----------------------

■ 転送動作の設定

「インターラム」→「転送」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



ご注意

- CX-CL1750/CL1550 の転送は設定できません。
- ここでの転送設定は個別の端末からの転送のみとなります。個別端末からの転送はグループ呼び出し番号に転送できません。端末グループからの転送は、「端末グループ」(P. 2-61) で設定します。
- 転送先に外部電話システムを登録する場合は、外部電話システムに設定した発信特番を入れて登録してください。

① 不在転送先

不在転送先に設定する端末番号を入力します。空欄の場合は、不在転送されません。

設定範囲	空欄 (初期設定)、半角数字、半角記号 ('*'、'#'のみ) 25 文字以内 スペース使用不可
------	---

② 時刻運動不在転送先

時刻運動不在転送先に設定する端末番号を入力します。空欄の場合は、時刻運動不在転送されません。時刻運動不在転送の詳細な設定は、「時刻運動不在転送パターン」(P. 2-63) および、「デイリープログラム」(P. 2-148) で設定します。

設定範囲	空欄 (初期設定)、半角数字、半角記号 ('*'、'#'のみ) 25 文字以内 スペース使用不可
------	---

③ 話中転送先

話中転送先に設定する端末番号を入力します。空欄の場合は、話中転送されません。

設定範囲	空欄 (初期設定)、半角数字、半角記号 ('*'、'#'のみ) 25 文字以内 スペース使用不可
------	---

④不応答転送先

不応答転送先に設定する端末番号を入力します。空欄の場合は、不応答転送されません。不応答と判断されるまでの時間は、「着信」(P. 2-56)で設定します。

設定範囲	空欄（初期設定）、半角数字、半角記号（「*」、「#」のみ）25文字以内 スペース使用不可
------	---

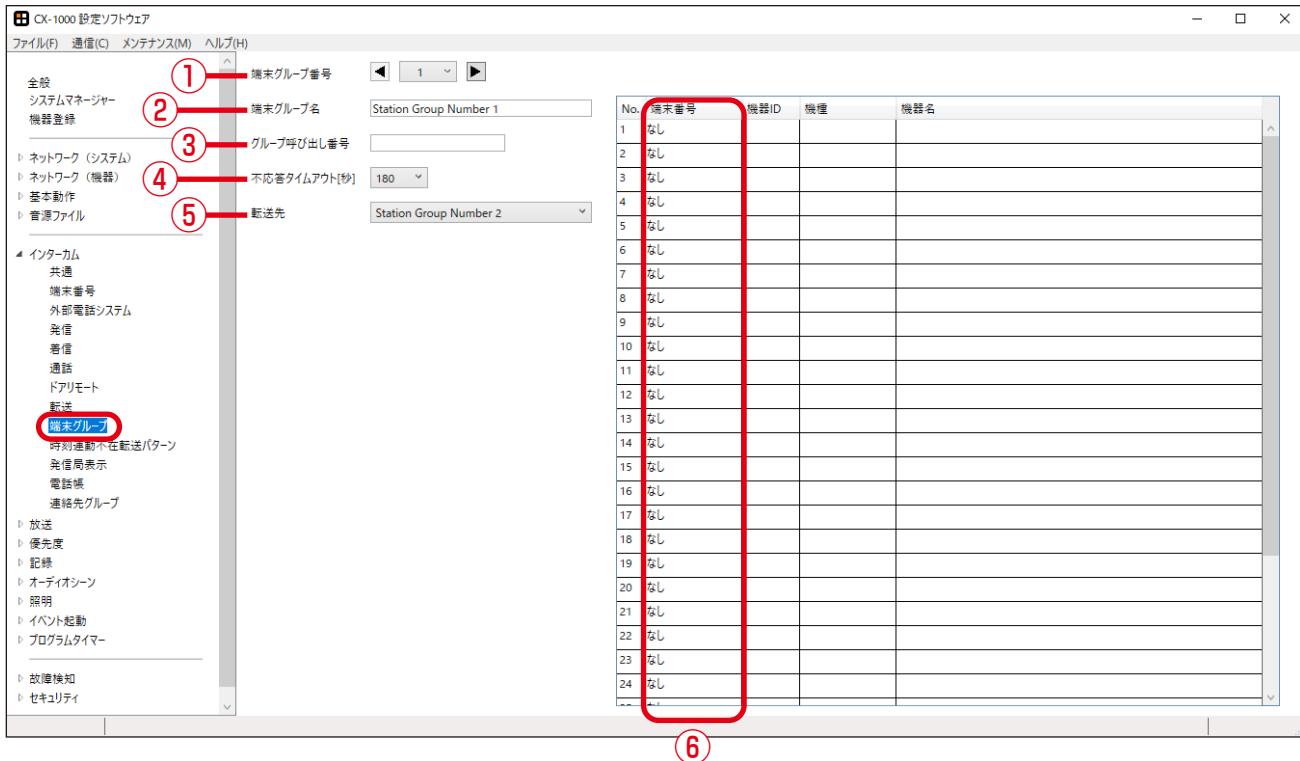
⑤未接続転送先

未接続転送先に設定する端末番号を入力します。空欄の場合は、未接続転送されません。

設定範囲	空欄（初期設定）、半角数字、半角記号（「*」、「#」のみ）25文字以内 スペース使用不可
------	---

■ 端末グループの設定

「インターフェース」→「端末グループ」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 端末グループ番号

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、設定する端末グループの番号を選択します。最大1000 グループを設定できます。

② 端末グループ名

端末グループの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内（初期設定：Station Group Number + No.）
------	--

③ グループ呼び出し番号

選択中の端末グループを呼び出すときの番号を入力します。

他の端末番号、グループ呼び出し番号と重複しないように設定してください。

また、発信特番と前方一致しないように設定してください。

設定範囲	空欄（初期設定）、端末番号・グループ番号桁数（P 2-52）で設定された桁の 0～9 を使用した数字
------	--

④ 不応答タイムアウト [秒]

通常着信時に不応答と判定する時間を選択します。

設定範囲	10～180（10 刻み）（初期設定：180）
------	-------------------------

⑤ 転送先

転送先の端末グループを選択します。「なし」の場合は、転送されません。

設定範囲	なし（初期設定）、端末グループ名一覧（自グループを除く）
------	------------------------------

⑥端末番号

選択中の端末グループに登録する端末の番号を選択します。端末番号を選択すると、その端末の機器 ID、機種、端末名が表示されます。

設定範囲	なし（初期設定）、システムに登録されている CX-OP1500、CX-OP1700 および SIP 電話機の端末番号一覧
------	--

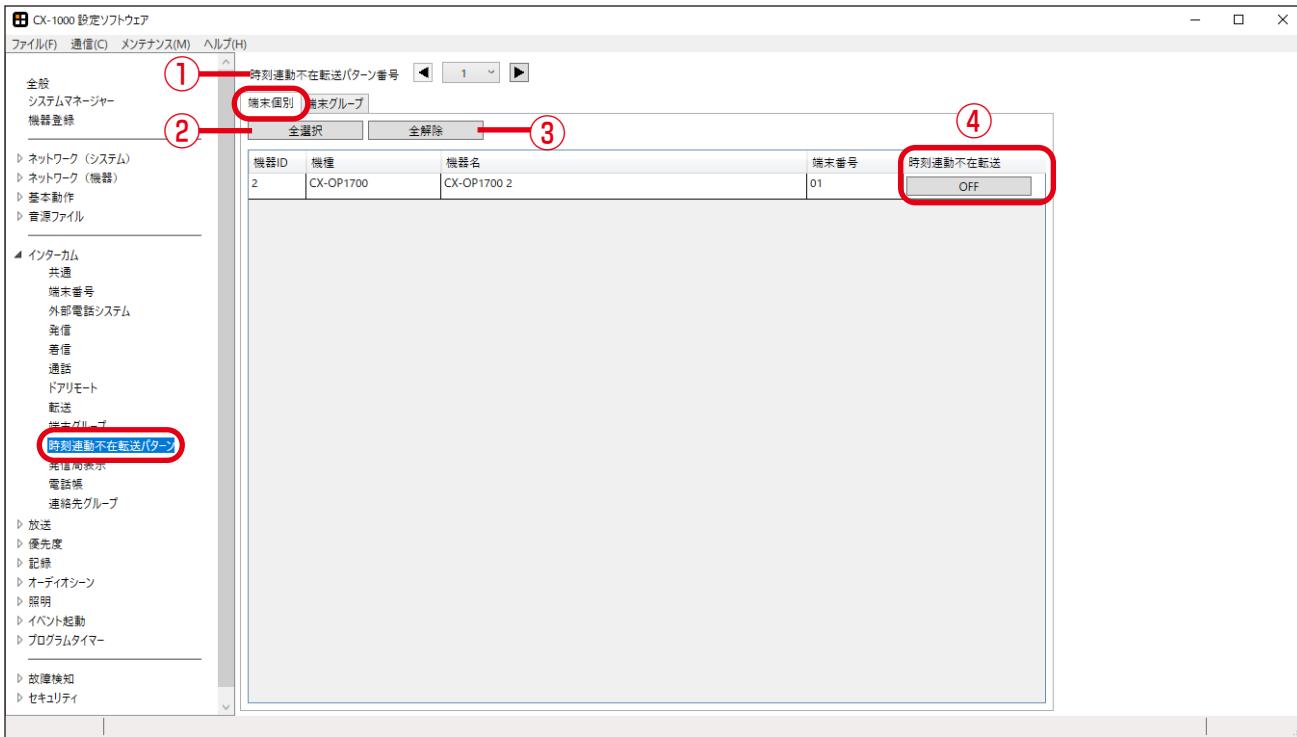
ご注意

自動応答をする SIP 電話機は登録しないでください。

■ 時刻連動不在転送パターンの設定

「インターラム」→「時刻連動不在転送パターン」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

〔「端末個別」タブ選択時〕



① 時刻連動不在転送パターン番号

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、設定する時刻連動不在転送パターンの番号を選択します。最大8パターンを設定できます。

機器ごとに登録したい場合は、「端末個別」タブを選択します。

端末グループごとに登録したい場合は、「端末グループ」タブを選択します。

② 全選択ボタン

このボタンをクリックすると、機器一覧にある全機器の「時刻連動不在転送」④をONにすることができます。

③ 全解除ボタン

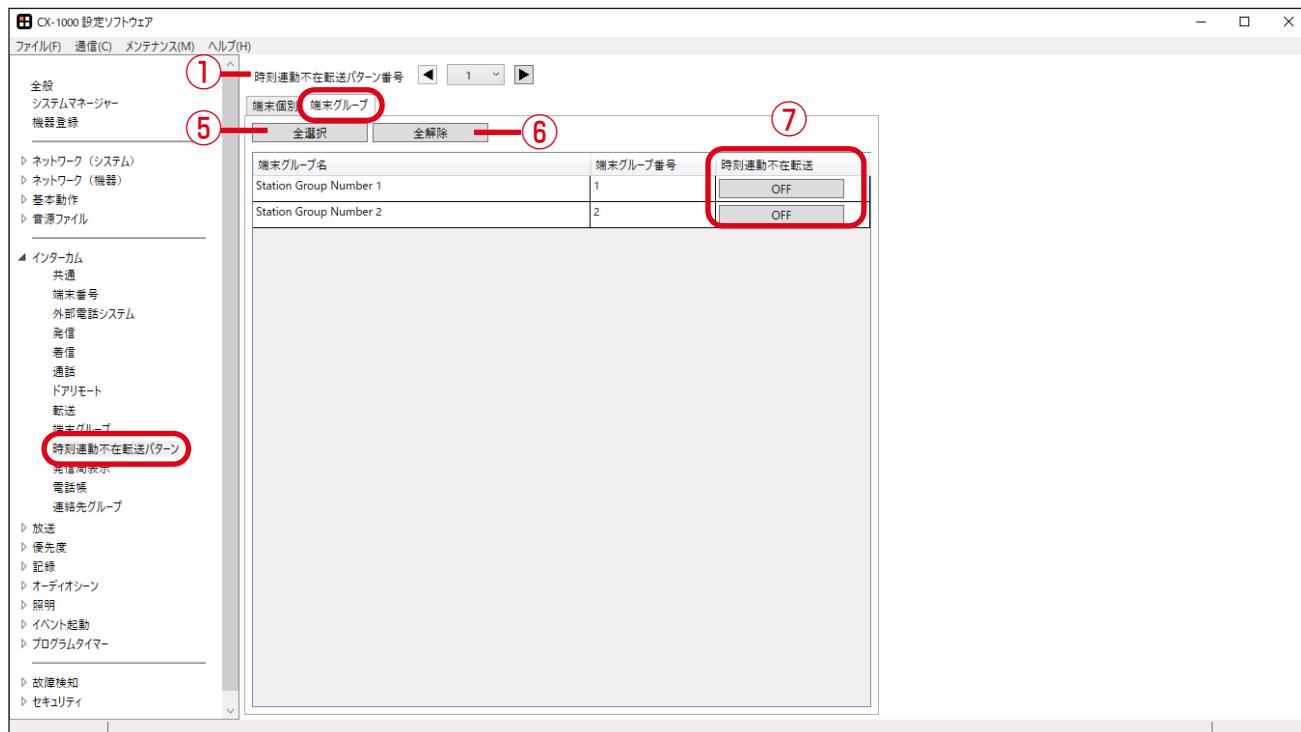
このボタンをクリックすると、機器一覧にある全機器の「時刻連動不在転送」④をOFFにすることができます。

④ 時刻連動不在転送

機器ごとに時刻連動不在転送機能のON/OFFを切り替えます。(初期設定: OFF)

「転送」の設定で、時間連動不在転送の転送先を設定している機器のみリストに表示されます。

[「端末グループ」タブ選択時]

**① 時刻運動不在転送パターン番号**

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、設定する時刻運動不在転送パターンの番号を選択します。最大8パターンを設定できます。

機器ごとに登録したい場合は、「機器個別」タブを選択します。

端末グループごとに登録したい場合は、「端末グループ」タブを選択します。

⑤ 全選択ボタン

このボタンをクリックすると、機器一覧にある全グループの「時刻運動不在転送」⑦をONにすることができます。

⑥ 全解除ボタン

このボタンをクリックすると、機器一覧にある全グループの「時刻運動不在転送」⑦をOFFにすることができます。

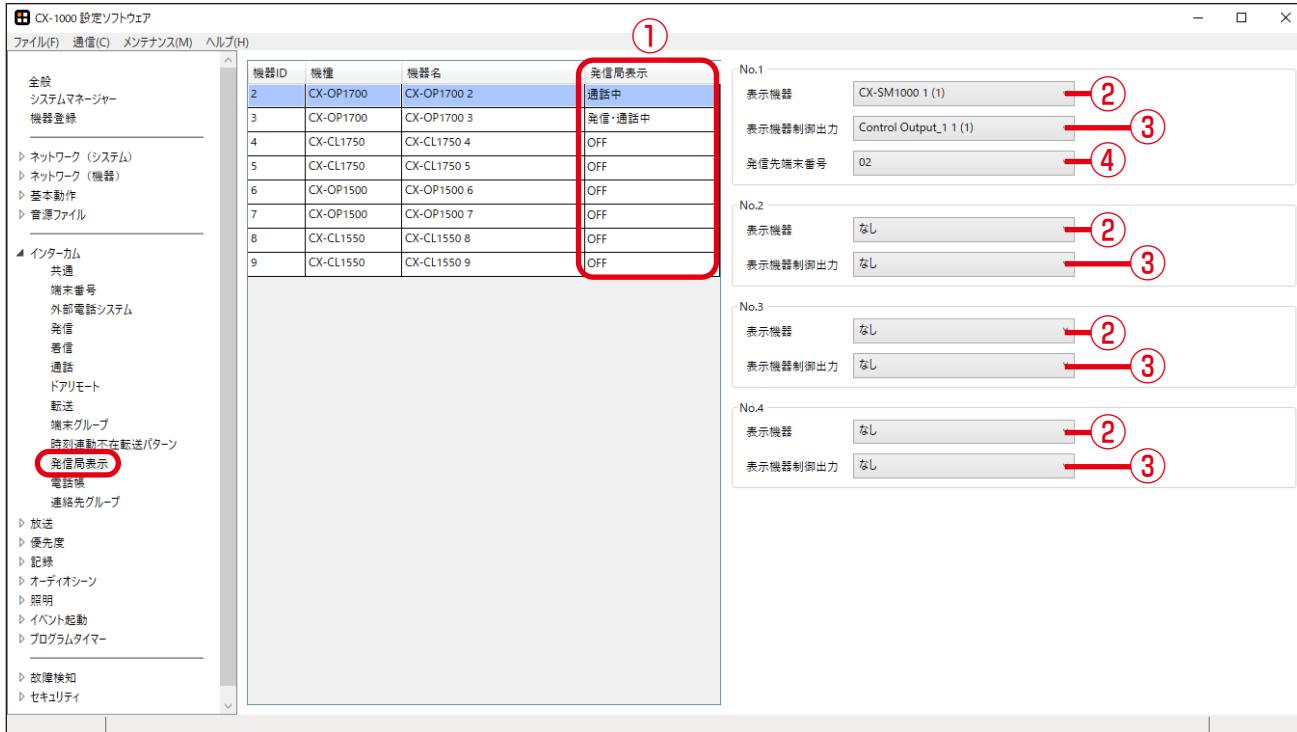
⑦ 時刻運動不在転送

端末グループごとに時刻運動不在転送機能のON/OFFを切り替えます。(初期設定: OFF)

「端末グループ」で、転送先を設定している端末グループのみリストに表示されます。

■ 発信局表示の設定

「インターラム」→「発信局表示」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 発信局表示

発信局表示を使用するかどうか、使用する場合はどんなときに表示するかを選択します。

「通話中」または「発信・通話中」を選択すると、選択中の機器の発信局表示の設定ができるようになります。

設定範囲	OFF (初期設定)、通話中、発信・通話中
------	-----------------------

② 表示機器（「発信局表示」を「通話中」または「発信・通話中」に設定したときのみ）

④で設定した端末番号に発信時、制御出力連動する機器を選択します。

設定範囲	なし (初期設定)、制御出力を持つ CX-1000 シリーズ機器一覧
------	------------------------------------

③ 表示機器制御出力（「発信局表示」を「通話中」または「発信・通話中」に設定したときのみ）

②で設定した機器の制御出力名を選択します。

設定範囲	なし (初期設定)、発信局表示先機器が持つ制御出力 No. 一覧
------	----------------------------------

ご注意

音声出力（P. 2-31）の「ATT 制御」にチェックを入れている場合は、選択できません。（CX-PA1120/PA1240 のみ）

④ 発信先端末番号（「表示機器」を「なし」以外に設定したときのみ）

機器一覧で選択中の機器が発信局表示をする端末番号を選択します。最大 4 つ設定できます。

設定範囲	なし (初期設定)、端末番号一覧 (自端末以外)
------	--------------------------

■ 電話帳の設定 (CX-OP1700 使用時のみ)

「インターラム」→「電話帳」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



機器ごとに最大 1000 の連絡先を電話帳に登録できます。

① 端末

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、電話帳の設定をする端末を選択します。

設定範囲	システムに登録されている CX-OP1700
------	------------------------

② 連絡先名

連絡先の名称を設定します。

設定範囲	空欄 (初期設定)、全角・半角にかかわらず 32 文字以内
------	-------------------------------

③ 番号

連絡先の番号を入力します。

設定範囲	空欄 (初期設定)、半角数字 25 文字以内、スペース使用不可
------	---------------------------------

④ 連絡先グループ

選択中の端末が所属する連絡先グループを選択します。

設定範囲	連絡先グループ一覧 (初期設定: 最初の連絡先グループ)
------	------------------------------

ご注意

連絡先グループの設定 (P. 2-68) も必ず行ってください。

連絡先グループの設定を行っていないと、CX-OP1700 の液晶画面に電話帳が表示されません。

⑤ メモ

必要に応じて入力します。

設定範囲	空欄 (初期設定)、全角・半角にかかわらず 100 文字以内
------	--------------------------------

⑥ コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると選択中の機器の電話帳の全設定をコピーします。

他の機器を選択し、貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を選択中の機器に貼り付けます。

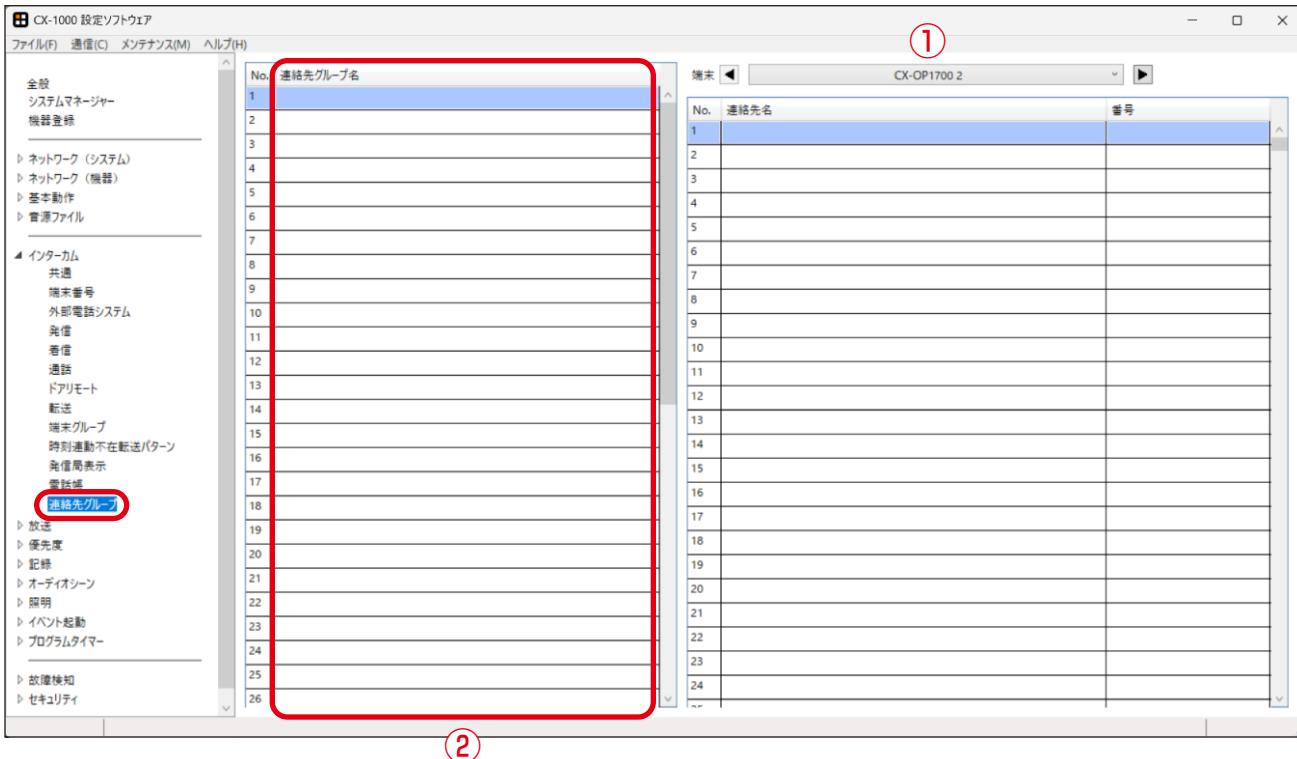
⑦ 初期化ボタン

選択中の機器の電話帳のすべての設定を初期設定に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

■ 連絡先グループの設定 (CX-OP1700 使用時のみ)

「インターフェース」→「連絡先グループ」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



端末共通で使用する連絡先グループを最大 50 グループ設定できます。

左側で連絡先グループを選択すると、右側に「電話帳」(P. 2-66) で設定した所属端末が表示されます。

① 端末

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、設定する端末を選択します。

設定範囲	システムに登録されている CX-OP1700
------	------------------------

② 連絡先グループ名

CX-OP1700 の電話帳に登録するときの連絡先グループの名称を設定します。

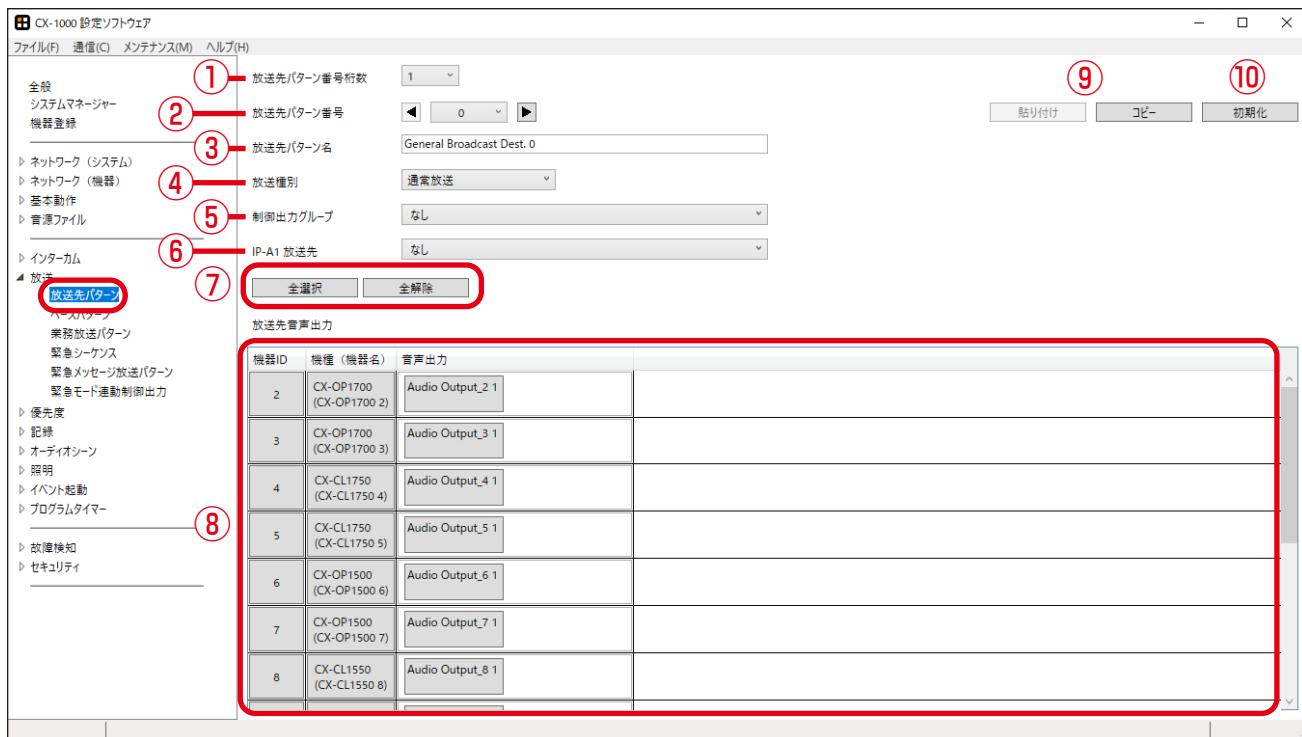
設定範囲	空欄 (初期設定)、全角・半角にかかわらず 32 文字以内
------	-------------------------------

放送の設定

■ 放送全体の設定

● 放送先パターンの設定

「放送」→「放送先パターン」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



放送先のパターンを設定します。

① 放送先パターン番号桁数

放送先パターン総数の桁数を設定します。

設定範囲	1 (初期設定)、2、3
------	--------------

② 放送先パターン番号

放送先パターン番号桁数①の設定に応じた総数のパターン番号が表示されます。

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、放送先パターン番号を選択します。

設定範囲	桁数の設定が1のとき：0～9 桁数の設定が2のとき：00～99 桁数の設定が3のとき：000～999
------	--

③ 放送先パターン名

放送先パターンの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず32文字以内 (初期設定：General Broadcast Dest. + No.)
------	--

④放送種別

放送の種別を設定します。

設定範囲	通常放送（初期設定）、広域放送
------	-----------------

ご注意

- 放送先が200台または500回線を超える場合は広域放送に設定してください。
- 広域放送に設定した放送先パターンはローカル放送に使用できません。

メモ

放送先が200台または500回線以下でも、広域放送は選択可能です。

⑤制御出力グループ

放送中に連動する制御出力グループを選択します。

設定範囲	なし（初期設定）、制御出力グループ一覧
------	---------------------

ご注意

放送先が1つも設定されていない場合、制御出力グループは「なし」に固定となります。

⑥IP-A1放送先（「放送種別」が「広域放送」のときのみ）

IP-A1シリーズのマルチキャストアドレスを選択します。

設定範囲	なし（初期設定）、IP-A1シリーズマルチキャストアドレス名一覧
------	----------------------------------

⑦全選択ボタンと全解除ボタン（「運用モード」が「一般向け」のとき、および「運用モード」が「学校向け」のときに「学校向け」→「プリセット」でチェックが入っていない放送パターンのみ）

全選択ボタンをクリックすると、放送先音声出力⑧に表示されているすべての音声出力先ボタンが選択されます。全解除ボタンをクリックするとすべての音声出力先ボタンの選択が解除されます。すべての音声出力先ボタンが選択された状態で個別の音声出力先ボタンをクリックすると、クリックしたボタンの選択が解除されます。

⑧放送先音声出力（「運用モード」が「一般向け」のとき、および「運用モード」が「学校向け」のときに「学校向け」→「プリセット」でチェックが入っていない放送先パターンのみ）

音声の出力先を選択します。

「音声出力」列のボタンをクリックすると、選択または解除できます。「機器ID」または「機種（機器名）」列のボタンをクリックすると、選択した機器のすべての音声出力を選択または解除できます。

設定範囲	音声出力（初期設定：すべて未選択）
------	-------------------

⑨コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、表示されている放送先パターン番号の「放送先パターン名」③以外の全設定をコピーします。

貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を他の放送先パターン番号の同じ画面に貼り付けています。

⑩初期化ボタン

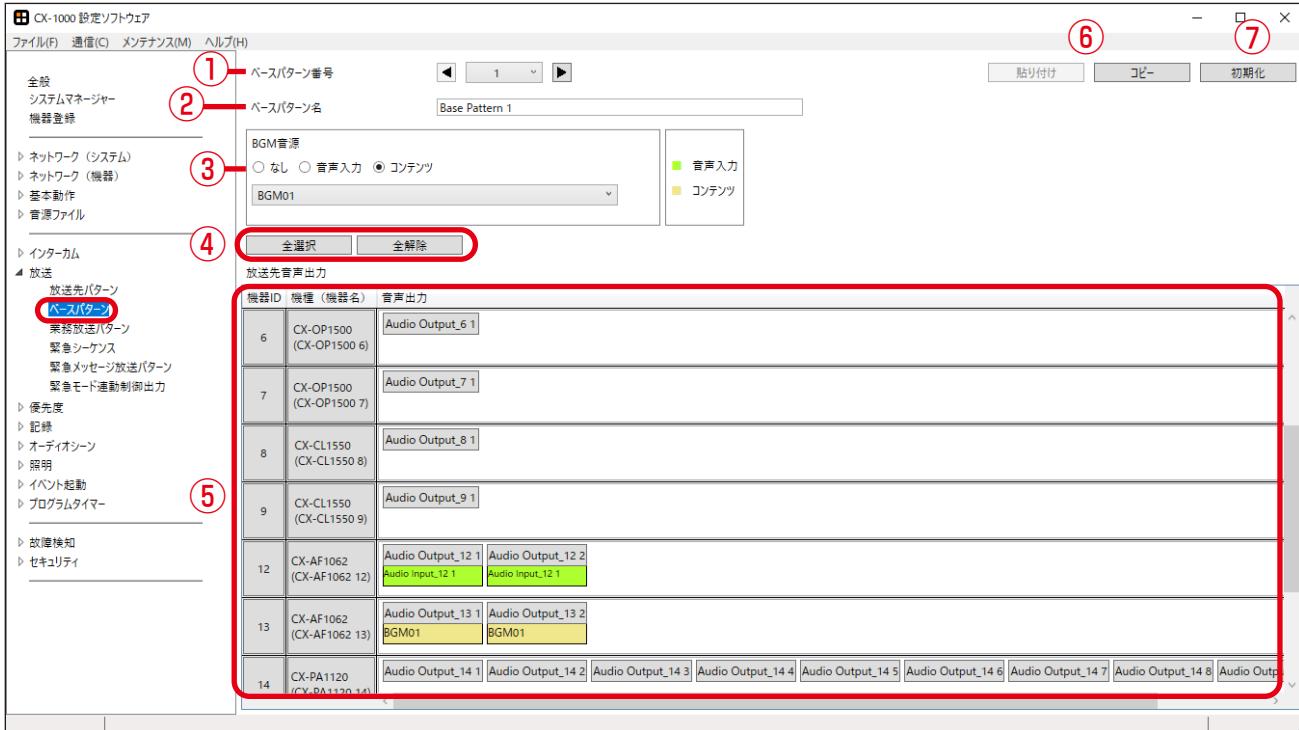
表示されている放送先パターン番号の、放送先パターン名③以外の全設定を初期値に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OKボタンをクリックしてください。

■ 業務放送の設定

● ベースパターンの設定

「放送」→「ベースパターン」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



ベースパターンを設定します。

① ベースパターン番号

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、ベースパターン番号を選択します。最大 50 のベースパターンを設定できます。

② ベースパターン名

ベースパターンの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内 (初期設定 : Base Pattern + No.)
------	---

③ BGM 音源

音源のタイプをラジオボタンで選択し、プルダウンメニューから音源を選択します。

「基本動作」→「音声入力」の用途を BGM に設定した音声入力 (P. 2-28) と、「音源ファイル」→「コンテンツ」の用途を BGM に設定したコンテンツ (P. 2-45) を選択できます。

設定範囲	なし (初期設定)、音声入力、コンテンツ
------	----------------------

④ 全選択ボタンと全解除ボタン

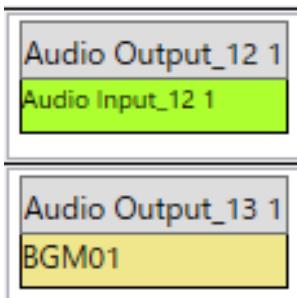
全選択ボタンをクリックすると、音声出力 ON/OFF ボタン欄⑤に表示されているすべての音声出力ボタンに対して、BGM 音源③に表示されている音源が設定されます。全解除ボタンをクリックするとすべての音声出力 ON/OFF ボタンの設定が解除されます。

⑤音声出力 ON/OFF ボタン

BGM 音源③で選択した音源を使用する放送先を CX-1000 シリーズ機器の音声出力から選択します。音声出力名の下側のボックスに音源名を表示することができます。音源名が表示されると、ボックスの色が変わります。音源が「音声入力」のときは緑色、音源が「コンテンツ」のときは黄色になります。「機器 ID」または「機種（機器名）」列のボタンをクリックすると、選択した機器のすべての音声出力を選択または解除できます。

設定範囲	ON、OFF（初期設定）
------	--------------

【「ON」に設定したとき】



ご注意

音源を削除するときは、BGM 音源③で「なし」を選択した後、ボタンをクリックするか、同じ音源を選択したまま、再度ボタンをクリックします。

⑥コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、表示されているベースパターン番号の「ベースパターン名」②以外の全設定をコピーします。

貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を他のベースパターン番号の同じ画面に貼り付けています。

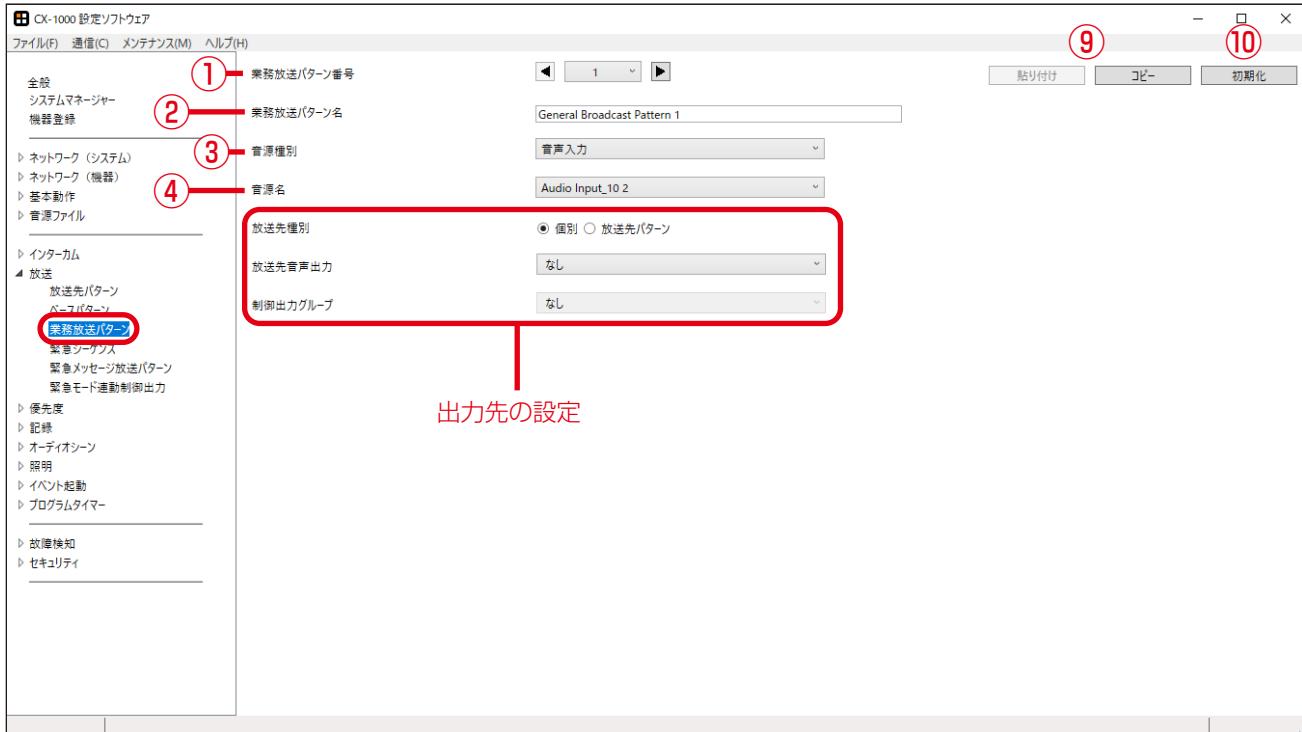
⑦初期化ボタン

表示されているベースパターン番号の、ベースパターン名②以外の全設定を初期値に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

● 業務放送パターンの設定

「放送」→「業務放送パターン」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



出力先の設定は放送先種別の選択により、設定項目が異なります。

[放送先種別を「個別」に設定したとき]

⑤ 放送先種別	<input checked="" type="radio"/> 個別 <input type="radio"/> 放送先パターン
⑥ 放送先音声出力	なし
⑦ 制御出力グループ	なし

[放送先種別を「放送先パターン」に設定したとき]

⑤ 放送先種別	<input type="radio"/> 個別 <input checked="" type="radio"/> 放送先パターン
⑧ 放送先パターン	なし

業務放送パターンを設定します。

① 業務放送パターン番号

ブルダウントメニューまたは矢印ボタンをクリックして、業務放送パターン番号を選択します。最大1000の業務放送パターンを設定できます。

② 業務放送パターン名

業務放送パターンの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず32文字以内（初期設定：General Broadcast Pattern + No.）
------	---

③ 音源種別

業務放送パターンに使用する音源の種別を選択します。

設定範囲	なし（初期設定）、音声入力、コンテンツ、チャイム
------	--------------------------

ご注意

「なし」を選択すると、以降の項目は表示されません。

④音源

音声入力に使用する音源を選択します。

設定範囲	[音源種別③が「音声入力」の場合] 音声入力の設定 (P. 2-28) で「用途」が「業務」または「BGM」に設定されたCX-AF1062/PA1120/PA1240 の音声入力および CX-RM1700 の AUX [音源種別③が「コンテンツ」の場合] コンテンツの設定 (P. 2-45) で「用途」が「業務」または「BGM」に設定されたコンテンツの一覧 [音源種別③が「チャイム」の場合] チャイム設定 (P. 2-48) で設定したチャイム一覧 (初期設定：なし)
------	--

⑤放送先種別

放送先として個別の音声出力を選択するか、放送先パターンを選択するかを選択します。

設定範囲	個別（初期設定）、放送先パターン
------	------------------

⑥放送先音声出力（放送先種別⑤を「個別」に設定したときのみ）

各機器の音声出力から選択します。

設定範囲	なし（初期設定）、各音声出力一覧
------	------------------

⑦制御出力グループ（放送先種別⑤を「個別」に設定し、放送音声出力⑥を「なし」以外に設定したときのみ）

放送と連動する制御出力グループを選択します。

設定範囲	なし（初期設定）、制御出力グループ一覧
------	---------------------

⑧放送先パターン（放送先種別⑤を「放送先パターン」に設定したときのみ）

放送先パターンを選択します。

設定範囲	放送先パターン一覧（初期設定：なし）
------	--------------------

⑨コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、表示されている業務放送パターン番号の「業務放送パターン名」②以外の全設定をコピーします。

貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を他の業務放送パターン番号の同じ画面に貼り付けます。

⑩初期化ボタン

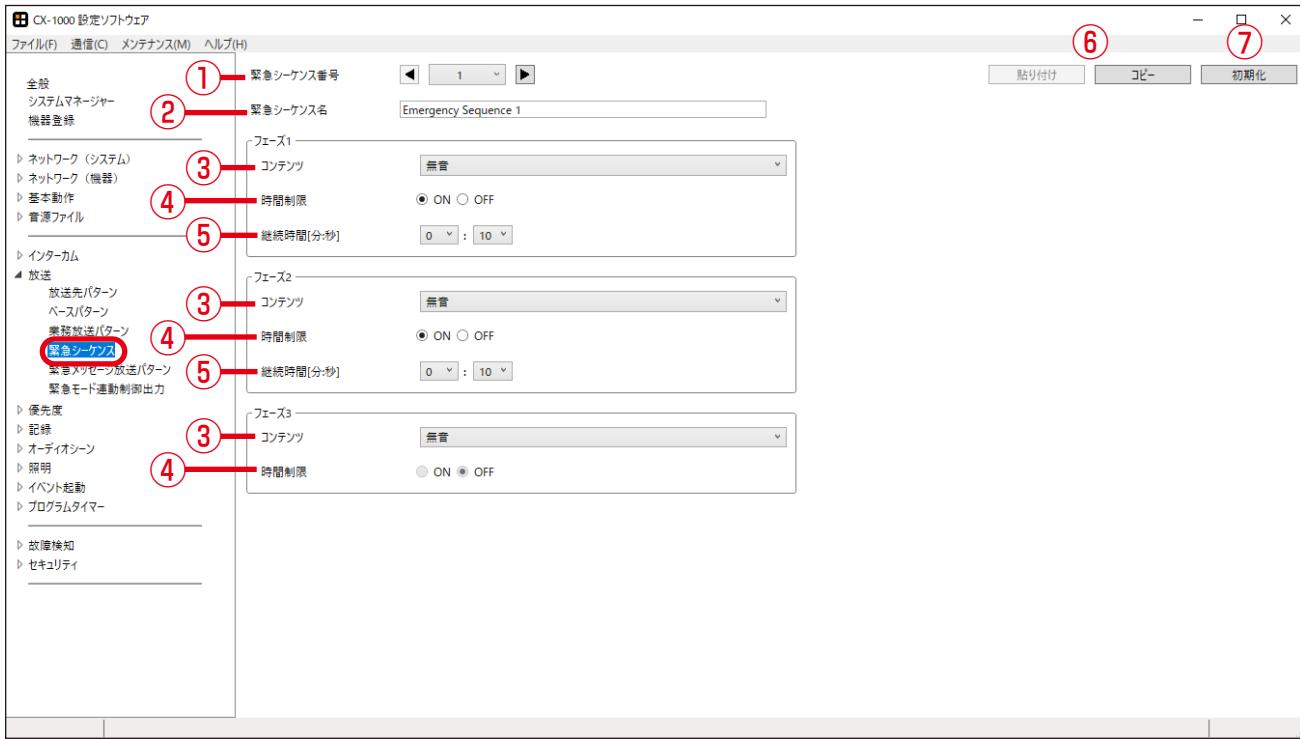
表示されている業務放送パターン番号の、業務放送パターン名②以外の全設定を初期値に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

■ 緊急放送の設定（緊急モードが「有効」のときのみ）

● 緊急シーケンスの設定

「放送」→「緊急シーケンス」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



緊急シーケンスを設定します。

[メモ]

フェーズ2は、フェーズ1の「時間制限」④を「ON」に設定したときのみ表示されます。

また、フェーズ3は、フェーズ2の「時間制限」④を「ON」に設定したときのみ表示されます。

①緊急シーケンス番号

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、緊急シーケンス番号を選択します。最大 100 の緊急シーケンスを設定できます。

②緊急シーケンス名

緊急シーケンスの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内 (初期設定 : Emergency Sequence + No.)
------	---

③コンテンツ

各フェーズ（1～3）用のコンテンツを選択します。

「警報」または「避難」の用途に設定されたコンテンツが選択可能です。

選択されたコンテンツの「用途」が右側のコンテンツボックスに表示されます。

設定範囲	無音 (初期設定)、用途が警報または避難のコンテンツ一覧
------	------------------------------

④時間制限

次のフェーズに切り換わるまでの時間制限を設けるかどうかを設定します。設ける場合は「ON」に、設けない場合は「OFF」に設定します。

設定範囲	ON、OFF（初期設定）
------	--------------

ご注意

- 「OFF」に設定すると、継続時間⑥は設定できません。
- 「OFF」に設定すると、それ以降のフェーズ設定はできません。
- フェーズ3の時間制限は「OFF」固定です。

⑤継続時間 [分：秒]

次のフェーズに切り換わるまでの時間制限を分数と秒数で設定します。

設定範囲	分設定：0～20（1刻み）（初期設定：0） 秒設定：0、10（初期設定）、20、30、40、50
------	---

ご注意

分設定が「0」の場合は、秒設定を「0」に設定できません。

⑥コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、表示されている緊急シーケンス番号の「緊急シーケンス名」②以外の全設定をコピーします。

貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を他の緊急シーケンス番号の同じ画面に貼り付けています。

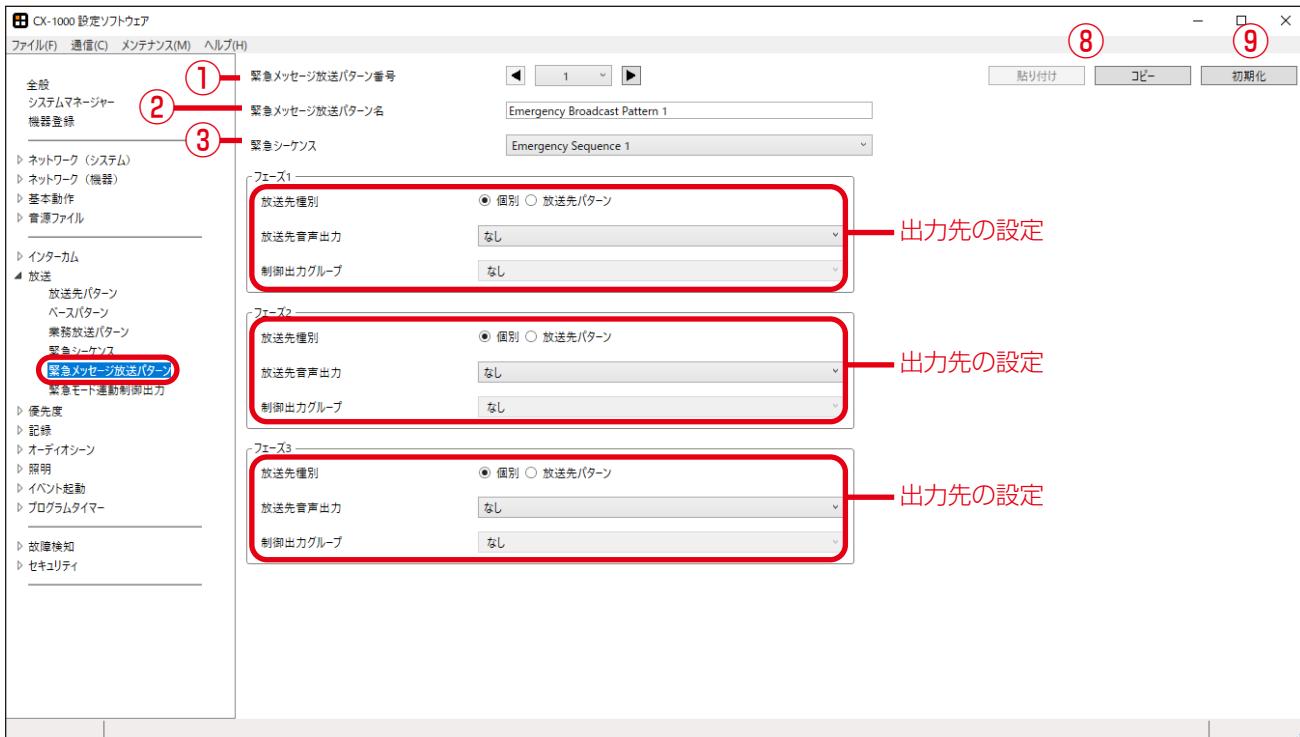
⑦初期化ボタン

表示されている緊急シーケンス番号の、緊急シーケンス名②以外の全設定を初期値に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OKボタンをクリックしてください。

● 緊急メッセージ放送パターンの設定

「放送」→「緊急メッセージ放送パターン」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



出力先の設定は放送先種別の選択により、設定項目が異なります。

[放送先種別を「個別」に設定したとき]

④ 放送先種別	<input checked="" type="radio"/> 個別 <input type="radio"/> 放送先パターン
⑤ 放送先音声出力	なし
⑥ 制御出力グループ	なし

[放送先種別を「放送先パターン」に設定したとき]

④ 放送先種別	<input checked="" type="radio"/> 個別 <input type="radio"/> 放送先パターン
⑦ 放送先パターン	なし

緊急メッセージ放送パターンを設定します。

① 緊急メッセージ放送パターン番号

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、緊急メッセージ放送パターン番号を選択します。
最大 1000 の緊急メッセージ放送パターンを設定できます。

② 緊急メッセージ放送パターン名

緊急メッセージ放送パターンの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内 (初期設定 : Emergency Broadcast Pattern + No.)
------	--

③ 緊急シーケンス

「緊急シーケンスの設定」(P. 2-75) で設定した緊急シーケンス名を選択します。

設定範囲	設定した緊急シーケンス名一覧 (初期設定 : 最小 No. の緊急シーケンス)
------	---

④放送先種別

各フェーズ状態におけるメッセージの放送先として、個別の音声出力を選択するか、放送先パターンを選択するかを設定します。

設定範囲	個別（初期設定）、放送先パターン
------	------------------

⑤放送先音声出力（放送先種別④を「個別」に設定したときのみ）

個別の音声出力先を選択します。

設定範囲	なし（初期設定）、各機器の音声出力
------	-------------------

⑥制御出力グループ（放送先種別④を「個別」に設定したときのみ）

メッセージと連動する制御出力グループを選択します。

設定範囲	なし（初期設定）、制御出力グループ
------	-------------------

⑦放送先パターン（放送先種別④を「放送先パターン」に設定したときのみ）

放送先パターンを選択します。

設定範囲	放送先パターン一覧（初期設定：なし）
------	--------------------

⑧コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、初期設定であらかじめ設定されている「緊急メッセージ放送パターン名」②以外の画面上の全設定をコピーします。

他の緊急メッセージ放送パターン番号を選択し、貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を、選択中の緊急メッセージ放送パターン番号の設定画面に貼り付けます。

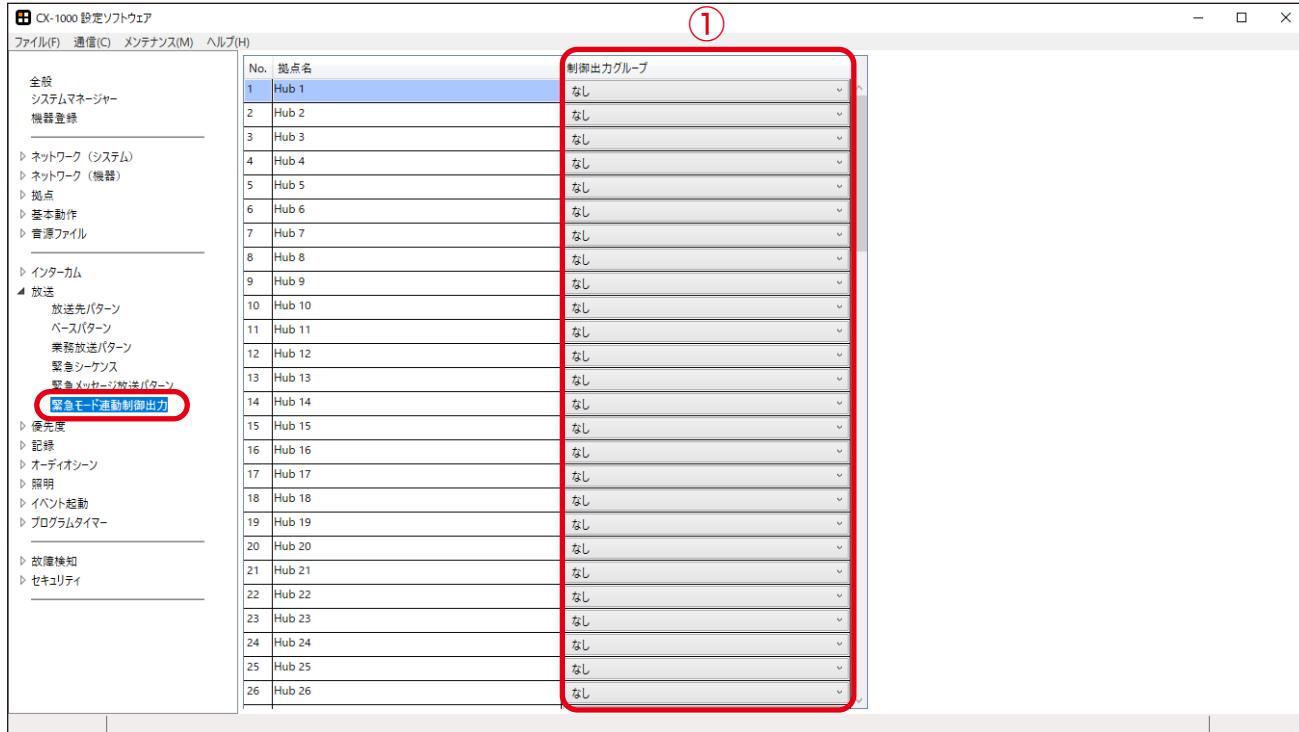
⑨初期化ボタン

表示されている緊急メッセージ放送パターン番号の、緊急メッセージ放送パターン名②以外の全設定を初期値に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

● 緊急モード連動制御出力の設定

「放送」→「緊急モード連動制御出力」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



拠点ごとに緊急モードに連動する制御出力グループを設定します。

[メモ]

拠点の設定が「無効」の場合は、制御出力グループを1つだけ選択します。

① 制御出力グループ

拠点ごとに制御出力グループを選択し、緊急メッセージ放送の連動を設定します。

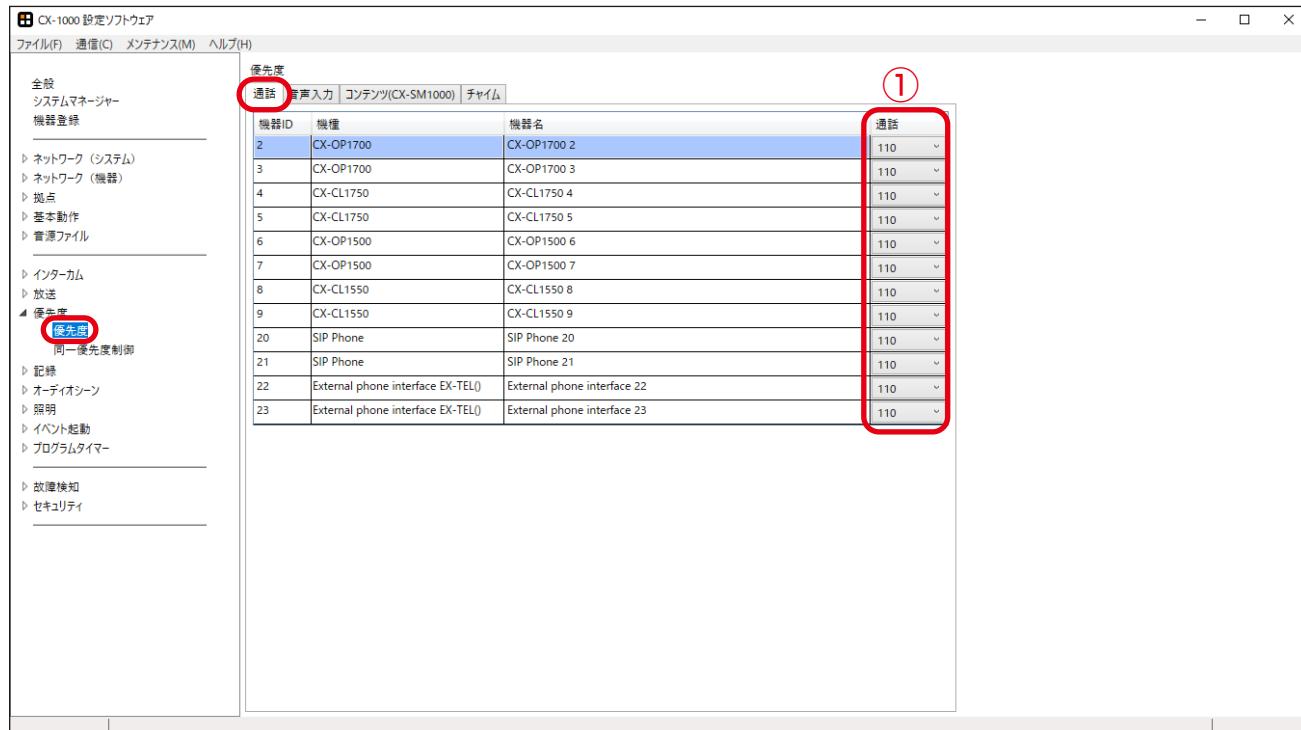
設定範囲	なし (初期設定)、制御出力グループ一覧
------	----------------------

優先度の設定

通話または放送の優先度を設定します。数字が小さいほど、優先度が高くなります。

■ 通話ごとの優先度の設定

「優先度」→「優先度」で「通話」タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。



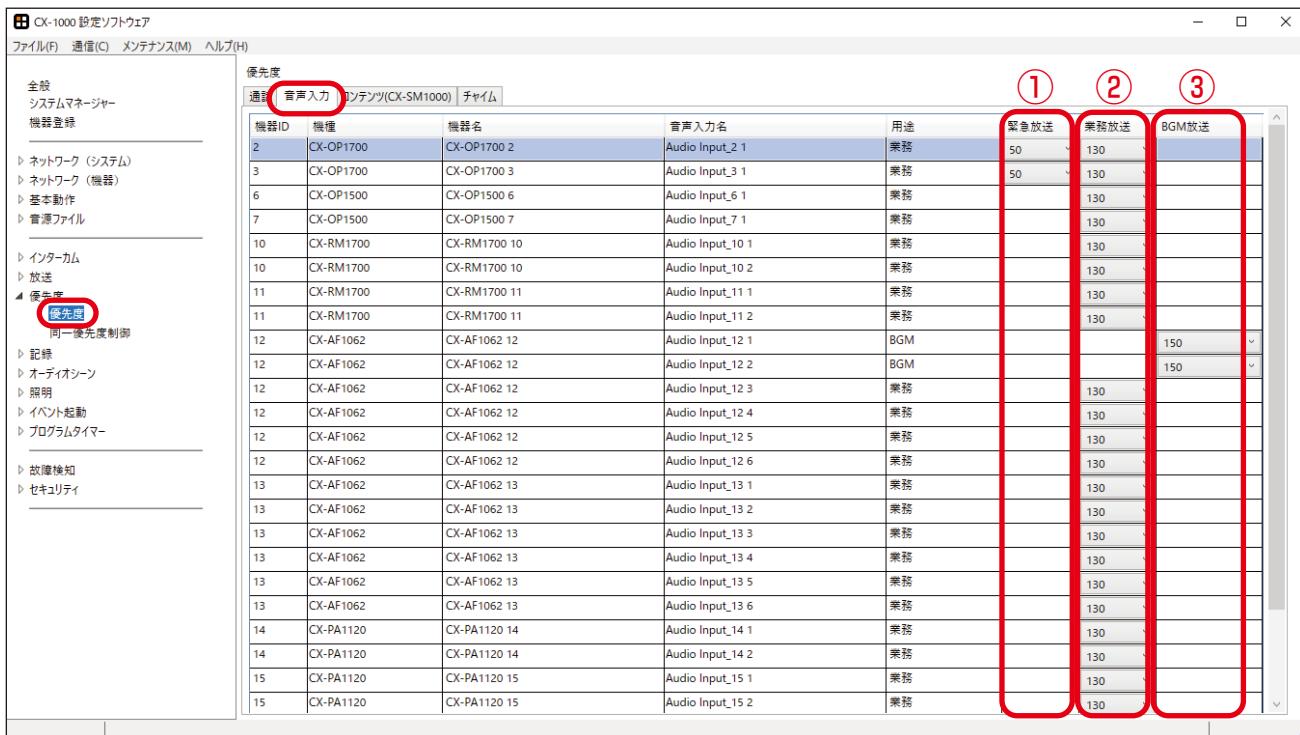
① 通話

通話の優先度を設定します。この優先度を 81 ~ 100 に設定すると救援通話、101 ~ 120 に設定すると通常通話となります。着信時、通話の優先度の高い端末から順に着信リストに表示されます。

設定範囲	81 ~ 120 (初期設定 : 110)
------	-----------------------

■ 音声入力ごとの優先度の設定

「優先度」→「優先度」で「音声入力」タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。音声入力の優先度を設定します。



「基本動作」→「音声入力」および「機器」で設定した用途に応じて、①～③のいずれかに選択肢が表示されます。

①緊急放送（緊急モードが「有効」かつ端末の用途が「業務・緊急」に設定されているときのみ）

音声入力により緊急放送を行う場合の優先度を設定します。

設定範囲	41～60（初期設定：50）
------	----------------

②業務放送

用途が「業務」に設定された音声入力の優先度を設定します。

設定範囲	121～140（初期設定：130）
------	-------------------

③BGM 放送

用途が「BGM」に設定された音声入力の優先度を設定します。

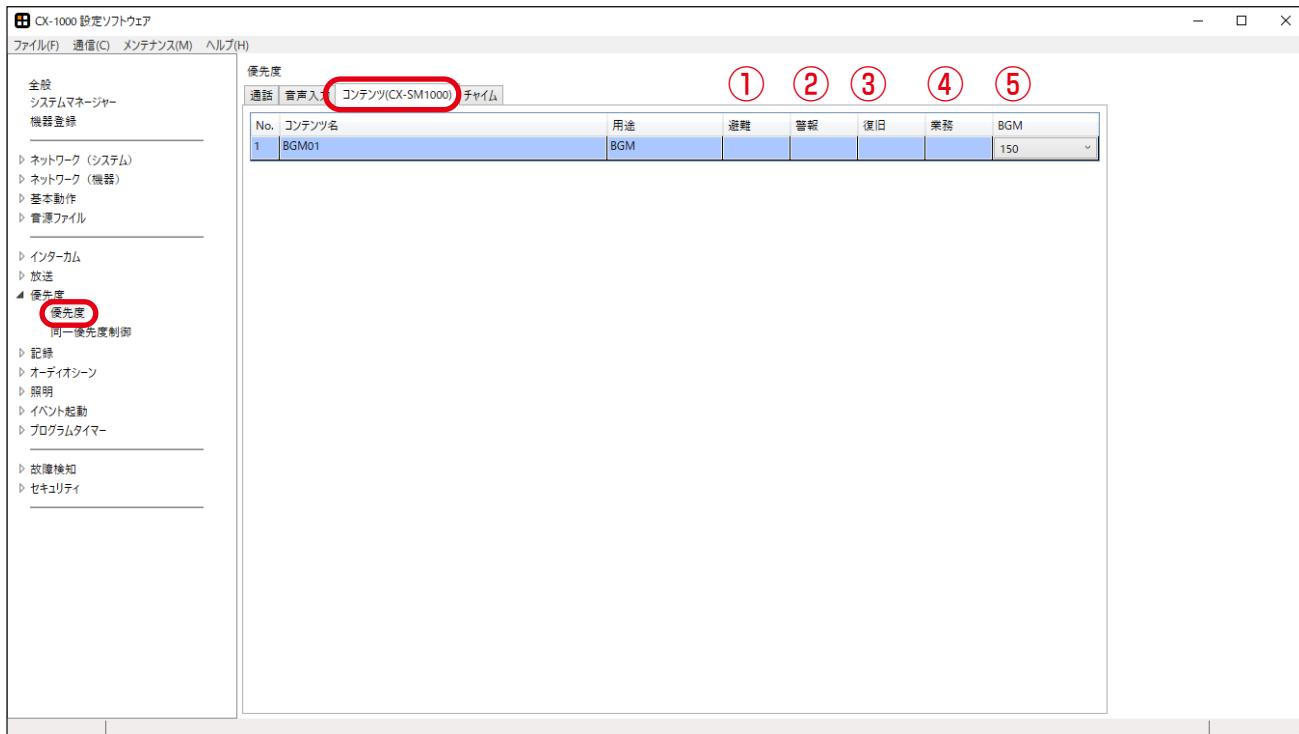
設定範囲	141～160（初期設定：150）
------	-------------------

ご注意

BGM 音源をベースパターンに割り当てたとき、BGM 音源の優先度は、設定した優先度にかかわらず、システム内で一番低くなります。

■ コンテンツごとの優先度の設定 (CX-SM1000)

「優先度」→「優先度」で「コンテンツ (CX-SM1000)」タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。



「音源ファイル」→「コンテンツ」(P. 2-45) で設定したコンテンツが表示されます。各コンテンツで設定した用途に応じて、①～⑤のいずれかに選択肢が表示されます。

① 避難 (緊急モードが「有効」のときのみ)

用途が「避難」に設定されたコンテンツの優先度を設定します。

設定範囲	61～80 (初期設定: 65)
------	------------------

② 緊急 (緊急モードが「有効」のときのみ)

用途が「緊急」に設定されたコンテンツの優先度を設定します。

設定範囲	61～80 (初期設定: 70)
------	------------------

③ 復旧 (緊急モードが「有効」のときのみ)

用途が「復旧」に設定されたコンテンツの優先度を設定します。

設定範囲	121～140 (初期設定: 125)
------	---------------------

④ 業務

用途が「業務」に設定されたコンテンツの優先度を設定します。

設定範囲	121～140 (初期設定: 130)
------	---------------------

⑤BGM

用途が「BGM」に設定されたコンテンツの優先度を設定します。

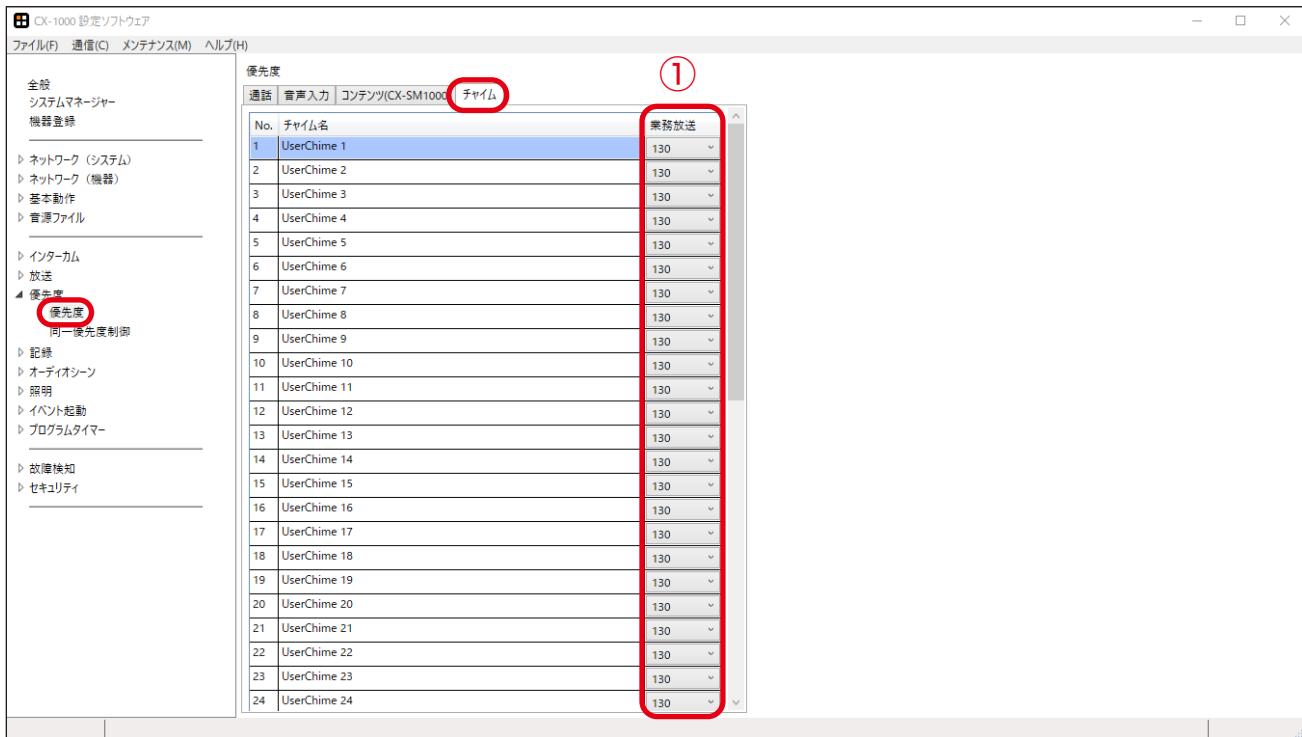
設定範囲	141～160（初期設定：150）
------	-------------------

ご注意

BGM 音源をベースパターンに割り当てたとき、BGM 音源の優先度は、設定した優先度にかかわらず、システム内で一番低くなります。

■ チャイムごとの優先度の設定

「優先度」→「チャイム」タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。



「音源ファイル」→「チャイム」(P 2-48) で設定した音源が表示されます。

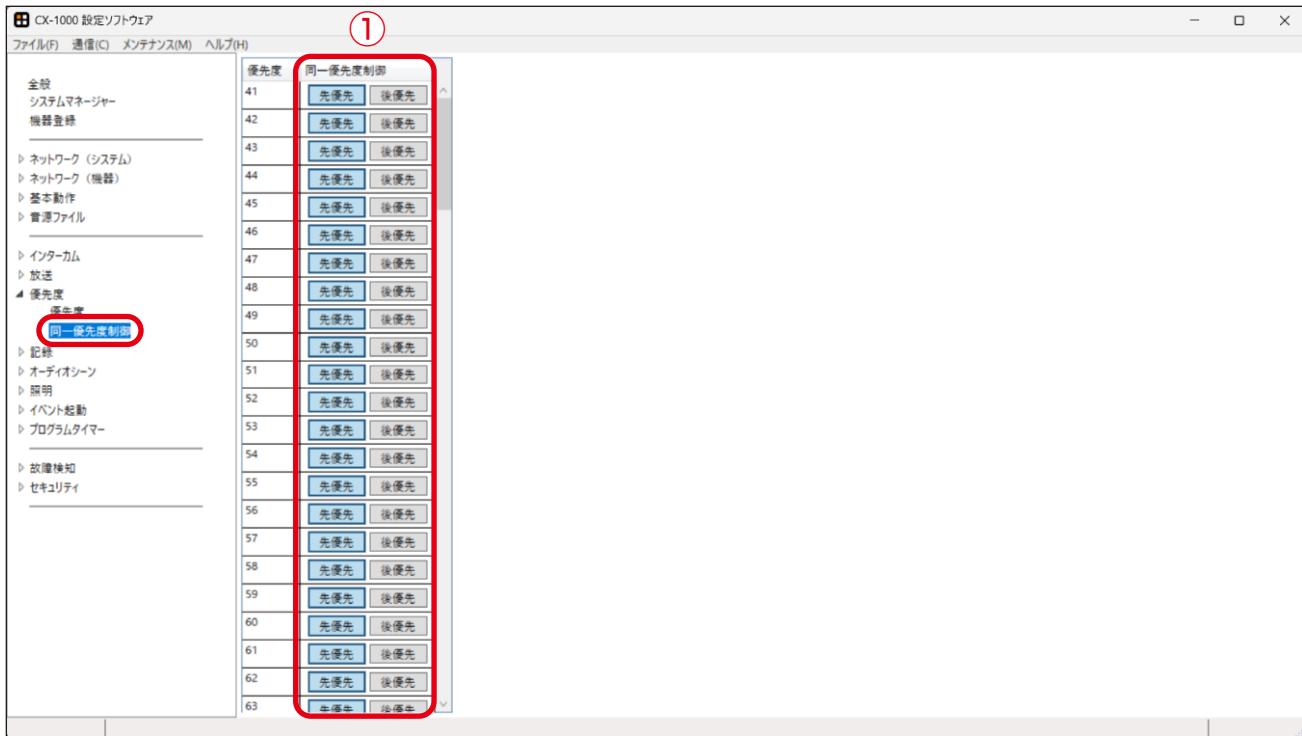
① 業務放送

チャイムの優先度を設定します。

設定範囲	121 ~ 140 (初期設定: 130)
------	-----------------------

■ 同一優先度の先優先・後優先の設定

「優先度」→「同一優先度制御」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 同一優先度制御

複数の入力音源に同じ優先度を設定したときに、どの放送を優先させるのかの制御方式を選択します。制御方式は、優先度ごとに設定できます。

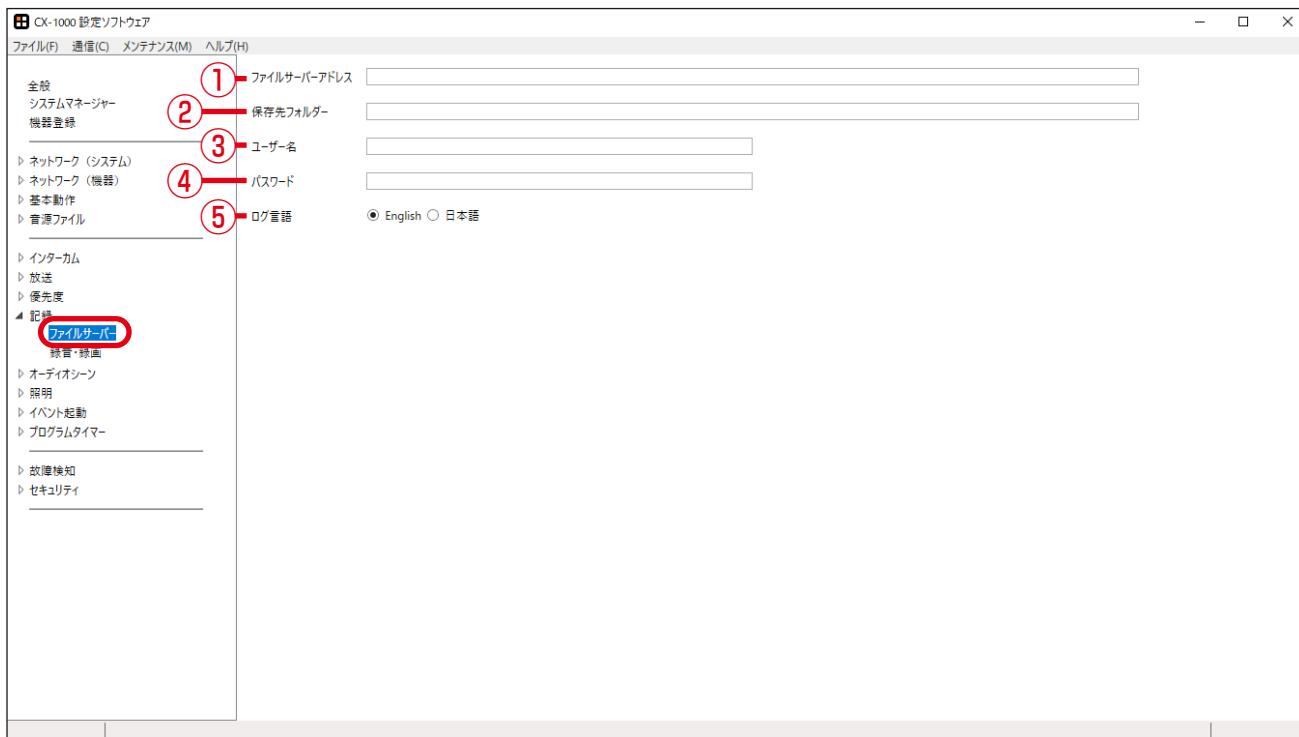
ご注意

- 制御方式は、個々の音源ごとに異なる設定はできません。
- 広域放送の場合は、この設定にかかわらず、「先優先」に固定されます。

設定範囲	先優先（初期設定）、後優先
------	---------------

ファイルサーバー

「記録」→「ファイルサーバー」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
ファイルサーバーには、Windows10、Windows11の共有フォルダーをご使用ください。



ファイルサーバーを設定すると、ログと録音データが保存できます。
CX-SM1000 が動作ログと故障ログを合わせて 10 万件、ストリームログを 1 万件まで、最新のものから順にログを保持しています。ファイルサーバーでは CX-SM1000 で保持できなくなったログが保存されます。
動作ログ／故障ログを 10 万件毎に 1 ファイル、ストリームログは 1 万件毎に 1 ファイル生成されます。

① ファイルサーバーアドレス

ログのバックアップ先を設定します。(設定例：192.168.14.100)

設定範囲	半角英数、ハイフン、ピリオド、253 文字以内 (初期設定：空欄)、スペース使用不可
------	--

② 保存先フォルダー

保存先サーバーのフォルダーを設定します。(設定例：cx1000_storage)

設定したフォルダー内には自動で logs フォルダー、recordings フォルダーが作成され、それぞれログと録音データが保存されます。

設定範囲	256 文字以内 (初期設定：空欄)
------	--------------------

③ ユーザー名

「ファイルサーバーアドレス」①で設定したサーバーにログインするためのユーザー名を設定します。

(設定例：cx1000user)

設定範囲	半角英数字、ハイフン、アンダースコア、ピリオドが使用可能 スペース使用不可、32 文字以内 (初期設定：空欄)
------	--

④ パスワード

「ユーザー名」③で設定したユーザー名でログインするときのパスワードを設定します。

(設定例：cxguest)

設定範囲	半角英数字、ハイフン、アンダースコア、ピリオド、半角スペースが使用可能 32 文字以内（初期設定：空欄）
------	---

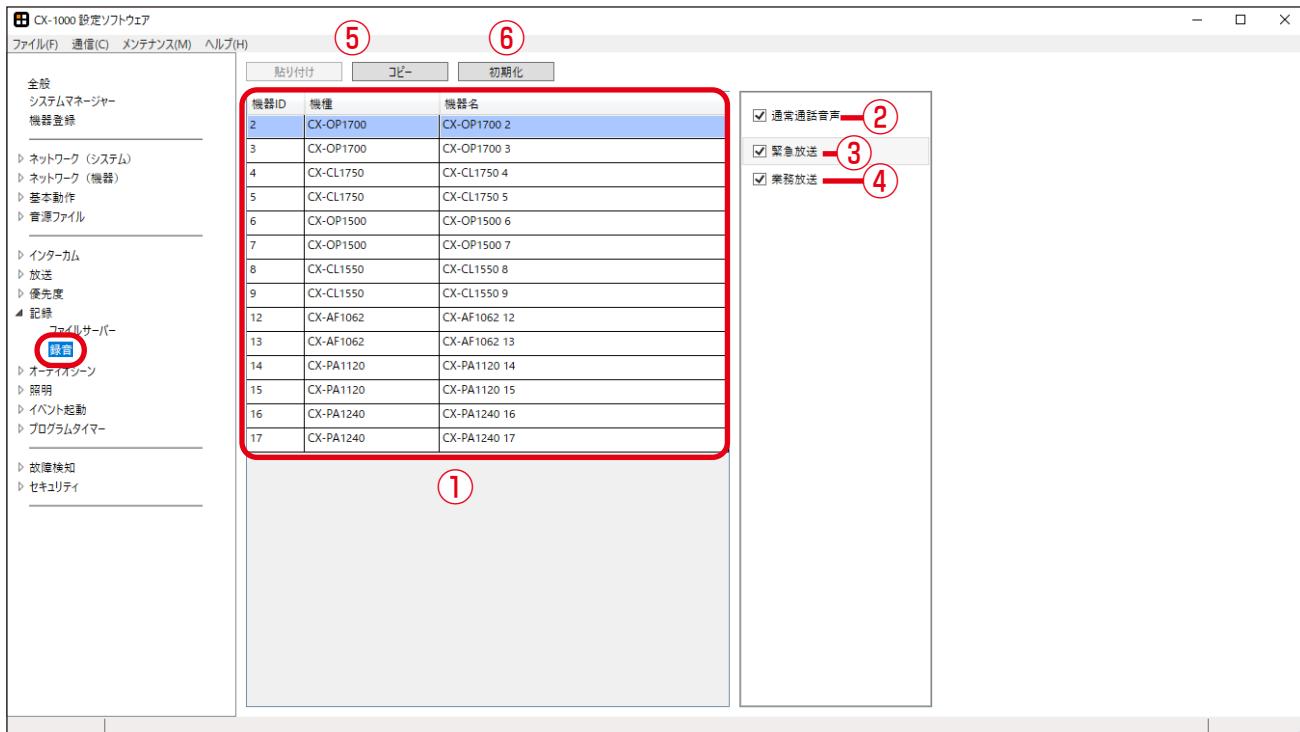
⑤ ログ言語

ファイルサーバーまたは SD カードに保存するログの言語を選択できます。

設定範囲	English (初期設定)、日本語
------	--------------------

録音

「記録」→「録音」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



ご注意

録音の設定をするには、ファイルサーバーの設定（P. 2-86）を先にする必要があります。

① 録音対象機器

通話や放送を録音する対象となる機器を選択します。

機器を選択すると、選択した機器に応じて②～④の設定が表示されます。

②～④のチェックの有無に応じて、選択した機器の録音の有無が設定されます。

メモ

録音ファイル名のルールは以下のとおりです。

● 通話録音ファイル名

機器 ID_ 機器名 _phone_yyyymmddhhmmss.mp4

(例) 3_CX-OP1700 3_phone_20240717191020.mp4

● 放送録音ファイル名

・音声出力 ch1 宛の放送の場合

機器 ID_ 機器名 _pa_out1_yyyymmddhhmmss.mp4

・音声出力 ch2 宛の放送の場合

機器 ID_ 機器名 _pa_out2_yyyymmddhhmmss.mp4

(例) 3_CX-OP1700 3_pa_out1_20240523083216.mp4

② 通常通話音声 (CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 の場合のみ)

チェックを入れると、通話の音声を録音します。（初期設定：チェックなし）

③ 緊急放送 (緊急モードが「有効」のときのみ)

チェックを入れると、緊急放送先の音声を録音します。（初期設定：チェックなし）

④業務放送

チェックを入れると、業務放送を録音します。(初期設定：チェックなし)

⑤コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると画面上の全設定をコピーします。

貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を他の機器の同じ画面に貼り付けます。

⑥初期化ボタン

表示されている機器の設定値を初期値に戻します。

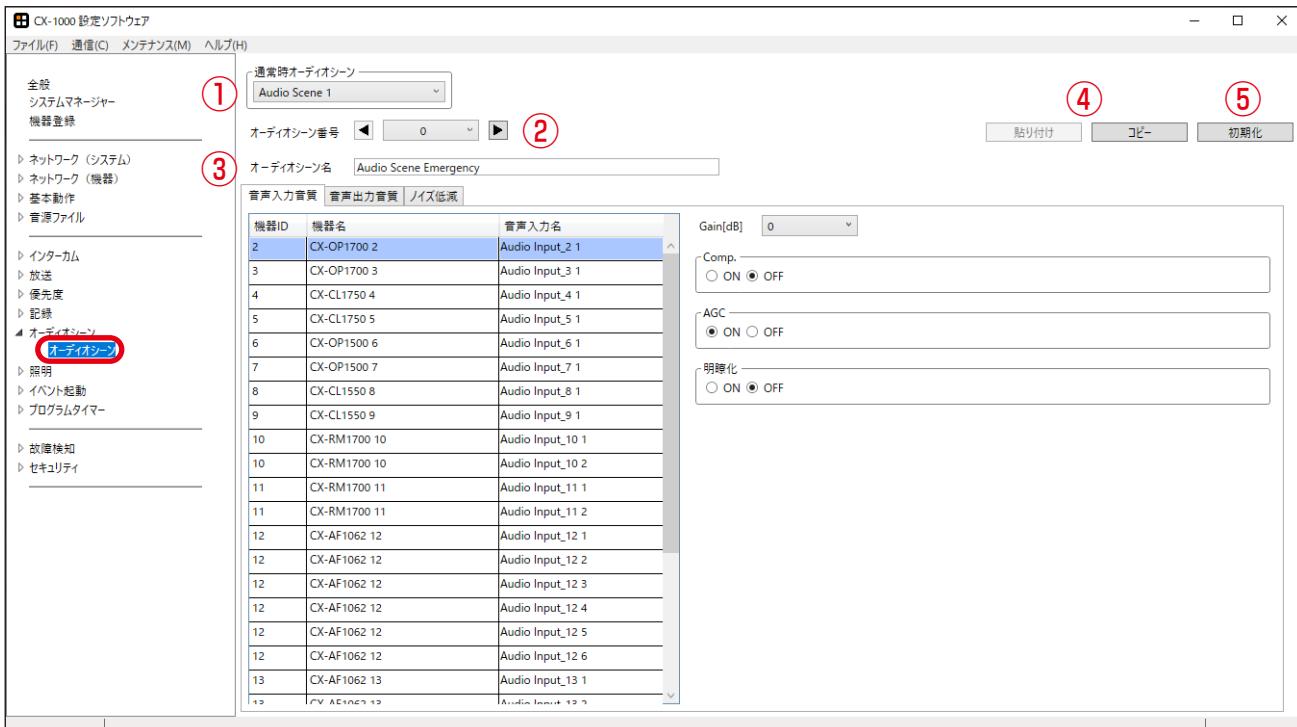
クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

オーディオシーンの設定

「オーディオシーン」→「オーディオシーン」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

システム全体の信号処理パラメーター（入力ゲイン、コンプレッサー、EQ など）の組み合わせをオーディオシーン*として設定します。オーディオシーンは緊急用途で1つ、通常用途で8つまで保存できます。

* 全音声入出力チャンネルの音量、音質のパラメーターをまとめた1つの単位



①通常時オーディオシーン

プルダウンメニューから通常時のオーディオシーンを選択してください。

通常時のオーディオシーンとは、プログラムタイマー、イベント起動などでオーディオシーンの指定がない場合に適用されるオーディオシーンを意味します。

Audio Scene Emergency は緊急時のオーディオシーンのため、通常オーディオシーンには設定できません。

設定範囲	Audio Scene 1 ~ Audio Scene 8 (初期設定: Audio Scene 1)
	※ オーディオシーン名③で設定した名称が表示されます。

②オーディオシーン番号

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、オーディオシーン番号を選択します。Audio Scene No. 0 が緊急用、No.1 ~ 8 が通常用となります。「音声入力音質」、「音声出力音質」、「ノイズ低減」の各タブをクリックして、設定してください。Audio Scene No.0 は緊急モードに遷移した後で受信した緊急放送に自動的に適用されます。

ご注意

緊急用オーディオシーンに「音声入力音質」と「ノイズ低減」を設定しても、適用されません。

緊急時の「音声入力音質」と「ノイズ低減」は、直前に適用されていた通常時オーディオシーンのものが継続されます。

③ オーディオシーン名

オーディオシーンの名称を設定します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず 32 文字以内（オーディオシーン 0 の初期設定：Audio Scene Emergency、オーディオシーン 1～8 の初期設定：Audio Scene + No.）
------	--

④ コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると画面上の「オーディオシーン名」③以外の全設定をコピーします。

貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を他のオーディオシーンの同じ画面に貼り付けます。

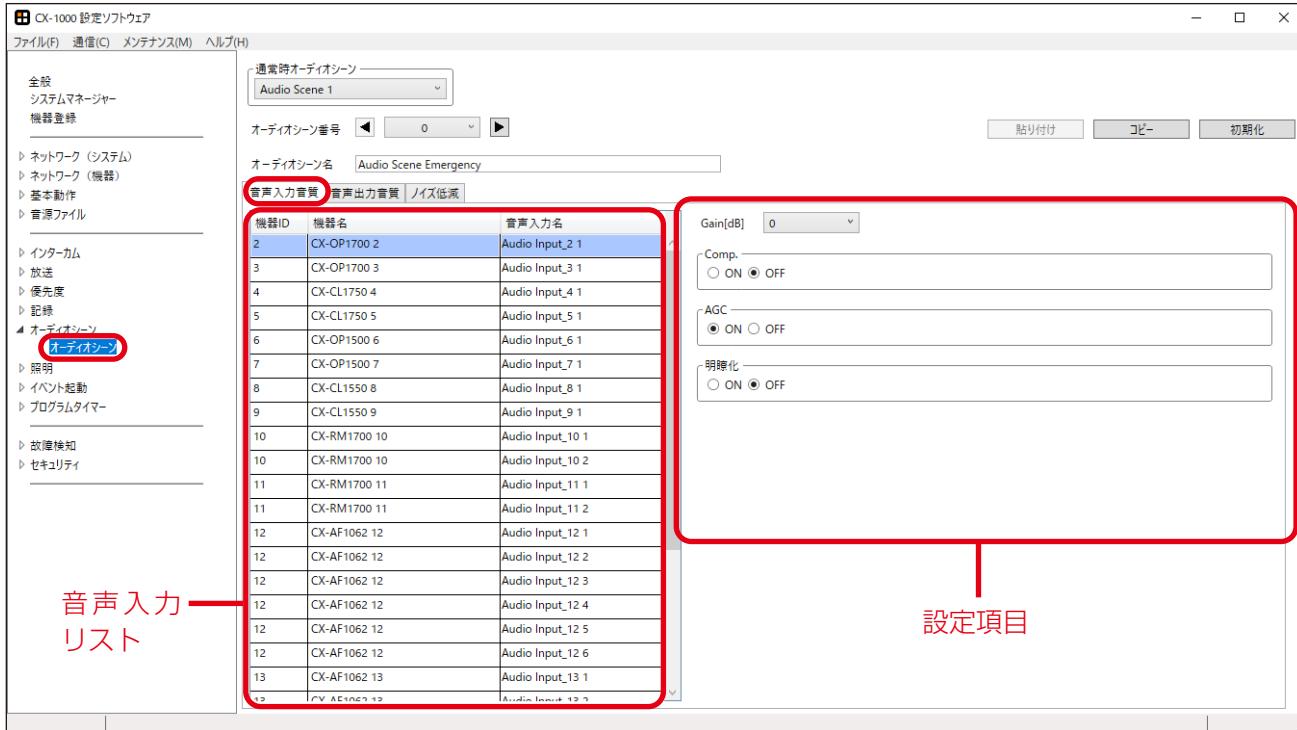
⑤ 初期化ボタン

表示されているオーディオシーン番号の、オーディオシーン名③以外の全設定を初期値に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

■ 音声入力の音量・音質の設定

「オーディオシーン」→「オーディオシーン」で「音声入力音質」タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。



音声入力リストで選択した音声入力の設定が画面右側に表示されます。

機器および音声入力により、以下のとおり、設定項目が異なります。

各音声入力と信号処理の設定について、詳しくは P 2-96 をお読みください。

メモ

CX-PA1120/PA1240 の音声入力 1 はオーディオシーンで音量・音質の設定ができません。

[CX-RM1700 の音声入力 2、CX-AF1062、または CX-PA1120/PA1240 の音声入力 2 の場合]

①	Gain [dB] 0
②	Trim Trim [dB] 0
③	Filter(EQ1) □ ON/OFF
③	Filter(EQ2) □ ON/OFF
④	Comp. ○ ON ● OFF
⑤	AGC ○ ON ● OFF

メモ

CX-RM1700 の音声入力 2 は AUX 入力を表します。

[CX-OP1700/OP1500、または CX-RM1700 の音声入力 1 の場合]

①	Gain[dB] <input type="text" value="0"/>
③	Filter(EQ1) <input type="checkbox"/> ON/OFF
③	Filter(EQ2) <input type="checkbox"/> ON/OFF
④	Comp. <input type="radio"/> ON <input checked="" type="radio"/> OFF
⑤	AGC <input checked="" type="radio"/> ON <input type="radio"/> OFF
⑥	明瞭化 <input type="radio"/> ON <input checked="" type="radio"/> OFF

メモ

CX-RM1700 の音声入力 1 はマイクを表します。

[CX-CL1750/CL1550 の場合]

③	Filter(EQ1) <input type="checkbox"/> ON/OFF
③	Filter(EQ2) <input type="checkbox"/> ON/OFF
④	Comp. <input type="radio"/> ON <input checked="" type="radio"/> OFF
⑤	AGC <input checked="" type="radio"/> ON <input type="radio"/> OFF
⑥	明瞭化 <input type="radio"/> ON <input checked="" type="radio"/> OFF

① Gain [dB] (CX-OP1700/OP1500/RM1700/AF1062、または CX-PA1120/1240 の音声入力 2 の場合のみ)

選択中の音声入力の入力ゲインをプルダウンメニューから選択してください。

設定範囲	0 ~ -69、-∞ (初期設定 : 0)
------	-----------------------

② Trim [dB] (CX-RM1700 の音声入力 2、CX-AF1062、または CX-PA1120/PA1240 の音声入力 2 の場合のみ)

入力信号の音量値を補正する場合は、プルダウンメニューから設定値を選択してください。

設定範囲	-15 ~ 15 (0.1 dB ステップ、初期設定 : 0)
------	---------------------------------

③ Filter (EQ1 ~ 2) (CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 は固定フィルターが「なし」の場合のみ)

各音声入力には 2 個のフィルターを適用できます。

適用するフィルターにチェックを入れてください。(初期設定 : チェックなし)

チェックを入れると、フィルターが有効となります。

フィルターの種類 (Type) を選択します。

フィルターの種類により、詳細設定の項目が異なります。

・ Type

設定範囲	PEQ (初期設定)、HPF6、LPF6、HPF12、LPF12、Low Shelving、High Shelving
------	---

[「Type」を「PEQ」に設定したとき]

周波数、ゲイン、および Q を設定します。
プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・ Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：1.00k) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k
------	--

・ Gain [dB]

設定範囲	-15 ~ 15 (0.1 dB ステップ、初期設定：0)
------	-------------------------------

・ Q

設定範囲	0.267 ~ 69.249 (初期設定：4.318)
------	-----------------------------

[「Type」を「HPF6」に設定したとき]

周波数を設定します。
プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・ Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：100) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k
------	--

[「Type」を「LPF6」に設定したとき]

周波数を設定します。
プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・ Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：10.0k) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k (初期設定：3.25k)
------	---

[「Type」を「HPF12」に設定したとき]

周波数と Q を設定します。
プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・ Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：100) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k
------	--

・ Q

設定範囲	0.500 ~ 2.563 (初期設定：0.500)
------	----------------------------

[「Type」を「LPF12」に設定したとき]

周波数と Q を設定します。
プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・ Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：10.0k) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k (初期設定：3.25k)
------	---

・ Q

設定範囲	0.500 ~ 2.563 (初期設定：0.500)
------	----------------------------

[「Type」を「Low Shelving」に設定したとき]

周波数とゲインを設定します。

プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 500 (1/24 オクターブステップ、初期設定：500)
------	--------------------------------------

・Gain [dB]

設定範囲	-15 ~ 15 (0.1 dB ステップ、初期設定：0)
------	-------------------------------

[「Type」を「High Shelving」に設定したとき]

周波数とゲインを設定します。

プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	6.00k ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：6.00k) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 6.00k ~ 6.50k
------	--

・Gain [dB]

設定範囲	-15 ~ 15 (0.1 dB ステップ、初期設定：0)
------	-------------------------------

④ Comp.

コンプレッサー機能を設定します。

・ON/OFF

設定範囲	ON、OFF (初期設定)
------	---------------

ON に設定すると、以下のコンプレッサーの詳細設定項目が表示されます。

・Threshold [dB]

プルダウンメニューから設定値を選択します。

設定範囲	0 ~ -20 (1 dB ステップ、初期設定：0)
------	----------------------------

・Ratio

プルダウンメニューからレシオを選択します。

設定範囲	1 : 1 (初期設定)、1.1 : 1、1.2 : 1、1.3 : 1、1.5 : 1、1.7 : 1、2 : 1、2.3 : 1、 2.6 : 1、3 : 1、4 : 1、5 : 1、7 : 1、8 : 1、10 : 1、12 : 1、20 : 1、∞ : 1
------	---

・Knee Type

プルダウンメニューからニータイプを選択します。

設定範囲	Hard (初期設定)、Middle、Soft
------	-------------------------

・Attack time [ms]

プルダウンメニューから設定値を選択します。

設定範囲	0.2、0.5、0.7、1、1.5、2、3、5、7、10 (初期設定)、20、50、70、100、120、 150、200、250、300、500、700、1000、2000、3000、5000
------	--

・Release time [ms]

プルダウンメニューから設定値を選択します。

設定範囲	10、20、50、70、100、120、150、200、250、300、500 (初期設定)、700、 1000、2000、3000、5000
------	--

・ **Gain [dB]**

プルダウンメニューから設定値を選択します。

設定範囲	10 ~ -69、-∞（初期設定：0）
------	---------------------

⑤ **AGC**

入力レベルに合わせて、ゲインを自動調整するかどうかを設定します。

設定範囲	ON、OFF 初期設定：CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 および CX-RM1700 の音声入力 1 の場合は ON CX-RM1700 の音声入力 2、CX-AF1062、および CX-PA1120/PA1240 の音声入力 2 の場合は OFF
------	--

⑥ **明瞭化（CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 および CX-RM1700 の音声入力 1 の場合のみ）**

機器内部の信号処理によって、話者の音声を聞き取りやすくする技術です。

この機能を利用する場合は、この設定を ON にしてください。

ただし、話者や設置環境によっては音質が著しく変化し、逆に悪化する場合もあります。状況に応じてご使用ください。

設定範囲	ON、OFF（初期設定）
------	--------------

● 音声入力に関する信号処理の詳細

[音声入力名称と対応する端子]

機器名	音声入力名	対応する端子
CX-OP1500 ID CX-OP1700 ID	Audio Input_ID 1	ハンドセットマイク
		ヘッドセットマイク
		ハンズフリーマイク
CX-CL1550 ID CX-CL1750 ID	Audio Input_ID 1	ハンズフリーマイク
CX-RM1700 ID	Audio Input_ID 1	マイク
	Audio Input_ID 2	AUX 入力
CX-AF1062 ID	Audio Input_ID 1	音声入力 1
	:	:
	Audio Input_ID 6	音声入力 6
CX-PA1120 ID CX-PA1240 ID	Audio Input_ID 1	音声入力 1
	Audio Input_ID 2	音声入力 2

[音声入力の設定項目]

各音声入力について、以下の表で「○」印を付けた部分の信号処理が設定できます。

CX-OP1700 および CX-OP1500 は、設定画面では各機器の音声入力は 1 つですが、設定項目のうち、マイクごとに設定が適用される項目が異なります。

また、複数の信号処理の流れについては、次項の図を参照してください。

機能	対象機器	入力	ANC センサー	固定フィルター	設定項目										
					基本動作		インターラム		オーディオシーン					イベント起動	
					端末	通話	音声入力音量	ボイススイッチ	Trim	EQ	COMP	AGC	明瞭化	Gain	
通話	CX-OP1700/ OP1500	ハンドセットマイク	—	○* 1	—	—	—	○* 2	○	○	○	—	—	—	—
		ヘッドセットマイク	—	—	—	—	—	○* 2	○	○	○	—	—	—	—
		ハンズフリーマイク	—	○	○	○	○* 3	—	○* 2	○	○	○	—	○* 3	○
	CX-CL1750/ CL1550	ハンズフリーマイク	○	○	○	○	○* 3	—	○* 4	○	○	○	—	○* 3	○
放送	CX-OP1700/ OP1500	ハンドセットマイク	—	○* 1	—	—	—	○* 2	○	○	○	○	○	—	—
		ヘッドセットマイク	—	—	—	—	—	○* 2	○	○	○	○	○	—	—
		ハンズフリーマイク	—	○	—	—	—	○* 2	○	○	○	○	○	—	○
	CX-RM1700	マイク	—	—	—	—	—	○	○	○	○	○	○	—	—
	CX-AF1062	AUX 入力	—	—	—	—	—	○	○	○	○	—	○	—	○
	CX-PA1120/ PA1240	音声入力 1 ~ 6	—	—	—	—	—	○	○	○	○	—	○	—	○
		音声入力 1	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
		音声入力 2	—	—	—	—	—	○	○	○	○	—	○	—	○

* 1 CX-OP1700 のみ、固定フィルターで「卓上（フラット）」、「壁掛け（フラット）」選択時のみ○

* 2 CX-OP1700/OP1500 のみ、固定フィルターで「なし」選択時のみ設定可能

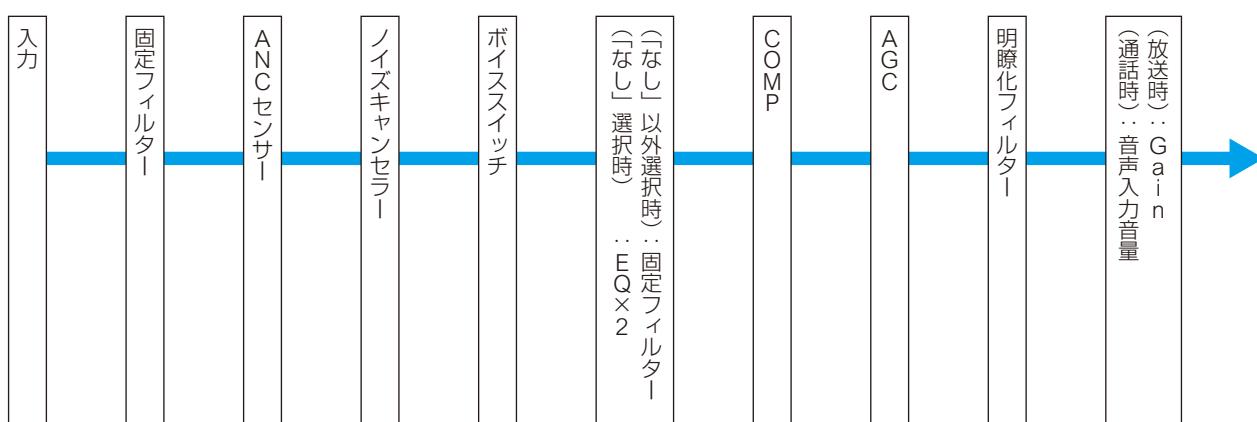
* 3 PTT による互通話時は無効

* 4 固定フィルターで「なし」選択時のみ設定可能

[信号処理の流れ]

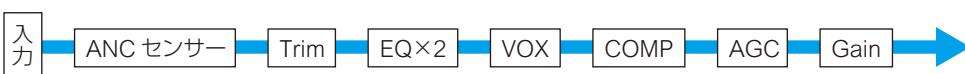
音声入力に適用される信号の流れは以下のとおりですが、適用される信号処理については、上記「音声入力の設定項目」の表を参照してください。

● 端末の場合



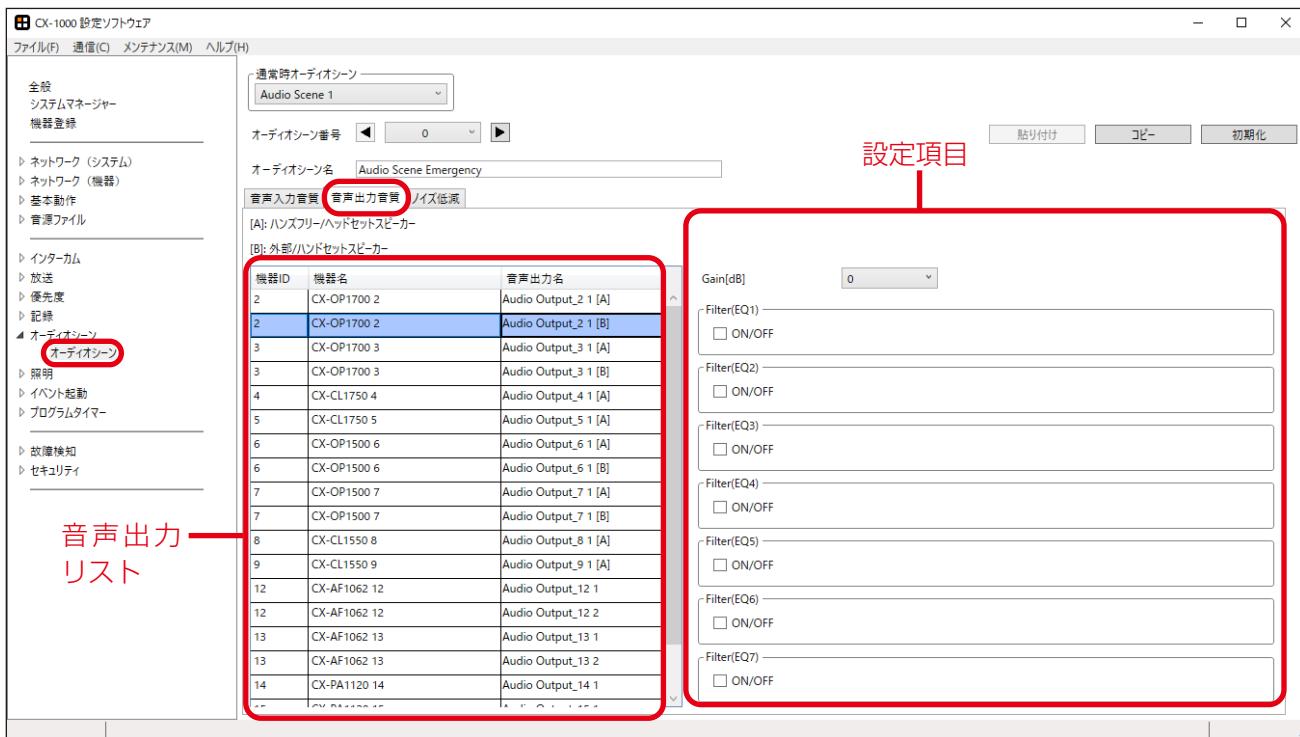
ただし、CX-RM1700 の AUX 入力の場合は、ユニットの場合と同様です。

● ユニットの場合 (CX-RM1700 の AUX 入力の場合を含む)



■ 音声出力の音量・音質の設定

「オーディオシーン」→「オーディオシーン」で「音声出力音質」タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。

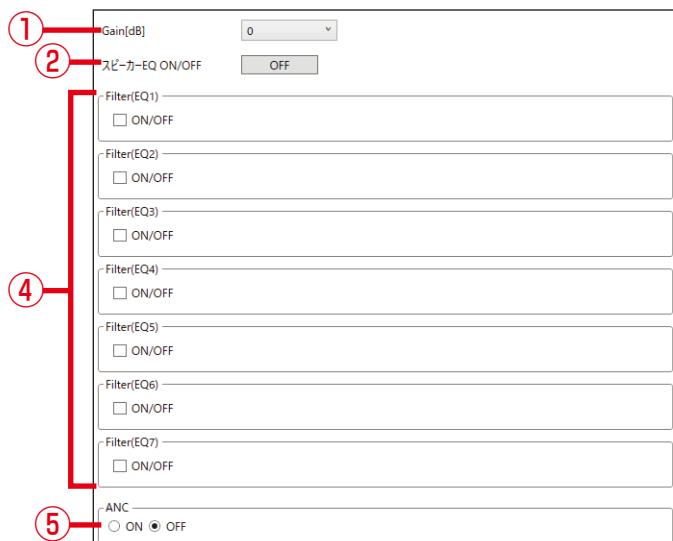


音声出力リストで選択した音声出力の設定が画面右側に表示されます。

機器および音声出力により、以下のとおり、設定項目が異なります。

各音声出力と信号処理の設定について、詳しくは P 2-103 をお読みください。

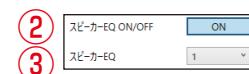
[CX-AF1062/PA1120/PA1240 の場合]



メモ

⑤は CX-PA1120/PA1240 の音声入力 1 の用途が「ANC マイク」に設定されている場合のみ設定できます。

(スピーカー EQ ON/OFF の設定が ON のとき)



(Filter ④が ON のとき)



(ANC ⑤が ON のとき)



ANC の詳細設定

[CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 の場合]

①	Gain[dB] <input type="text" value="0"/>
Filter(EQ1) □ ON/OFF	
Filter(EQ2) □ ON/OFF	
Filter(EQ3) □ ON/OFF	
Filter(EQ4) □ ON/OFF	
Filter(EQ5) □ ON/OFF	
Filter(EQ6) □ ON/OFF	
Filter(EQ7) □ ON/OFF	
④	ANC <input checked="" type="radio"/> ON <input type="radio"/> OFF
⑤	

メモ

機種	音声出力	設定可能な項目
CX-OP1700/OP1500	[A] (ハンズフリー／ヘッドセットスピーカー)	①
	[B] (外部／ハンドセットスピーカー)	①、④
CX-CL1750/CL1550	[A] (ハンズフリースピーカー)	①、⑤
	[B] (外部スピーカー)	①、④、⑤

① Gain [dB]

プルダウンメニューから設定値を選択してください。

設定範囲	0 ~ -69、-∞ (1 dB ステップ、初期設定：0)
------	-------------------------------

② スピーカー EQ ON/OFF (CX-AF1062/PA1120/PA1240のみ)

スピーカー EQ の使用可否を設定します。

設定範囲	ON、OFF (初期設定)
------	---------------

③ スピーカー EQ (スピーカー EQ ON/OFF を ON に設定したときのみ)

スピーカーを選択します。

設定範囲	CM-1230T (初期設定)、CM-1830A、CM-2330A、PC-2238T、BS-34T、SC-710AM、CS-153、CS-63
------	---

④ Filter (EQ1 ~ 7)

7 個のフィルターを設定できます。

・ ON/OFF

使用するフィルターにチェックを入れます。(初期設定：チェックなし)

チェックを入れると、フィルターが有効となります。

・ Type

フィルターの Type を選択します。フィルターの Type により、詳細設定の項目が異なります。

設定範囲	[CX-OP1700/CL1750/AF1062/PA1120/PA1240 の場合] PEQ (初期設定)、HPF6、LPF6、HPF12、LPF12、Low Shelving、High Shelving、All Pass、Notch、Horn EQ [CX-OP1500/CL1550 の場合] PEQ (初期設定)、HPF6、LPF6、HPF12、LPF12、Low Shelving、High Shelving、All Pass、Notch
------	---

(Filter ④が ON のとき)

Filter(EQ1)
<input checked="" type="checkbox"/> ON/OFF
Type PEQ <input type="text" value="Freq[Hz] 1.00k"/>
Gain[dB] <input type="text" value="0"/>
Q <input type="text" value="4.318"/>

フィルターの詳細設定

(ANC ⑤が ON のとき)

ANC
<input checked="" type="radio"/> ON <input type="radio"/> OFF
Sample Time[s] <input type="text" value="20"/>
Max Level[dB] <input type="text" value="0"/>
Min Level[dB] <input type="text" value="-6"/>
Gain Ratio <input type="text" value="3:3"/>
Adjust Zero[dB] <input type="text" value="0"/>
Advanced Freq1[Hz] <input type="text" value="210"/>
Advanced Freq2[Hz] <input type="text" value="550"/>
Advanced Freq3[Hz] <input type="text" value="1080"/>

ANC の詳細設定

[「Type」を「PEQ」に設定したとき]

周波数、ゲイン、および Q を設定します。
プレダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：1.00k) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k
------	--

・Gain [dB]

設定範囲	-15 ~ 15 (0.1 dB ステップ、初期設定：0)
------	-------------------------------

・Q

設定範囲	0.267 ~ 69.249 (初期設定：4.318)
------	-----------------------------

[「Type」を「HPF6」に設定したとき]

周波数を設定します。プレダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：100) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k
------	--

[「Type」を「LPF6」に設定した場合]

周波数を設定します。プレダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：10.0k) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k (初期設定：3.25k)
------	---

[「Type」を「HPF12」に設定したとき]

周波数と Q を設定します。プレダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：100) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k
------	--

・Q

設定範囲	0.500 ~ 2.563 (初期設定：0.500)
------	----------------------------

[「Type」を「LPF12」に設定したとき]

周波数と Q を設定します。プレダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：10.0k) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k (初期設定：3.25k)
------	---

・Q

設定範囲	0.500 ~ 2.563 (初期設定：0.500)
------	----------------------------

[「Type」を「Low Shelving」に設定したとき]

周波数とゲインを設定します。プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 500 (1/24 オクターブステップ、初期設定：500)
------	--------------------------------------

・Gain [dB]

設定範囲	-15 ~ 15 (0.1 dB ステップ、初期設定：0)
------	-------------------------------

[「Type」を「High Shelving」に設定したとき]

周波数とゲインを設定します。プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	6.00k ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：6.00k) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 6.00k ~ 6.50k
------	--

・Gain [dB]

設定範囲	-15 ~ 15 (0.1 dB ステップ、初期設定：0)
------	-------------------------------

[「Type」を「All Pass」に設定したとき]

周波数と Q を設定します。プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：1.00k) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k
------	--

・Q

設定範囲	0.267 ~ 69.249 (初期設定：0.267)
------	-----------------------------

[「Type」を「Notch」に設定したとき]

周波数と Q を設定します。プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・Freq. [Hz]

設定範囲	20.0 ~ 20.0k * (1/24 オクターブステップ、初期設定：1.00k) * CX-OP1500、CX-CL1550 の場合のみ 20.0 ~ 6.50k
------	--

・Q

設定範囲	8.651 ~ 69.249 (初期設定：8.651)
------	-----------------------------

[「Type」を「Horn EQ」に設定したとき (CX-OP1500、CX-CL1550 を除く)]

ゲインを設定します。プルダウンメニューから設定値を選択してください。

・Gain [dB]

設定範囲	0 ~ 18 (0.5 dB ステップ、初期設定：0)
------	-----------------------------

⑤ANC (CX-CL1750/CL1550、および音声入力1の用途が「ANCマイク」に設定されたCX-PA1120/PA1240の場合のみ)

・ON/OFF

ANC機能のON、OFFを設定します。

設定範囲	ON、OFF (初期設定)
------	---------------

・Sample time [s]

マイク*を使って周囲騒音レベルを検知するのに必要な平均時間を設定します。
この時間が短いほど、周囲騒音レベルの変化に出力音量レベルが素早く追随します。
プルダウンメニューから設定値を選択してください。

* CX-PA1120/PA1240 の場合はセンサーマイク、CX-CL1750/CL1550 の場合はハンズフリーマイクを使用

設定範囲	10、20（初期設定）、30、60、300
------	-----------------------

・Max level [dB]

最大出力レベルを設定します。プルダウンメニューから設定値を選択してください。

設定範囲	0～-15（1 dB ステップ、初期設定：0）
------	-------------------------

・Min level [dB]

最小出力レベルを設定します。プルダウンメニューから設定値を選択してください。

設定範囲	(Max Level から 3 を引いた値)～-18（1 dB ステップ、初期設定：-6）
------	---

・Gain ratio

周囲騒音レベルの変化と出力レベルの変化の割合を「周囲騒音レベルの変化：出力レベルの変化」という形で設定します。

たとえば、割合を 3：3 に設定すると、周囲騒音レベルが 3 dB 上がると出力音量レベルが 3 dB 上がります。

プルダウンメニューから選択してください。

設定範囲	6：3、5：3、4：3、3：3（初期設定）、3：4、3：5、3：6
------	-----------------------------------

・Adjust zero [dB]

通常は初期値のまま使用します。

基準レベルを調整したい場合は、プルダウンメニューから設定値を選択してください。

基準レベルの調整にあたって、詳しくは [P. 1-61 「設置後に必要に応じて行う設定」](#) をお読みください。

設定範囲	60～-60（1 dB ステップ、初期設定：0）
------	--------------------------

・Advanced freq1 [Hz]

ANC 機能の測定周波数です。通常は初期値のまま使用します。

測定周波数の変更にあたって、詳しくは [P. 1-61 「設置後に必要に応じて行う設定」](#) をお読みください。

設定範囲	CX-CL1750/PA1120/PA1240 の場合：20～20000（初期設定：210） CX-CL1550 の場合 ：20～6500（初期設定：210）
------	---

・Advanced freq2 [Hz]

ANC 機能の測定周波数です。通常は初期値のまま使用します。

測定周波数の変更にあたって、詳しくは [P. 1-61 「設置後に必要に応じて行う設定」](#) をお読みください。

設定範囲	CX-CL1750/PA1120/PA1240 の場合：20～20000（初期設定：550） CX-CL1550 の場合 ：20～6500（初期設定：550）
------	---

・Advanced freq3 [Hz]

ANC 機能の測定周波数です。通常は初期値のまま使用します。

測定周波数の変更にあたって、詳しくは [P. 1-61 「設置後に必要に応じて行う設定」](#) をお読みください。

設定範囲	CX-CL1750/PA1120/PA1240 の場合：20～20000（初期設定：1080） CX-CL1550 の場合 ：20～6500（初期設定：1080）
------	---

● 音声出力に関する信号処理の詳細

[音声出力名称と対応する端子]

機器名	音声出力名	対応する出力
CX-OP1500 ID CX-OP1700 ID	Audio Output_ID 1 [A]	ハンズフリースピーカー ヘッドセットスピーカー
	Audio Output_ID 1 [B]	外部スピーカー ハンドセットスピーカー
CX-CL1550 ID CX-CL1750 ID	Audio Output_ID 1 [A]	ハンズフリースピーカー
	Audio Output_ID 1 [B]	外部スピーカー
CX-AF1062 ID	Audio Output_ID 1	音声出力 1
	Audio Output_ID 2	音声出力 2
CX-PA1120 ID CX-PA1240 ID	Audio Output_ID 1	録音出力
		スピーカー出力 1 ~ 10

[音声出力の設定項目]

各音声出力について、以下の表で「○」印を付けた部分の信号処理が設定できます。

CX-OP1700 および CX-OP1500 は、設定画面ではハンドセットスピーカー、ヘッドセットスピーカー、ハンズフリースピーカーは 1 つの出力として表されていますが、適用される設定項目がスピーカーによって異なります。

また、複数の信号処理の流れについては、下図を参照してください。

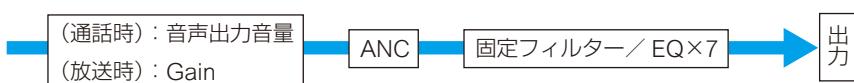
機能	対象機器	出力	設定項目					
			オーディオシーン			基本動作	インターフェース	
			音声出力音質	端末	通話			
通話	CX-OP1700/ OP1500	ハンドセットスピーカー	—	—	—	○*	○	
		ヘッドセットスピーカー	—	—	—	—	○	
		ハンズフリースピーカー	—	—	—	○	○	
	CX-CL1750/ CL1550	外部スピーカー	—	○	○	—	○	
		ハンズフリースピーカー	—	○	—	○	○	
		外部スピーカー	—	—	○	—	○	
放送	CX-OP1700/ OP1500	ハンドセットスピーカー	○	—	—	○*	—	
		ヘッドセットスピーカー	○	—	—	—	—	
		ハンズフリースピーカー	○	—	—	○	—	
		外部スピーカー	○	—	○	—	—	
	CX-CL1750/ CL1550	ハンズフリースピーカー	○	○	—	○	—	
		外部スピーカー	—	○	○	—	—	
	CX-AF1062	音声出力 1 ~ 2	○	—	○	—	—	
	CX-PA1120/ PA1240	スピーカー出力 1 ~ 10、 録音出力	○	○	○	—	—	

* CX-OP1700 のみ、固定フィルターで「卓上（フラット）」、「壁掛け（フラット）」選択時のみ○

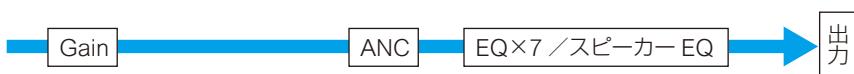
[信号処理の流れ]

音声出力に適用される信号処理の流れは以下のとおりですが、適用される信号処理については、上記「音声出力の設定項目」の表を参照してください。

● 端末の場合

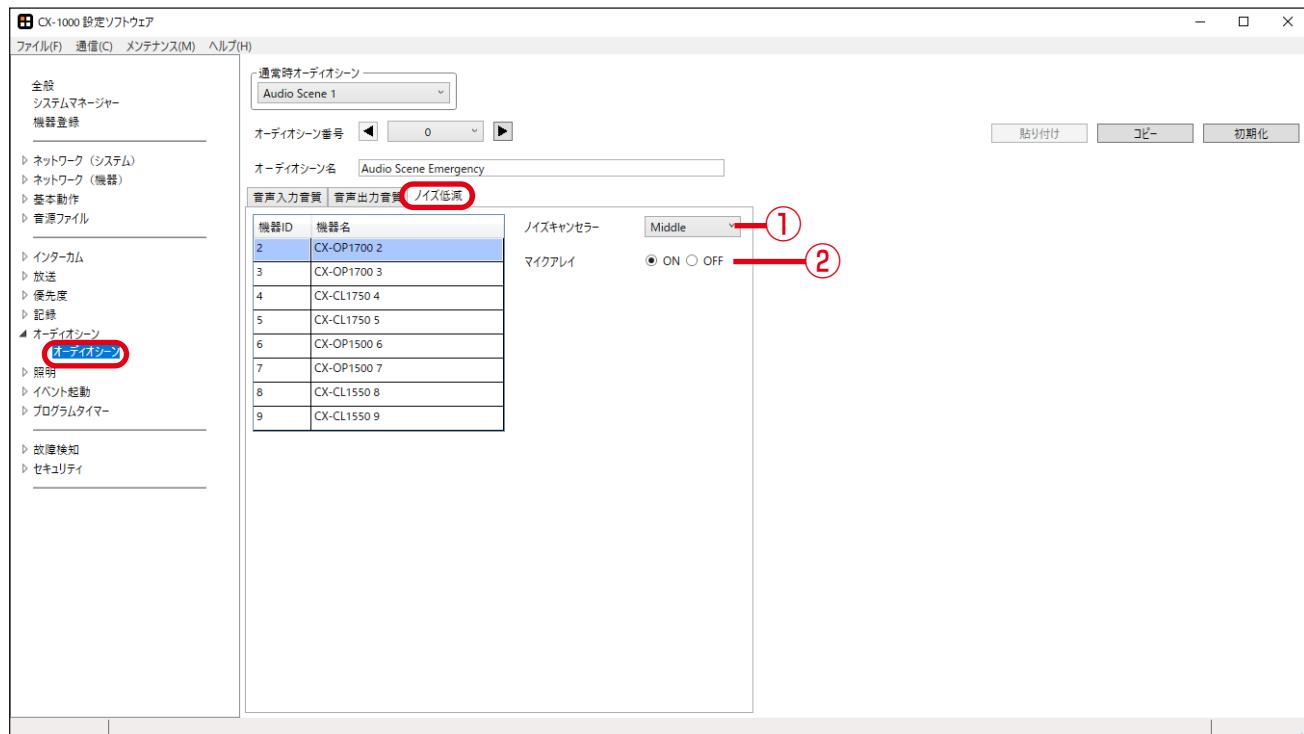


● ユニットの場合



■ ノイズ低減の設定

「オーディオシーン」→「オーディオシーン」で「ノイズ低減」タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。CX-OP1700/CL1750/OP1500/CL1550 の音声品質を設定します。



① ノイズキャンセラー

ハンズフリーマイクを使用した通話時のノイズキャンセラーの強度を設定します。
機器の設置環境に合わせて設定してください。

設定範囲	Hard、Middle（初期設定）、Soft、OFF
------	----------------------------

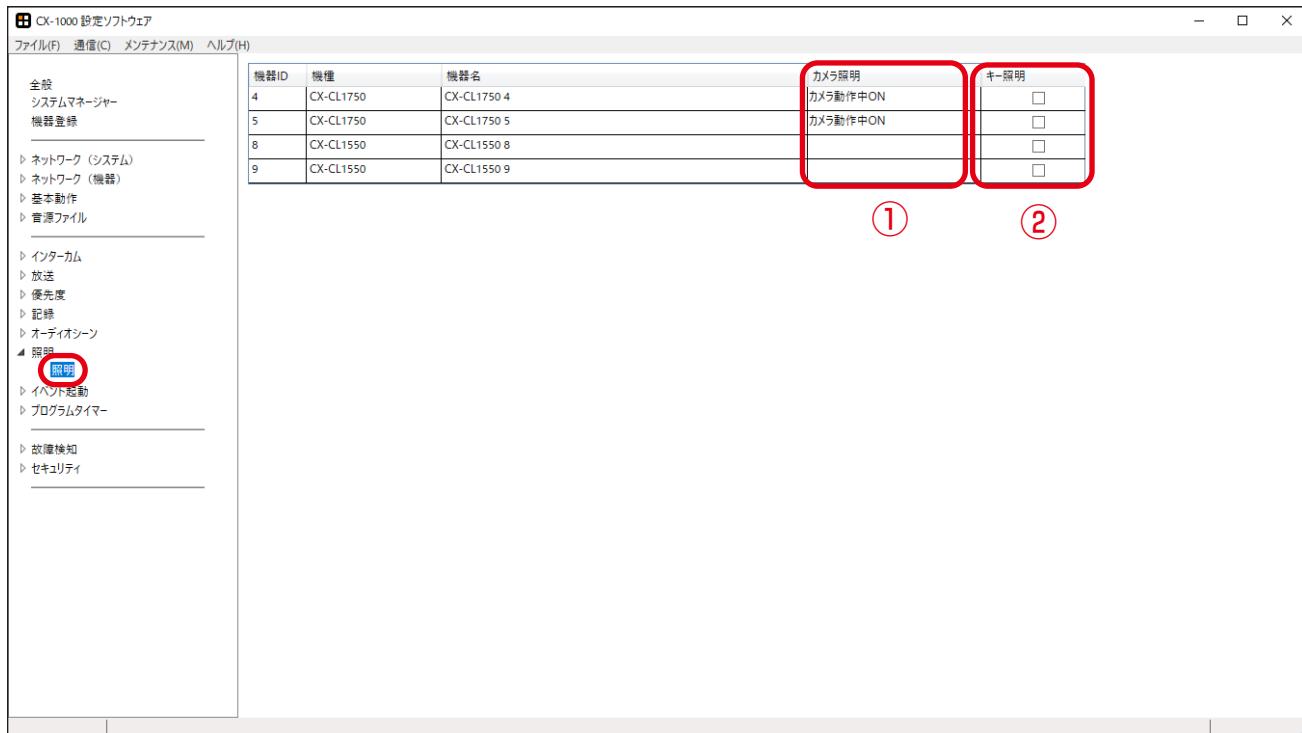
② マイクアレイ

2つのマイクから集音することによって、ハンズフリーマイクを使用した放送時および通話時に、端末正面の音声を集音しやすくなります。
マイクアレイ機能を利用する場合は、この設定を ON にしてください。
この設定が OFF のときは、1つのマイクから集音します。

設定範囲	ON（初期設定）、OFF
------	--------------

照明の設定

「照明」→「照明」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① カメラ照明 (CX-CL1750 のみ)

CX-CL1750 のカメラ動作中の照明動作を設定します。

「カメラ動作中 ON」に設定すると、ビデオ通話時にダイレクトキーが高輝度で点灯します。

「常時 OFF」に設定すると、通話時は低輝度で点灯し、それ以外のときはキー照明②の設定に応じて点灯または消灯します。

設定範囲	カメラ動作中 ON (初期設定)、常時 OFF
------	-------------------------

② キー照明

CX-CL1750/CL1550 のダイレクトキーの照明を設定します。

チェックを入れると、常時点灯します。

チェックを外すと、通話時は点灯し、それ以外のときは消灯します。

(初期設定：チェックなし)

イベント起動の設定

■ 制御入力およびキーによるイベント起動の設定

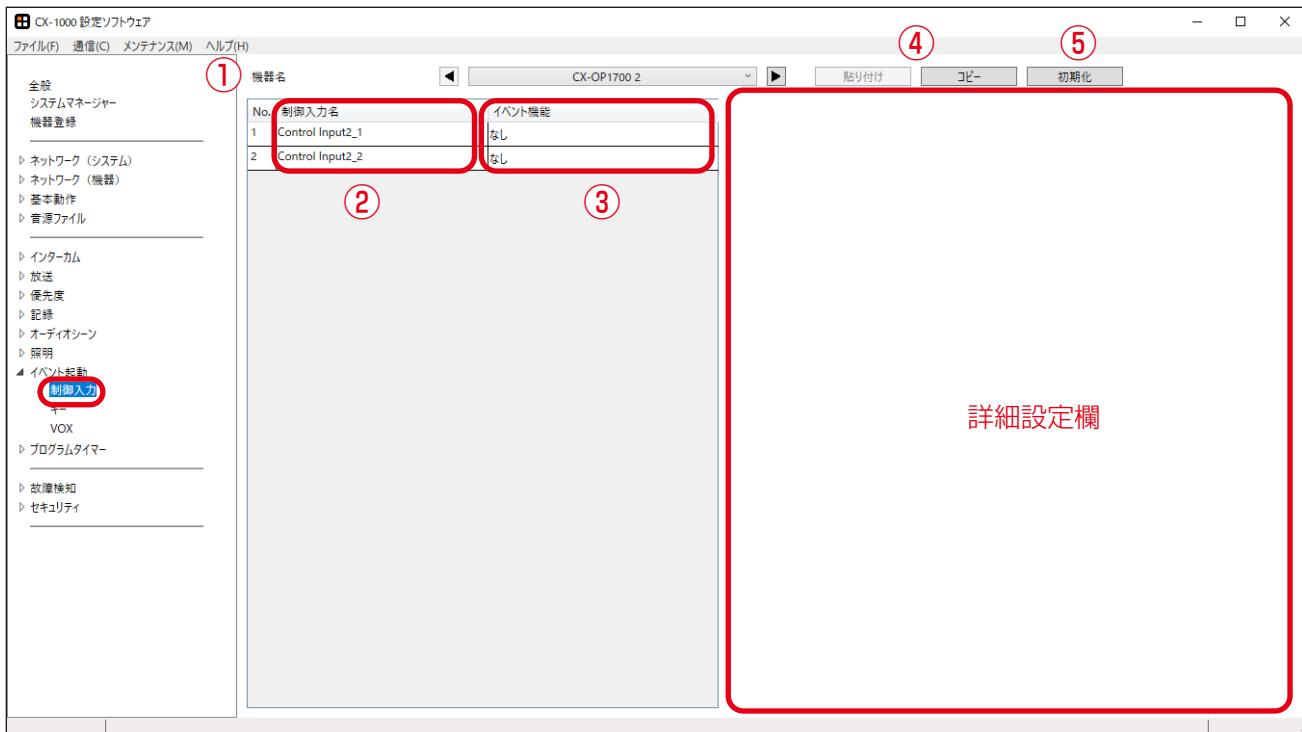
「イベント起動」→「制御入力」または「キー」の各設定画面では、各機器の制御入力および端末のキーなどにイベント機能を割り当てます。

メモ

制御入力でパルス信号を入力する場合は、0.2秒以上のパルス幅が必要です。

● 制御入力の設定画面

「イベント起動」→「制御入力」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 機器名

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、機器を選択します。

機器が持つ制御入力の一覧が下のリストに表示されます。

② 制御入力名

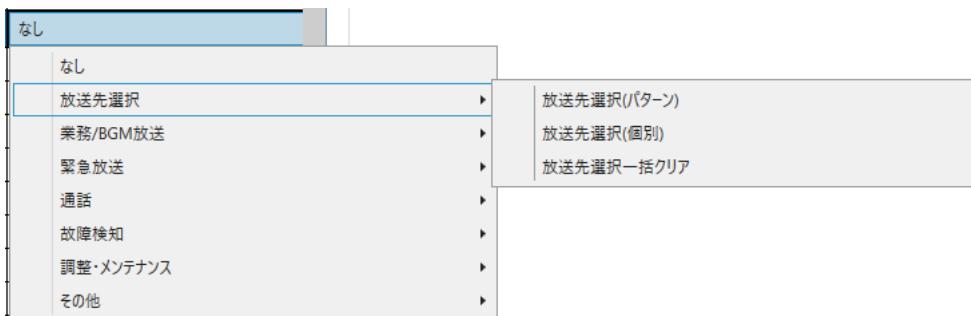
制御入力名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず32文字以内（初期設定：Control Input + ID + _ + No.）
------	--

③ イベント機能

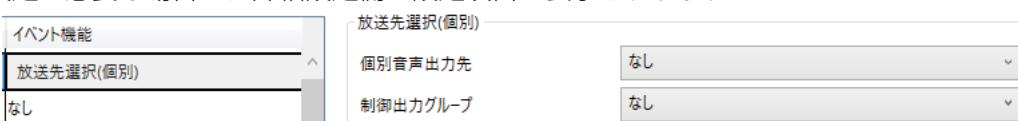
ボックスをクリックして、各キーに割り当てるイベント機能をプルダウンメニューから選択します。

(例)



割り当てできるイベント機能については、P. 2-110 「割り当て可能なイベント機能」 を参照してください。
詳細設定が必要な場合は、詳細設定欄に設定項目が表示されます。

(例)



詳細設定については、P. 2-117 「イベント機能の詳細設定」 をお読みください。

④ コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると画面上の全設定をコピーします。

貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を他の機器の同じ画面に貼り付けます。

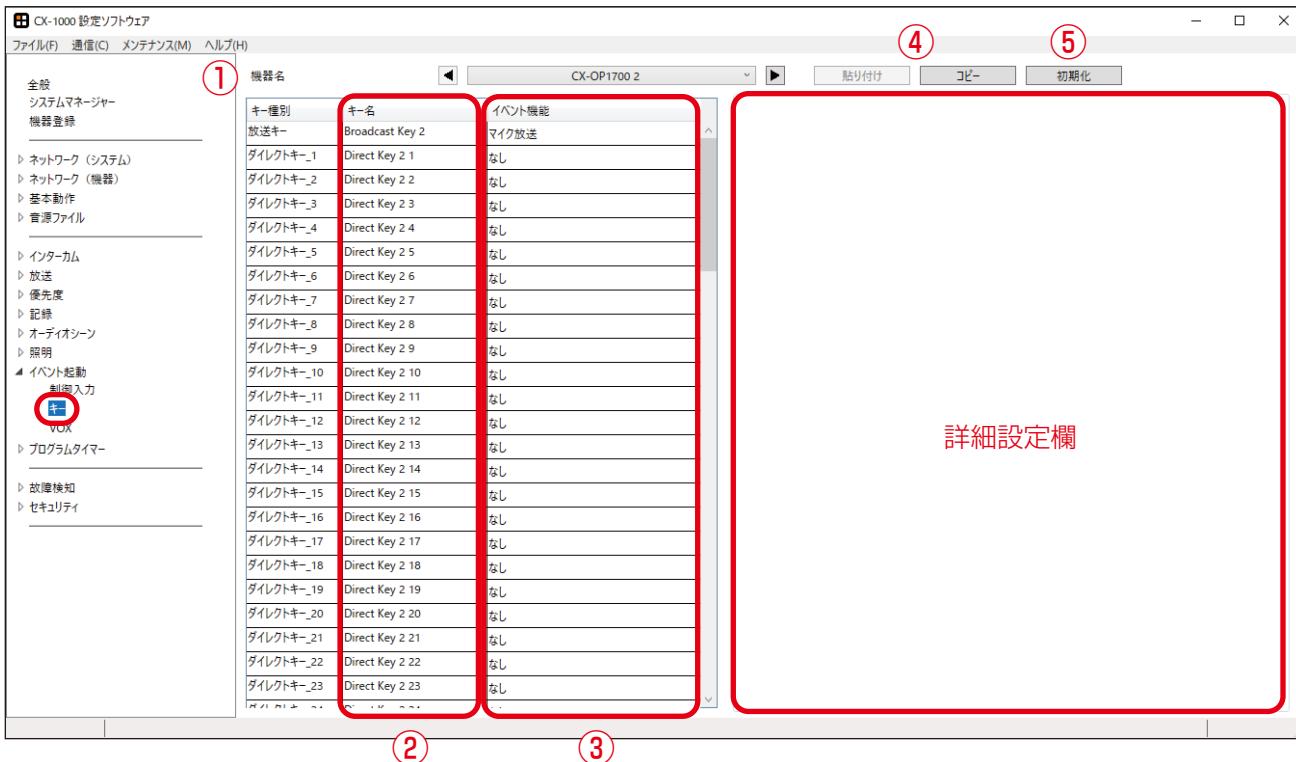
⑤ 初期化ボタン

表示されているイベントの設定値を初期値に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

● キーの設定画面

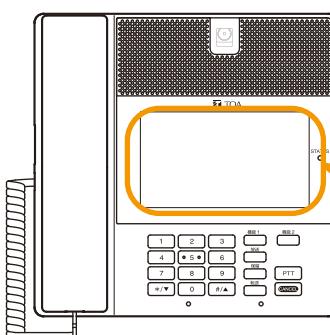
「イベント起動」→「キー」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



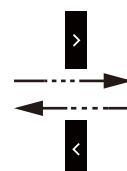
メモ

- CX-OP1700 および CX-RM1700 の液晶画面のダイレクトキーはキー種別「ダイレクトキー_1～100」で表され、液晶画面上では下図のような並びになります。
- CX-RM1700 の操作面にあるダイレクトキー 1～5 は、キー種別「ダイレクトキー_101～105」に対応します。

CX-OP1700

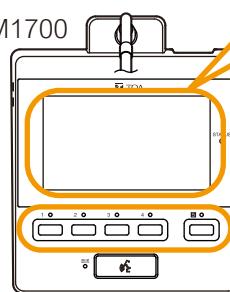


[300] Entrance	
ダイレクトキー1	ダイレクトキー6
ダイレクトキー2	ダイレクトキー7
< ダイレクトキー3	ダイレクトキー8 >
ダイレクトキー4	ダイレクトキー9
ダイレクトキー5	ダイレクトキー10



ページ位置情報：ダイレクトキー画面のページの位置を表します。

CX-RM1700



ダイレクトキー 101～105

① 機器名

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、機器を選択します。

機器が持つダイレクトキーおよび放送キーの一覧が下のリストに表示されます。

②キー名

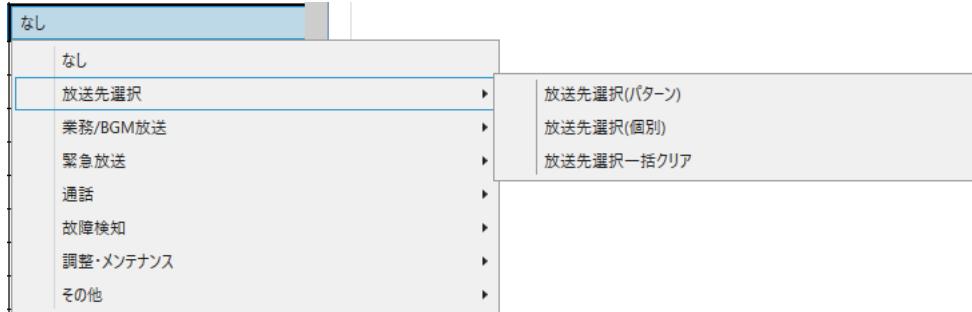
キーの名称を入力します。

設定範囲	全角のみの場合 16 文字以内、半角のみの場合 32 文字以内(全角 1 文字は半角 2 文字分) 初期設定は以下のとおり、キー種別により異なります。 放送キー : CX-OP1500/OP1700 の場合は Broadcast Key+ID CX-RM1700 の場合は Talk Key + ID ダイレクトキー : Direct Key+ID+No.
------	--

③イベント機能

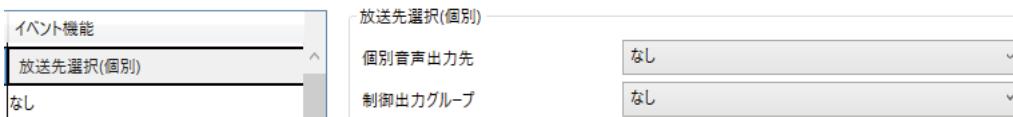
ボックスをクリックして、各キーに割り当てるイベント機能をプルダウンメニューから選択します。

(例)



割り当てできるイベント機能については、P. 2-110 「割り当て可能なイベント機能」 を参照してください。
詳細設定が必要な場合は、詳細設定欄に設定項目が表示されます。

(例)



詳細設定については、P. 2-117 「イベント機能の詳細設定」 をお読みください。

④コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると画面上の全設定をコピーします。

貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を他の機器の同じ画面に貼り付けます。

⑤初期化ボタン

表示されているイベントの設定値を初期値に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

● 割り当て可能なイベント機能

機種および制御入力、キーにより、割り当てできるイベントは異なります。

[CX-OP1500、CX-OP1700 の場合]

割り当て先 機能		制御入力	ダイレクトキー	放送キー	詳細設定参照先
放送先選択	放送先選択（パターン）	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-117
	放送先選択（個別）	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-117
	放送先選択一括クリア	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-118
業務放送	業務／BGM 放送		<input checked="" type="radio"/>		P. 2-118
	業務放送パターン起動／停止（レベル）	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-119
	業務放送パターン起動／停止（パルス）	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-119
	ベースパターン起動	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-119
	ベースパターン停止	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-120
	ボイススタック* ³		<input checked="" type="radio"/>		P. 2-120
	マイク放送			<input checked="" type="radio"/>	P. 2-120
緊急放送* ¹	緊急メッセージ放送パターン起動	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-121
	緊急メッセージ放送パターン停止	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-121
	緊急シーケンス停止	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-121
	緊急シーケンスフェーズ移行	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-121
	緊急復旧	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-122
	緊急メッセージ放送		<input checked="" type="radio"/>		P. 2-122
インターラム	リモートダイヤル	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-122
	ワンタッチダイヤル	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-123
	ドア開放検知（レベル）	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-123
	ダイヤル通知				
故障検知* ²	故障受理	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-124
	故障リセット	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-124
	外部故障入力	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-124
調整・メンテナンス	時刻補正	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-124
	入力音量減衰（レベル）	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-125
	出力音量減衰（レベル）	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-125
	オーディオシーン変更（レベル）	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-126
	オーディオシーン変更（パルス）	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-126
その他	接点ブリッジ（レベル）	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-127
	接点ブリッジ（パルス）	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-127
	タイマー運用パターン変更（レベル）	<input checked="" type="radio"/>			P. 2-127
	タイマー運用パターン変更（パルス）	<input checked="" type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>		P. 2-128
	外部カメラ映像確認* ³		<input checked="" type="radio"/>		P. 2-128

*¹ 「全般」で「緊急モード」を「有効」にしたときのみ選択できます。

ダイレクトキーの場合は、「全般」で「緊急モード」を「有効」にし、かつ「基本動作」の「機器」で「業務・緊急」に設定したときのみ選択できます。

*² 「全般」で「故障検知機能」を「有効」にしたときのみ選択できます。

*³ CX-OP1500 ではこの機能は使用できません。

[CX-CL1550、CX-CL1750 の場合]

機能		割り当て先	制御入力	ダイレクトキー	詳細設定参照先
放送先選択	放送先選択（パターン）				
	放送先選択（個別）				
	放送先選択一括クリア				
業務放送	業務／BGM 放送				
	業務放送パターン起動／停止（レベル）		○		P.2-119
	業務放送パターン起動／停止（パルス）		○	○	P.2-119
	ベースパターン起動		○		P.2-119
	ベースパターン停止		○		P.2-120
	ボイススタック				
	マイク放送				
緊急放送* ¹	緊急メッセージ放送パターン起動		○		P.2-121
	緊急メッセージ放送パターン停止		○		P.2-121
	緊急シーケンス停止		○		P.2-121
	緊急シーケンスフェーズ移行		○		P.2-121
	緊急復旧		○		P.2-122
	緊急メッセージ放送				
インターフォン	リモートダイヤル		○		P.2-122
	ワンタッチダイヤル		○	○	P.2-123
	ドア開放検知（レベル）		○		P.2-123
	ダイヤル通知			○	P.2-124
故障検知* ²	故障受理		○		P.2-124
	故障リセット		○		P.2-124
	外部故障入力		○		P.2-124
調整・メンテナンス	時刻補正		○		P.2-124
	入力音量減衰（レベル）		○		P.2-125
	出力音量減衰（レベル）		○		P.2-125
	オーディオシーン変更（レベル）		○		P.2-126
	オーディオシーン変更（パルス）		○	○	P.2-126
その他	接点ブリッジ（レベル）		○		P.2-127
	接点ブリッジ（パルス）		○	○	P.2-127
	タイマー運用パターン変更（レベル）		○		P.2-127
	タイマー運用パターン変更（パルス）		○		P.2-128
	外部カメラ映像確認				

*¹ 「全般」で「緊急モード」を「有効」にしたときのみ選択できます。

ダイレクトキーの場合は、「全般」で「緊急モード」を「有効」にし、かつ「基本動作」の「機器」で「業務・緊急」に設定したときのみ選択できます。

*² 「全般」で「故障検知機能」を「有効」にしたときのみ選択できます。

[CX-RM1700 の場合]

機能		割り当て先	制御入力	ダイレクトキー	放送キー	詳細設定参照先
放送先選択	放送先選択（パターン）			<input type="radio"/>		P. 2-117
	放送先選択（個別）			<input type="radio"/>		P. 2-117
	放送先選択一括クリア			<input type="radio"/>		P. 2-118
業務放送	業務／BGM 放送			<input type="radio"/>		P. 2-118
	業務放送パターン起動／停止（レベル）			<input type="radio"/>		P. 2-119
	業務放送パターン起動／停止（パルス）			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-119
	ベースパターン起動			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-119
	ベースパターン停止			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-120
	ボイススタック				<input type="radio"/>	P. 2-120
	マイク放送				<input type="radio"/>	P. 2-120
緊急放送* ¹	緊急メッセージ放送パターン起動			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-121
	緊急メッセージ放送パターン停止			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-121
	緊急シーケンス停止			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-121
	緊急シーケンスフェーズ移行			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-121
	緊急復旧			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-122
	緊急メッセージ放送				<input type="radio"/>	P. 2-122
インターフォン	リモートダイヤル			<input type="radio"/>		P. 2-122
	ワンタッチダイヤル					
	ドア開放検知（レベル）			<input type="radio"/>		P. 2-123
	ダイヤル通知					
故障検知* ²	故障受理			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-124
	故障リセット			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-124
	外部故障入力			<input type="radio"/>		P. 2-124
調整・メンテナンス	時刻補正			<input type="radio"/>		P. 2-124
	入力音量減衰（レベル）			<input type="radio"/>		P. 2-125
	出力音量減衰（レベル）			<input type="radio"/>		P. 2-125
	オーディオシーン変更（レベル）			<input type="radio"/>		P. 2-126
	オーディオシーン変更（パルス）			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-126
その他	接点ブリッジ（レベル）			<input type="radio"/>		P. 2-127
	接点ブリッジ（パルス）			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-127
	タイマー運用パターン変更（レベル）			<input type="radio"/>		P. 2-127
	タイマー運用パターン変更（パルス）			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P. 2-128
	外部カメラ映像確認				<input type="radio"/>	P. 2-128

*¹ 「全般」で「緊急モード」を「有効」にしたときのみ選択できます。

ダイレクトキーの場合は、「全般」で「緊急モード」を「有効」にし、かつ「基本動作」の「機器」で「業務・緊急」に設定したときのみ選択できます。

*² 「全般」で「故障検知機能」を「有効」にしたときのみ選択できます。

[CX-AF1062、CX-PA1120、CX-PA1240の場合]

機能		割り当て先	制御入力	ダイレクトキー	詳細設定参照先
放送先選択	放送先選択（パターン）		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-117
	放送先選択（個別）		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-117
	放送先選択一括クリア		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-118
業務放送	業務／BGM放送		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-118
	業務放送パターン起動／停止（レベル）		<input type="radio"/>		P.2-119
	業務放送パターン起動／停止（パルス）		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-119
	ベースパターン起動		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-119
	ベースパターン停止		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-120
	ボイススタック				
	マイク放送				
緊急放送* ¹	緊急メッセージ放送パターン起動		<input type="radio"/>		P.2-121
	緊急メッセージ放送パターン停止		<input type="radio"/>		P.2-121
	緊急シーケンス停止		<input type="radio"/>		P.2-121
	緊急シーケンスフェーズ移行		<input type="radio"/>		P.2-121
	緊急復旧		<input type="radio"/>		P.2-122
	緊急メッセージ放送				P.2-122
インターラム	リモートダイヤル		<input type="radio"/>		P.2-122
	ワンタッチダイヤル				
	ドア開放検知（レベル）		<input type="radio"/>		P.2-123
	ダイヤル通知				
故障検知* ²	故障受理		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-124
	故障リセット		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-124
	外部故障入力		<input type="radio"/>		P.2-124
調整・メンテナンス	時刻補正		<input type="radio"/>		P.2-124
	入力音量減衰（レベル）		<input type="radio"/>		P.2-125
	出力音量減衰（レベル）		<input type="radio"/>		P.2-125
	オーディオシーン変更（レベル）		<input type="radio"/>		P.2-126
	オーディオシーン変更（パルス）		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-126
その他	接点ブリッジ（レベル）		<input type="radio"/>		P.2-127
	接点ブリッジ（パルス）		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-127
	タイマー運用パターン変更（レベル）		<input type="radio"/>		P.2-127
	タイマー運用パターン変更（パルス）		<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	P.2-128
	外部カメラ映像確認				

*¹ 「全般」で「緊急モード」を「有効」にしたときのみ選択できます。

*² 「全般」で「故障検知機能」を「有効」にしたときのみ選択できます。

[CX-CC1016の場合]

機能		割り当て先	制御入力	詳細設定参照先
放送先選択	放送先選択（パターン）			
	放送先選択（個別）			
	放送先選択一括クリア			
業務放送	業務／BGM 放送			
	業務放送パターン起動／停止（レベル）	<input type="radio"/>	P. 2-119	
	業務放送パターン起動／停止（パルス）	<input type="radio"/>	P. 2-119	
	ベースパターン起動	<input type="radio"/>	P. 2-119	
	ベースパターン停止	<input type="radio"/>	P. 2-120	
	ボイススタック			
	マイク放送			
緊急放送* ¹	緊急メッセージ放送パターン起動	<input type="radio"/>	P. 2-121	
	緊急メッセージ放送パターン停止	<input type="radio"/>	P. 2-121	
	緊急シーケンス停止	<input type="radio"/>	P. 2-121	
	緊急シーケンスフェーズ移行	<input type="radio"/>	P. 2-121	
	緊急復旧	<input type="radio"/>	P. 2-122	
	緊急メッセージ放送			
インターフォン	リモートダイヤル	<input type="radio"/>	P. 2-122	
	ワンタッチダイヤル			
	ドア開放検知（レベル）	<input type="radio"/>	P. 2-123	
	ダイヤル通知			
故障検知* ²	故障受理	<input type="radio"/>	P. 2-124	
	故障リセット	<input type="radio"/>	P. 2-124	
	外部故障入力	<input type="radio"/>	P. 2-124	
調整・メンテナンス	時刻補正	<input type="radio"/>	P. 2-124	
	入力音量減衰（レベル）	<input type="radio"/>	P. 2-125	
	出力音量減衰（レベル）	<input type="radio"/>	P. 2-125	
	オーディオシーン変更（レベル）	<input type="radio"/>	P. 2-126	
	オーディオシーン変更（パルス）	<input type="radio"/>	P. 2-126	
その他	接点ブリッジ（レベル）	<input type="radio"/>	P. 2-127	
	接点ブリッジ（パルス）	<input type="radio"/>	P. 2-127	
	タイマー運用パターン変更（レベル）	<input type="radio"/>	P. 2-127	
	タイマー運用パターン変更（パルス）	<input type="radio"/>	P. 2-128	
	外部カメラ映像確認			

*¹ 「全般」で「緊急モード」を「有効」にしたときのみ選択できます。

*² 「全般」で「故障検知機能」を「有効」にしたときのみ選択できます。

● イベント機能一覧

各イベント機能の概要は以下のとおりです。

イベント機能	内容
放送先選択	
放送先選択（パターン）	キー操作により、設定された放送先パターンを放送対象として選択します。
放送先選択（個別）	キー操作により、設定された個別の放送先を放送対象として選択します。
放送先選択一括クリア	キー操作により、選択中の放送先をすべて一括で解除します。
業務放送	
業務／BGM 放送	キー操作により、選択中の放送先に指定の音源を放送します。
業務放送パターン起動／停止（レベル）	制御入力（レベル）により、設定された業務放送パターンを起動／停止します。
業務放送パターン起動／停止（パルス）	制御入力（パルス）またはキー操作により、設定された業務放送パターンを起動／停止します。
ベースパターン起動	制御入力（パルス）またはキー操作により、設定されたベースパターンを起動します。他のベースパターンが起動中だった場合は、そのベースパターンを停止して、設定されたベースパターンを起動します。
ベースパターン停止	制御入力（パルス）またはキー操作により、ベースパターンを停止します。
ボイススタック	キー操作により、選択中の放送先へボイススタック放送を行います。
マイク放送	業務用途に設定された端末の放送キーの場合、通常モード中、緊急モード中のいずれのときでも、マイク放送を起動します。 業務・緊急用途に設定された端末の放送キーの場合、業務モード中はマイク放送を、緊急モード中は緊急マイク放送を起動します。 放送先選択（パターンまたは個別）で放送先選択中の場合は、その放送先に放送をします。
緊急放送	
緊急メッセージ放送パターン起動	制御入力（パルス）またはキー操作により、設定された緊急メッセージ放送パターンを起動し、緊急モードに遷移します。
緊急メッセージ放送パターン停止	制御入力（パルス）またはキー操作により、設定された緊急メッセージ放送パターンを停止します。
緊急シーケンス停止	制御入力（パルス）またはキー操作により、設定された緊急シーケンスを使用する緊急メッセージ放送パターンをすべて停止します。
緊急シーケンスフェーズ移行	制御入力（パルス）またはキー操作により、設定された緊急シーケンスのフェーズを1段階進めます。
緊急復旧	制御入力（パルス）またはキー操作により、動作中の緊急メッセージ放送パターンをすべて停止し、緊急モードを解除します。
緊急メッセージ放送	キー操作により、選択中の放送先へ、設定された緊急メッセージを放送します。
インターラム	
リモートダイヤル	制御入力（パルス）により、設定された端末から設定されたダイヤル操作を行います。

イベント機能	内容
ワンタッチダイヤル	制御入力（パルス）またはキー操作により、設定されたダイヤル操作を行います。
ドア開放検知（レベル）	制御入力（レベル）により、ドア開放状態として検知し、設定された制御出力をONにします。
ダイヤル通知	キー操作により、ダイヤル操作がされたことをリモートプロトコルで外部システムへ通知します。
故障検知	
故障受理	制御入力（パルス）またはキー操作により、発生している故障検知出力パターンを受理します。制御入力、CX-SM1000の故障受理キーの場合は、システム内のすべての故障検知出力パターンを一括で受理します。それ以外のキーの場合は、そのキーに割り当てられた故障検知出力パターンのみを受理します。
故障リセット	制御入力（パルス）またはキー操作により、現在発生中のすべての故障状態をリセットします。
外部故障入力	制御入力（レベル）により、外部機器からの故障状態を取り込みます。
調整・メンテナンス	
時刻補正	制御入力（パルス）により、システム時刻（CX-SM1000の内部時刻）を補正します。
入力音量減衰（レベル）	制御入力（レベル）により、設定された入力音源の音量を設定された値に応じて下げます。
出力音量減衰（レベル）	制御入力（レベル）により、設定された出力先の音量を設定された値に応じて下げます。
オーディオシーン変更（レベル）	制御入力（レベル）により、設定されたオーディオシーンを適用します。
オーディオシーン変更（パルス）	制御入力（パルス）またはキー操作により、設定されたオーディオシーンを適用します。
その他	
接点ブリッジ（レベル）	制御入力（レベル）により、設定された制御出力をONにします。
接点ブリッジ（パルス）	制御入力（パルス）またはキー操作により、設定された制御出力をONにします。
タイマー運用パターン変更（レベル）	制御入力（レベル）により、プログラムタイマーで運用している週間プログラムを、設定したデイリープログラムに変更します。
タイマー運用パターン変更（パルス）	制御入力（パルス）またはキー操作により、プログラムタイマーで運用している週間プログラムを、設定したデイリープログラムに変更します。
外部カメラ映像確認	キー操作により、設定されたカメラ映像を表示します。カメラ映像表示中に端末の操作により設定された放送先にマイク放送を実施することもできます。

● イベント機能の詳細設定

「イベント機能」の設定に応じて、詳細設定項目は以下のようになります。

【「イベント機能」を「放送先選択（パターン）」に設定したとき】

放送先選択(パターン)	
① 放送先パターン	なし

① 放送先パターン

キーに割り当てる放送先パターンを選択します。選択肢には放送先パターンが名称で表示されます。
放送先パターンは「放送」→「放送先パターン」(P. 2-69) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、放送先パターン一覧
------	---------------------

【「イベント機能」を「放送先選択（個別）」に設定したとき】

放送先選択(個別)	
① 放送先音声出力	なし
② 制御出力グループ	なし

① 放送先音声出力

キーに割り当てる放送先（個別）を選択します。選択肢には個別音声出力先が名称で表示されます。

設定範囲	なし (初期設定)、個別音声出力一覧
------	--------------------

② 制御出力グループ

キー操作に同期して起動する制御出力グループを選択します。選択肢には制御出力グループが名称で表示されます。

制御出力グループは「基本動作」→「制御出力グループ」(P. 2-33) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、制御出力グループ一覧
------	----------------------

[「イベント機能」を「放送先選択一括クリア」に設定したとき]

詳細設定項目はありません。

[「イベント機能」を「業務／BGM 放送」に設定したとき]

(「音声入力」選択時)

業務/BGM放送	
① 音源種別	<input checked="" type="radio"/> 音声入力 <input type="radio"/> コンテンツ <input type="radio"/> チャイム
② 音声入力	なし

(「コンテンツ」選択時)

業務/BGM放送	
① 音源種別	<input type="radio"/> 音声入力 <input checked="" type="radio"/> コンテンツ <input type="radio"/> チャイム
③ コンテンツ	なし

(「チャイム」選択時)

業務/BGM放送	
① 音源種別	<input type="radio"/> 音声入力 <input type="radio"/> コンテンツ <input checked="" type="radio"/> チャイム
④ チャイム	なし

① 音源種別

放送に使用する音源を選択します。選択した音源に応じて②～④のいずれかが設定できるようになります。

設定範囲	音声入力（初期設定）、コンテンツ、チャイム
------	-----------------------

② 音声入力

使用する音声入力を選択します。選択肢には音声入力が名称で表示されます。

設定範囲	なし（初期設定）、音声入力一覧
------	-----------------

③ コンテンツ

使用するコンテンツを選択します。選択肢にはコンテンツが名称で表示されます。

コンテンツは「音源ファイル」→「コンテンツ」(P.2-45)で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、設定されたコンテンツ一覧
------	-----------------------

④ チャイム

使用するチャイムを選択します。選択肢にはチャイムが名称で表示されます。

チャイムは「音源ファイル」→「チャイム」(P.2-48)で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、設定されたチャイム一覧
------	----------------------

[「イベント機能」を「業務放送パターン起動／停止（レベル）」に設定したとき]

業務放送パターン起動/停止(レベル)

① NO/NC NO NC

② 業務放送パターン なし

① NO/NC

接点が通常時にオーブン状態（NO）か、クローズ状態（NC）かを選択します。

設定範囲	なし (初期設定)、NO (初期設定)、NC
------	------------------------

② 業務放送パターン

制御入力で起動する業務放送パターンを選択します。選択肢には業務放送パターンが名称で表示されます。
業務放送パターンは「放送」→「業務放送パターン」（P. 2-73）で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、業務放送パターン一覧
------	----------------------

[「イベント機能」を「業務放送パターン起動／停止（パルス）」に設定したとき]

業務放送パターン起動/停止(パルス)

② 業務放送パターン なし

① 業務放送パターン

制御入力またはキーで起動する業務放送パターンを選択します。選択肢には業務放送パターンが名称で表示されます。

業務放送パターンは「放送」→「業務放送パターン」（P. 2-73）で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、業務放送パターン一覧
------	----------------------

[「イベント機能」を「ベースパターン起動」に設定したとき]

ベースパターン起動

① ベースパターン なし

② 制御出力グループ なし

① ベースパターン

制御入力またはキーで起動するベースパターンを選択します。選択肢にはベースパターンが名称で表示されます。

ベースパターンは「放送」→「ベースパターン」（P. 2-71）で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、ベースパターン一覧
------	---------------------

② 制御出力グループ

制御入力またはキー操作に同期して起動する制御出力グループを選択します。選択肢には制御出力グループが名称で表示されます。

制御出力グループは「基本動作」→「制御出力グループ」（P. 2-33）で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、制御出力グループ一覧
------	----------------------

[「イベント機能」を「ベースパターン停止」に設定したとき]

詳細設定項目はありません。

[「イベント機能」を「ボイススタック」に設定したとき]

詳細設定項目はありません。

[「イベント機能」を「マイク放送」に設定したとき]

(「個別」選択時)

マイク放送	
① マイク放送先	<input checked="" type="radio"/> 個別 <input type="radio"/> 放送先パターン
② 放送先音声出力	なし
③ 制御出力グループ	なし
④ 緊急マイク放送先	<input checked="" type="radio"/> 個別 <input type="radio"/> 放送先パターン
② 放送先音声出力	なし
③ 制御出力グループ	なし

(「放送先パターン」選択時)

マイク放送	
① マイク放送先	<input type="radio"/> 個別 <input checked="" type="radio"/> 放送先パターン
⑤ 放送先パターン	なし
④ 緊急マイク放送先	<input type="radio"/> 個別 <input checked="" type="radio"/> 放送先パターン
⑤ 放送先パターン	なし

①マイク放送先

マイク放送時に、放送先を選択しないで放送キーを押したときに放送する放送先を選択します。選択した放送先に応じて②、③、または⑤のいずれかが設定できるようになります。

設定範囲	個別 (初期設定)、放送先パターン
------	-------------------

②放送先音声出力

キーに割り当てる放送先（個別）を選択します。選択肢には個別音声出力が名称で表示されます。

設定範囲	なし (初期設定)、個別音声出力一覧
------	--------------------

③制御出力グループ

キー操作に同期して起動する制御出力グループを選択します。選択肢には制御出力グループが名称で表示されます。

制御出力グループは「基本動作」→「制御出力グループ」(P. 2-33) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、制御出力グループ一覧
------	----------------------

④緊急マイク放送先

緊急マイク放送時に、放送先を選択しないで放送キーを押したときに放送する放送先を選択します。選択した放送先に応じて②、③、または⑤のいずれかが設定できるようになります。

設定範囲	個別（初期設定）、放送先パターン
------	------------------

⑤放送先パターン

キーに割り当てる放送先パターンを選択します。選択肢には放送先パターンが名称で表示されます。放送先パターンは「放送」→「放送先パターン」（P. 2-69）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、放送先パターン一覧
------	--------------------

【「イベント機能」を「緊急メッセージ放送パターン起動」に設定したとき】

緊急メッセージ放送パターン起動

① 緊急放送パターン なし

①緊急メッセージ放送パターン

制御入力またはキーに割り当てる緊急メッセージ放送パターンを選択します。選択肢には緊急メッセージ放送パターンが名称で表示されます。

緊急メッセージ放送パターンは「放送」→「緊急メッセージ放送パターン」（P. 2-77）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、緊急メッセージ放送パターン一覧
------	--------------------------

【「イベント機能」を「緊急メッセージ放送パターン停止」に設定したとき】

緊急メッセージ放送パターン停止

① 緊急放送パターン なし

①緊急メッセージ放送パターン

制御入力またはキー操作により停止する緊急メッセージ放送パターンを選択します。選択肢には緊急メッセージ放送パターンが名称で表示されます。

緊急メッセージ放送パターンは「放送」→「緊急メッセージ放送パターン」（P. 2-77）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、緊急メッセージ放送パターン一覧
------	--------------------------

【「イベント機能」を「緊急シーケンス停止」に設定したとき】

緊急シーケンス停止

① 緊急シーケンス なし

①緊急シーケンス

制御入力またはキー操作により停止する緊急シーケンスを選択します。選択肢には緊急シーケンスが名称で表示されます。

緊急シーケンスは「放送」→「緊急シーケンス」（P. 2-75）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、緊急シーケンス一覧
------	--------------------

[「イベント機能」を「緊急シーケンスフェーズ移行」に設定したとき]

緊急シーケンスフェーズ移行

① 緊急シーケンス なし

①緊急シーケンス

制御入力またはキー操作によりフェーズを移行する緊急シーケンスを選択します。選択肢には緊急シーケンスが名称で表示されます。

緊急シーケンスは「放送」→「緊急シーケンス」(P. 2-75)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、緊急シーケンス一覧
------	---------------------

[「イベント機能」を「緊急復旧」に設定したとき]

緊急復旧

① コンテンツ なし

② 制御出力グループ なし

①コンテンツ

制御入力またはキー操作により、緊急モードから通常モードへ復旧するときに放送する復旧メッセージ（用途が「復旧」に設定されたコンテンツ）を選択します。選択肢には復旧メッセージが名称で表示されます。復旧メッセージは「音源ファイル」→「コンテンツ」(P. 2-45)で設定します。

制御出力グループは「基本動作」→「制御出力グループ」(P. 2-33)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、設定された復旧メッセージ
------	------------------------

②制御出力グループ

制御入力またはキー操作に同期して起動する制御出力グループを選択します。選択肢には制御出力グループが名称で表示されます。

制御出力グループは「基本動作」→「制御出力グループ」(P. 2-33)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、制御出力グループ一覧
------	----------------------

[「イベント機能」を「緊急メッセージ放送」に設定したとき]

緊急メッセージ放送

① 緊急メッセージ なし

①緊急メッセージ

キー操作により放送する緊急メッセージ（用途が「避難」または「警報」に設定されたコンテンツ）を選択します。選択肢には緊急メッセージが名称で表示されます。

メッセージは「音源ファイル」→「コンテンツ」(P. 2-45)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、設定された緊急メッセージ一覧
------	--------------------------

[「イベント機能」を「リモートダイヤル」に設定したとき]

リモートダイヤル	
① 発信元端末	なし
② ダイヤルコード	<input type="text"/>

① 発信元端末

制御入力により動作させる端末を選択します。選択肢には端末番号が設定されている端末が機器名で表示されます。

端末番号は「端末番号の設定」(P. 2-52) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、端末番号が設定されている CX-OP1700、CX-CL1750、CX-OP1500、および CX-CL1550 の機器名
------	---

② ダイヤルコード

制御入力により発信元端末からダイヤルするダイヤルコードを入力します。

設定範囲	0 ~ 25 文字の半角数字、半角記号 ('*'、'#' のみ)、および半角大文字 (F、B、H、T のみ*) (初期設定: 空欄) スペース使用不可
------	--

* F : 機能 1 キー、B : 放送キー、H : 保留キー、T : 転送キーを表します。

CX-OP1700、CX-OP1500 の場合のみ使用できます。

ご注意

- 一度のリモートダイヤル操作で有効なダイヤルコードを設定してください。
例えば数値 1 行のみ登録した場合、待ち受け状態でそのリモートダイヤルを起動しても無効となります。
1 行の端末番号は使用できない (P. 2-52) ためです。
- 発信元端末が BGM 受信中のときには、機能 1 キー (ダイヤルコード: F) を含むリモートダイヤルは使用できません。

[「イベント機能」を「ワンタッチダイヤル」に設定したとき]

ワンタッチダイヤル	
① ダイヤルコード	<input type="text"/>

① ダイヤルコード

キーに割り当てるダイヤルコードを入力します。

設定範囲	0 ~ 25 文字の半角数字、および半角記号 ('*'、'#' のみ) (初期設定: 空欄) スペース使用不可
------	--

[「イベント機能」を「ドア開放検知（レベル）」に設定したとき]

ドア開放検知(レベル)	
① 解錠時間[秒]	設定なし
② 通話端末	なし

① 解錠時間 [秒]

鍵を解錠している時間を設定します。

設定範囲	設定なし (初期設定)、1 ~ 20 (1 秒単位)
------	----------------------------

② 通話端末

制御入力によりドア開放状態を検知させる端末を選択します。選択肢には端末が機器名で表示されます。

設定範囲	なし（初期設定）、登録された CX-OP1700、CX-CL1750、CX-OP1500、CX-CL1550、および SIP 電話
------	---

「イベント機能」を「ダイヤル通知」に設定したとき】

詳細設定項目はありません。

「イベント機能」を「故障受理」に設定したとき】

故障受理	
① 故障検知パターン	なし

① 故障検知パターン（故障検知出力パターンをキーに割り当てる場合のみ）

制御入力またはキーに割り当てる故障検知出力パターンを選択します。選択肢には故障検知出力パターンが名称で表示されます。

故障検知出力パターンは「故障検知」→「故障検知出力パターン」(P.2-154) で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、故障検知出力パターン一覧
------	-----------------------

「イベント機能」を「故障リセット」に設定したとき】

拠点機能が「無効」のとき、詳細設定項目はありません。

拠点機能が「有効」のとき、以下の詳細設定項目が表示されます。

故障リセット	
① 故障リセット	<input type="radio"/> システム全体 <input checked="" type="radio"/> 所属拠点

① 故障リセット

制御入力またはキーにより故障リセットする範囲を選択します。

設定範囲	システム全体（制御入力の場合の初期設定）、所属拠点（キーの場合の初期設定）
------	---------------------------------------

「イベント機能」を「外部故障入力」に設定したとき】

外部故障入力	
① NO/NC	<input checked="" type="radio"/> NO <input type="radio"/> NC

① NO/NC

どの状態を故障発生とするかを選択します。

設定範囲	NO（初期設定）、NC
------	-------------

NO：接点が通常時にオープン状態（NO）です。故障発生時にはクローズ状態となります。

NC：接点が通常時にクローズ状態（NC）です。故障発生時にはオープン状態となります。

「イベント機能」を「時刻補正」に設定したとき】

詳細設定項目はありません。

[「イベント機能」を「入力音量減衰（レベル）」に設定したとき]

入力音量減衰(レベル)

① NO/NC	<input checked="" type="radio"/> NO <input type="radio"/> NC
② 入力音量[dB]	-1
③ 音声入力	なし

① NO/NC

接点が通常時にオープン状態（NO）か、クローズ状態（NC）かを選択します。

設定範囲	NO (初期設定)、NC
------	--------------

② 入力音量 [dB]

減衰レベルを選択します。

設定範囲	-1 (初期設定)、-2、-3、-6、-10、-20、-40、-∞
------	-----------------------------------

③ 音声入力

制御入力により音量を変更する入力チャンネルを選択します。選択肢には音声入力が名称で表示されます。音声入力名称は「基本動作」→「音声入力」(P. 2-28) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、個別音声入力一覧
------	--------------------

[「イベント機能」を「出力音量減衰（レベル）」に設定したとき]

ご注意

この機能は、緊急放送にも適用されます。

(「個別」選択時)

出力音量減衰(レベル)

① NO/NC	<input checked="" type="radio"/> NO <input type="radio"/> NC
② 出力音量[dB]	-1
③ 放送先種別	<input checked="" type="radio"/> 個別 <input type="radio"/> 放送先パターン
④ 放送先音声出力	なし

(「放送先パターン」選択時)

出力音量減衰(レベル)

① NO/NC	<input checked="" type="radio"/> NO <input type="radio"/> NC
② 出力音量[dB]	-1
③ 放送先種別	<input type="radio"/> 個別 <input checked="" type="radio"/> 放送先パターン
⑤ 放送先パターン	なし

① NO/NC

接点が通常時にオープン状態（NO）か、クローズ状態（NC）かを選択します。

設定範囲	NO (初期設定)、NC
------	--------------

②出力音量 [dB]

減衰レベルを選択します。

設定範囲	-1 (初期設定)、-2、-3、-6、-10、-20、-40、-∞
------	-----------------------------------

③放送先種別

放送先として、個別の音声出力を指定するか、放送先パターンを指定するかを選択します。

設定範囲	個別 (初期設定)、放送先パターン
------	-------------------

④放送先音声出力（「放送先種別」を「個別」に設定したときのみ）

制御入力により音量を下げる個別の音声出力を選択します。選択肢には音声出力が名称で表示されます。

音声出力名称は「基本動作」→「音声出力」(P. 2-31) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、個別音声出力一覧
------	--------------------

⑤放送先パターン（「放送先種別」を「放送先パターン」に設定したときのみ）

制御入力により音量を下げる放送先パターンを選択します。選択肢には放送先パターンが名称で表示されます。

放送先パターンは「放送」→「放送先パターン」(P. 2-69) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、放送先パターン一覧
------	---------------------

[「イベント機能」を「オーディオシーン変更（レベル）」に設定したとき]**①NO/NC**

接点が通常時にオープン状態 (NO) か、クローズ状態 (NC) かを選択します。

設定範囲	NO (初期設定)、NC
------	--------------

②オーディオシーン

制御入力により変更するオーディオシーンを選択します。選択肢にはオーディオシーン 1 ~ 8 が名称で表示されます。

オーディオシーンは「オーディオシーン」→「オーディオシーン」(P. 2-90) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、オーディオシーン一覧
------	----------------------

[「イベント機能」を「オーディオシーン変更（パルス）」に設定したとき]**①オーディオシーン**

制御入力またはキーにより変更するオーディオシーンを選択します。選択肢にはオーディオシーン 1 ~ 8 が名称で表示されます。

オーディオシーンは「オーディオシーン」→「オーディオシーン」(P. 2-90) で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、オーディオシーン一覧
------	----------------------

[「イベント機能」を「接点ブリッジ（レベル）」に設定したとき]

接点ブリッジ(レベル)

① NO/NC	<input checked="" type="radio"/> NO <input type="radio"/> NC
② 制御出力グループ	なし

① NO/NC

接点が通常時にオープン状態（NO）か、クローズ状態（NC）かを選択します。

設定範囲	NO（初期設定）、NC
------	-------------

② 制御出力グループ

制御入力により起動する制御出力グループを選択します。選択肢には制御出力グループが名称で表示されます。

制御出力グループは「基本動作」→「制御出力グループ」（P. 2-33）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、制御出力グループ一覧
------	---------------------

[「イベント機能」を「接点ブリッジ（パルス）」に設定したとき]

接点ブリッジ(パルス)

① 制御出力グループ	なし
------------	----

① 制御出力グループ

制御入力により起動する制御出力グループを選択します。選択肢には制御出力グループが名称で表示されます。

制御出力グループは「基本動作」→「制御出力グループ」（P. 2-33）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、制御出力グループ一覧
------	---------------------

[「イベント機能」を「タイマー運用パターン変更（レベル）」に設定したとき]

タイマー運用パターン変更(レベル)

① NO/NC	<input checked="" type="radio"/> NO <input type="radio"/> NC
② 変更する週間プログラムNo.	1
③ デイリープログラム	なし

① NO/NC

接点が通常時にオープン状態（NO）か、クローズ状態（NC）かを選択します。

設定範囲	NO（初期設定）、NC
------	-------------

② 変更する週間プログラム No.

制御入力により変更する週間プログラムを選択します。

週間プログラムは「プログラムタイマー」→「週間プログラム」（P. 2-148）で設定します。

設定範囲	1～10（初期設定：1）
------	--------------

③ デイリープログラム

制御入力により変更するデイリープログラムを選択します。選択肢にはデイリープログラムが名称で表示されます。

デイリープログラムは「プログラムタイマー」→「デイリープログラム」(P.2-142)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、デイリープログラム一覧
------	-----------------------

「イベント機能」を「タイマー運用パターン変更(パルス)」に設定したとき】

① 変更する週間プログラム No.	1
② デイリープログラム	なし

① 変更する週間プログラム No.

制御入力により変更する週間プログラムを選択します。

週間プログラムは「プログラムタイマー」→「週間プログラム」(P.2-148)で設定します。

設定範囲	1～10 (初期設定: 1)
------	----------------

② デイリープログラム

制御入力により変更するデイリープログラムを選択します。選択肢にはデイリープログラムが名称で表示されます。

デイリープログラムは「プログラムタイマー」→「デイリープログラム」(P.2-142)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、デイリープログラム一覧
------	-----------------------

「イベント機能」を「外部カメラ映像確認」に設定したとき】

(「個別」選択時)

① IPカメラ	なし
② 放送先種別	<input checked="" type="radio"/> 個別 <input type="radio"/> 放送先パターン
③ 放送先音声出力	なし
④ 制御出力グループ	なし

(「放送先パターン」選択時)

① IPカメラ	なし
② 放送先種別	<input type="radio"/> 個別 <input checked="" type="radio"/> 放送先パターン
⑤ 放送先パターン	なし

① IP カメラ

キー操作により映像を確認する外部カメラを選択します。選択肢には外部カメラが名称で表示されます。外部カメラの名称は「機器登録」(P.2-8)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、登録された IP カメラ
------	------------------------

②放送先種別

外部カメラ映像確認の機能が割り当てられたキーを押したときに液晶画面に表示される放送アイコンおよび放送キーに割り当てる放送先として、個別の音声出力を指定するか、放送先パターンを指定するかを選択します。

設定範囲	個別（初期設定）、放送先パターン
------	------------------

③放送先音声出力（「放送先種別」を「個別」に設定したときのみ）

外部カメラ映像確認の機能が割り当てられたキーを押したときに液晶画面に表示される放送アイコンおよび放送キーに割り当てる個別の音声出力を選択します。選択肢には音声出力が名称で表示されます。

音声出力名称は「基本動作」→「音声出力」（P. 2-31）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、個別音声出力一覧
------	-------------------

④制御出力グループ（「放送先種別」を「個別」に設定したときのみ）

放送に同期して起動する制御出力グループを選択します。選択肢には制御出力グループが名称で表示されます。

制御出力グループは「基本動作」→「制御出力グループ」（P. 2-33）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、制御出力グループ一覧
------	---------------------

⑤放送先パターン（「放送先種別」を「放送先パターン」に設定したときのみ）

外部カメラ映像確認の機能が割り当てられたキーを押したときに液晶画面に表示される放送アイコンおよび放送キーに割り当てる放送先パターンを選択します。選択肢には放送先パターンが名称で表示されます。放送先パターンは「放送」→「放送先パターン」（P. 2-69）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、放送先パターン一覧
------	--------------------

● 各イベント機能の動作

業務／BGM 放送

キー操作で、コンテンツ、チャイム、および CX-1000 シリーズ機器の音声入力からの音声を放送できます。

ここではコンテンツの再生を例に説明します。

放送の動作は、コンテンツ設定で選択した「再生回数」(P. 2-46) により次のように変わります。

[音源設定例]

	再生回数
コンテンツ 1	1
コンテンツ 2	∞

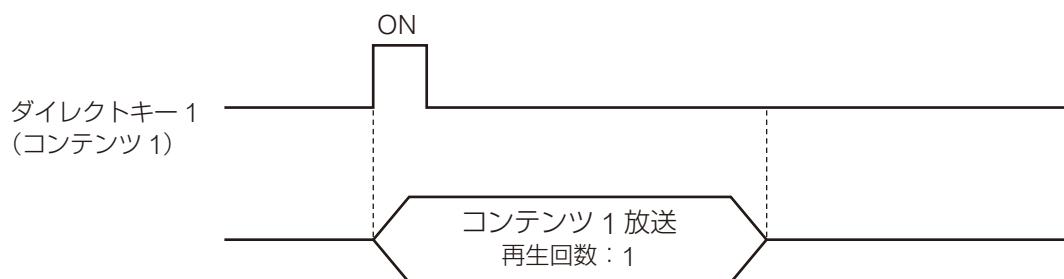
[ダイレクトキー設定例]

	イベント機能	イベント機能の詳細
ダイレクトキー 1	業務／BGM 放送	音源：コンテンツ 1
ダイレクトキー 2	業務／BGM 放送	音源：コンテンツ 2

[コンテンツ 1：「再生回数」を「1」に設定したとき]

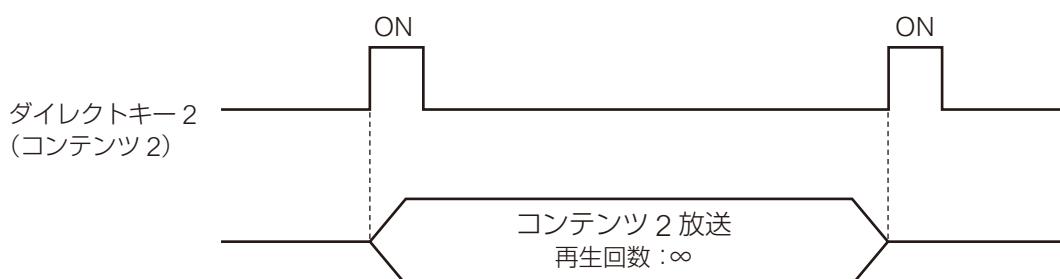
コンテンツは、一度放送された後に終了します。

コンテンツ再生中にもう一度キーを押すと、放送が終了します。



[コンテンツ 2：「再生回数」を「∞」に設定したとき]

放送は、もう一度キーを押すまで繰り返し再生を続けます。

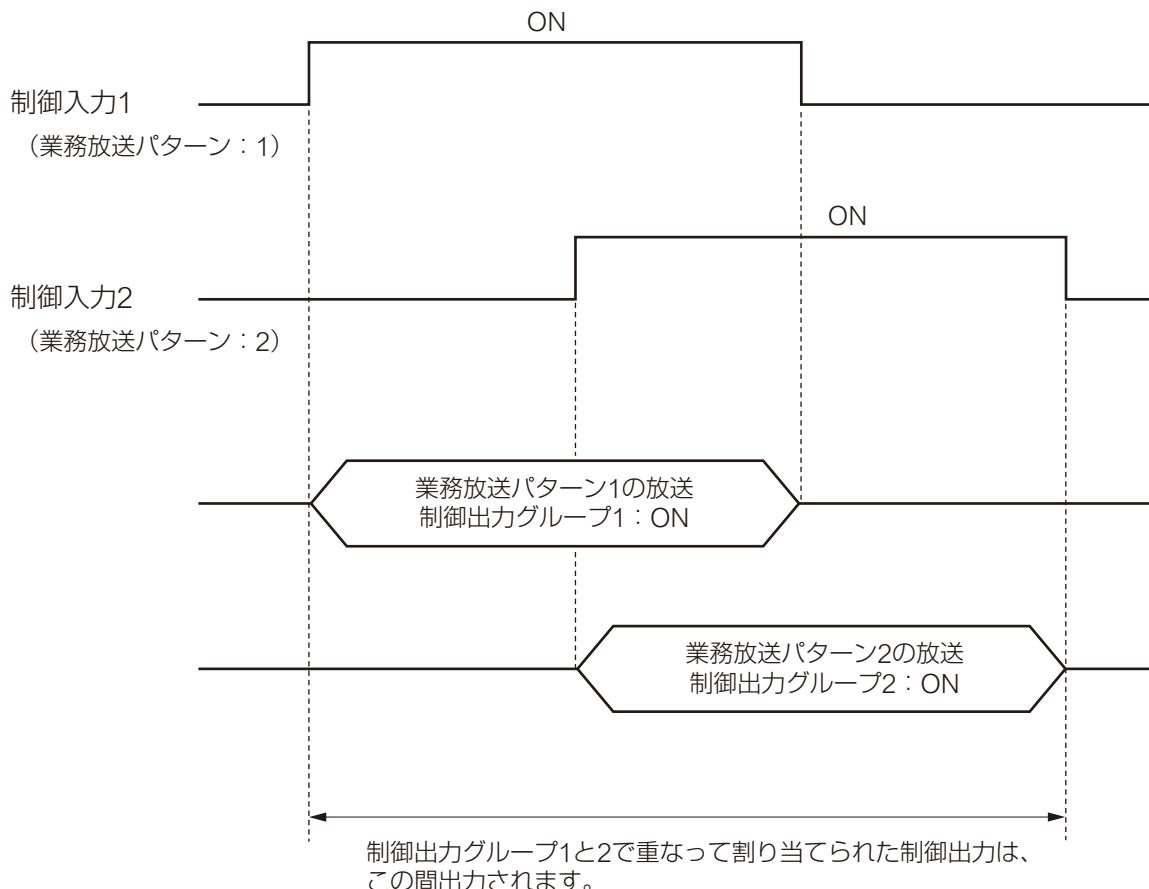


「業務放送パターン起動／停止（レベル）」

異なる制御入力*が ON になると、各制御入力で起動された業務パターン放送が同時に行われます。

【制御入力設定例】

	イベント機能	イベント機能の詳細
制御入力 1	業務放送パターン起動／停止（レベル）	業務放送パターン：1（制御出力グループ：1）
制御入力 2	業務放送パターン起動／停止（レベル）	業務放送パターン：2（制御出力グループ：2）



上記例では、業務放送パターンと制御出力グループは次のように動作します。

【業務放送パターンの動作例】

制御入力 1 が ON で起動した業務放送パターン 1 は、制御入力 1 が OFF になるまで継続します。
制御入力 2 が ON で起動した業務放送パターン 2 は、制御入力 2 が OFF になるまで継続します。

【制御出力の動作例】

制御入力 1 が ON で起動した制御出力グループ 1 は、制御入力 1 が OFF になるまで継続します。
制御入力 2 が ON で起動した制御出力グループ 2 は、制御入力 2 が OFF になるまで継続します。
制御出力グループ 1 と 2 で重なって割り当てられた制御出力の状態は、制御入力 1 が ON になり制御入力 2 が OFF になるまで継続します。（OR 出力）

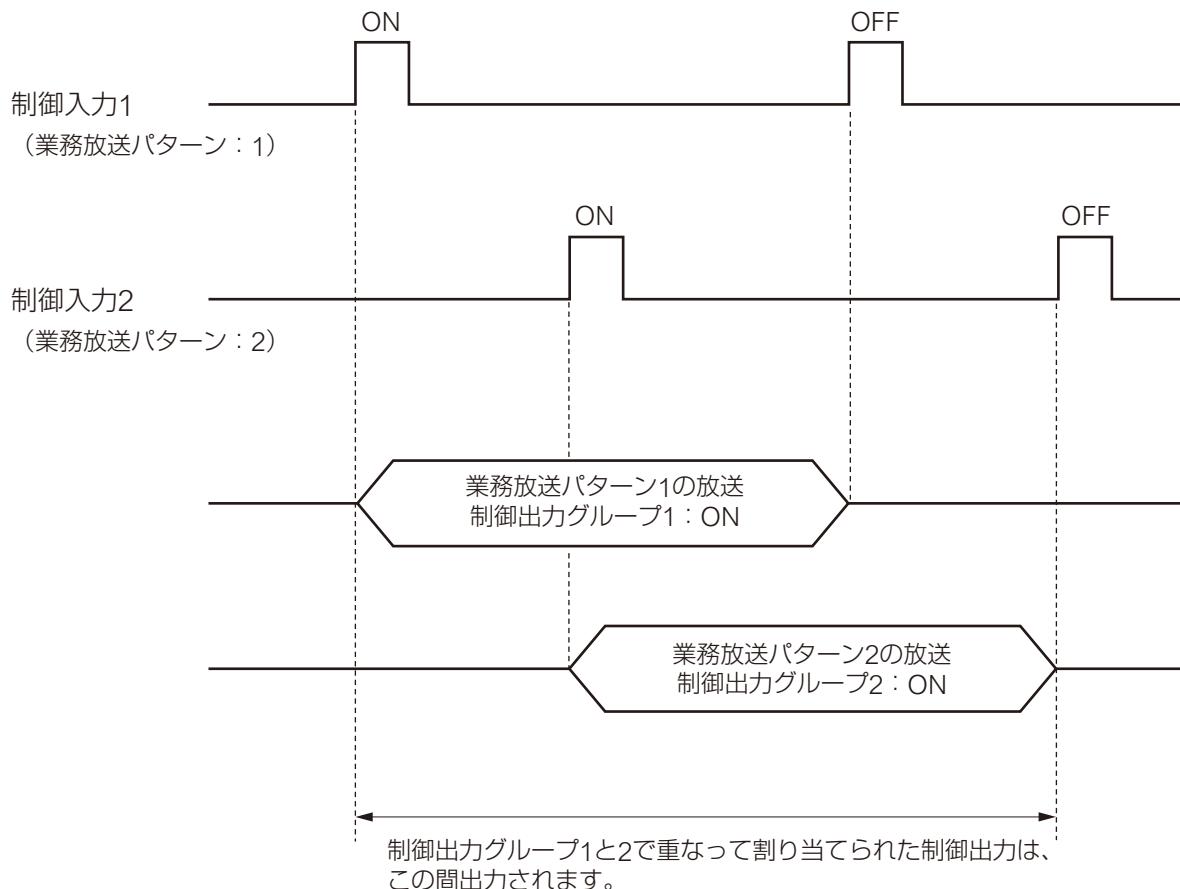
* キー操作で業務放送パターンを起動させたときも同様です。

「業務放送パターン起動／停止（パルス）」

異なる制御入力が ON になると各制御入力で起動された業務パターン放送が同時に行われます。

【制御入力設定例】

	イベント機能	イベント機能の詳細
制御入力 1	業務放送パターン起動／停止（パルス）	業務放送パターン：1（制御出力グループ：1）
制御入力 2	業務放送パターン起動／停止（パルス）	業務放送パターン：2（制御出力グループ：2）



上記例では、業務放送パターンと制御出力グループは次のように動作します。

【業務放送パターンの動作例】

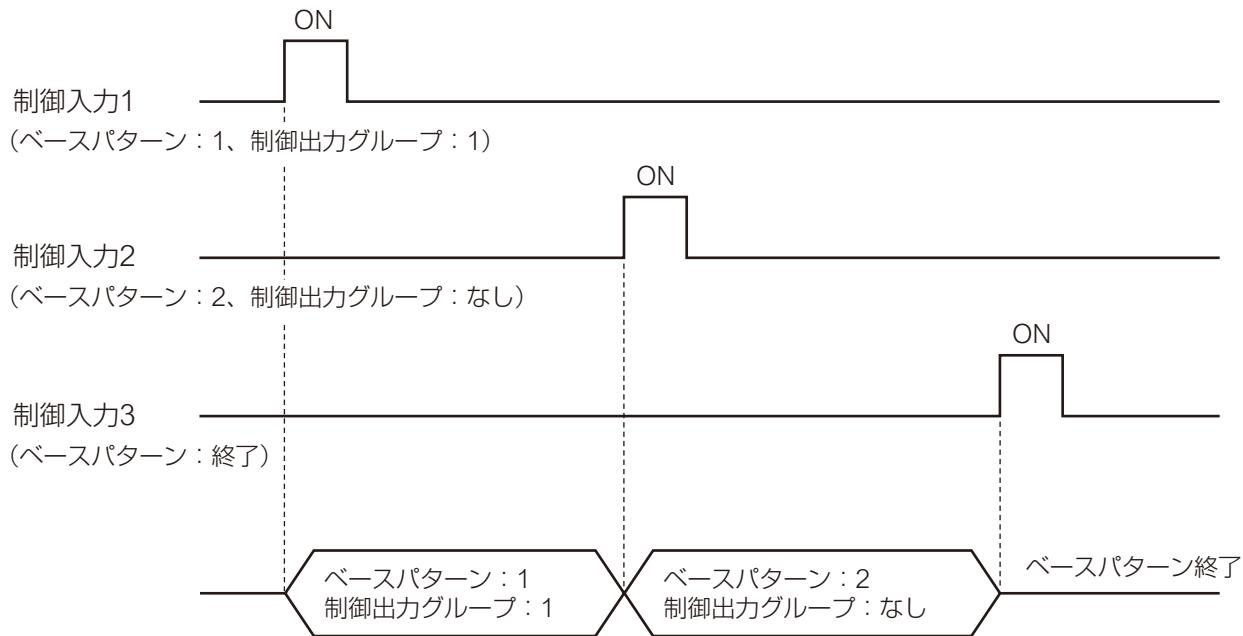
制御入力 1 が ON で起動した業務放送パターン 1 は、制御入力 1 が OFF になるまで継続します。
制御入力 2 が ON で起動した業務放送パターン 2 は、制御入力 2 が OFF になるまで継続します。

【制御出力の動作例】

制御入力 1 が ON で起動した制御出力グループ 1 は、制御入力 1 が OFF になるまで継続します。
制御入力 2 が ON で起動した制御出力グループ 2 は、制御入力 2 が OFF になるまで継続します。
制御出力グループ 1 と 2 で重なって割り当てられた制御出力の状態は、制御入力 1 が ON になり制御入力 2 が OFF になるまで継続します。（OR 出力）

「ベースパターン起動」と「ベースパターン停止」

ベースパターン放送は、制御入力*で切り換えることができます。



上記例では、ベースパターンと制御出力グループは次のように動作します。

[ベースパターンの動作例]

制御入力 1 で起動したベースパターン 1 は、制御入力 2 によってベースパターン 2 に切り換わります。

[制御出力の動作例]

制御入力 1 で起動した制御出力(制御出力グループ 1 で割り当てられた制御出力)の状態は、制御入力 2 によって起動した「制御出力グループ：なし」により OFF になります。

* キー操作でベースパターン放送を切り換えたときも上記と同様です。

緊急放送

制御入力またはキーによって、緊急メッセージ放送パターンの起動や停止、パターン内のシーケンスフェーズ移行、緊急放送状態から通常放送状態への復旧などを行うことができます。

【設定例】

あらかじめ各項目を以下のように設定します。

・コンテンツ設定

コンテンツ番号	1	2	3	4	5
コンテンツ名称	EV1	EV2	EV3	EV4	EV5
用途	警報	避難	警報	避難	復旧

・緊急シーケンス設定

緊急 シーケンス 1	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3
	EV1、5 分放送	EV2、連続放送	—
緊急 シーケンス 2	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3
	EV3、5 分放送	EV4、連続放送	—

ご注意

この例ではフェーズ 3 は設定していません。

・緊急メッセージ放送パターン設定

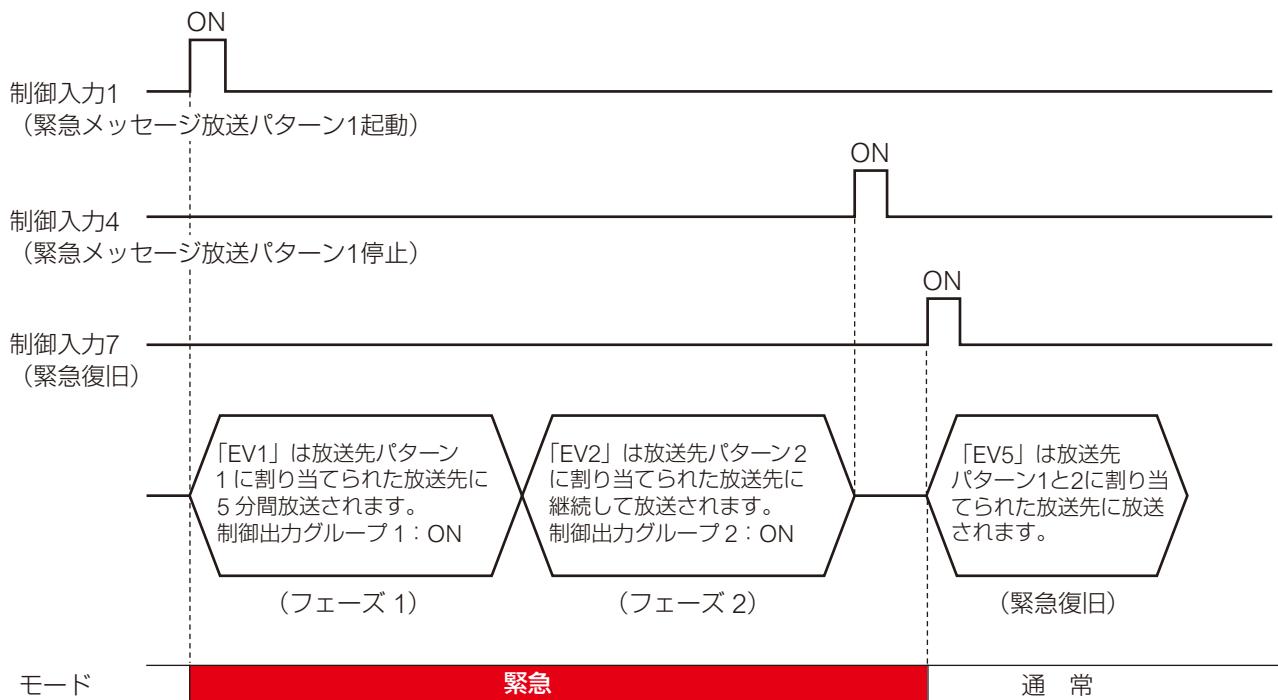
緊急メッセージ 放送パターン 1	緊急 シーケンス 1	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3
		EV1、5 分放送	EV2、連続放送	—
	放送先	放送先パターン 1	放送先パターン 2	—
緊急メッセージ 放送パターン 2	緊急 シーケンス 2	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3
		EV3、5 分放送	EV4、連続放送	—
	放送先	放送先パターン 3	放送先パターン 4	—
緊急メッセージ 放送パターン 3	緊急 シーケンス 1	フェーズ 1	フェーズ 2	フェーズ 3
		EV1、5 分放送	EV2、連続放送	—
	放送先	放送先パターン 5	放送先パターン 6	—
	制御出力グループ 5	制御出力グループ 6	—	

・制御入力設定

- 制御入力 1：緊急メッセージ放送パターン 1 起動
- 制御入力 2：緊急メッセージ放送パターン 2 起動
- 制御入力 3：緊急メッセージ放送パターン 3 起動
- 制御入力 4：緊急メッセージ放送パターン 1 停止

- 制御入力 5：緊急シーケンス 1 フェーズ移行
- 制御入力 6：緊急シーケンス 1 停止
- 制御入力 7：緊急復旧 (EV5 再生)

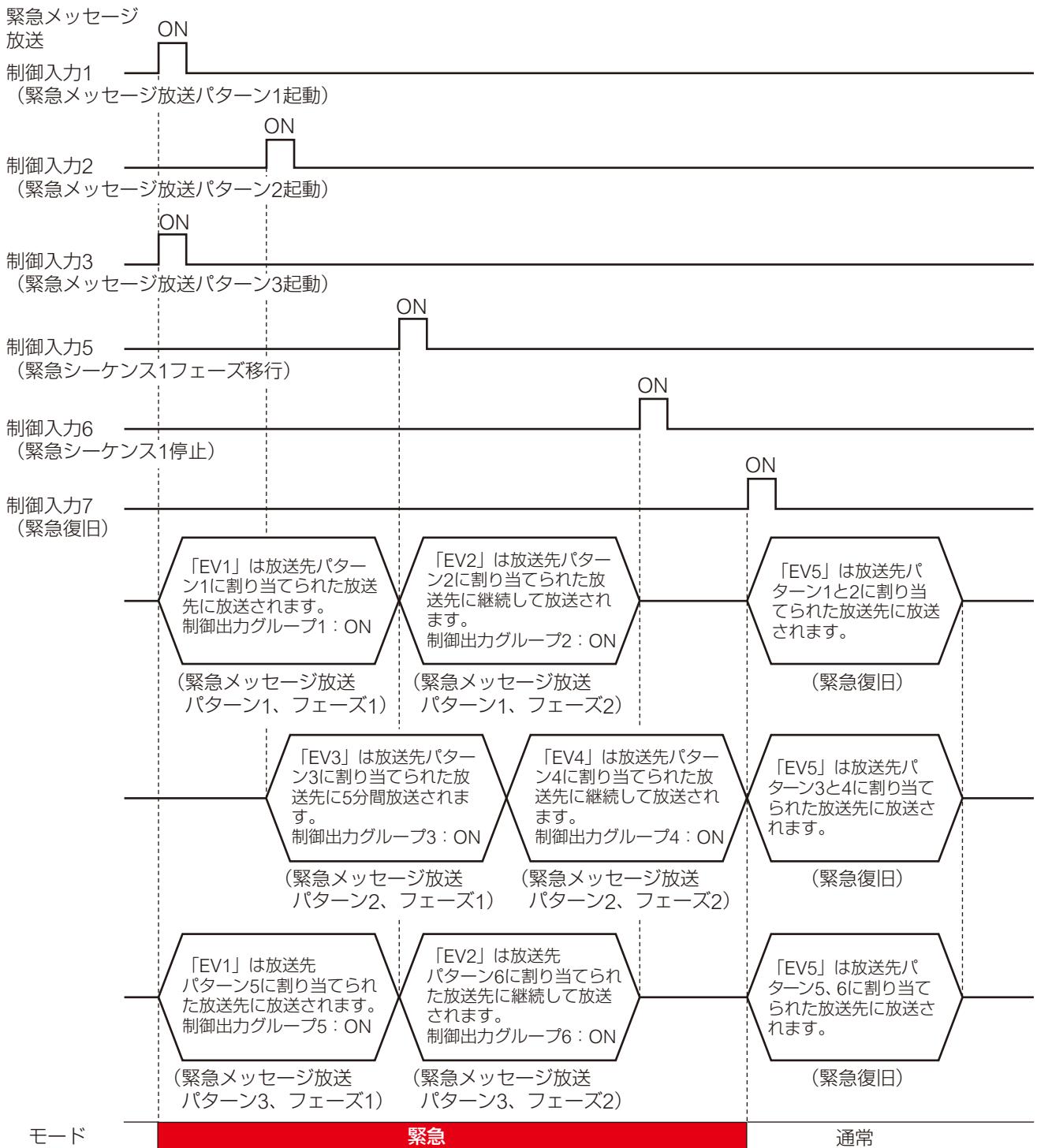
【動作例 1】



この例での動作は下記のとおりです。

- フェーズ 1 からフェーズ 2 へは、設定された時間が経過すると、自動的に移行します。
- 「連続放送」に設定されたメッセージ「EV2」は、制御入力 4（「緊急メッセージ放送パターン 1 停止」信号）または制御入力 7（「緊急復旧」信号）で停止します。
緊急モードは緊急メッセージ放送パターンが停止しても継続します。
- 通常モードに復帰した後、復旧メッセージ放送が流れます。（「緊急復旧」信号）

【動作例 2】

**ご注意**

緊急メッセージ放送パターン1、2、3のフェーズ内の放送先パターンに同じ放送先が含まれているとき、同じ放送先へのそれらの放送が重なって放送される場合には、優先度の高いメッセージを持つ緊急メッセージ放送パターンが優先されます。

この例での動作は下記のとおりです。

- フェーズ1は、この放送が終了する前に制御入力5（「緊急シーケンス1フェーズ移行」信号）によりフェーズ2へ移行します。
- 同じ緊急シーケンス1を含むすべての緊急メッセージ放送パターンは制御入力6（「緊急シーケンス1停止」信号）で停止します。
- すべての緊急メッセージ放送パターンは、制御入力7（「緊急復旧」信号）で停止します。
通常モードに復帰した後、復旧メッセージ放送が流れます。

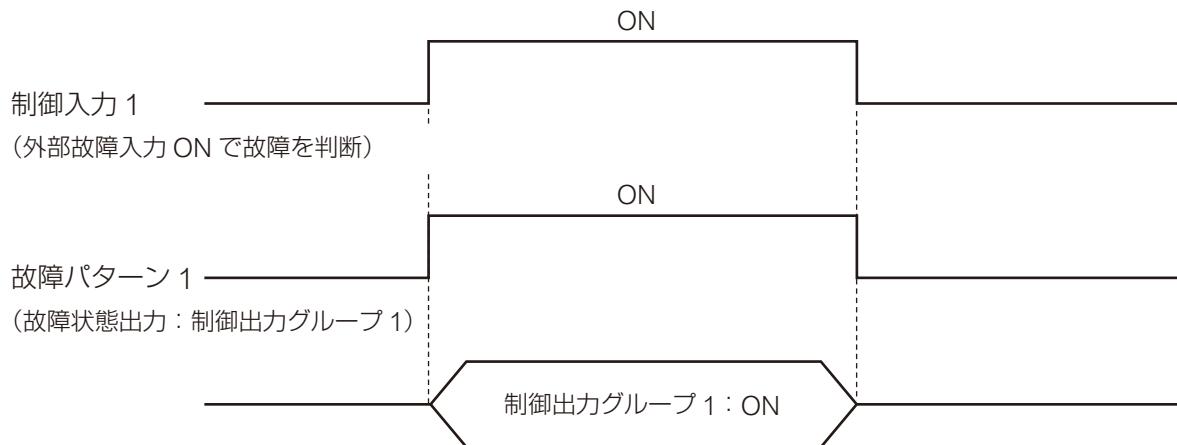
外部故障入力

外部機器の故障状態を取り込む機能です。

外部機器の故障状態は、制御入力が ON になるか OFF になるか、どちらかに合わせて設定を行います。

外部故障状態が入力されると、その外部故障入力が割り当てられている故障検知出力パターンが起動します。

[外部機器の故障時に ON の状態の例]

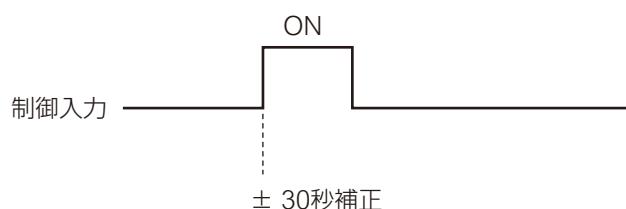


ご注意

どのような状態が外部機器の故障となるのかについては、その機器の説明書をお読みください。

時刻補正

親時計または電波時計から時刻補正信号を受信し、± 30 秒単位でシステムの時刻補正をすることができます。制御入力のパルス立ち上がりエッジのタイミングで時刻を補正します。



時刻は次のように補正されます。

- 時刻が 0 から 29 秒のときは、0 秒に補正されます。

(例) CX-SM1000 の時刻が 07：15：15 のときは、07：15：00 に補正されます。

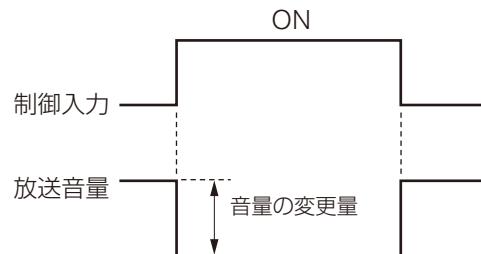
- 時刻が 30 から 59 秒のときは、+1 分 0 秒に補正されます。

(例) CX-SM1000 の時刻が 07：15：45 のときは、07：16：00 に補正されます。

音量調整用の制御信号

現在放送中の音量を変更する機能です。音量を変更する制御信号は、レベル信号です。

制御入力を ON にしている間、設定された変更幅の量だけ音量を減衰します。OFF にすると、元の音量に戻ります。



オーディオシーン変更（レベル）

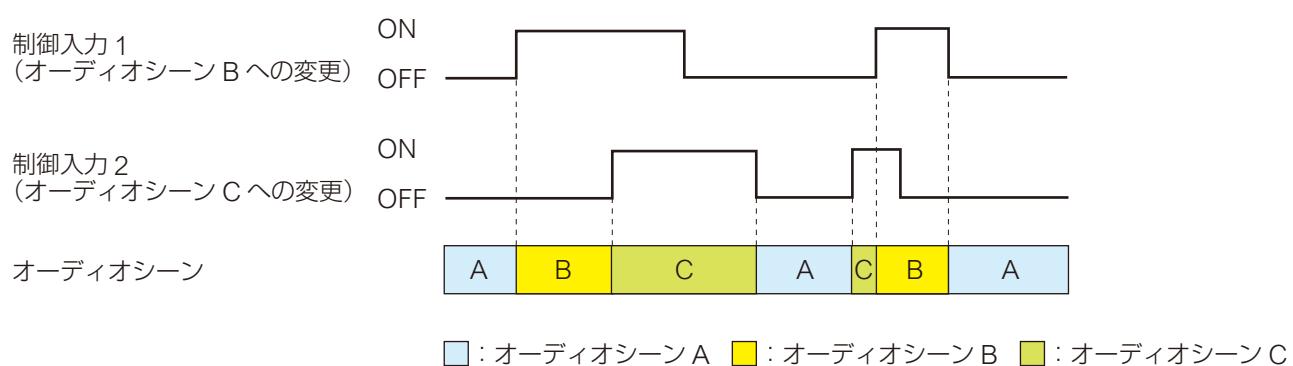
制御入力によりオーディオシーンを変更することができます。

起動信号が ON になると、設定されたオーディオシーンを適用します。

起動信号が OFF になると、設定されたオーディオシーンを解除し、元に戻します。

複数の機器からオーディオシーンの変更が実施された場合は、後入力優先で、最後に入ったものに切り換わり、それ以外の起動は停止します。

[制御入力による動作例]



オーディオシーン変更（パルス）

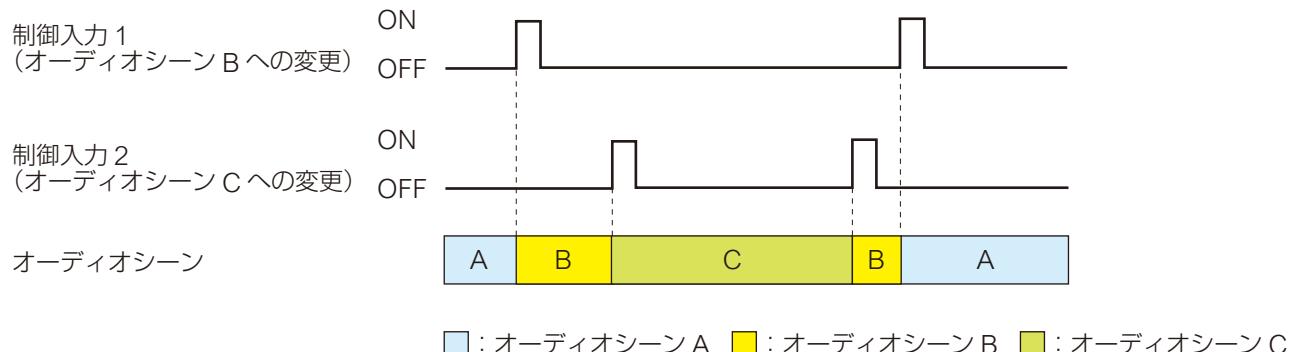
制御入力またはキーにより、オーディオシーンを変更することができます。

起動信号のオンパルス入力で、設定されたオーディオシーンを適用します。

同一起動信号のオフパルス再入力で、設定されたオーディオシーンを解除し、元に戻します。

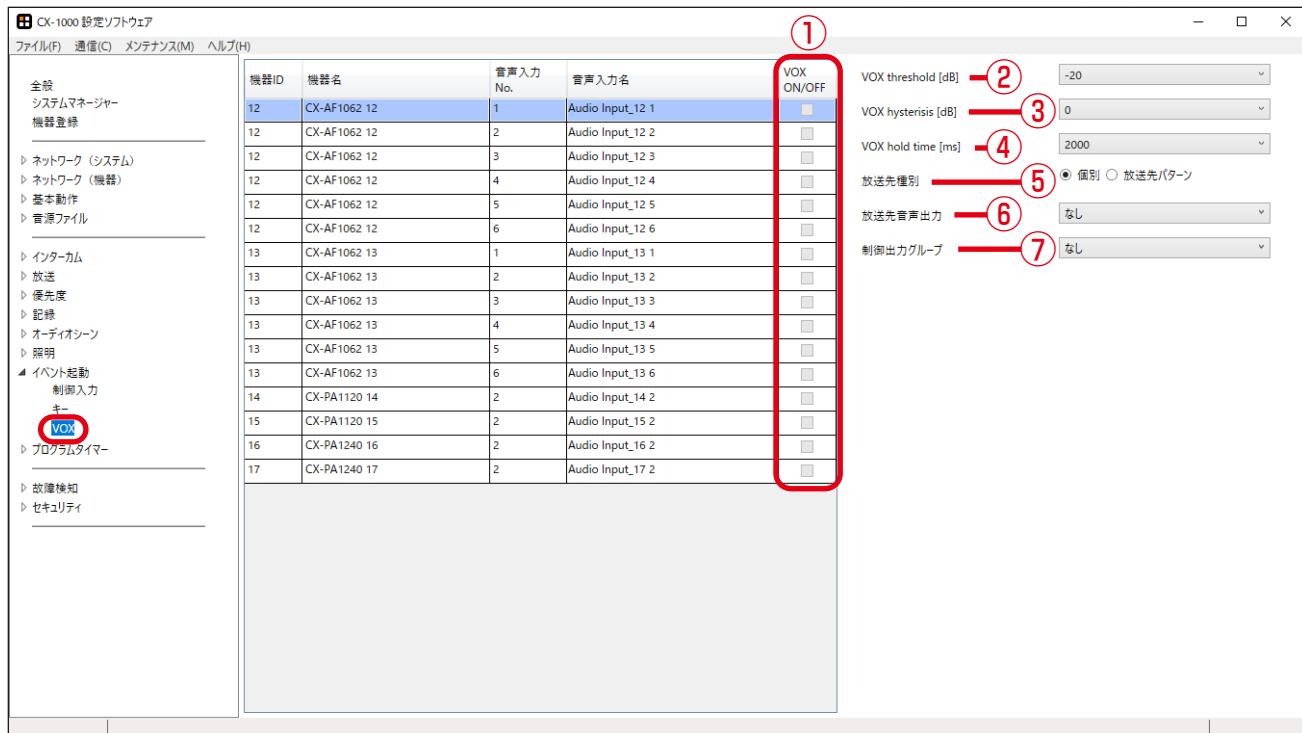
複数の機器からオーディオシーンの変更が実施された場合は、後入力優先で、最後に入ったものに切り換わり、それ以外の起動は停止します。

[制御入力による動作例]



■ VOX の設定

「イベント起動」→「VOX」をクリックすると、以下の画面が表示されます。
VOX 機能の各パラメーターについては、P. 1-64 「VOX 機能」をお読みください。



[放送先種別が放送先パターンのとき]



選択中の音声入力の VOX 設定の内容が②～⑧に表示されます。

① VOX ON/OFF

VOX 機能を使用するかどうかを設定します。

「放送先音声出力」⑥または「放送先パターン」⑧を「なし」以外に設定すると、チェックを入れることができます。チェックを入れると、VOX 機能を使用できます。(初期設定：チェックなし)

② VOX Threshold [dB]

設定値を選択します。

設定範囲	0 ~ -20 (1 dB ステップ) (初期設定 : -20)
------	----------------------------------

③ VOX Hysteresis [dB]

設定値を選択します。

設定範囲	0 ~ 10 (1 dB ステップ) (初期設定 : 0)
------	-------------------------------

④ VOX Hold Time [ms]

設定値を選択します。

設定範囲	10、20、50、70、100、120、150、200、250、300、500、700、1000、2000 (初期設定)、3000、5000、10000
------	--

⑤放送先種別

放送先として個別の音声出力を選択するか、放送先パターンを選択するかを選択します。

設定範囲	個別（初期設定）、放送先パターン
------	------------------

⑥放送先音声出力（「放送先種別」が「個別」のときのみ）

VOX 機能に同期して放送する個別の音声出力先を選択します。

設定範囲	なし（初期設定）、個別音声出力一覧
------	-------------------

⑦制御出力グループ（「放送先種別」が「個別」のときのみ）

個別の音声出力に同期して起動する制御出力グループを選択します。

制御出力グループは、「基本動作」→「制御出力グループ」（P. 2-33）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、制御出力グループ一覧
------	---------------------

⑧放送先パターン（「放送先種別」が「放送パターン」のときのみ）

VOX 機能に同期して放送する放送先パターンを選択します。

放送先パターンは、「放送」→「放送先パターン」（P. 2-69）で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、放送先パターン一覧
------	--------------------

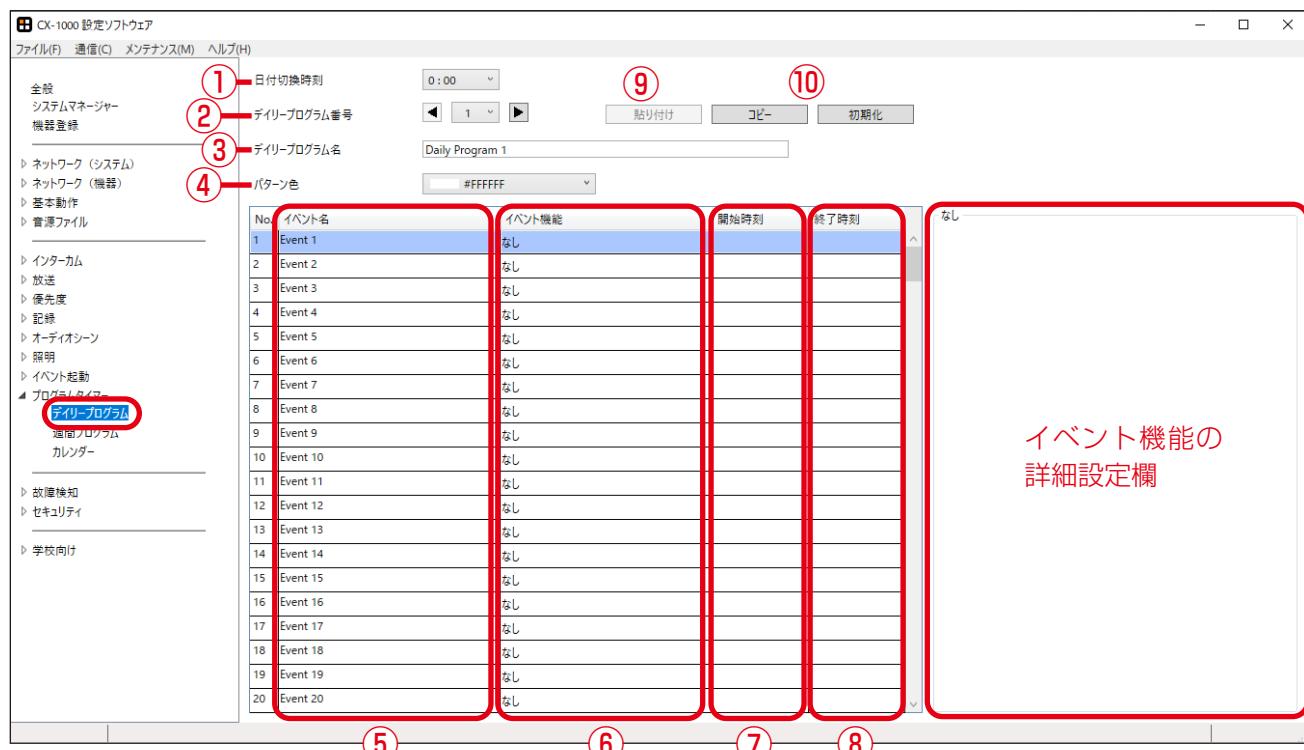
プログラムタイマーの設定

■ デイリープログラムの作成

「プログラムタイマー」→「デイリープログラム」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

1日単位のイベントスケジュールを必要な数だけ登録してください。デイリープログラムは100種類、デイリープログラム内のイベントは256個まで登録できます。

デイリープログラムを登録すると、週設定およびカレンダー設定が作成できるようになります。



① 日付切換時刻

プログラムタイマーのデイリープログラムの切換時刻を設定できます。

1日の稼働時間が0:00を超えるような運用場面では、切換時刻を調節することで、1日のデイリープログラムを効率的に設定できます。

設定範囲	0:00 ~ 23:00 (1時間単位) (初期設定: 0:00)
------	-----------------------------------

② デイリープログラム番号

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、デイリープログラム番号を選択します。

最大100のプログラムを作成できます。

③ デイリープログラム名

デイリープログラム名を入力します。

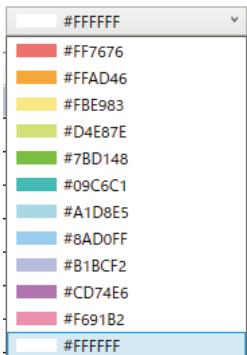
設定範囲	全角・半角にかかわらず32文字以内 (初期設定: Daily Program + No.)
------	---

④パターン色（運用モードを「学校向け」に設定したときのみ）

学校運用アプリケーションでデイリープログラムをチャイムパターンとして表示するときの色を設定します。

設定範囲	12色*から選択（初期設定：#FFFFFF）
------	------------------------

* 以下の中から選択します。



⑤イベント名

イベント名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず32文字以内（初期設定：Event + No.）
------	-------------------------------------

⑥イベント機能

割り当てできるイベント機能については、P.2-144「イベント機能一覧」を参照してください。（初期設定：なし）

詳細設定が必要な場合は、詳細設定欄に設定項目が表示されます。詳細設定については、P.2-145「イベント機能の詳細」をお読みください。

⑦開始時刻

イベントが開始する時刻を設定します。

設定範囲	00:00:00（初期設定）～23:59:59（1秒単位）
------	-------------------------------

⑧終了時刻

イベントが終了する時刻を設定します。

設定範囲	00:00:00～23:59:59（1秒単位）（初期設定：00:00:01）
------	--

⑨コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると表示されているデイリープログラムの「デイリープログラム名」③以外の全設定をコピーします。

他のデイリープログラム番号を選択し、貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を選択中のデイリープログラムに貼り付けます。

⑩初期化ボタン

表示されているデイリープログラム番号の設定値を初期値に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OKボタンをクリックしてください。

● イベント機能一覧

デイリープログラムで使用できるイベント機能は以下のとおりです。

イベント機能	内容
業務放送	
業務放送パターン起動／停止（レベル）	タイマーにより、設定された業務放送パターンを起動／停止します。
ベースパターン起動	タイマーにより、設定されたベースパターンを起動します。他のベースパターンが起動中だった場合は、そのベースパターンを停止して、設定されたベースパターンを起動します。
ベースパターン停止	タイマーにより、ベースパターンを停止します。
インターラム	
時刻連動不在転送（レベル）	タイマーにより、設定された時刻連動不在転送パターンを起動します。
調整・メンテナンス	
入力音量減衰（レベル）	タイマーにより、設定された入力音源の音量を設定された値に応じて下げます。
出力音量減衰（レベル）	タイマーにより、設定された出力先の音量を設定された値に応じて下げます。
オーディオシーン変更（レベル）	タイマーにより、設定されたオーディオシーンを適用します。
その他	
接点ブリッジ（レベル）	タイマーにより、設定された制御出力を ON にします。

● イベント機能の詳細

「イベント機能」を「業務放送パターン起動／停止（レベル）」に設定したとき】

業務放送パターン起動/停止(レベル)

① 業務放送パターン なし

① 業務放送パターン

タイマーで起動する業務放送パターンを選択します。選択肢には業務放送パターンが名称で表示されます。
業務放送パターンは「放送」→「業務放送パターン」(P. 2-73)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、業務放送パターン一覧
------	----------------------

「イベント機能」を「ベースパターン起動」に設定したとき】

ベースパターン起動

① ベースパターン なし

② 制御出力グループ なし

① ベースパターン

タイマーで起動するベースパターンを選択します。選択肢にはベースパターンが名称で表示されます。
ベースパターンは「放送」→「ベースパターン」(P. 2-71)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、ベースパターン一覧
------	---------------------

② 制御出力グループ

タイマーに同期して起動する制御出力グループを選択します。選択肢には制御出力グループが名称で表示されます。

制御出力グループは「基本動作」→「制御出力グループ」(P. 2-33)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、制御出力グループ一覧
------	----------------------

「イベント機能」を「ベースパターン停止」に設定したとき】

詳細設定項目はありません。

「イベント機能」を「時刻連動不在転送（レベル）」に設定したとき】

時刻連動不在転送(レベル)

① 時刻連動不在転送パターン番号 なし

① 時刻連動不在転送パターン番号

タイマーで起動する時刻連動不在転送パターン番号を選択します。

時刻連動不在転送パターンは「インターフェース」→「時刻連動不在転送パターン」(P. 2-63)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、1 ~ 8
------	-----------------

[「イベント機能」を「入力音量減衰（レベル）」に設定したとき]

① **入力音量 [dB]**
減衰レベルを選択します。

設定範囲	-1 (初期設定)、-2、-3、-6、-10、-20、-40、-∞
------	-----------------------------------

② **個別音声入力**

① **入力音量 [dB]**

減衰レベルを選択します。

設定範囲	-1 (初期設定)、-2、-3、-6、-10、-20、-40、-∞
------	-----------------------------------

② **個別音声入力**

タイマーにより音量を変更する入力チャンネルを選択します。選択肢には音声入力が名称で表示されます。音声入力名称は「基本動作」→「音声入力」(P. 2-28)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、個別音声入力一覧
------	--------------------

[「イベント機能」を「出力音量減衰（レベル）」に設定したとき]

ご注意

この機能は、緊急放送にも適用されます。

(「個別」選択時)

① **出力音量 [dB]**
減衰レベルを選択します。

設定範囲	-1 (初期設定)、-2、-3、-6、-10、-20、-40、-∞
------	-----------------------------------

② **放送先種別**
 個別
 放送先パターン

③ **放送先音声出力**
なし

(「放送先パターン」選択時)

① **出力音量 [dB]**
減衰レベルを選択します。

設定範囲	-1 (初期設定)、-2、-3、-6、-10、-20、-40、-∞
------	-----------------------------------

② **放送先種別**
 個別
 放送先パターン

④ **放送先パターン**
なし

① **出力音量 [dB]**

減衰レベルを選択します。

設定範囲	-1 (初期設定)、-2、-3、-6、-10、-20、-40、-∞
------	-----------------------------------

② **放送先種別**

放送先として、個別の音声出力を指定するか、放送先パターンを指定するかを選択します。

設定範囲	個別 (初期設定)、放送先パターン
------	-------------------

③ **放送先音声出力（「放送先種別」を「個別」に設定したときのみ）**

タイマーにより音量を下げる個別の音声出力を選択します。選択肢には音声出力が名称で表示されます。音声出力名称は「基本動作」→「音声出力」(P. 2-31)で設定します。

設定範囲	なし (初期設定)、個別音声出力一覧
------	--------------------

④放送先パターン（「放送先種別」を「放送先パターン」に設定したときのみ）

タイマーにより音量を下げる放送先パターンを選択します。選択肢には放送先パターンが名称で表示されます。

放送先パターンは「放送」→「放送先パターン」(P. 2-69) で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、放送先パターン一覧
------	--------------------

【「イベント機能」を「オーディオシーン変更（レベル）」に設定したとき】



①オーディオシーン

タイマーにより変更するオーディオシーンを選択します。選択肢にはオーディオシーンが名称で表示されます。

オーディオシーンは「オーディオシーン」→「オーディオシーン」(P. 2-90) で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、オーディオシーン一覧
------	---------------------

【「イベント機能」を「接点ブリッジ（レベル）」に設定したとき】



①制御出力グループ

タイマーにより起動する制御出力グループを選択します。選択肢には制御出力グループが名称で表示されます。

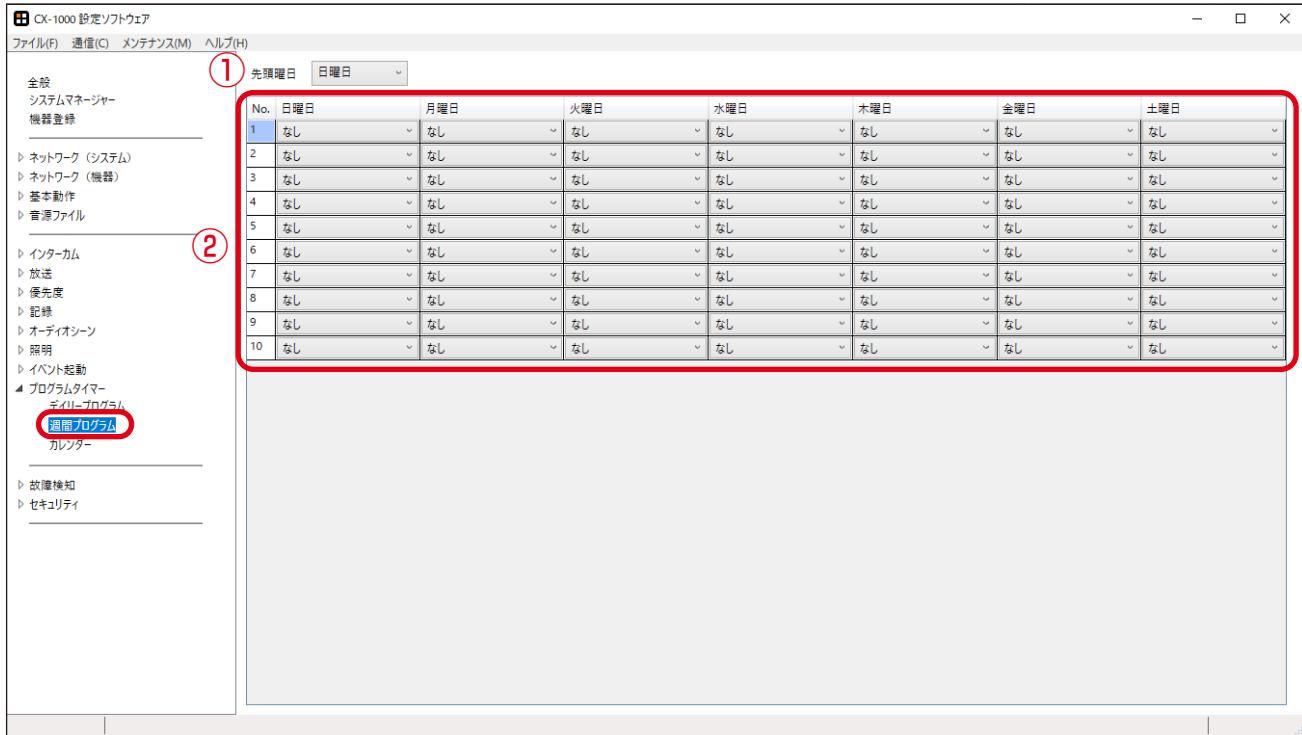
制御出力グループは「基本動作」→「制御出力グループ」(P. 2-33) で設定します。

設定範囲	なし（初期設定）、制御出力グループ一覧
------	---------------------

■ デイリープログラムの設定

● 曜日ごとの設定（週間プログラム）

「プログラムタイマー」→「週間プログラム」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



①先頭曜日

表の一番左に表示される曜日を設定します。

設定範囲	日曜日～土曜日（初期設定：日曜日）
------	-------------------

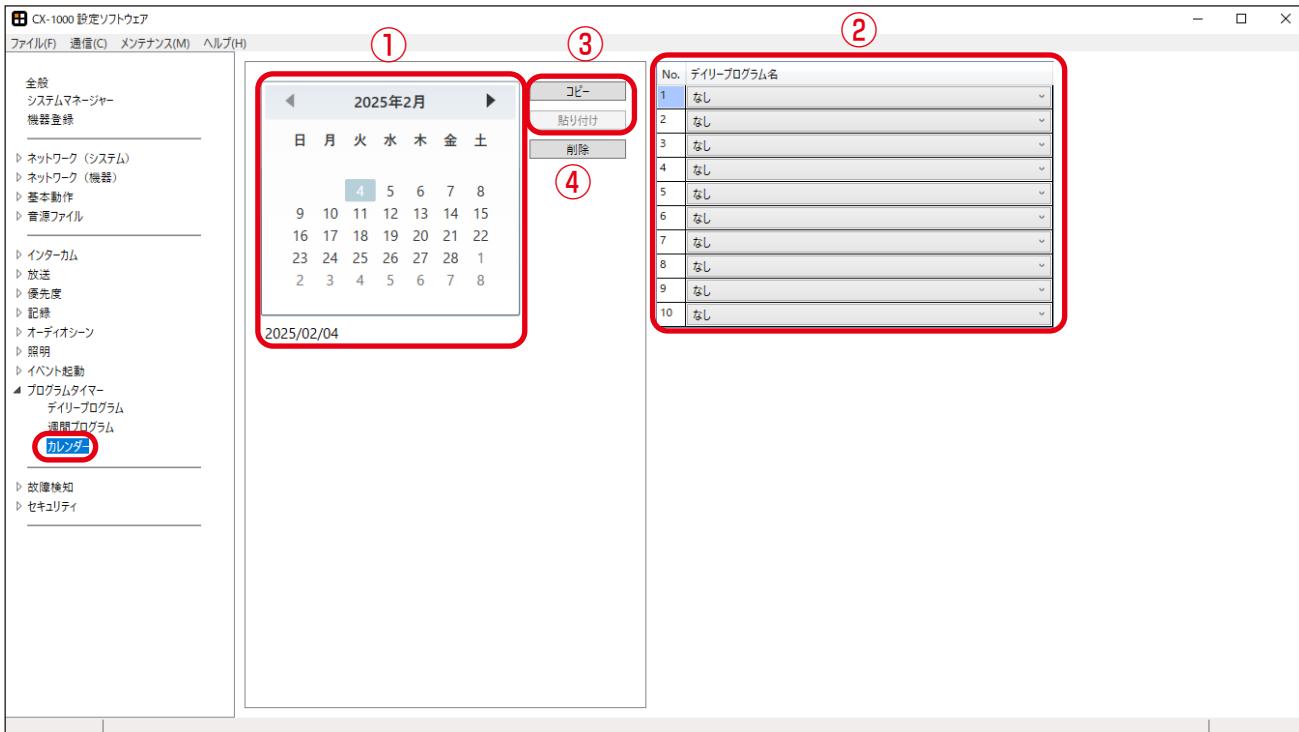
②デイリープログラム選択

デイリープログラムを選択します。曜日ごとに最大 10 まで選択可能です。

設定範囲	なし（初期設定）、デイリープログラム一覧
------	----------------------

● 日付ごとの設定（カレンダー設定）

「プログラムタイマー」→「カレンダー」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



カレンダーから特定の日を選択して、デイリープログラムを割り当てることができます。

同じ日に週間プログラムとカレンダーの両方で設定している場合は、カレンダーでの設定が優先されます。

① 設定日

設定する日を選択します。現在の日から最大 2 年先まで選択できます。

② デイリープログラム名

デイリープログラムを選択します。

日ごとに最大 10 まで選択可能です。

設定範囲	なし (初期設定)、デイリープログラム一覧
------	-----------------------

③ コピーボタンと貼り付けボタン

日付を選択し、コピーボタンをクリックすると、選択した日に設定されているすべてのデイリープログラムをコピーします。

他の日付を選択し、貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を選択中の日付に貼り付けます。

④ 削除ボタン

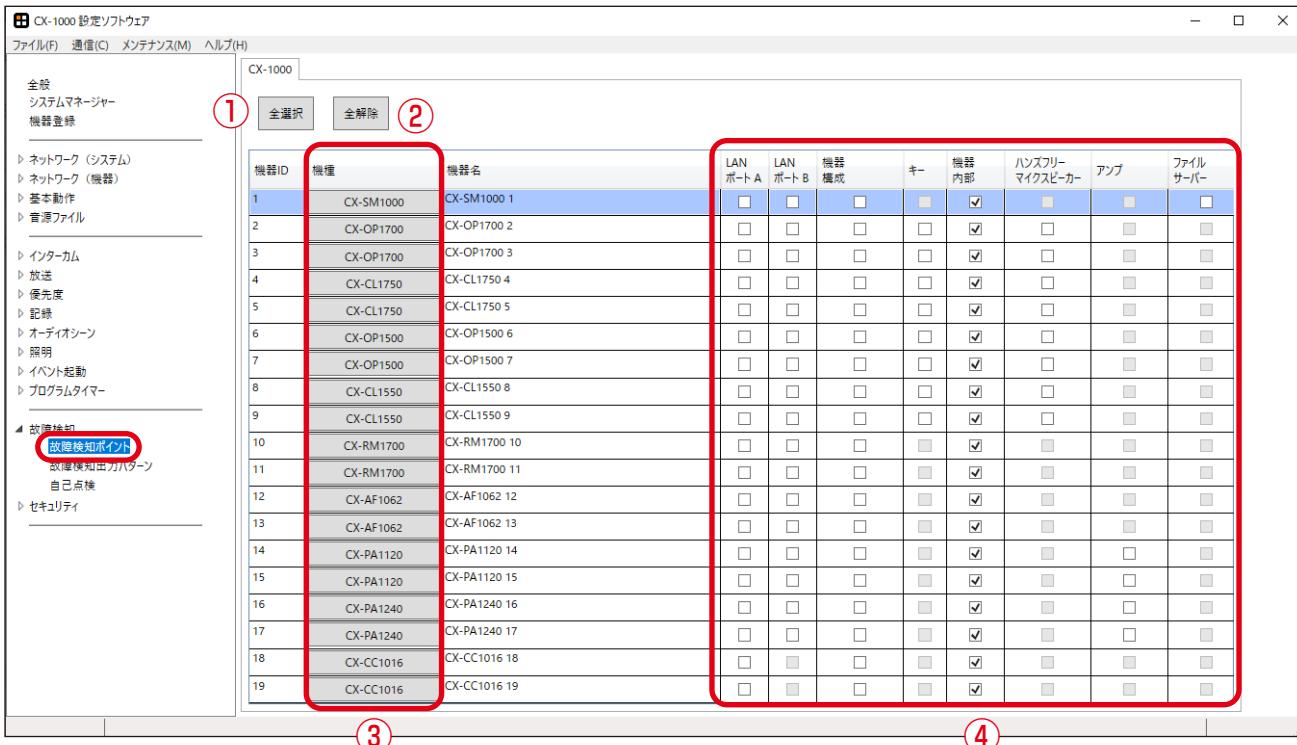
表示されている日付の設定値を初期値に戻します。

故障検知の設定 (故障検知機能が「有効」のときのみ)

■ 故障検知ポイントの設定

「故障検知」 → 「故障検知ポイント」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

CX-1000 シリーズ機器の故障検知ポイントを設定します。



①全選択ボタン

このボタンをクリックすると、CX-1000 システムの全機器のすべての故障検知ポイントにチェックを入れれます。

②全解除ボタン

このボタンをクリックすると、CX-1000 システムの全機器のすべての故障検知ポイントのチェックを外します。

③機種ボタン

各ボタンをクリックするたびに、該当機種のすべての故障検知ポイントを一括で選択または解除します。

④故障検知ポイントチェックボックス

個々の故障検知ポイントをクリックするたびに、個別で選択または解除します。チェックを入れると、そのポイントに故障が発生したときに故障検知出力パターンを起動させることができます。(初期設定：「機器内部」項目のみチェックあり)

故障検知ポイント	検知する故障内容
LAN A	LAN ポート A に LAN ケーブルが正しく接続されているかどうか。
LAN B	LAN ポート B に LAN ケーブルが正しく接続されているかどうか。
機器構成	設定データと実際に接続された機器構成に差異がないかどうか。
キー	各種キー*が長時間押されたままになっていないかどうか。 * CX-OP1700、CX-RM1700 の液晶画面上のダイレクトキーを除く。
機器内部	DC 電源の電圧および CPU 温度が正常かどうか。

故障検知ポイント	検知する故障内容
ハンズフリーマイク スピーカー	ハンズフリーマイクとスピーカーが正常に動作しているかどうか。
アンプ	アンプの音声入出力、ファン、AC 電源電圧、過電流保護、および温度保護が正常に動作しているかどうか。
ファイルサーバー	ファイルサーバーが正常に動作しているかどうか。

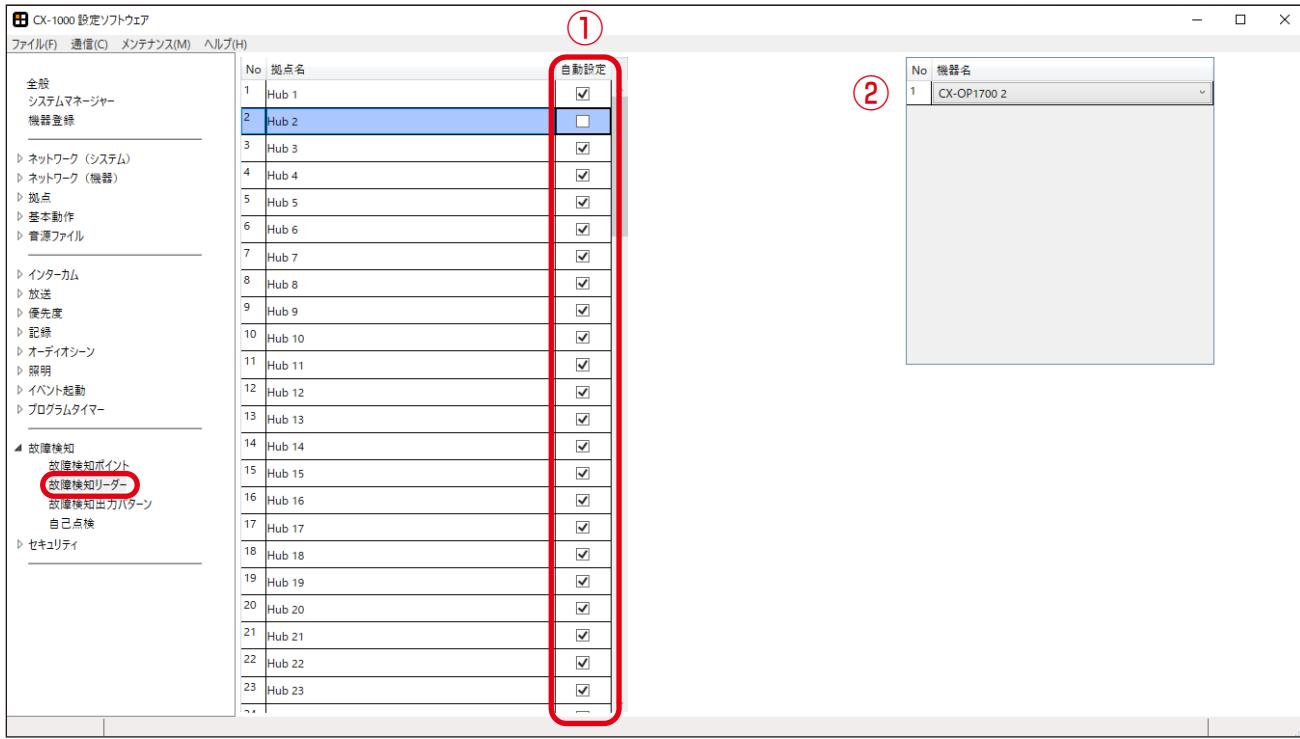
メモ

チェックボックスを外すと、すでに故障検知パターンで設定している故障検知ポイントがある場合、故障検知パターン側のチェックボックスも外れます。再度チェックボックスを入れても、故障検知パターンのチェックボックスは元に戻りません。

■ 故障検知リーダー機の設定

「全般」(P. 2-6)で故障検知機能を「有効」に設定し、CX-1000シリーズ機器がCX-SM1000を除き32台以上登録されている場合のみ、故障検知リーダーの設定メニューが表示されます。

「故障検知」→「故障検知リーダー」をクリックすると、以下の画面が表示されます。



① 自動設定

チェックを入れると、故障検知リーダー機が自動で設定されます。

通常は自動設定のままにしてください。

チェックを外すと、故障検知リーダー機を手動で設定できます。(初期設定: チェックあり)

拠点機能を「有効」にしている場合は、拠点毎で設定できます。

ご注意

- 故障検知リーダー機の変更はできますが、グループ数およびグループ構成は変更できません。
- 故障検知機能が「無効」のときは、故障検知リーダー機が自動で設定されます。手動での設定はできません。
- 故障検知リーダー機が故障してCX-SM1000との通信が途絶えた場合、その故障検知リーダー機配下の機器もCX-SM1000と通信できなくなり、機能しなくなります。
- 故障検知リーダーに設定した機器が削除された場合や所属拠点が変更となった場合、自動的に別の機器が故障検知リーダー機に設定されます。

メモ

機器の台数が CX-SM1000 を除き 32 台以上になると、故障検知のためのグループが自動的に 2 つに分けられ、各グループに故障検知リーダー機を 1 台設定します。以降、機器が 31 台を超えるごとにグループが 1 つ増え、故障検知リーダー機が 1 台増えていきます。

各グループの構成機器台数は「CX-SM1000 以外の全機器台数」÷「グループ数」で、端数は最初のグループから 1 ずつ割り当てます。

グループ分けおよび故障検知リーダー機は、自動で ID 番号の小さい機器から順に割り振られます。

例えばシステムに CX-SM1000 以外の機器が 80 台 (ID は 1 ~ 80) の場合、以下のようになります。

グループ	構成機器	故障検知リーダー機
グループ 1	ID1 ~ 27 (27 台)	ID1
グループ 2	ID28 ~ 54 (27 台)	ID28
グループ 3	ID55 ~ 80 (26 台)	ID55

拠点機能が有効のときは、拠点ごとに上記と同様に設定します。

② 故障検知リーダー機選択（自動設定のチェックを外したときのみ）

故障検知リーダー機を CX-SM1000 以外の機器から選択します。

故障検知リーダー機について、詳しくは [P. 1-57 「故障検知リーダー」](#) をお読みください。

ご注意

CX-CC1016 は故障検知リーダー機にすることはできません。

拠点ごとに故障検知リーダー機が必要なため、CX-CC1016 のみが所属する拠点は設定できません。

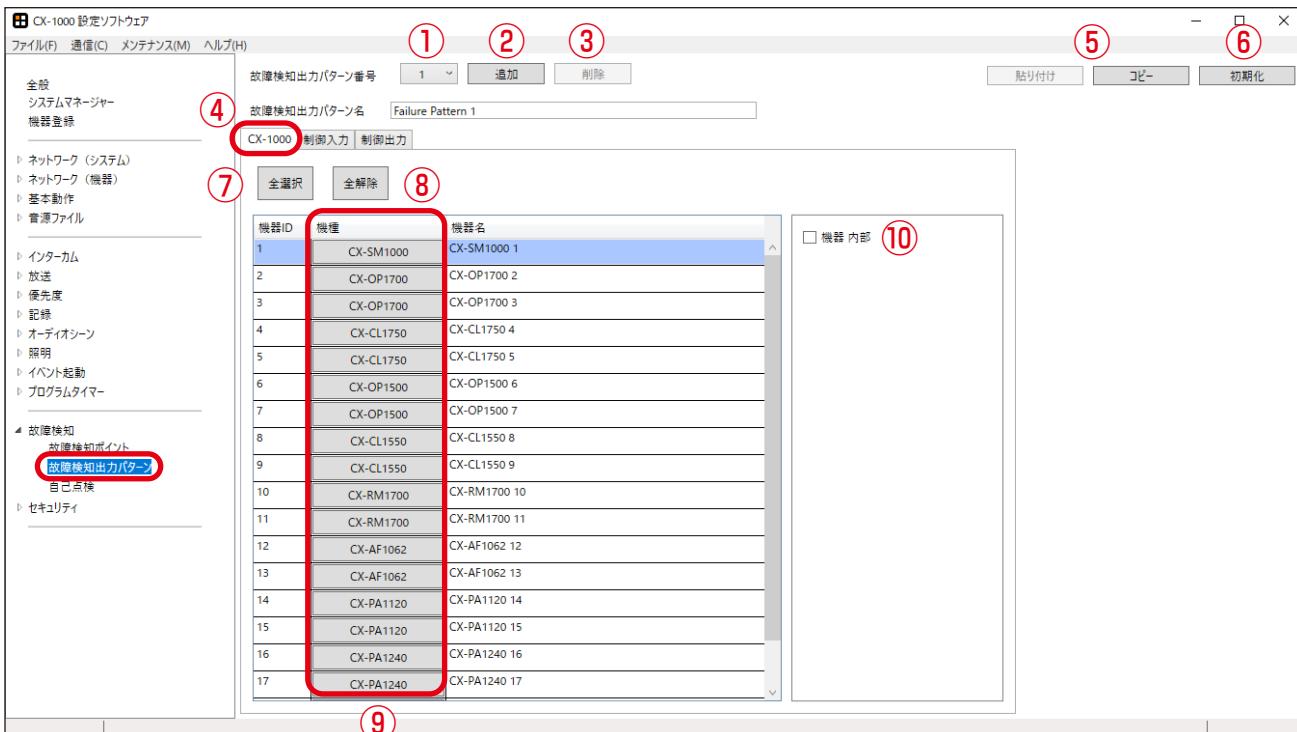
■ 故障検知出力パターンの設定

「故障検知」→「故障検知出力パターン」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

故障検知ポイントの設定 (P. 2-150) で設定した故障検知ポイントに対し、故障を検知したときの動作を 500 パターンまで設定できます。

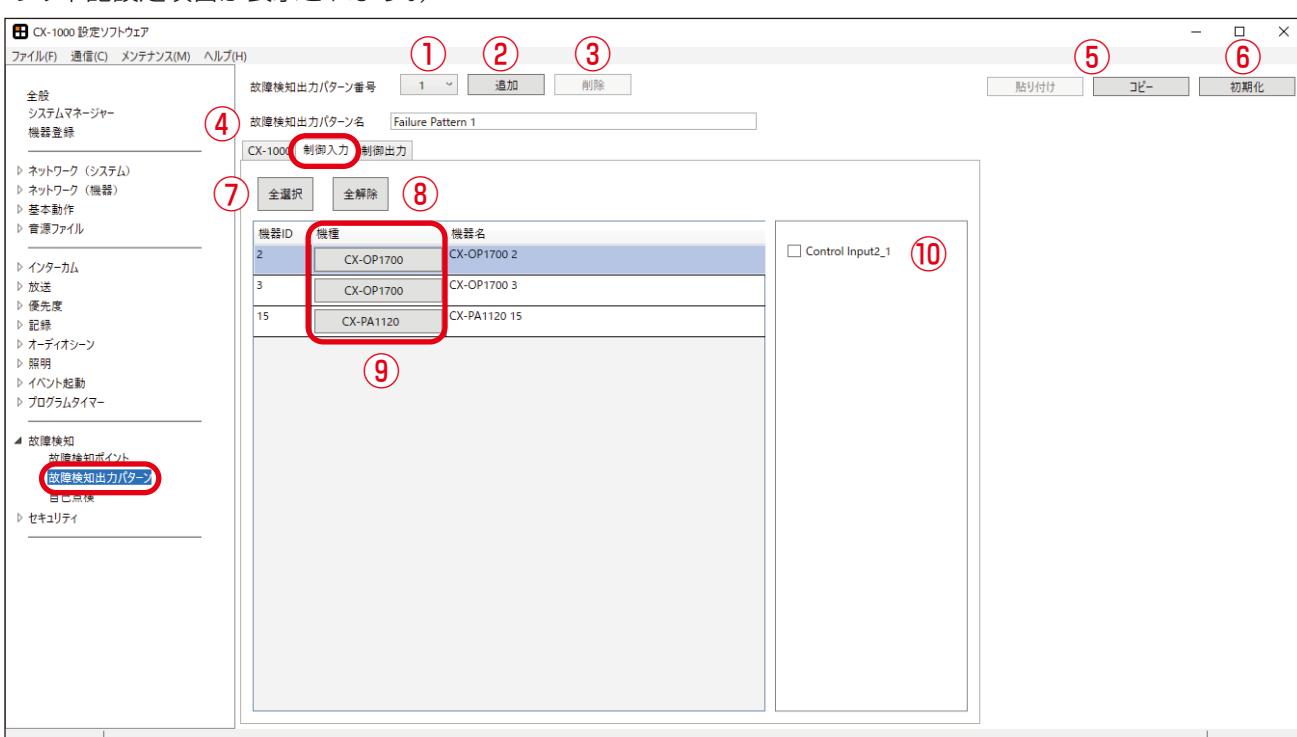
パターンごとに独立して故障検知項目を設定できるほか、故障したときに出力する制御出力グループを設定できます。

[「CX-1000」タブ選択時]

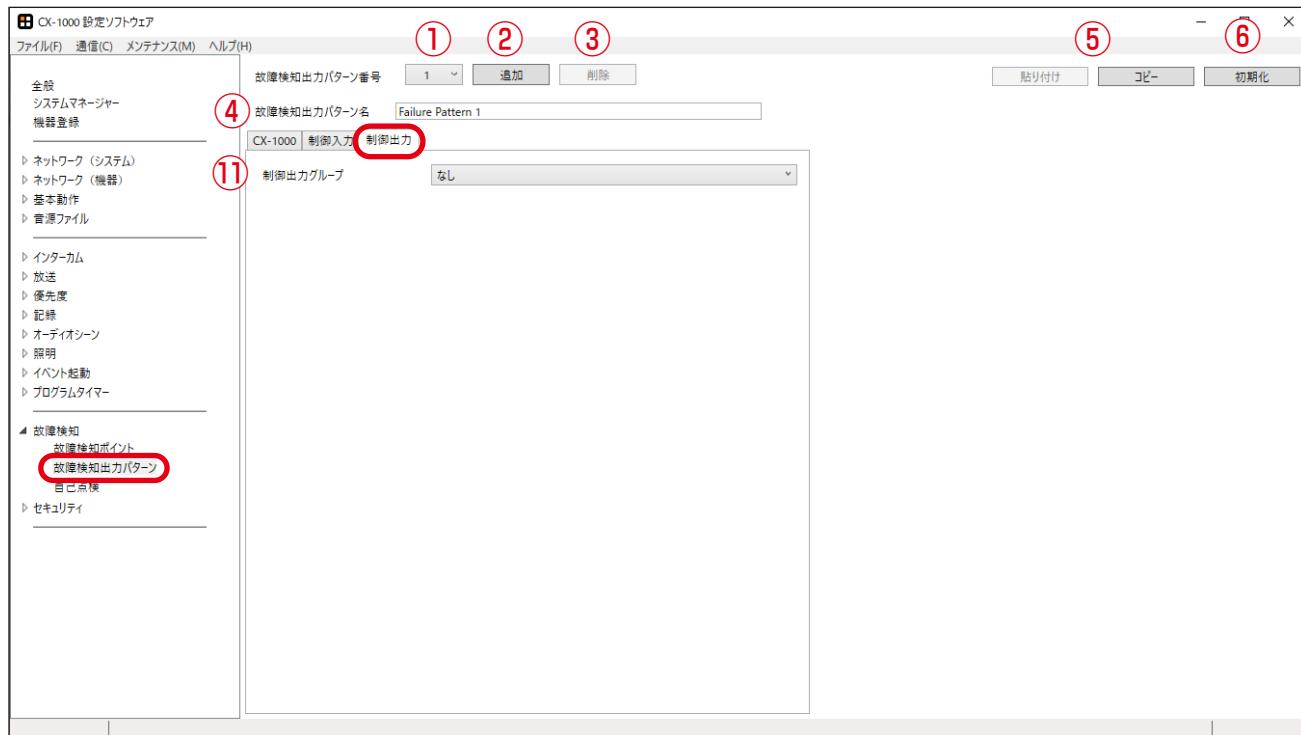


[「制御入力」タブ選択時]

「イベント起動」→「制御入力」(P. 2-106) で制御入力のイベント機能に「外部故障入力」を割り当てたときのみ下記設定項目が表示されます。)



[「制御出力」タブ選択時]



①故障検知出力パターン番号

デフォルトでは故障検知出力パターン番号は1のみです。

必要に応じて、追加ボタン②で追加してください。最大500パターンを設定できます。

プルダウンメニューまたは矢印ボタンをクリックして、設定する故障検知出力パターンの番号を選択します。

パターンごとに、「CX-1000」、「制御入力」、「制御出力」の3つのタブを選択して、故障検知出力パターンの内容を設定します。

②追加ボタン

このボタンをクリックすると、故障検知出力パターン番号①に番号が1つ追加されます。

③削除ボタン

故障検知出力パターン番号①で削除したい番号を選択し、このボタンをクリックします。

④故障検知出力パターン名

故障検知出力パターンの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず32文字以内（初期設定：Failure Pattern + No.）
------	---

メモ

CX-OP1700/RM1700で故障受理機能をキーに設定している場合、故障発生時に故障検知出力パターン名が液晶画面上に表示されます。

⑤コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、「故障検知出力パターン名」④以外の全設定をコピーします。

他の故障検知出力パターン番号を選択し、貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を選択中の故障検知出力パターンに貼り付けます。

⑥初期化ボタン

選択中の故障検知出力パターンのすべての設定を初期設定に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OKボタンをクリックしてください。

⑦全選択ボタン

このボタンをクリックすると、選択中のタブで表示されている全機器のすべての故障検知ポイントを選択します。

⑧全解除ボタン

このボタンをクリックすると、選択中のタブで表示されている全機器のすべての故障検知ポイントの選択を解除します。

⑨機種選択ボタン

各ボタンをクリックするたびに、該当機種のすべての故障検知ポイントを一括で選択または解除します。

⑩故障検知ポイントチェックボックス

個々の故障検知ポイントをクリックするたびに、個別で選択または解除します。チェックを入れると、そのポイントに故障が発生したときに選択中の故障検知出力パターンが起動します。(初期設定：すべてチェックなし)

⑪制御出力グループ

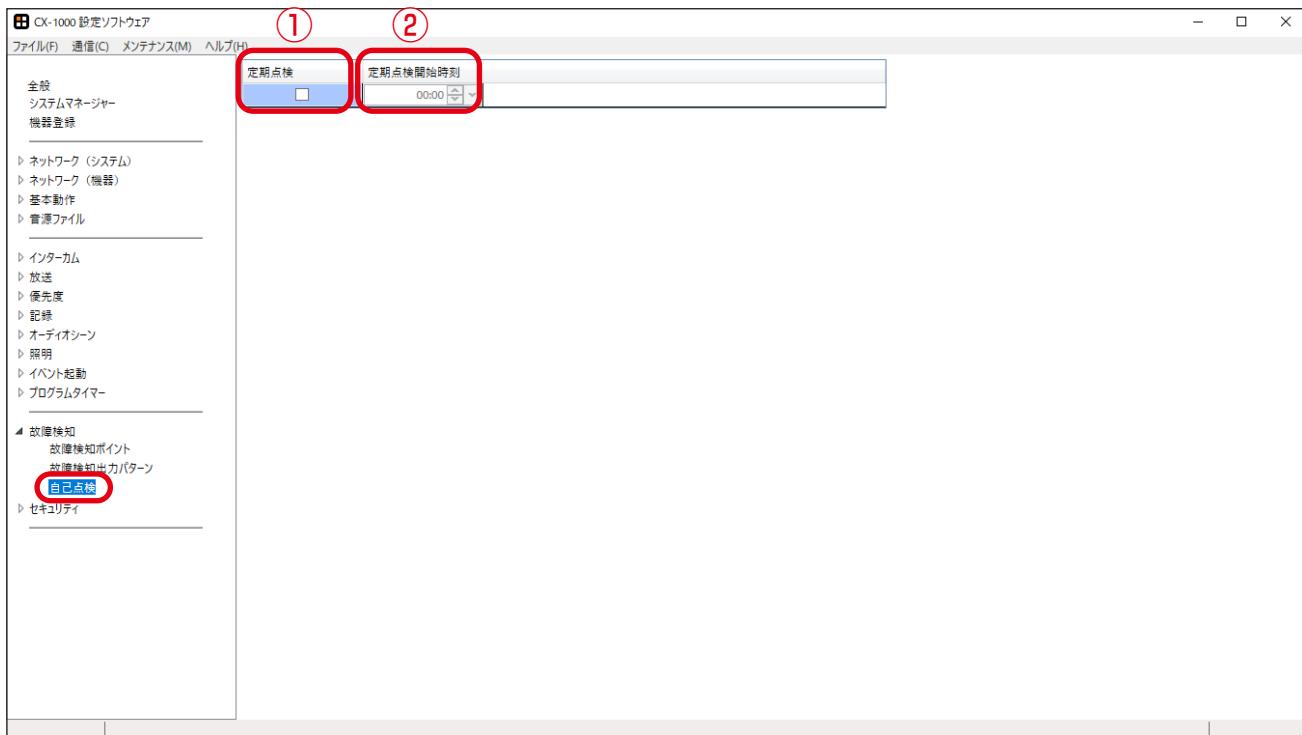
プルダウンメニューから、故障が発生したときに出力する制御出力グループを選択します。

設定範囲	なし (初期設定)、制御出力グループ一覧
------	----------------------

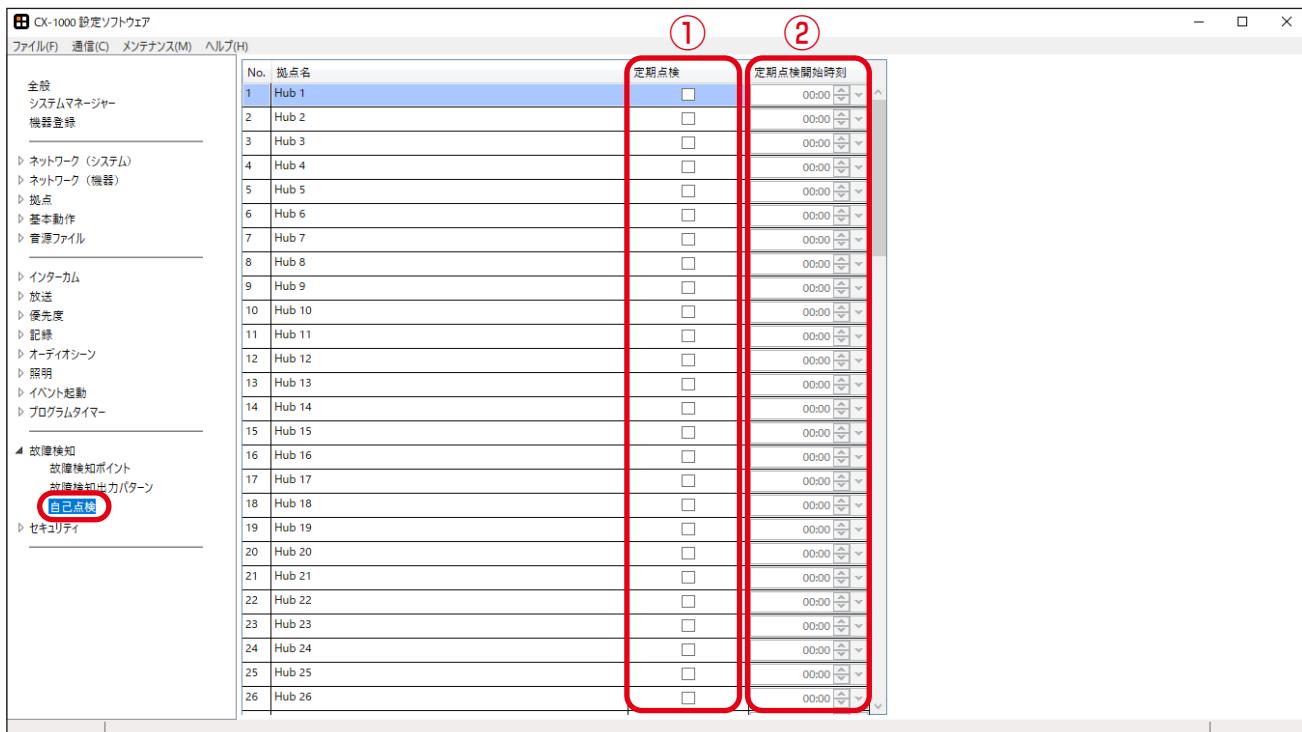
■ 自己点検の設定

「故障検知」→「自己点検」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

[拠点機能：無効時]



[拠点機能：有効時]



①定期点検

チェックを入れると、自己点検をする時刻を設定できるようになります。1日に1回、設定した時刻に自己点検を行います。チェックを外すと、自己点検を行いません。(初期設定：チェックなし)

②定期点検開始時刻（定期点検のチェックを入れたときのみ）

1日に1回の自己点検を行う時刻を設定します。右横のボタンを使用して選択するか、数字を入力してください。

設定範囲	00:00～23:59（初期設定：00:00）
------	-------------------------

セキュリティの設定

■ ID／パスワードの設定

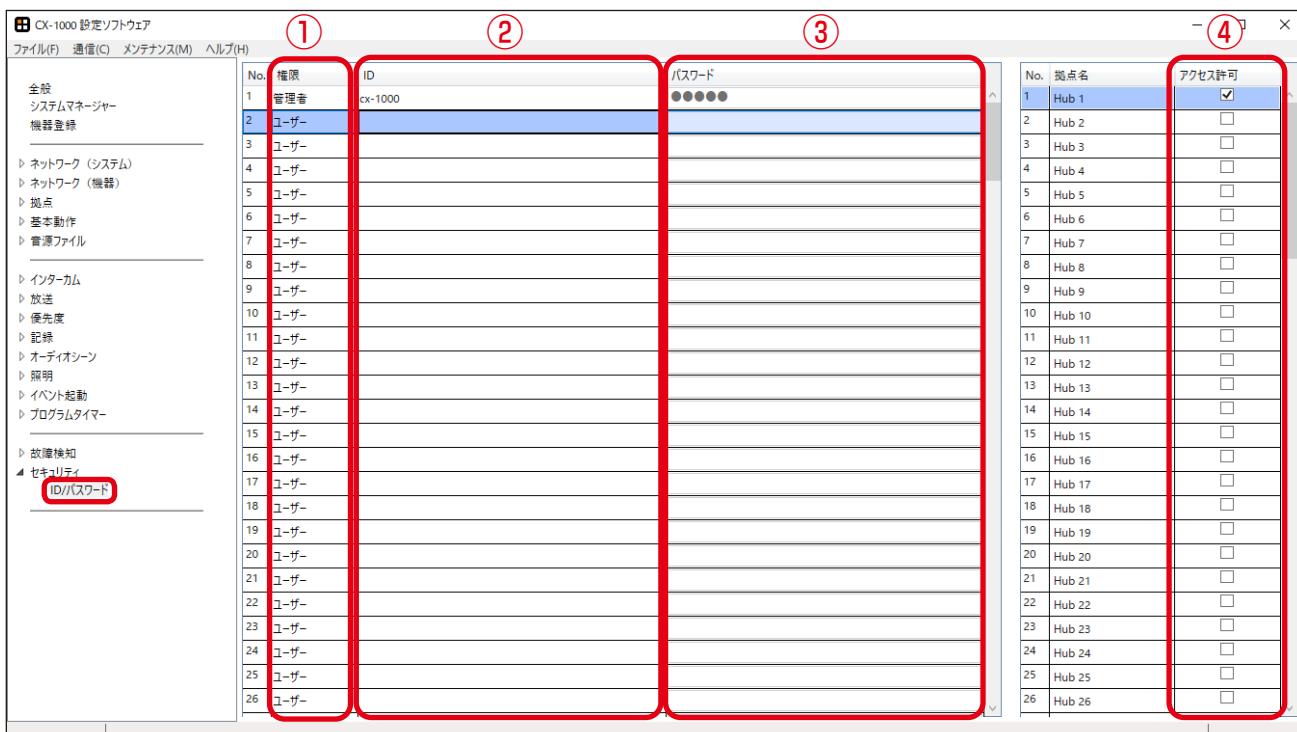
「セキュリティ」→「ID／パスワード」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

設定データやシステムにアクセスできるユーザーを最大 200 登録できます。

[拠点機能:無効時、または拠点機能:有効時に「権限」で「管理者」または「メンテナンス」を選択したとき]



[拠点機能：有効時に「権限」で「ユーザー」を選択したとき]



①～③の項目を設定するときは、設定する No. の行のいずれかのボックスをダブルクリックしてください。以下のダイアログが表示されますので、その画面で設定してください。



① 権限

ID の権限を設定します。

設定範囲	管理者、ユーザー（初期設定）、メンテナンス
------	-----------------------

管理者 : このソフトウェアによる設定編集および CX-SM1000 の Web 画面のすべての機能を使用することができます。

ユーザー : このソフトウェアによる設定編集はできません。また、Web 画面では、アクセスを許可された拠点にのみ、運用に関する機能を使用することができます。

メンテナンス : このソフトウェアによる設定編集はできません。また、Web 画面では、メンテナンスに関する機能を使用することができます。

ご注意

- 編集ログインに使用した「管理者」の設定は変更できません。
- 管理者、ユーザー、メンテナンスはそれぞれ 100 まで登録できます。ただし、合計で 200 までしか登録できません。

② ID

ログインに使用する ID を設定します。

設定範囲	半角英数記号 7～32 文字（初期設定：空欄） ただし、使用可能な記号は「!」「@」「#」「\$」「%」「&」「-」「_」の 8 種類のみ スペース使用不可
------	--

③ パスワード

ID のパスワードを設定します。

設定範囲	半角英数記号 5～32 文字（初期設定：空欄） ただし、使用可能な記号は「!」「@」「#」「\$」「%」「&」「-」「_」の 8 種類のみ スペース使用不可
------	--

④ アクセス許可（拠点機能：有効時に「権限」①を「ユーザー」に設定したときのみ）

選択中の ID で、CX-SM1000 の Web 画面上で各拠点の情報閲覧を許可するときはチェックを入れます。（初期設定：拠点 No. 1 のみチェックあり）

メモ

「権限」①が「管理者」、「メンテナンス」に設定されている場合は、すべての拠点にアクセスすることができます。

学校向けの設定（学校向け設定時のみ）

CX-1000 システムでは、学校の運用に特化した「学校運用アプリケーション」を装備しています。学校運用アプリケーションは CX-SM1000 に Web ブラウザーを使用してアクセスすることで、以下の設定が簡単に行えるようになっています。

- チャイム（プログラムタイマー）の設定
- 年度ごとの学年と教室の割り当て
- 音源の放送・試聴操作

学校運用アプリケーションの操作のしかたについては、別冊の学校運用アプリケーション操作説明書をお読みください。

このソフトウェアでは、「全般」(P. 2-6) で運用モードを「学校向け」に設定したときのみ、「学校向け」メニューが表示され、学校運用アプリケーションを使用するための設定ができます。

ご注意

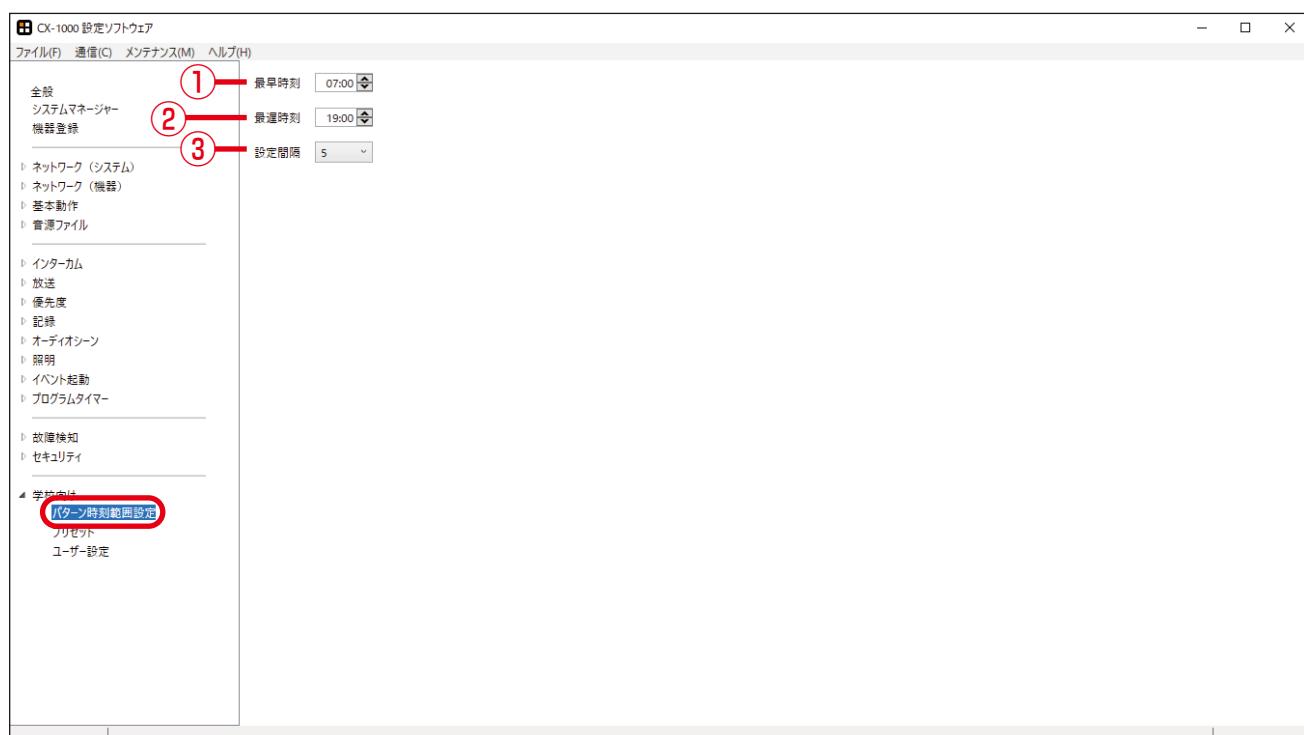
設定途中で運用モードを変更すると設定が初期化されます。

■ パターン時刻範囲設定

「学校向け」→「パターン時刻範囲設定」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

学校運用アプリケーションでプログラムタイマー（チャイム運用）の設定を行うときの、チャイム鳴動時刻の最も早い時刻と最も遅い時刻を設定します。

この設定を行うことで、学校運用アプリケーションのタイマー設定で、深夜、早朝などの不要な時刻表示をせず、効率的な設定を行うことができます。



① 最早時刻

この設定値以前の時刻帯が学校運用アプリケーションで表示されなくなります。

設定範囲	0:00 ~ 23:59 (初期設定: 7:00)
------	---------------------------

②最遅時刻

この設定値以降の時刻帯が学校運用アプリケーションで表示されなくなります。

設定範囲	0:00 ~ 23:59 (初期設定 : 19:00)
------	-----------------------------

③設定間隔

学校運用アプリケーションでチャイムの開始時刻を入力するときにプルダウンリストから選択しますが、プルダウンリストに表示する時間の間隔をここで設定します。たとえば、設定間隔を5分に設定すると、プルダウンリストに「9:00、9:05、9:10、9:15、…」のように表示されます。

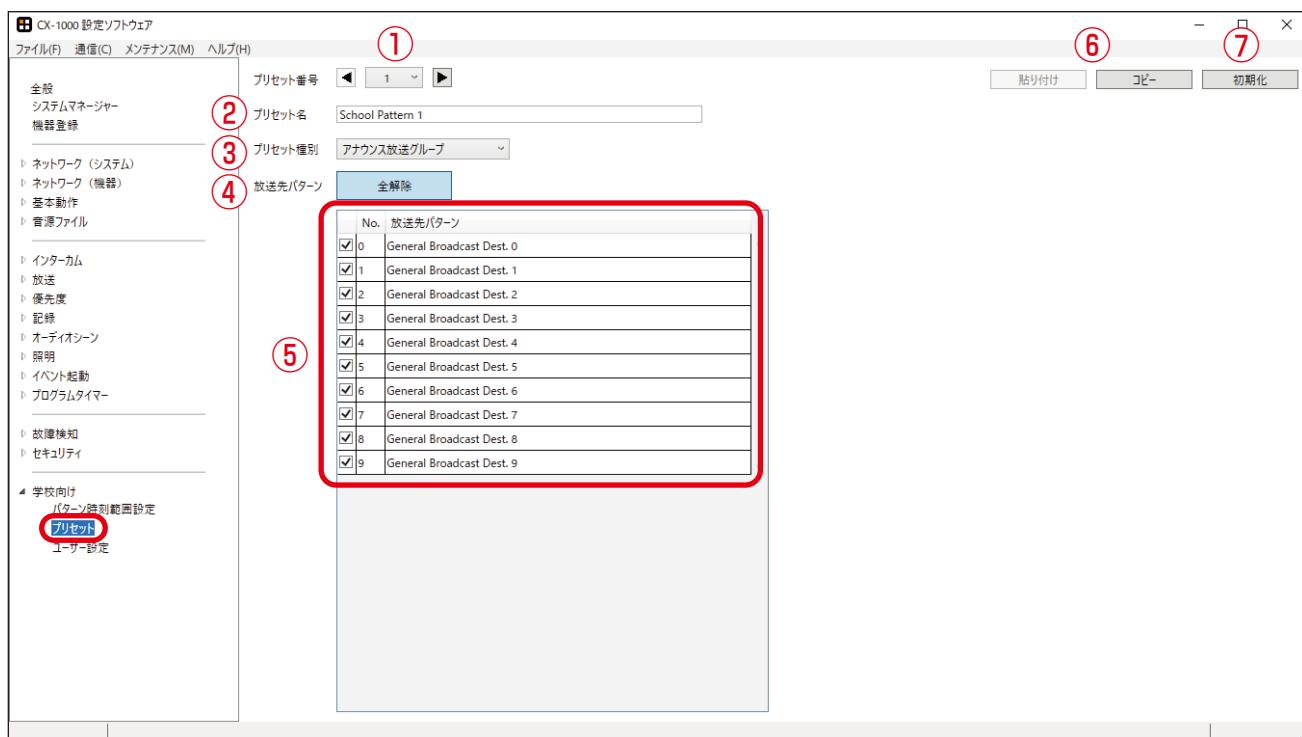
設定範囲	1 ~ 10 (1分単位) (初期設定 : 5)
------	--------------------------

■ プリセットの設定

「学校向け」→「プリセット」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

学校運用アプリケーションで使用する放送先のプリセットを作成します。

最大16のプリセットを設定できます。

**①プリセット番号**

プリセットの番号を選択します。

②プリセット名

プリセットの名称を入力します。

設定範囲	全角・半角にかかわらず32文字以内 (初期設定 : Preset + No.)
------	---

③プリセット種別

プリセット種別を選択します。

設定範囲	アナウンス放送グループ（初期設定）、チャイム放送グループ
------	------------------------------

アナウンス放送グループ：アナウンスおよびBGM放送を行う時に選択できるグループです。

チャイム放送グループ：チャイムを放送するときに選択できるグループです。

④全選択ボタン／全解除ボタン

全選択ボタンを押すと、「放送先パターン」⑤のすべてにチェックを入れて、全解除ボタンに変わります。

全解除ボタンを押すと、「放送先パターン」⑤のチェックをすべて外して、全選択ボタンに変わります。

⑤放送先パターン

選択しているプリセットに含む放送先パターンにチェックを入れます。（初期設定：チェックあり）

ご注意

- 「チェックなし」から「チェックあり」に変更すると、「放送」→「放送先パターン」の「放送先音声出力」の設定（P.2-70）が初期化されます。
- いずれかのプリセットにチェックが入っている放送パターンは、「放送」→「放送パターン」での放送先音声出力の設定ができなくなります。この場合の設定は、学校向け運用アプリケーション内で行います。（☞別冊の学校運用アプリケーション説明書「教室設定のしかた」）

※

アナウンス放送グループとチャイム放送グループで、同一の放送先パターンは選択できません。

⑥コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、「プリセット名」②以外の全設定をコピーします。

プリセット番号を選択し、貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を選択中のプリセットに貼り付けます。

⑦初期化ボタン

選択中のプリセットのすべての設定を初期設定に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OKボタンをクリックしてください。

[小中一貫校での使用を想定した設定例]

		プリセット					
		小学校 アナウンス	中学校 アナウンス	教員施設	体育館	グラウンド	全校一斉
放送先 パターン	小1	○					○
	小2	○					○
	小3	○					○
	小4	○					○
	小5	○					○
	小6	○					○
	小学校共用部	○					○
	中1		○				○
	中2		○				○
	中3		○				○
	中学校共用部		○				○
	小学校教員			○			○
	中学校教員			○			○
	体育館				○		○
	グラウンド					○	○

■のグループ：「放送」→「放送先パターン」で空のグループを作成しておきます。

この放送先パターンにどの音声出力を割り当てるか（ex. 小1にどの教室を割り当てるか）は学校運用アプリケーションを使って設定することができます。

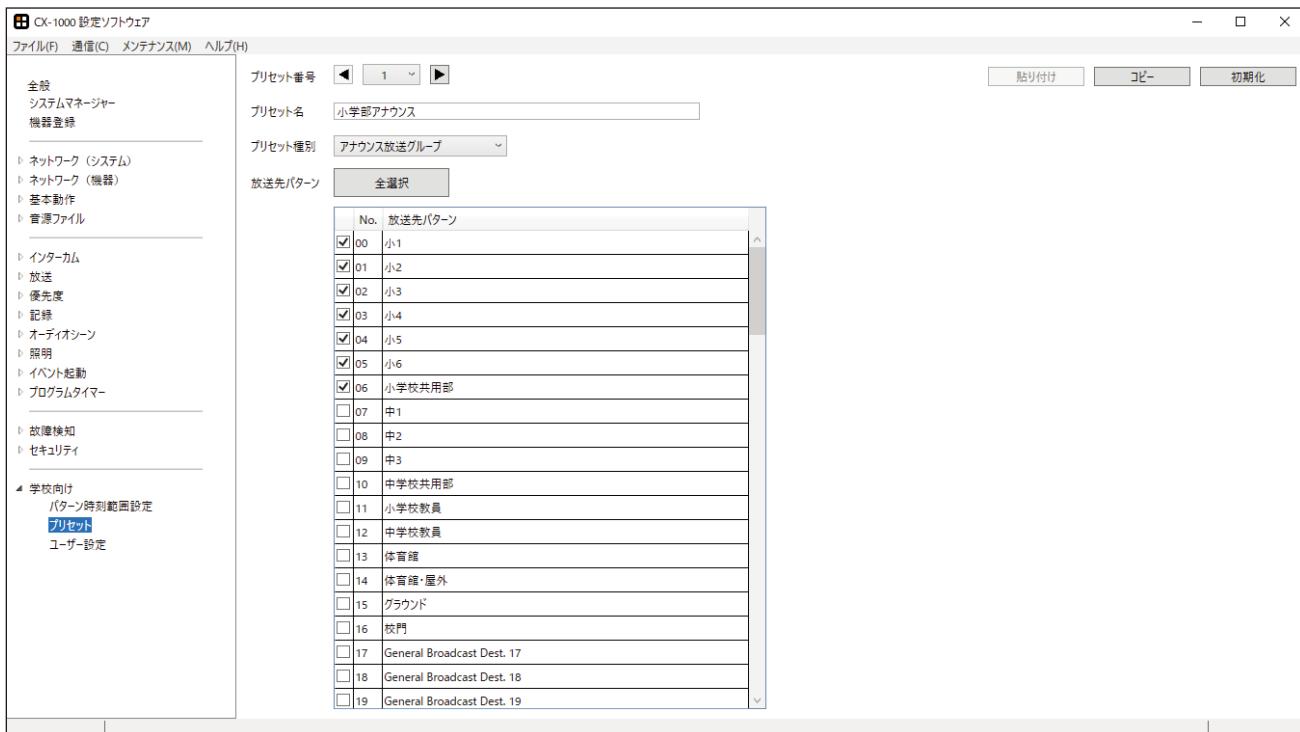
このため、音声出力名には教室番号などを設定しておくとわかりやすくなります。

□のグループ：プリセットで設定します。

アナウンス放送グループでは、放送時このグループを選択したあと、さらに黄色のグループを選択し、小1と小2のみ、など、放送先を詳細に選択することができます。

アナウンス放送グループは、放送時に黄色の部分が選択できますが、チャイム放送グループでは選択できません。

上記設定例での設定画面は P.2-165 のようになります。



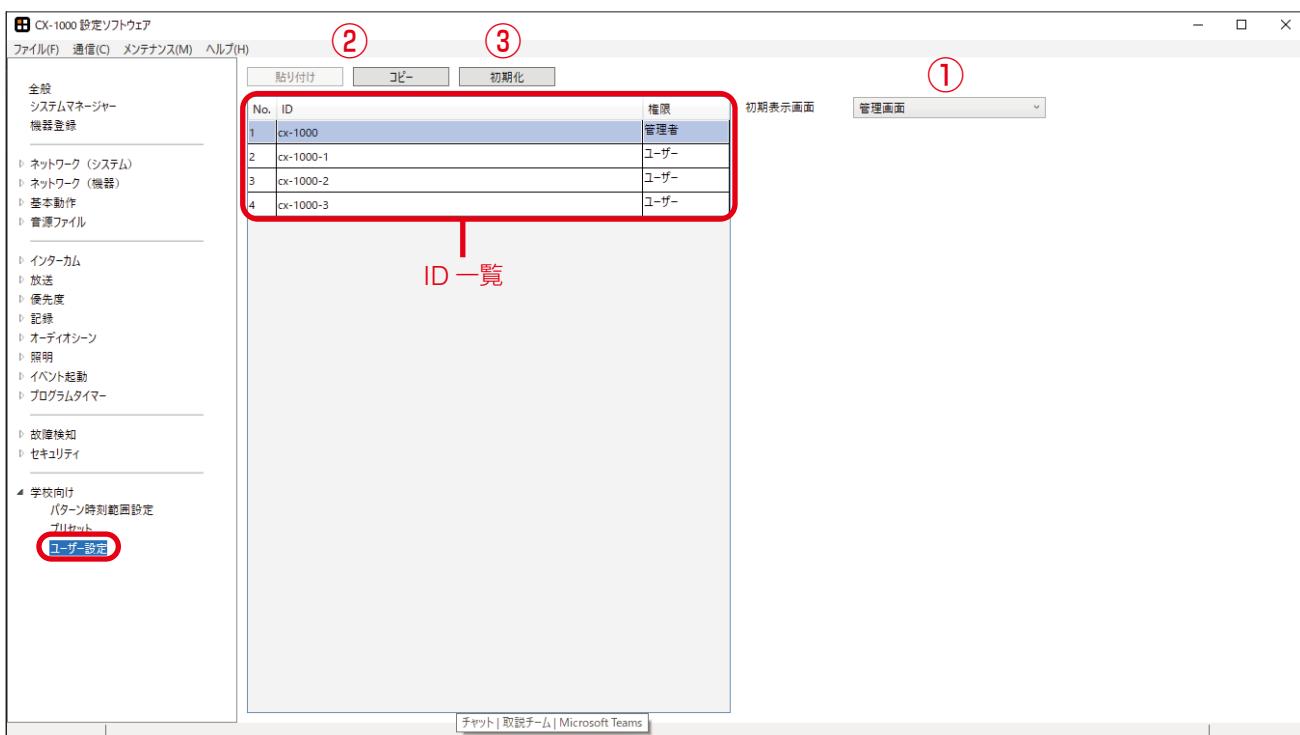
■ ユーザー設定

「学校向け」→「ユーザー設定」をクリックすると、ユーザー設定画面が表示されます。

ID一覧で、設定するIDを選択し、設定します。

管理者権限のIDを選択している場合と、ユーザー権限のIDを選択している場合で、設定項目と設定範囲が異なります。

● 管理者権限のIDを選択している場合



①初期表示画面

管理者権限で学校運用アプリケーションにログインしたときに、最初に表示されるページを設定することができます。複数の管理者がいる場合、それぞれの管理者に対して個別に設定することができます。

設定範囲	管理画面（初期設定）、当日動作設定画面、カレンダー設定画面、週間プログラム設定画面、チャイム・定時放送設定画面、教室設定画面
------	--

各画面の詳細については、別冊の学校運用アプリケーション操作説明書をお読みください。

②コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、選択中の ID の設定をコピーします。

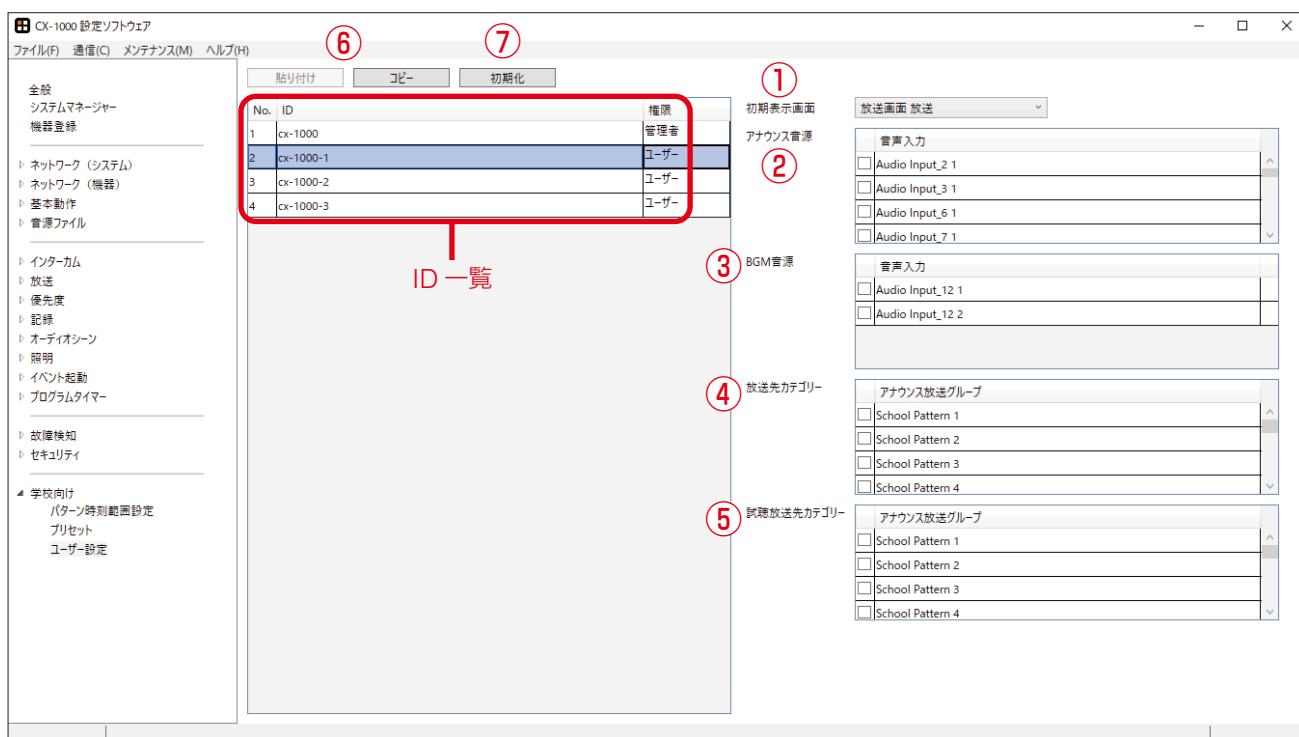
他の管理者権限の ID を選択し、貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を選択中の ID に貼り付けます。

③初期化ボタン

選択中の ID の設定を初期設定に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

● ユーザー権限の ID を選択している場合



①初期表示画面

ユーザー権限の ID で学校運用アプリケーションにログインした場合は、管理者権限で表示する設定画面は表示できず、放送用の画面が表示されます。

複数のユーザーが設定でき、ユーザーごとに画面がカスタマイズできます。

設定範囲	放送画面 放送（初期設定）、放送画面 試聴
------	-----------------------

放送画面 放送：すぐに放送できる画面を表示します。

放送画面 試聴：放送前に試聴する画面を表示します。

② アナウンス音源

アナウンス放送に使用する音声入力にチェックを入れます。(初期設定: チェックなし)

「基本動作」→「音声入力」(P. 2-28)で用途を「業務」にした音声入力が一覧で表示されます。

メモ

「基本動作」→「機器」で用途を「業務」にしている機器のみ、学校運用アプリケーションの音源として使用できます。

③ BGM 音源

BGM 放送に使用する音声入力にチェックを入れます。(初期設定: チェックなし)

「基本動作」→「音声入力」(P. 2-28)で用途を「BGM」にした音声入力が一覧で表示されます。

メモ

「基本動作」→「機器」で用途を「業務」にしている機器のみ、学校運用アプリケーションの音源として使用できます。

④ 放送先カテゴリー

選択中の ID に対して、放送先として表示するプリセットを選択します。(初期設定: チェックなし)

「学校向け」→「プリセット」(P. 2-162)で、プリセット種別を「アナウンス放送グループ」に設定したプリセットの名称が表示されます。

小学校と中学校で別のアナウンスを行う場合などは、不要な放送先が表示されないように設定できますので、放送先の誤選択などを低減することができます。

⑤ 試聴放送先カテゴリー

選択中の ID に対して、試聴用の放送先として表示するプリセットを選択します。(初期設定: チェックなし)

「学校向け」→「プリセット」(P. 2-162)で、プリセット種別を「アナウンス放送グループ」に設定したプリセットの名称が表示されます。

⑥ コピーボタンと貼り付けボタン

コピーボタンをクリックすると、選択中の ID の設定をコピーします。

他のユーザー権限の ID を選択し、貼り付けボタンをクリックすると、コピーした設定内容を選択中の ID に貼り付けます。

⑦ 初期化ボタン

選択中の ID の設定を初期設定に戻します。

クリックすると確認ダイアログが表示されますので、OK ボタンをクリックしてください。

設定ファイルを保存する

設定が終わったら、設定ファイルをパソコンまたはSDカードに保存します。

設定ファイルには設定データと音源データが収納されています。

ご注意

- 通話端末がある場合は、端末番号を設定していないと、保存できません。
- 機器登録をされている CX-CC1016 の台数に対して故障検知リーダー機の数が不足していると、保存できません。
- テキストボックスに入力した設定内容を確定する前に保存すると、その設定内容は保存されません。設定内容を確定してから保存してください。設定内容を入力した後、Enterキーを押すか、テキストボックス外をクリックすることで、設定内容を確定できます。

1 保存先のフォルダーを作成する。

SDカードに保存する場合は、SDカードのroot直下に「cx1000」という名称のフォルダーを作成してください。

パソコンに保存する場合は、任意の名称で構いません。複数の物件を管理する場合などは、物件ごとにフォルダーを作成しておくと便利です。

2 メニューバーから【ファイル】→【保存】または【名前を付けて保存する】を選択する。

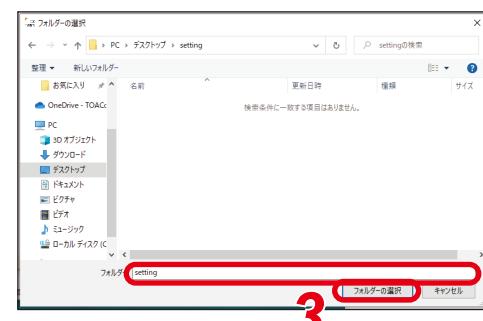
フォルダーの選択画面が表示されます。

3 保存先のフォルダーを選択して、【フォルダーの選択】ボタンをクリックする。

デフォルトでは、パソコンの「ドキュメント」フォルダーが保存先として表示されます。

パソコンに保存する場合は、任意のフォルダーを選択してください。

SDカードに保存する場合は、手順1で作成したcx1000フォルダーを選択してください。



ご注意

設定ファイルの名称は、自動的にcx1000settings.zipとなります。

設定ファイルの保存後に名称を変更しないでください。

変更すると、設定ソフトウェアで設定ファイルを開くことができません。

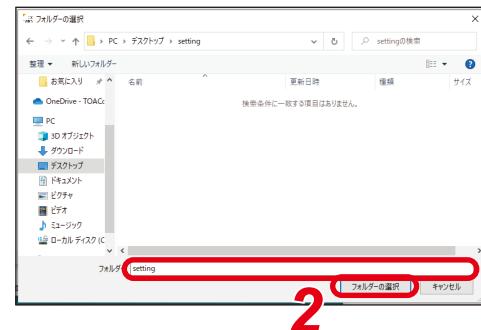
設定ファイルを開く

パソコンまたはSDカードに保存した設定ファイルを開きます。
設定ファイルには設定データと音源データが収納されています。

- 起動メニュー画面で「開く」を選択してOKボタンをクリックするか、メニューバーから【ファイル】→【開く】を選択する。

フォルダーの選択画面が表示されます。

- 設定ファイルが保存されているフォルダーを選択する。



ログイン画面が表示されます。

- 設定ファイルのIDとパスワードを入力し、OKボタンをクリックする。

IDおよびパスワードが設定ファイルのものと一致すると、設定画面が開きます。



設定ファイルをアップロードする

CX-SM1000 とパソコンをオンラインで接続して、設定ファイルをパソコンから CX-SM1000 にアップロードします。設定ファイルには設定データと音源データが収納されています。

■ オンラインで接続する前に

● ID とパスワードの設定を合わせておく

CX-SM1000 と CX-1000 設定ソフトウェアの ID およびパスワードが一致していないと、オンラインで接続することができません。

あらかじめ CX-SM1000 の ID とパスワードを、設定ファイル作成時に設定ソフトウェアで設定した ID およびパスワード変更または追加してください。変更のしかたは、別冊のメンテナンス説明書をお読みください。

● CX-1000 シリーズ全機器の IP アドレスと制御ポートを設定しておく

CX-1000 シリーズのすべての機器の IP アドレスを、CX-1000 設定ソフトウェアで各機器に設定されている IP アドレスと合わせておいてください。

また、すべての機器で制御ポート番号（工場出荷時：15001）を CX-1000 設定ソフトウェアで設定した番号に合わせておいてください。

CX-1000 設定ソフトウェアの機器検出ソフトウェアを使って、機器検出を行い、CX-1000 シリーズのすべての機器の IP アドレスおよび制御ポート番号を変更してください。変更のしかたは、[P. 2-174「機器検出とネットワーク設定」](#)をお読みください。

● 設定ファイルを保存しておく

設定ファイルをアップロードする前に、設定ファイルを任意のフォルダーに保存しておいてください。

(☞ [P. 2-168 「設定ファイルを保存する」](#))

● CX-1000 シリーズ全機器をネットワークに接続しておく

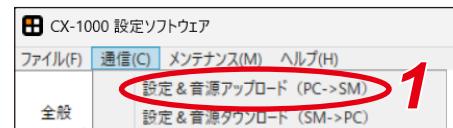
アップロードのプロセスをすべて完了させるために、CX-1000 シリーズのすべての機器をネットワークに接続した上で、設定ファイルをアップロードしてください。

■ アップロードのしかた

ご注意

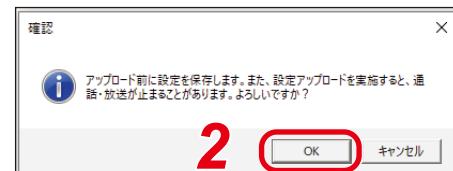
- 設定ファイルのアップロードにかかる時間は、システムの規模、使う音源のサイズと数により異なります。最小構成で最低限の設定であれば、機器1台当たり約5秒かかります。
- ネットワーク環境にもよりますが、音源1000ファイル、電話帳を最大数登録などの設定であれば、機器1台当たり15分以上かかることがあります。
- 設定ファイルのアップロード中はネットワーク切断、パソコンのシャットダウン、機器の電源断などを行わないでください。
- 設定ファイルのアップロードは、通話・放送を行っていないときに実施してください。アップロードを実施すると、通話・放送が止まることがあります。
- 設定のアップロードは、CX-SM1000のSTATUS LEDが点灯してから行ってください。

1 メニューバーから【通信】→【設定&音源アップロード(PC→SM)】を選択する。



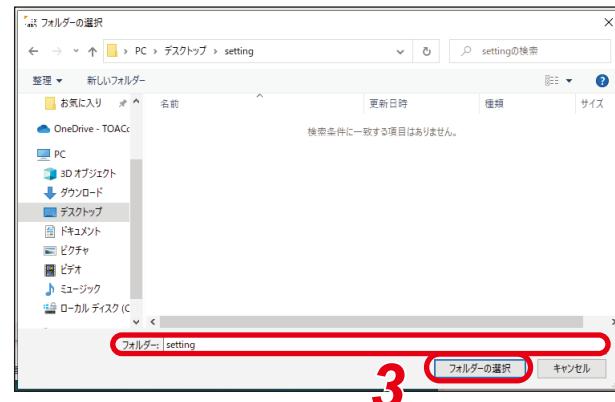
確認ダイアログが表示されます。

2 OKボタンをクリックする。



フォルダーの選択画面が表示されます。

3 設定ファイルがあるフォルダーを選択し、[フォルダーの選択]ボタンをクリックする。



アップロード画面が表示され、アップロードが開始されます。

●の色でアップロードの進行状態が表示されます。

- ：未実行のプロセス
- ：実行中のプロセス
- ：成功したプロセス
- ：失敗したプロセス



アップロードが終わると、画面の●がすべて緑色になります。

4 OK ボタンをクリックする。

アップロード画面が閉じます。

ご注意

アップロード後に機器がリセットされることがあります。リセットされると、通話・放送が止まります。

Settings			Media		
機器ID	機器名	結果	機器ID	機器名	結果
2	CX-OP1700 2	success	2	CX-OP1700 2	success
3	CX-CL1750 3	success	3	CX-CL1750 3	success
4	CX-OP1500 4	success	4	CX-OP1500 4	success
5	CX-CL1550 5	success	5	CX-CL1550 5	success
6	CX-RM1700 6	success	6	CX-RM1700 6	success
7	CX-AF1062 7	success	7	CX-AF1062 7	success
8	CX-PA1120 8	success	8	CX-PA1120 8	success
9	CX-PA1240 9	success	9	CX-PA1240 9	success
10	CX-CC1016 10	success	10	CX-CC1016 10	success

アップロードに失敗して●が表示されたときのチェックポイント

●が表示された項目	原因	確認するところ
・サーバーの状態確認	CX-1000 設定ソフトウェアを使用するパソコンと CX-SM1000 間の通信が確立されていない。	パソコンと CX-SM1000 のネットワーク設定 (IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ) が正しいか確認する。
・チェックサムリクエスト		CX-SM1000 の電源が入っているか確認する。
・設定ファイルの準備		CX-SM1000 が異常状態となっていないか確認する。状態表示灯が緑色で点灯していれば正常動作中。
・設定ファイルのアップロード	ID、パスワードが正しくない。	パソコンのプロキシ設定が適切か確認する。
・CX-SM1000 にシステム設定を適用	緊急モード中である。	緊急モード中は設定アップロードできないため、通常モード時に設定アップロードする。
	CX-1000 設定ソフトウェアと CX-SM1000 のバージョンの組み合わせが合っていない。	CX-1000 設定ソフトウェアと CX-SM1000 のバージョンの組み合わせが正しいか確認する。
・各機器へ設定を適用	CX-SM1000 と各機器間の通信が確立されていない。	CX-1000 設定ソフトウェアで設定した CX-SM1000 および各機器のネットワーク設定 (IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ) が正しいか確認する。
		各機器の電源が入っているか確認する。
		各機器が異常状態となっていないか確認する。状態表示灯が緑色で点灯していれば正常動作中。
		CX-SM1000 と各機器のバージョンの組み合わせが正しいか確認する。

設定ファイルをダウンロードする

CX-SM1000 とパソコンをオンラインで接続して、設定ファイルを CX-SM1000 からパソコンにダウンロードします。設定ファイルには設定データと音源データが収納されています。

■ ダウンロードをする前に

● 設定途中のデータは保存しておく

ダウンロード後は CX-1000 設定ソフトウェアに設定を上書きするため、設定途中のデータは保存しておいてください。

● IP アドレスおよび制御ポート番号を合わせておく

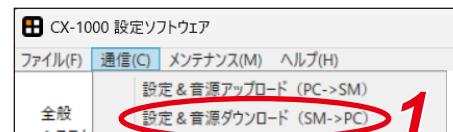
CX-SM1000 に設定されている IP アドレス、制御ポートと同じものを、CX-1000 設定ソフトウェアでも設定しておいてください。

IP アドレスは、サイドメニューの [ネットワーク (機器)] → [IP アドレス] で設定します。

制御ポート番号は、サイドメニューの [ネットワーク設定 (システム)] → [放送・通話] で設定します。

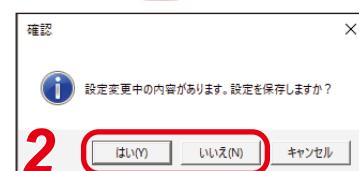
■ ダウンロードのしかた

- 1 メニューバーから [通信] → [設定&音源ダウンロード (SM → PC)] を選択する。



確認ダイアログが表示されます。

- 2 はいボタンまたはいいえボタンをクリックする。



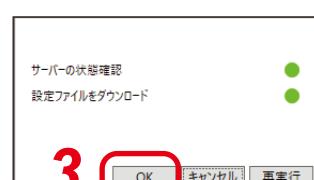
ダウンロード画面が表示され、ダウンロードが開始されます。

- の色でダウンロードの進行状態が表示されます。
- ：未実行のプロセス
- ：実行中のプロセス
- ：成功したプロセス
- ：失敗したプロセス



失敗した場合は、パソコンと CX-SM1000 間のネットワーク接続を確認してください。

ダウンロードが終わると、画面右の●がすべて緑色になります。



- 3 OK ボタンをクリックする。

ログイン画面が表示されます。

- 4 CX-SM1000 の ID とパスワードを入力し、OK ボタンをクリックする。

ID およびパスワードが CX-SM1000 のものと一致すると、設定画面が開きます。



機器検出とネットワーク設定

LAN に接続されたすべての機器を検出し、ネットワーク設定を行います。

ご注意

- 機器の IP アドレスが機器検出ソフトウェアを使って正確に設定されていなければ、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して設定情報を機器に書き込むことはできません。
- ルーターを越えて機器を検出することはできません。
- SIP 電話機、外部電話システム、IP カメラなどの CX-1000 シリーズ以外の機器には使用できません。
- IP-A1 シリーズの機器は、ブラウザーで接続するか、IP-A1 シリーズ用の IP 設定ツールで別途機器検出を行って、ネットワーク設定を行ってください。

メモ

CX-1000 設定ソフトウェアを終了しても、機器検出ソフトウェアは終了しません。

■ 機器検出ソフトウェアを起動する

メニューバーから [メンテナンス] → [機器検出・ネットワーク変更] を選択すると機器検出ソフトウェアが起動します。

ご注意

パソコンに複数の IP アドレスが設定されているときは、機器検出が実行される前に、IP アドレス選択画面が表示されますので、使用する IP アドレスを選択してください。



[機器検出ソフトウェア]

メニュー



[機器検出ソフトウェアのメニュー]

ファイル

→ 終了 : プログラムを終了します。

ツール

- 送信元 IP アドレス選択 : 機器検出に使用するパソコンの IP アドレスを選択します。
選択された IP アドレスがある LAN に接続された機器のみ検出できます。
現在選択されている送信元 IP アドレスが表示されるので、変更したい場合は
プルダウンメニューから送信元 IP アドレスを選択します。
- 機器検出 : LAN に接続されたすべての機器を検出し、表示します。
- 設定更新 : ソフトウェアの画面で変更した設定内容を機器にアップロードします。

[機器検出ソフトウェアのボタン]

- 機器検出ボタン : LAN に接続されたすべての機器を検出し表示します。
- 設定更新ボタン : ソフトウェアの画面で変更した設定内容を機器にアップロードします。
- 機器再起動ボタン : 検出機器リストで選択した CX-1000 シリーズの機器を再起動します。
- ファームウェア更新ボタン : CX-1000 シリーズの機器のファームウェアを更新します。

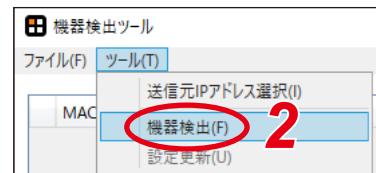
■ 機器を検出する

ご注意

- 機器検出ソフトウェアがインストールされているパソコンのファイアウォール機能が有効の場合、機器が検出されないことがあります。
このようなときは、ファイアウォールの設定を変更し、機器検出ソフトウェア (TOAFinder.exe) へのアクセス遮断を解除してください。
- 検出可能な範囲は、送信元 IP アドレスからブロードキャスト通信が有効な範囲のみです。
検出できない機器は、CX-1000 設定ソフトウェアを使用して、LAN に接続された機器のみ手動で追加してください。

1 すべての CX-1000 シリーズの機器をネットワークに接続し、電源を各機器に接続する。
表示灯が点灯または点滅します。

2 機器検出ソフトウェアの初期画面上の機器検出ボタンをクリックするか、またはメニューから【ツール】→【機器検出】を選択する。



右図のダイアログが表示されます。

機器に接続しています。しばらくお待ちください。

LAN に接続された CX-1000 シリーズの全機器のネットワーク情報リストが表示されます。

初期設定では次の値が設定されています。

- IP アドレス : 192.168.14.1
サブネットマスク : 255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ : 0.0.0.0
機種名 : 各機器の品番

機器検出ツール					
ファイル(F)		ツール(T)			
		MAC	IPアドレス	ファームウェアバージョン	システム名
<input type="checkbox"/>	F8-DC-7A-93-AB-50	192.168.14.250	Ver.1.0.1	CX-1000 System	CX-SM1000
<input type="checkbox"/>	F8-DC-7A-6A-BC-AC	192.168.14.7	Ver.1.0.1	CX-1000 System	CX-RM1700
<input type="checkbox"/>	F8-DC-7A-6A-BC-DE	192.168.14.4	Ver.1.0.1	CX-1000 System	CX-CL1750
<input type="checkbox"/>	F8-DC-7A-93-AB-95	192.168.14.2	Ver.1.0.1	CX-1000 System	CX-OP1700
<input type="checkbox"/>	F8-DC-7A-6A-BC-91	192.168.14.3	Ver.1.0.1	CX-1000 System	CX-OP1700
<input type="checkbox"/>	F8-DC-7A-66-58-4B	192.168.14.66	Ver.1.0.1	CX-1000 System	CX-CL1550
<input type="checkbox"/>	F8-DC-7A-66-54-8F	192.168.14.95	Ver.1.0.1	CX-1000 System	CX-PA1120
<input type="checkbox"/>	F8-DC-7A-66-54-BB	192.168.14.6	Ver.1.0.1	CX-1000 System	CX-CL1550
<input type="checkbox"/>	F8-DC-7A-66-58-53	192.168.14.55	Ver.1.0.1	CX-1000 System	CX-OP1500
<input type="checkbox"/>	F8-DC-7A-8F-43-F9	192.168.14.5	Ver.1.0.1	CX-1000 System	CX-OP1500
<input type="checkbox"/>	00-05-F9-FF-AB-2A	192.168.14.123	Ver.1.0.0	CX-1000 System	CX-CC1016

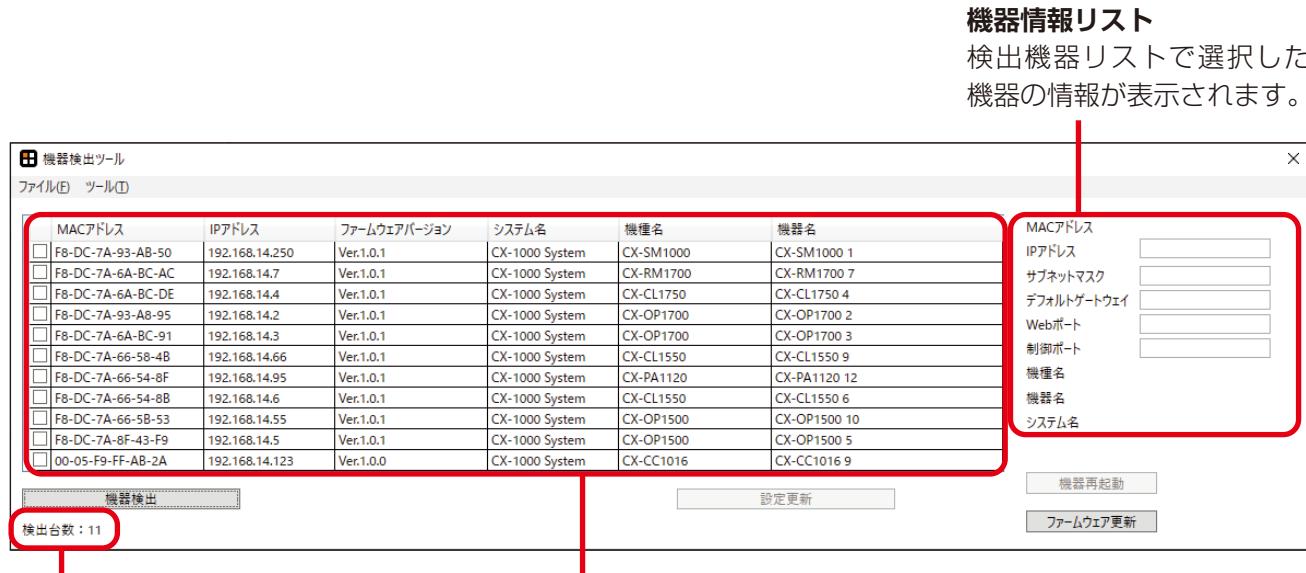
機器検出 設定更新

検出手数 : 11

機器再起動 ファームウェア更新

■ 機器検出画面の説明

以下の画面は機器が検出された後に表示される画面例です。
機器を選択するときは、検出機器リストで機器をクリックします。



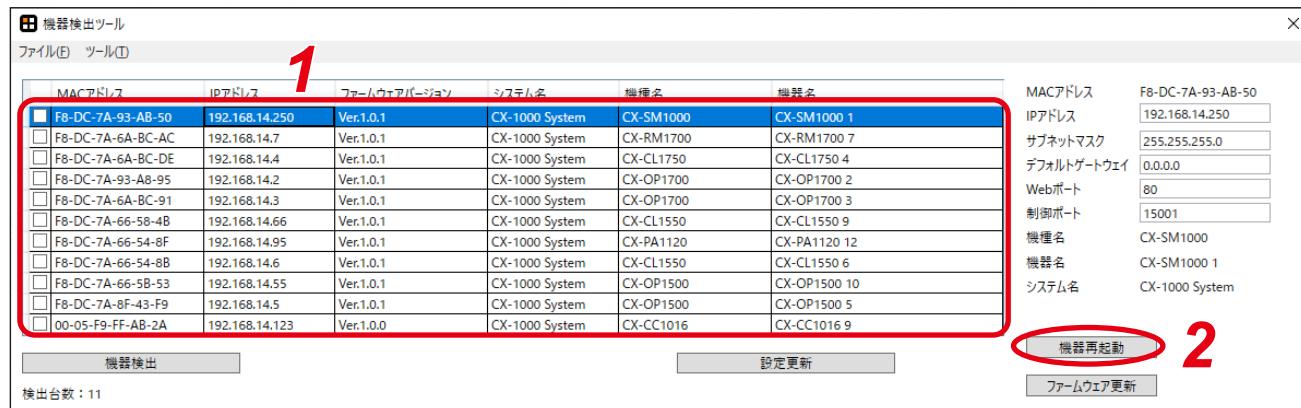
検出機器リスト

機器検出ソフトウェアで検出したすべての機器が表示されます。

・機器情報リストの設定項目

MAC アドレス	検出された機器の MAC アドレスを表示します。 変更できません。
IP アドレス	検出された機器の IP アドレスを設定します。
サブネットマスク	検出された機器のサブネットマスクを設定します。
デフォルトゲートウェイ	検出された機器のデフォルトゲートウェイを設定します。
Web ポート	CX-SM1000 の Web ポートを設定します。
制御ポート	機器間制御をするためのポート番号を設定します。
機種名	機器の品名を表示します。 変更できません。
機器名	システムに登録された機器の名前を表示します。
システム名	システムに設定されたシステム名を表示します。

■ CX-1000 シリーズの機器を再起動する



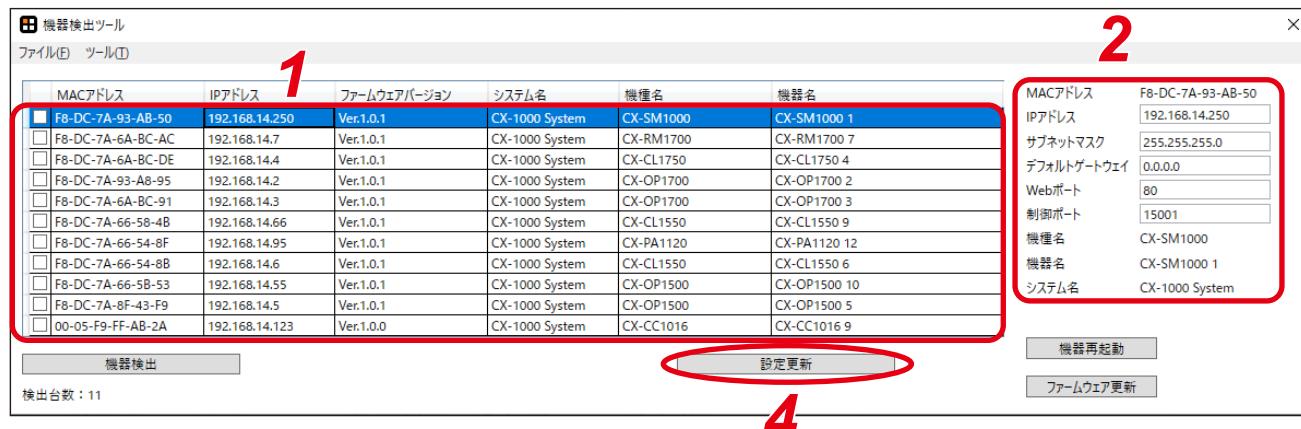
1 検出機器リスト上で、再起動したい CX-1000 シリーズの機器のセルをクリックする。

2 機器検出ソフトウェアの画面の機器再起動ボタンをクリックする。

選択した機器が再起動します。

■ ネットワークに関連する機器の設定値を変更する

機器の設定値を個別に変更できます。



1 検出機器リストで、変更したい機器のセルをクリックする。

機器情報リストで機器情報を入力できるようになります。

2 新しい設定値を機器情報リストに入力する。

設定できる項目は IP アドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、制御ポート、Web ポート (CX-SM1000 のみ) です。

3 変更するすべての機器に対して、手順 1 と 2 を繰り返す。

4 すべての変更を編集した後、設定更新ボタンをクリックする。

新しい設定値が機器にアップロードされます。

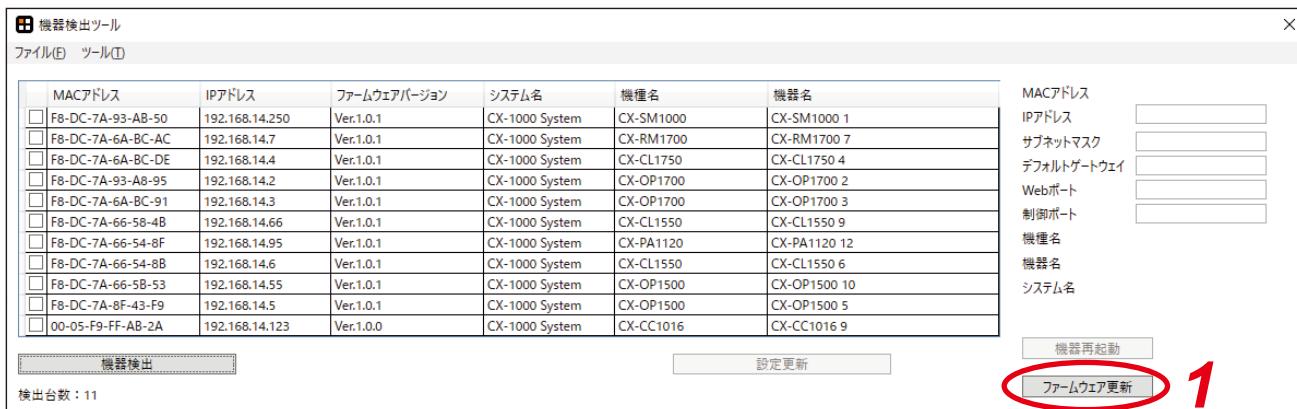
ご注意

- アップロード後、機器は自動的にリセットされますので、放送が停止または終了することがあります。
- CX-SM1000 の IP アドレスを変更したときは、すべての機器を手動で再起動してください。

■ CX-1000 シリーズの機器のファームウェアを更新する

CX-1000 シリーズの機器のファームウェアを更新することができます。

最新のファームウェアは TOA 商品データダウンロードサイト (<https://www.toa-products.com/>) から入手してください。



1 機器検出ソフトウェアの画面のファームウェア更新ボタンをクリックする。

ファームウェア更新画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Firmware Update' dialog box. It has a table of selected devices (1) with columns for IP Address, Model Name, Machine Name, and Update Result. Below the table are buttons for 'All Selection' (5), 'Deselect All' (6), 'Add Machine' (7), and 'Delete Machine' (8). To the right, there are four groups of 'Reference' buttons (9) for different machine types: CX-SM1000, CX-OP1500/CX-CL1550/CX-PA1120/CX-PA1240, CX-OP1700/CX-CL1750/CX-RM1700/CX-AF1062, and CX-CC1016. A red number '2' is placed over the 'Machine Selection' area, and a red number '3' is placed over the 'Reference' buttons. At the bottom, there are buttons for 'Firmware Update' (4), 'Close' (5), and 'Cancel' (11). A red number '10' is placed at the bottom center.

① IP アドレス

検出または追加した機器の IP アドレスを表示します。

② 機種名

検出または追加した機器の機種名を表示します。

③ 機器名

検出または追加した機器の機器名を表示します。

④ 更新結果

ファームウェア更新の結果が表示されます。

OK : ファームウェアの更新が成功

ERROR : ファームウェアの更新が失敗

Updating : ファームウェアの更新中

⑤ 全選択ボタン

検出機器リストにある機器をすべて選択します。

⑥ 全解除ボタン

検出機器リストにある選択された機器をすべて解除します。

⑦ 機器追加ボタン

検出機器リストにない機器を手動で追加します。このボタンを押すと、以下のダイアログが表示されます。



IP アドレス : ファームウェアを更新したい機器の IP アドレスを入力します。
機種名 : ファームウェアを更新したい機器の機種を選択します。

⑧ 機器削除ボタン

検出機器リストにある機器を選択して削除します。

⑨ 参照ボタン

ファームウェアを選択します。

CX-CC1016 は拡張子が fwi のファイルです。それ以外の機器は拡張子が rpm のファイルです。

⑩ ファームウェア更新ボタン

選択した機器のファームウェアを更新します。

CX-OP1500、CX-CL1550、CX-PA1120、

CX-PA1240 は共通のファームウェアです。

CX-OP1700、CX-CL1750、CX-RM1700、

CX-AF1062 は共通のファームウェアです。

⑪ 閉じるボタン

この画面を閉じます。

2 ファームウェアを更新する機器を選択する。

⑤～⑧のボタンを使って対象機器を選択します。

3 ファームウェアを選択する。

⑨のボタンを使って、TOA 商品データダウンロードサイト (<https://www.toa-products.com/>) から入手した最新のファームウェアを選択します。

4 ファームウェアを更新する。

⑩のボタンをクリックすると、ファームウェアの更新が始まります。

更新結果は④の欄に表示されます。

更新が終わったら、⑪のボタンをクリックして画面を閉じます。

ご注意

ファームウェア更新中は、ファームウェア更新画面を閉じたり、機器の電源を切ったりしないでください。

TOA お客様相談センター

商品の内容や組み合わせ、操作方法について
のお問い合わせにお応えします。
受付時間 9:00 ~ 17:00 (土日、祝日除く)

フリーダイヤル (固定電話専用)

0120-108-117

ナビダイヤル 0570-064-475 (有料)

FAX 0570-017-108 (有料)

※ IP 電話からはつながりません。

商品の価格・在庫・修理などのお問い合わせ、および
カタログのご請求については、取り扱い店または最寄
りの営業所へお申し付けください。最寄りの営業所に
については、TOA ホームページをご確認ください。

当社は、お客様から提供された個人情報をお問い合わせ対応または修理対応の目的に利用いたします。また、修理委託目的で委託先業者へ提供すること
があります。個人情報の取り扱いに関する方針については、TOA ホームページをご覧ください。

TOA ホームページ <https://www.toa.co.jp/>

TOA 株式会社

202512